

# HP Universal CMDB

Windows および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン : 9.03

---

## モデリング・ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2011 年 2 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2011 年 2 月 (英語版)



# 利用条件

## 保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限り、本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

## 制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

## 著作権

© Copyright 2005 - 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P

## 商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD の矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ および Google™ マップは、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle およびその関連企業の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

## 確認

- この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/licenses> (英語サイト)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

- この製品には、OpenLDAP Foundation (<http://www.openldap.org/foundation/> (英語サイト)) の OpenLDAP コードが含まれています。
- この製品には、Free Software Foundation, Inc. (<http://www.fsf.org/>) の GNU コードが含まれています。
- この製品には、Dennis M. Sosnoski の JiBX コードが含まれています。
- この製品には、ディストリビューションに含まれ、JiBX 全体で使用される、インディアナ大学の Extreme! Lab から提供された XPP3 XMLPull パーサが含まれます。
- この製品には、Robert Futrell (<http://sourceforge.net/projects/officeInfs> (英語サイト)) の Office Look and Feels ライセンスが含まれています。
- この製品には、Netaphor Software, Inc. (<http://www.netaphor.com/home.asp> (英語サイト)) の JEP (Java Expression Parser) コードが含まれています。

## 文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用するには、次の URL にアクセスしてください：

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

または、HP Passport のログイン・ページの [**New users - please register**] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは、次の場所にあります。

**<http://support.openview.hp.com>**

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは、お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトの以下の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**



---

# 目次

ようこそ .....	11
本書の構成.....	11
対象読者 .....	12
HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント .....	12
その他のオンライン・リソース .....	15
ドキュメントの更新.....	16

## 第 I 部 : HP UNIVERSAL CMDB の概要

<b>第 1 章 : トポロジクエリ言語</b> .....	<b>19</b>
トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要.....	20
UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成 .....	21
TQL クエリ結果の表示 .....	22
複合関係 .....	24
結合関係 .....	24
サブグラフの定義 .....	26
ALLOW_VOLATILITY 修飾子 .....	26
TQL クエリの定義 .....	28
TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加 .....	30
複合関係の定義 - シナリオ.....	31
結合関係の定義 - シナリオ.....	34
サブグラフの定義の作成 - シナリオ.....	36
ショートカット・メニュー・オプション .....	38
属性演算子の定義 .....	43
TQL ログ .....	45
トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース .....	51
トラブルシューティングと制限事項 .....	101
<b>第 2 章 : 計算された関係の使用</b> .....	<b>107</b>
計算された関係の概要 .....	108
計算された関係.....	108
計算された関係タイプ .....	109

<b>第 3 章：ダイレクト・リンクの URL の作成</b> .....	<b>111</b>
ダイレクト・リンクの生成 - 概要 .....	112
ダイレクト・リンクの生成 - シナリオ .....	114
パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成 .....	114
[ダイレクトリンクの生成] ユーザ・インタフェース .....	116
<b>第 4 章：ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み</b> .....	<b>137</b>
ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み .....	138
UCMDB アプレット・タグ - 概要 .....	139
ダイレクト・リンクの操作フロー .....	141
<b>第 5 章：CI の選択を使った作業</b> .....	<b>147</b>
CI の選択の概要 .....	148
参照モードでのビューの表示 .....	149
[検索] モードでの CI の検索 .....	149
CI の選択の表示オプションの変更 .....	151
CI の選択のユーザ・インタフェース .....	153
トラブルシューティングと制限事項 .....	166
<b>第 6 章：トポロジ・マップの使用</b> .....	<b>169</b>
トポロジ・マップの概要 .....	170
大きなビューの取り扱い .....	171
トポロジ・マップのユーザ・インタフェース .....	172

## 第 II 部：モデリング

<b>第 7 章：IT ユニバース・マネージャ</b> .....	<b>207</b>
IT ユニバース・マネージャの概要 .....	208
IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業 .....	209
ビューのツリー構造 .....	211
CI を使った作業 .....	212
関係を使った作業 .....	216
CMDB での CI と関係の作成 .....	224
関連 CI の表示 .....	225
アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出) .....	227
影響分析結果の取得 - シナリオ .....	230
ビューのスナップショットの取得 .....	238
トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存 .....	238
IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース .....	239



<b>第 8 章：モデリング・スタジオ</b> .....	<b>283</b>
モデリング・スタジオの概要 .....	285
ビュー形式 .....	286
ビジネス・ビューの構築 .....	287
テンプレートとパースペクティブ .....	290
定義済みのフォルダとビュー .....	291
テンプレート・ベース・ビューの作成 .....	293
ビジネス CI モデル .....	294
パースペクティブ・ベース・ビューの作成 .....	296
公開 CI と監視 .....	299
パターン・ビューの作成 .....	304
テンプレートの作成 .....	305
パースペクティブの作成 .....	307
テンプレート ベース ビューの作成 .....	310
複数のテンプレート・ベース・ビューの作成 .....	312
レポート設定の定義 .....	314
インスタンス・ベース・モデルの作成 .....	315
パターン・ベース・モデルの作成 .....	317
モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 .....	319
CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの 作成 .....	320
モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース .....	321
<b>第 9 章：レポート</b> .....	<b>391</b>
トポロジ・レポートの概要 .....	392
カスタム・レポートの概要 .....	392
トポロジ・レポートの表示 .....	393
カスタム・レポートの生成 .....	394
CI の比較 .....	395
スナップショットの比較 .....	396
Cron 式 .....	398
[レポート] のユーザ・インタフェース .....	399
ツールバー・オプション .....	469
<b>第 10 章：影響分析マネージャ</b> .....	<b>473</b>
影響分析マネージャの概要 .....	474
影響ルールの定義 - ワークフロー .....	476
影響分析マネージャのユーザ・インタフェース .....	480

<b>第 11 章 : CI タイプ・マネージャ</b> .....	<b>499</b>
CI タイプの概要 .....	500
CI タイプの属性 .....	501
CI タイプの関係 .....	502
廃止 CI タイプ .....	502
システム・タイプ・マネージャ .....	503
CI タイプの作成 .....	505
関係タイプの作成 .....	507
計算された関係タイプの作成.....	508
リストおよび列挙定義の作成.....	509
列挙定義の作成 - ワークフロー .....	510
CI タイプと関係の詳細を表示 .....	512
CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース .....	512
<b>第 12 章 : エンリッチメント・マネージャ</b> .....	<b>543</b>
エンリッチメント・マネージャ - 概要 .....	544
エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ .....	547
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加.....	552
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース .....	554
<b>第 III 部 : HP UNIVERSAL CMDB データ・モデル</b>	
<b>第 13 章 : UCMDDB データ・モデルの概要</b> .....	<b>575</b>
BTO データ・モデル (BDM) の概要.....	576
データ・モデルのドキュメント .....	577
アップグレードに関するドキュメント .....	578
<b>第 14 章 : UCMDDB データ・モデルの UML ツールへの エクスポート</b> .....	<b>581</b>
UML ツールへのエクスポート - 概要 .....	582
クラス・モデルのエクスポート .....	583
クラス・モデルの選択部分の XML を変換 .....	584
UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエクスポート .....	586
ツール・プラグイン入力.....	589
<b>第 IV 部 : 参照情報</b>	
<b>第 15 章 : テーブルを使用した作業</b> .....	<b>593</b>
カラムのユーザ・インタフェース .....	594
<b>第 16 章 : 正規表現の例</b> .....	<b>599</b>
正規表現の例 .....	600
<b>索引</b> .....	<b>601</b>

---

# ようこそ

本書では、システムのトポロジを構築できる IT モデルの設定と使用方法について説明します。構成アイテムおよびそれらの関係はこのモデルに取り込み、モデルを使用して重要なビジネス・プロセスを評価および管理します。

## 本章の内容

- ▶ 本書の構成 (11 ページ)
- ▶ 対象読者 (12 ページ)
- ▶ HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント (12 ページ)
- ▶ その他のオンライン・リソース (15 ページ)
- ▶ ドキュメントの更新 (16 ページ)

## 本書の構成

本書は、次の各章で構成されています。

### 第 I 部 HP Universal CMDB の概要

CMDB の概要を説明し、トポロジ・クエリ言語、CI の選択、トポロジ・マップについての一般的な情報を示します。

## 第 II 部 モデリング

CMDB から必要な情報を取得するビューの定義および TQL クエリの構築により、ビジネス環境をモデル化する方法について説明します。特定ビューのトポロジ・レポートおよびカスタム・レポートを作成する方法、および CMDB で定義されている構成アイテム・タイプ (CIT) の定義と、それらの接続を定義する関係を表示、変更する方法について説明します。

## 第 III 部 HP Universal CMDB データ・モデル

BTO データ・モデル (BDM) バージョン 1.1.1 および CMS データ・モデルについて説明し、数量化したドキュメントが含まれます。

## 第 IV 部 参照情報

一般的な参照情報が含まれます。

## 対象読者

本書は、次の利用者を対象としています。

- ▶ HP Universal CMDB 管理者
- ▶ HP Universal CMDB プラットフォーム管理者
- ▶ HP Universal CMDB アプリケーション管理者
- ▶ HP Universal CMDB データ・コレクタ管理者

本書の読者は、エンタープライズ・システム管理に精通し、ITIL の概念を理解していること、そして HP Universal CMDB についての知識を備えている必要があります。

## HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント

HP Universal CMDB には、次のオンライン・ドキュメントが含まれています。

**Readme** : バージョンの制限事項および最終更新のリストが表示されます。HP Universal CMDB DVD のルート・ディレクトリから、**readme.html** をダブルクリックします。HP ソフトウェア・サポート HP ソフトウェア・サポート Web サイトからも、最新の Readme ファイルにアクセスできます。

**新機能** : 新機能およびバージョンの重要項目のリストが表示されます。HP Universal CMDB で、[ヘルプ] > [新機能] を選択します。

**印刷用ドキュメント** : [ヘルプ] > [UCMDB ヘルプ] を選択します。次のガイドは、PDF 形式でのみ提供されています。

- ▶ 『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』 (PDF) : HP Universal CMDB の設定に必要なハードウェアおよびソフトウェア要件、HP Universal CMDB のインストールまたはアップグレード方法、システムのセキュリティを強化する方法、およびアプリケーションへのログイン方法について説明します。
- ▶ 『HP Universal CMDB データベース・ガイド』 (PDF) : HP Universal CMDB で必要とされるデータベース (MS SQL Server または Oracle) の設定方法について説明します。
- ▶ 『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』 (PDF) : ディスカバリを実行して、システムで実行されているアプリケーション、オペレーティング・システム、およびネットワーク・コンポーネントを検出する方法について説明します。統合によってほかのデータ・リポジトリにあるデータを検出する方法についても説明します。

**HP Universal CMDB オンライン・ヘルプ**の内容は次のとおりです。

- ▶ **モデリング** : IT ユニバース・モデルのコンテンツを管理できます。
- ▶ **データ・フロー管理** : HP Universal CMDB をほかのデータ・リポジトリと統合する方法、およびネットワーク・コンポーネントを検出するように HP Universal CMDB を設定する方法について説明します。
- ▶ **UCMDB 管理** : HP Universal CMDB で作業する方法について説明します。
- ▶ **開発者向けリファレンス** : HP Universal CMDB について高度な知識を持つユーザを対象としています。アダプタを定義して使用方法、および API を使用してデータにアクセスする方法について説明します。

オンライン・ヘルプは、HP Universal CMDB の個別のウィンドウからも利用できます。ウィンドウをクリックして [ヘルプ] ボタンをクリックします。



オンライン・ブックは Adobe Reader を使用して表示および印刷できます。Adobe Reader は Adobe Web サイトからダウンロードできます (<http://www.adobe.com/jp/>)。



## トピックの種類

このガイドでは、各サブジェクト領域はトピックに分類されています。トピックには、サブジェクトの個別の情報モジュールが含まれています。トピックは通常、含まれる情報のタイプに従って分類されます。

ドキュメントは異なる状況で必要となるさまざまな情報タイプに分割されており、特定情報にアクセスしやすいように設計されています。

主に3種類のトピックがあります。**概念**、**タスク**、および**参照先**の3つです。これらのトピックの種類は、アイコンで視覚的に分かりやすく分類されています。

トピックの種類	説明	使用法
<b>概念</b> 	背景、説明、または概念的な情報。	機能に関する一般情報について学習します。
<b>タスク</b> 	<p><b>手順タスク：</b>アプリケーションを使用して目標を達成するための手順が、順を追って説明されています。一部のタスクの手順には、サンプル・データを使用した例が含まれます。</p> <p>タスクの手順は、番号が付いている場合と付いていない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>番号付きの手順：</b>各手順を連続した順序で行うことで実行するタスクです。</li> <li>▶ <b>番号が付いていない手順：</b>任意の順序で実行できる、自己充足型の操作のリストです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ タスクの全体的なワークフローについて学習します。</li> <li>▶ 番号が付いているタスクのリストにある手順に従って、タスクを実行します。</li> <li>▶ 番号が付いていないタスクの手順を完了することで、独立した操作を実行します。</li> </ul>
	<p><b>使用例シナリオ・タスク：</b>特定の状況でタスクを実行する方法の例です。</p>	現実的なシナリオでタスクを実行する方法を学習します。

トピックの種類	説明	使用法
<b>参照先</b> 	<b>一般的な参照情報</b> ：参考資料に関する詳細なリストおよび説明です。	特定のコンテキストに関連する参照情報を検索します。
	<b>ユーザ・インタフェース参照情報</b> ：特定のユーザ・インタフェースを詳細に説明した参照情報トピックです。通常、製品の [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。	入力内容またはウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど特定のユーザ・インタフェース要素の使用方法に関する個別の情報を検索します。
<b>トラブルシューティングおよび制限事項</b> 	<b>トラブルシューティングおよび制限事項</b> ：よく発生する問題および解決策について説明し、機能または製品領域の制限事項のリストを表示する参照情報トピックです。	機能を使用する前に、またはソフトウェアでユーザビリティに関する問題に遭遇した場合に、重要な問題に対する意識を高めます。

## その他のオンライン・リソース

[**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトのトラブルシューティング・ページが開き、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[**HP ソフトウェア サポート**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトが開きます。このサイトでは、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの参加と検索、サポート要求の送信、パッチやアップデートされたドキュメントのダウンロードなども行うことができます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェア サポート**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport> です。

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

HP Passport ユーザ ID の登録は、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

[**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択すると、HP ソフトウェアの Web サイトが開きます。このサイトには、HP ソフトウェア製品の最新情報が表示されます。新規ソフトウェア・リリース、セミナーおよび製品発表会、カスタマ・サポートなどの情報が含まれます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/software> です。

## ドキュメントの更新

HP ソフトウェアの製品ドキュメントは、新しい情報で絶えず更新されています。

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、HP ソフトウェア製品マニュアルの Web サイト (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスしてください。



# 第 I 部

---

## HP Universal CMDB の概要



# 1

---

## トポロジ クエリ言語

本章の内容

### 概念

- ▶ トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要 (20 ページ)
- ▶ UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成 (21 ページ)
- ▶ TQL クエリ結果の表示 (22 ページ)
- ▶ 複合関係 (24 ページ)
- ▶ 結合関係 (24 ページ)
- ▶ サブグラフの定義 (26 ページ)
- ▶ ALLOW\_VOLATILITY 修飾子 (26 ページ)

### タスク

- ▶ TQL クエリの定義 (28 ページ)
- ▶ TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加 (30 ページ)
- ▶ 複合関係の定義 - シナリオ (31 ページ)
- ▶ 結合関係の定義 - シナリオ (34 ページ)
- ▶ サブグラフの定義の作成 - シナリオ (36 ページ)

### 参照先

- ▶ ショートカット・メニュー・オプション (38 ページ)
- ▶ 属性演算子の定義 (43 ページ)
- ▶ TQL ログ (45 ページ)
- ▶ トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース (51 ページ)
- ▶ **トラブルシューティングと制限事項** (101 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要

Topology Query Language (TQL) は、IT インフラストラクチャ・データを検出、編成、管理するための言語およびツールです。TQL を使って、CMDB からビジネス・サービス・データを取得する TQL クエリを作成できます。また、TQL クエリはデータを視覚的な図に表現することでデータの監視や管理を容易にします。

本項の内容

- ▶ 20 ページの「トポロジ・クエリ言語 (TQL)」
- ▶ 21 ページの「TQL の役割」

### トポロジ・クエリ言語 (TQL)

TQL では、次の 2 つの重要な機能を追加することによって標準の SQL 言語を拡張します。

- ▶ TQL を使うことで、実際の相互依存関係を表す構成アイテム (CI) 間の概念上の関係を描くことができます。定義済みの演算子を使って、CI 間に存在するさまざまな相互接続 (関係) を確立し、その結果、インフラストラクチャの設計とパフォーマンスをより正確に表現できます。この表現は、複雑なインフラストラクチャのディスカバリ、配置、クエリ、および管理の基礎となりモデルとなります。
- ▶ TQL には、リソースおよびそれらの相互接続を表す視覚的な記号や構文で構成されたグラフィカルな側面があります。この IT インフラストラクチャの視覚化により、IT ビジネス オペレーションの理解、監視、および管理が簡易化されます。

## TQL の役割

TQL には、次に示すようにいくつかの役割があります。

- ▶ ビジネス サービスとしてともに機能する IT アセット間の相互接続を定義、説明するビジネス・サービス・モデルを構築します。ビジネス・サービス・モデルにより、増え続けるインフラストラクチャ・リソースの数と複雑さにも関わらず、ビジネス サービスのディスカバリと識別が容易になります。ビジネス・サービスから構成されるリソースを検出すると、ビジネス・サービス・モデルによって CMDB での編成方法と管理方法が構築されます。
- ▶ 常に CMDB を検索して管理リソースの状態に生じた変更を特定します。このような変更が検出された場合には、関連するサブシステムに通知されて更新されます。
- ▶ ビジネス・サービス・データを CMDB から取得するクエリを作成し、そのデータを視覚的な図に表現してデータの監視と管理を行えます。

## UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成

次のマネージャを使用して、CMDB から特定のデータを取得する TQL クエリを作成し、そのデータを表示できます。

- ▶ **影響分析マネージャ**：影響ルールでインフラストラクチャの変更がシステムにどのような影響を与えるかをシミュレートし、問題の真の原因とそれによるビジネスへの影響を究明できます。ルールの作成時にベースの TQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。
- ▶ **エンリッチメント・マネージャ**：エンリッチメント・ルールでは、CMDB の拡張、CMDB からの CI インスタンスの削除、CMDB に既に存在する CI の属性の更新を行うことができます。ルールの作成時にベースの TQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、543 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

- ▶ **モデリング・スタジオ**：TQL クエリ・エディタを使用して新しい TQL クエリを作成するか、パターン・ビュー・エディタを使用して新規ビュー、テンプレート、パースペクティブの定義時に新しいクエリを作成できます。また、パターン・ビュー・エディタでは各ビューのトポロジ・レポート設定も定義できます。詳細については、283 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。

## TQL クエリ結果の表示



ITユニバース・マネージャは、結果のデータを視覚的な図として表示します。結果として得られるトポロジ・マップの構造は、クエリにより定義されます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。[**プレビュー**] ボタン（ツールバーの中にある）をクリックして IT ユニバース・マネージャと同一のプレビュー画面を開くことでもクエリの結果を参照できます。IT ユニバース・マネージャの詳細については、207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」を参照してください。

### TQL クエリ・タイプと優先度

TQL クエリを定義する場合、[クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスの [タイプ] フィールドで TQL クエリのタイプを定義します。使用可能なクエリ・タイプは次のとおりです。

- ▶ **ビュー**：パターン・ビューのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **インテグレーション**：インテグレーションに使用される TQL クエリ。
- ▶ **ディスカバリ**：DFM パターンのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **テンプレート**：テンプレートのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **パースペクティブ**：パースペクティブのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **影響分析**：影響ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、影響分析マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。
- ▶ **エンリッチメント**：エンリッチメント・ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、エンリッチメント・マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。

既存の TQL クエリのタイプにビュー、テンプレートなどの依存関係がある場合、そのタイプは変更できません。

インテグレーションを通じてインポートされたクエリにタイプが割り当てられていない場合、そのクエリは非表示とみなされ、モデリング・スタジオのクエリ・リストには表示されません。非表示のクエリをクエリ・リストに表示するには、[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックスの[全般]で非表示のクエリの設定を変更します。詳細については、100 ページの「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

TQL クエリの優先度も設定できます。この優先度によって、クエリが更新された情報を取り込んで自動的に再実行される頻度が決まります。使用可能な優先度は次のとおりです。

- ▶ **低**: 2 分ごとに TQL クエリが更新されます。
- ▶ **中間**: 30 秒ごとに TQL クエリが更新されます。
- ▶ **高**: 10 秒ごとに TQL クエリが更新されます。
- ▶ **至急**: 連続的に TQL クエリが更新されます。
- ▶ **非アクティブ**: TQL クエリは非アクティブです。

---

**注**: 上に示した更新間隔は平均値です。

---

TQL クエリの優先度を [非アクティブ] に設定するとクエリは非アクティブになり、自動的には実行されませんが、手動でビューを作成する場合には使用できます。

## ベース・クエリ

[クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスで、TQL クエリのベース・クエリを選択できます。この場合、ベース・クエリが最初に全 IT ユニバースに適用され、結果が生成されます。次に新規クエリがユニバースのサブセットに適用され、さらに結果が詳細になります。ベース・クエリを選択すると、クエリ結果にさらに詳細なフィルタ処理を行い、特定の場合にはより高速に結果を生成できます。

選択したベース・クエリは、アクティブになる新規クエリでアクティブで永続性がある必要があります。ベース・クエリが非アクティブで永続性がない場合、新規クエリには自動的に優先度 [非アクティブ] が割り当てられます。

## 🔗 複合関係

複合関係は、トポロジ・グラフ内のパスを表します。複合関係を使うと、ソース CI とターゲット CI の間のパスに許可されているステップを定義できます。

各行は、トポロジ・マップ内でソース CI からターゲット CI に至るパスの許可されている手順の 1 つを表します。

Source	Relationship	Target
 IpSubnet	 Membership	 Node
 Node	 Containment	 IpAddress

複合定義の例については、31 ページの「複合関係の定義 - シナリオ」を参照してください。複合関係の定義の詳細については、54 ページの「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 🔗 結合関係

結合関係とは 2 つの CI 間の関係を表す論理的接続です（結合関係は、TQL クエリ結果を含むトポロジ・マップにのみ表示されます）。結合関係は、CMDB には存在しません。結合関係を作成するには、値を比較に使用する各クエリ・ノードの属性を定義します。

TQL 結果により、属性値が結合定義に定義されている条件を満たしている CI のすべてが取得されます。

たとえば、**Created By** 属性値が「等価」である **IP Address** CI に接続されているすべての **ノード** CI をリンクする結合定義を作成できます（次の例を参照してください）。

Node	演算子	IpAddress
Created By	等価	Created By

各結合定義は、join 関係に定義されている条件の 1 つを表しています。



**注：**複数の条件を定義できます。

---

結合定義の例については、34 ページの「結合関係の定義 - シナリオ」を参照してください。結合関係を定義する方法の詳細については、58 ページの「[結合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## サブグラフの定義

サブグラフの定義を使うと、特定の CI に関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。DFM ジョブにより、TQL クエリとサブグラフの定義の両方で結果が検索されます。クエリは、サブグラフの定義に一致する、定義された深さのすべての関連 CI を再帰的に取得します。サブグラフの定義の詳細については、98 ページの「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

グラフでは、特定のクエリ・ノードに接続された関係を定義できます。たとえば、いずれかのクエリ・ノードがノード・タイプである場合は、Windows, ルータ, および IP Address に対して異なる関係を指定できます。クエリ・ノードの属性条件も定義できます。詳細については、96 ページの「[サブグラフ 条件の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

DFM ジョブにより、サブグラフに定義された条件に一致するデータが取得されます。

サブグラフの定義の例については、36 ページの「サブグラフの定義の作成 - シナリオ」を参照してください。

## ALLOW\_VOLATILITY 修飾子

この修飾子は、値のわずかな差異を許容する属性をマークするために使用します。たとえば、わずかなディスク・サイズの変更 (8.00008 GB から 8.00009 GB への変更) はレポートする必要がない場合があります。

この修飾子でマークされた属性を更新する場合、HP Universal CMDB は新しい値を古い値に照らしてチェックします。このチェックはレコード更新の一部としてサーバ上で実行され、2 つの値の差が許容差異よりも小さい場合は、更新は実行されません (操作は偽の更新とみなされます)。

この修飾子には、許容差異を保持する次のデータ項目のうちの 1 つが含まれている必要があります。

- ▶ **ALLOWED\_DEVIATION\_FIX** : 差異のタイプは、数値属性では属性タイプ、日付属性では整数タイプと同じです。差異は固定値により測定され、その単位は属性値と同じです（日付属性では、差異は秒単位で測定されます）。
- ▶ **ALLOWED\_DEVIATION\_PERCENT** : 差異は割合で測定されます。日付値をミリ秒単位に換算した値で、パーセンテージをチェックします。このデータ項目は常に 0 から 100 の範囲の整数値です。

**修飾子を無効にするには、次の手順で行います。**

インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします（**[マネージャ]** > **[管理]** > **[インフラストラクチャ設定マネージャ]**）。**[ボラティリティを許可]** オプションに移動します。値を **False** に変更します。

---

---

## タスク

---

---

### TQL クエリの定義

このタスクでは、モデリング・スタジオで TQL クエリを作成する方法について説明します。

---

**注:** TQL クエリは、影響ルール、エンリッチメント・ルール、ビュー、テンプレート、パースpekティブの作成時にも作成できます。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 28 ページの「TQL クエリの作成」
- ▶ 28 ページの「クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」

#### 1 TQL クエリの作成

モデリング・スタジオで [**新規作成**] > [**クエリ**] を選択して、TQL クエリ・エディタを開きます。詳細については、382 ページの「TQL クエリ・エディタ」を参照してください。

#### 2 クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリ・ノードは CI タイプ・マネージャで定義される CIT を表します。関係はノード間の接続を表します。関係は、クエリ内の TQL クエリ・ノードのペアごとに、一度に 1 つずつ定義されます。詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

---

**注:** クエリ・ノードからそのノード自身への自己関係も定義できます。

---

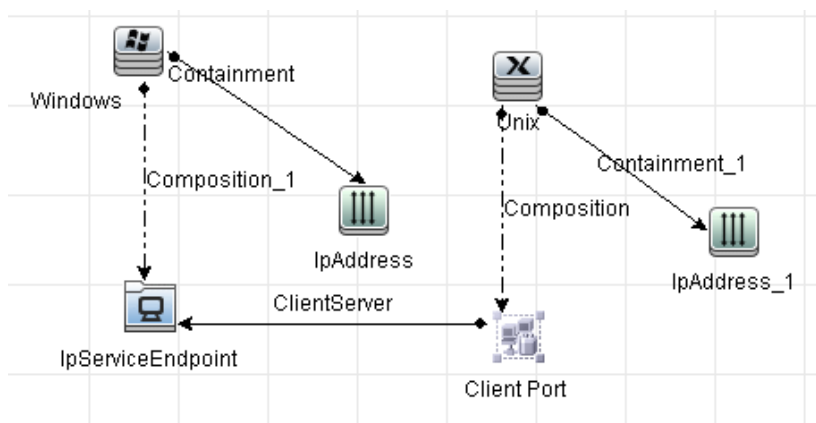
### 3 クエリ・プロパティの設定



[クエリ定義プロパティ] ボタンをクリックし、[クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。クエリのタイプ、範囲、優先度、ほかのプロパティを設定します。詳細については、368 ページの「[クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

#### TQL クエリ定義の例を次に示します。

関係の方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。次の例は、クライアントとサーバの関係によって相互にリンクされた 2 つのノード、1 つの IP サービス・エンドポイント、1 つのクライアント・ポートを示しています。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

## TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

このセクションでは、クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加する方法について説明します。これには影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、モデリング・スタジオが関係します。

---

**注:** TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

---

**クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順で行います。**



- 1 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで左側の表示枠のツリーから必要なクエリを選択し、**[新規作成]** ボタンをクリックして新しく作成します。

モデリング・スタジオの左側の表示枠で [リソース] タブを選択し、クエリを [リソースタイプ] として選択してツリーから必要なクエリを選択するか、**[新規作成]** > **[クエリ]** をクリックして新しいクエリを作成します。

- 2 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで CI タイプ・セレクトタに表示されているツリーから必要な TQL クエリ・ノードを 1 つ以上クリックして、編集表示枠にドラッグします。モデリング・スタジオの左側の表示枠で [CI タイプ] タブを選択し、必要な TQL クエリ・ノードをツリーから編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。
- 3 2 つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次の手順で行います。

- ▶ CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要な TQL クエリ・ノードを選択し、右クリックして **[関係の追加]** を選択します。**[関係の追加]** ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係を選択します。詳細については、61 ページの「**[関係の追加 / 編集]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

または



- ▶ **[関係を作成]** アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。**[関係のタイプを選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係のタイプを選択してください。詳細については、95 ページの「**[関係のタイプを選択]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

- 4 [OK] をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

## 複合関係の定義 - シナリオ


このセクションでは、**IP Subnet CI** と **IP Address CI** の間に複合関係を形成する、許容される手順の定義方法について説明します。

---

**注：**必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**IP Subnet CI と IP Address CI の間に複合関係を定義するには、次の手順で行います。**

- 1 ビュー型の TQL クエリを作成し、編集表示枠に次のクエリ・ノードをドラッグします。
  - ▶ IP Subnet
  - ▶ IP Address
- 2 [IP Subnet] と [IP Address] のクエリ・ノードを右クリックし、[複合関係の追加] を選択して [複合関係の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3  [追加] ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでは [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオではテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
  - ▶ [ソース] リストで、[IP Subnet] を選択します。
  - ▶ [ターゲット] リストで、[Node] を選択します。
  - ▶ [関係] リストで、[Membership] を選択します。
  - ▶ 必要な**関係**の方向を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [OK] をクリックして変更内容を保存します。



4 [追加] ボタンをクリックし、次の選択を行います。

- ▶ [ソース] リストで、[Node] を選択します。
- ▶ [ターゲット] リストで、[IP Address] を選択します。
- ▶ [関係] リストで、[Containment] を選択します。
- ▶ 必要な**関係**の方向を選択します。

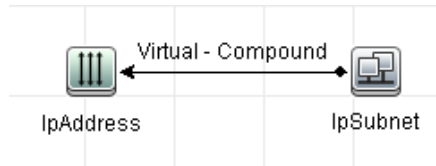
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [OK] をクリックして変更内容を保存します。

次の例は、変更後の複合定義を示しています。

Source	Relationship	Target
IpSubnet	Membership	Node
Node	Containment	IpAddress

5 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

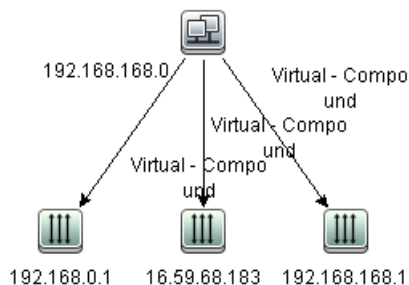
編集表示枠内の TQL クエリは、次のように表示されます。



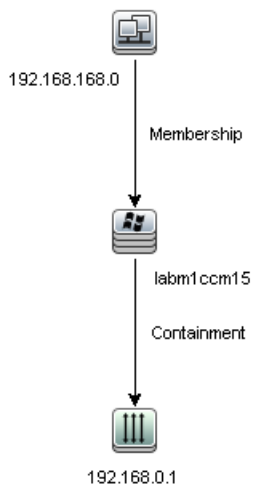
6 TQL クエリに基づくビューを作成して保存します。



- 7 ITユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。ソースおよびターゲットCIの間にフルパスを表示オプションを選択していない場合は、関係の実際の名前ではなく、CIをリンクする関係の名前が**Virtual-Compound**として結果に表示されます。次の図を参照してください。

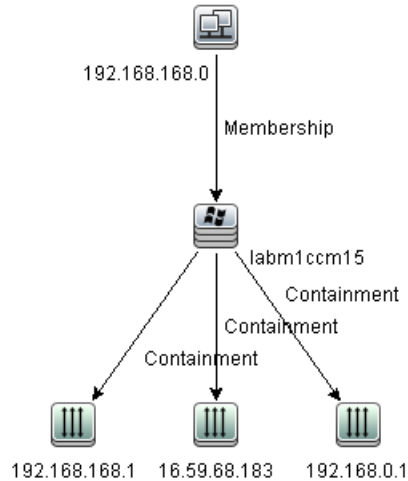


ITユニバース・マネージャで [Virtual - Compound] 関係をダブルクリックしてリンク・マップを開きます。このマップには、IP Subnet CI と IP Address CI をリンクするために使用可能な手順を形成する、CI と関係が表示されます。



前述の例では、**192.168.168.0** (IP Subnet) CI は、**labm1ccm15** (ノード) CI を通じて **192.168.0.1** (IP Address) CI にリンクされています。

[ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示] オプションを選択した場合、IT ユニバースの結果には、CI をリンクする関係の実際の名前と、ソース CI とターゲット CI の間のフル・パスが表示されます。次の図を参照してください。



### 結合関係の定義 - シナリオ

このセクションでは、**Created by** 属性値が等しい **Node CI** と **IP Address CI** をリンクする結合関係を定義する方法について説明します。

---

**注:** 必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**Created by 属性値が等しい IP Address CI と Node CI をすべてリンクする結合関係を定義するには、次の手順で行います。**

**1** TQL クエリを作成し、次のクエリ・ノードを CI タイプ・セレクタから編集表示枠にドラッグします。

- Node
- IP Address

**2** [Node] および [IP Address] クエリ・ノードを選択し、右クリックして [結合関係の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。



**3** [追加] ボタンをクリックし、テーブルに行を追加し、次の操作を実行します。

- [Node 属性] ボックスで [Created by] を選択します。
- [演算子] ボックスで、[等価] を選択します。
- [IPAddress 属性] ボックスで [Created by] を選択します。

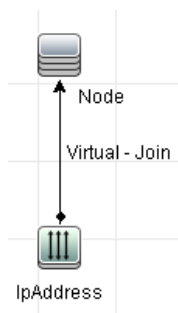
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャの [関係条件を結合] ダイアログ・ボックスで、これらの選択を行います。

[定義の結合] 領域は、次のように表示されます。

Node	演算子	IPAddress
Created By	等価	Created By

**4** [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内の TQL クエリは、次のように表示されます。



## 🔑 サブグラフの定義の作成 - シナリオ

本項では、サブグラフの定義を作成する方法について説明します。この例では、TQL クエリの結果として、**包含**関係によりビジネス・サービス CI と接続される、深さ 3 までのすべての CI が取得されます。

---

**注:** 必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**このサンプルのサブグラフの定義を作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 TQL クエリを作成し、[Business Service] タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- 2 [Business Service] クエリ・ノードを右クリックし、[サブグラフの定義] を選択して [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3 **[追加]** ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでは [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオではテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
  - ▶ [ソース] ドロップダウン・リストで、[Managed Object] を選択します。
  - ▶ [ターゲット] ドロップダウン・リストで、[Managed Object] を選択します。
  - ▶ [関係] ドロップダウン・リストで、[Containment] を選択します。
  - ▶ 関係の方向を左から右に設定します。

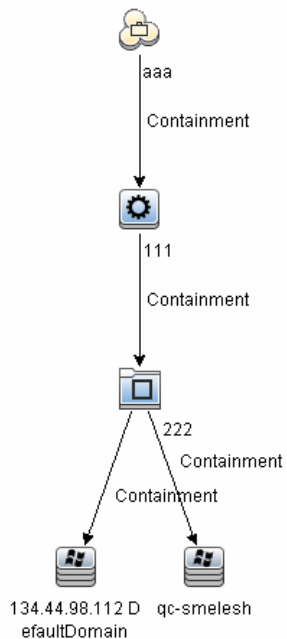
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [OK] をクリックして変更内容を保存します。

[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスが、次のように表示されます。

ソース	関係	ターゲット
IT Universe	Container link	IT Universe
IT Universe	Contains	IT Universe
IT Universe	Contained	IT Universe

- 4 [深さ] の設定を [3] に設定します。
- 5 [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで [OK] をクリックします。

IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。




結果として、ビジネス・サービス CI **aaa** と、Containment 関係によってそれに連続してリンクされる、レベル 3 までのすべての CI が表示されます。

## 参照先

### ショートカット・メニュー・オプション

このセクションでは、TQL クエリのショートカット・メニューのオプションのリストを紹介します。


UI 要素	説明
<b>計算された関係を追加</b>	<p>計算された関係を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 計算された関係を作成する方法の詳細については、527 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ 影響モデリングの詳細については、107 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。</li> </ul>
<b>複合関係の追加</b>	<p>複合関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。</p> <p>詳細については、54 ページの「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>結合関係の追加</b>	<p>結合関係を定義できます。結合関係を作成するには、各クエリ・ノードの属性を定義します。これらのクエリ・ノード値は、フェデレーション時の比較に使用されます。</p> <p>詳細については、58 ページの「[結合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>関連クエリ ノードの追加ウィザード</b>	<p>[関連クエリ ノードの追加ウィザード] が表示されます。このウィザードでは TQL クエリを作成できます。詳細については、63 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」を参照してください。</p>


UI 要素	説明
<b>関係の追加</b>	<p>定義済みリストから関係を選択することによって、クエリ・ノードの関係を作成できます。[関係の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。</p> <p>詳細については、61 ページの「[関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャでは、<b>エンリッチメント・モード</b>で作業している場合、このオプションを設定するとエンリッチメント関係がルールに追加されます。通常のクエリ・ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードに適用されます。詳細については、543 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。追加した関係には、追加済みであることを示す  インジケータが表示されます。</p>
<b>階層に追加</b>	<p>選択したクエリ・ノードを分離されたクエリ・ノードとして階層に追加します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>モデル出力に追加</b>	<p>選択したクエリ・ノードをパターン・ベースのモデルの出力として指定します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオ内のパターン・ベースのモデルにのみ関連します。</p>
<b>クエリノードタイプ/ 関係タイプを変更</b>	<p>[ノード要素タイプの変更] ダイアログ・ボックスが表示されます。クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更できます。詳細については、324 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>クリア</b>	<p>利用するには、エンリッチメント・マネージャの<b>エンリッチメント・モード</b>で作業しているときに、クエリ・ノードまたは関係を右クリックします。クエリ・ノードまたは関係のエンリッチメント・ルールの定義がクリアされます。詳細については、543 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。</p> <p>エンリッチメント・ルールを使用してクエリ・ノードまたは関係を更新または削除した場合にのみ表示されます。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>

UI 要素	説明
<p><b>コピー / 貼り付け</b></p>	<p>既存の TQL クエリ・ノードまたは関係を同じクエリ内で、または別の TQL クエリにコピーまたは貼り付けします。</p> <p>コピーした TQL クエリ・ノードまたは関係には、TQL 定義がすべて含まれています。</p> <p>関係をコピー、貼り付けするには、関係の接続先である TQL クエリ・ノードも選択している必要があります。接続先の TQL クエリ・ノードがない単独の関係は、コピーできません。</p> <p>複数の TQL クエリ・ノードまたは関係を選択することもできます。</p> <p><b>注:</b> [コピー] および [貼り付け] オプションは、モデリング・スタジオでのみ使用できます。[貼り付け] オプションは、[コピー] オプションを使用して既存の TQL クエリ・ノードまたは関係をコピーした後でのみ利用できます。</p>
<p><b>影響を受けるものを定義</b></p>	<p>TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義します。詳細については、490 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 影響分析マネージャにのみ関連します。</p>
<p><b>削除</b></p>	<p>選択したクエリ・ノード、関係、または CI が削除されます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、計算された関係には利用できません。</p>
<p><b>関係 / クエリ ノードを削除</b></p>	<p>利用するには、<b>エンリッチメント・モード</b>で作業しているときに、クエリ・ノードまたは関係を右クリックします。</p> <p>CI または関係を CMDB から削除するように設計された特定のエンリッチメント・ルールが作成されます。通常のクエリ・ノードと関係にのみ適用されます。このオプションは、たとえば、不必要なデータを CMDB から削除するのに使用できます。詳細については、543 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。</p> <p>削除したクエリ・ノードと関係には、削除済みを示す <input type="checkbox"/> インジケータが表示されます。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>



UI 要素	説明
<b>関係を編集</b>	<p>[関係タイプを詳細化] ダイアログ・ボックスが表示されません。詳細については、94 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオには関連しません。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、選択した関係に子孫がある場合のみ表示されます。</p>
<b>クエリ ノード / 関係のプロパティ</b>	<p>[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスが表示され、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。詳細については、83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、計算された関係には利用できません。</p>
<b>クエリ ノード タイプの再設定</b>	<p>[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更できます。詳細については、94 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、CI タイプの子が存在する場合のみ表示されます。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>
<b>サブグラフを削除</b>	<p>サブグラフを定義している場合のみ表示されます。詳細については、98 ページの「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>影響を受けるものをリセット</b>	<p>該当するクエリ・ノードに適用されている [影響を受けるものを定義] が削除されます。[影響を受けるものを定義] の詳細については、490 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 影響分析マネージャにのみ関連します。</p>
<b>内部関係をリセット</b>	<p>見やすいように、トポロジ・マップの自己参照の関係を四角形に再描画します。</p> <p><b>注:</b> 四角形でない自己参照の関係にのみ関連します。</p>

UI 要素	説明
<b>コンタクトクエリノードとして設定</b>	<p>選択したクエリ・ノードをパースペクティブのコンタクト・クエリ・ノードとして指定します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオのパースペクティブにのみ関連します。</p>
<b>データ・ソースの設定</b>	<p>[データ ソースの設定] ダイアログ・ボックスが表示され、TQL クエリ・ノードの必要なデータ・ソースを選択できます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素を非表示設定</b>	<p>このオプションを選択すると、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に非表示のインジケータ  が表示されます。</p> <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。ビューを有効にするには、少なくとも 1 つのクエリ・ノードが表示状態である必要があります。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素を表示設定</b>	<p>このオプションを選択すると、TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果がトポロジ・マップに表示されます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素インスタンスの表示</b>	<p>[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスが表示され、テーブル内の各クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>ノードのパラメータの表示</b>	<p>[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスが表示され、クエリ・ノードのパラメータ値を設定できます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオ内のテンプレート・ベースのビューにのみ関連します。</p>
<b>サブグラフの定義</b>	<p>[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスが表示され、特定のクエリ・ノードに関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。詳細については、98 ページの「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
関係を更新 / クエリ・ノードを更新	<p>エンリッチメント・ルールを使用して、CMDB 内の CI 属性の値を更新するか、現在値が設定されていない属性にデータを追加します。[クエリ ノード定義 - 属性] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、568 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。これは、通常のクエリ・ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードの両方に適用されます。</p> <p>更新されたクエリ・ノードには、更新されたことを示す  インジケータが表示されます。</p> <p><b>注:</b>エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>

## 属性演算子の定義

このセクションでは、[サブグラフ条件] ダイアログ・ボックス、[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス、または [クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスなど、さまざまなダイアログ・ボックスで属性条件の定義に使用する演算子のリストを紹介します。

演算子	説明
途中で変更	(日付の属性タイプを選択した場合にのみ表示) [値] ボックスで指定した期間内に変更されたインスタンスのみが表示されます。
等価	属性値が [値] ボックスで指定した値に等しいかがチェックされます。
大文字小文字を無視して等価	属性値が、[値] ボックスで指定した値に等しいかがチェックされます。大文字と小文字は区別されません。
より大きい	属性値が [値] ボックスで指定した値より大きいかがチェックされます。
より大きいか等しい	属性値が [値] ボックスで指定した値以上かがチェックされます。

演算子	説明
含む	この属性値が選択した値のいずれかに等しいインスタンスのみが表示されます。たとえば、CIの「変更ステータス」が <b>Plan</b> および <b>New</b> に等しい場合、演算子の <b>含む</b> を <b>演算子</b> リストから選択し、 <b>Plan</b> と <b>New</b> の両方を「 <b>値</b> 」ボックスで選択します。
null	属性値が NULL かどうかチェックされます。
より小さい	属性値が「 <b>値</b> 」ボックスで指定した値より小さいかどうかチェックされます。
より小さいか等しい	属性値が「 <b>値</b> 」ボックスで指定した値以下かどうかチェックされます。
類似	ワイルドカード (%) を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに <b>類似</b> を使用します。
類似で大文字小文字を区別しない	ワイルドカード (%) を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに「 <b>類似で大文字小文字を区別しない</b> 」を使用します。文字列の大文字と小文字は無視されます。
不等価	属性値が「 <b>値</b> 」ボックスで指定した値に等しくないかどうかチェックされます。
途中で変更なし	(日付タイプの属性を選択したときに表示されます) 「 <b>値</b> 」ボックスで指定した期間内に変更されなかったインスタンスのみが表示されます。

---

**注：**

- ▶ **不等価**演算子については、クエリ結果には値が割り当てられていない CI インスタンスからのデータは含まれません。たとえば、システムには3つのノードが含まれているとします。ノード1には値Aが割り当てられ、ノード2には値Bが割り当てられ、ノード3には値が割り当てられていないとします。この場合、Aと**不等価**である値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成すると、ノード3には値が割り当てられていないため、ノード2のみがクエリ結果に含まれることになります。
  - ▶ HP Universal CMDB では、Microsoft SQL Server と Oracle データベースの両方がサポートされています。Microsoft SQL Server では、標準設定で大文字と小文字が区別されません（Oracle データベースでは大文字と小文字が区別されます）。その結果、Microsoft SQL Server を使用する場合は、**等価**演算子を使うと、**大文字小文字を無視して等価**演算子と同じクエリ結果が取得されます。たとえば、City 属性を選択し、**等価**演算子を選択して [値] ボックスに **NEW YORK** と入力すると、大文字と小文字の区別は無視されて、クエリ結果には **NEW YORK, New York** および **new york** が含まれます。
- 

 **TQL ログ**

本項では、TQL パラメータのログ ファイルの定義について説明します。

本項の内容

- ▶ 46 ページの「パターン・ログ」
- ▶ 48 ページの「パターン統計情報ログ」
- ▶ 48 ページの「監査簡略ログ / 監査詳細ログ (TQL の観点)」
- ▶ 49 ページの「増分統計ログ」
- ▶ 50 ページの「増分スプリッタ・ログ」
- ▶ 51 ページの「増分詳細ログ」

## パターン・ログ

ログ名は `cmdb.pattern.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	<p>CMDB で処理, 計算される TQL クエリのライフサイクルに関する情報です。</p> <p>CMDB に格納されている TQL クエリのみが含まれます。一時的な TQL クエリに関する情報は含まれません。</p>
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	<p>各 TQL クエリに対して利用できるアクションは, 次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ステータス変更: 各 TQL クエリは, ライフサイクル時に 1 つの内部状態を持ちます。たとえば, 非アクティブなすべてのクエリの状態は常に <code>INACTIVE</code> です。アクティブなクエリは <code>NEW</code> 状態で開始されます。アクティブなクエリが最初に計算されるときは, <code>IN_CALC</code> 状態に移行します。クエリが削除されるときは, 完全に削除されるまで <code>WAIT_FOR_DELETE</code> 状態に移行します。</li> <li>▶ モデル変更: CMDB モデルで変更が発生すると, TQL はその変更が結果に関連するかどうかを判別します。関連する場合は, 該当する変更がクエリ結果で計算されます。この TQL によって処理された変更の数がログに表示されます。</li> <li>▶ クエリ変更: TQL が変更されると, クエリが変更されたことがログに記載され, クエリの新しい優先度が表示されます。</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<p>TQL クエリが長期間同じステータスを保持していないかをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>new</b> - クエリは遅延ロード中です。</li> <li>▶ <b>inactive</b></li> <li>▶ <b>calculation</b> - 計算が失敗した可能性があるのに, スケジューラに通知されていません。</li> </ul> <p>また, TQL クエリが受信した通知の数を表示することもできます。</p>

一般的なログ・エントリの例を次に示します。

TQL1 という名前の TQL が追加され、NEW 状態です。

```
2011-01-25 07:44:48,763 DEBUG - TQL1 [NEW] State change NEW --> NEW
```

TQL1 は計算されるように指示され、IN CALCULATION 状態に移行します。

```
2011-01-25 07:44:48,763 DEBUG -TQL1 [NEW] State change NEW --> IN_CALC
```

計算が終了し、IDLE 状態に移行します（変更を待機）。

```
2011-01-25 07:44:48,778 DEBUG - TQL1 [IN_CALC] State change IN_CALC --> IDLE
```

モデル内で変更が行われます（合計 5 個の変更）。

```
2011-01-25 07:44:49,544 DEBUG - TQL1 [IDLE] Model Change Recieved 5 model changes.
```

変更がこの TQL クエリに関連するかどうかを確認する状態に移行します。

```
2011-01-25 07:44:49,544 DEBUG - TQL1 [IDLE] State change IDLE --> IN_IMMEDIATE_1
```

パターンが変更されます。新しい優先度は中間です。

```
2011-01-25 07:45:39,647 DEBUG - TQL1 [IDLE] Pattern change New priority MED_PRIORITY
```

## パターン統計情報ログ

ログ名は `cmdb.pattern.statistics.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	各 TQL クエリの一般的な計算データで、あらかじめ定義された間隔で更新されます。
情報レベル	次の情報が各 TQL クエリに与えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 名前</li> <li>▶ 平均計算時間, 最短計算時間, および最長計算時間</li> <li>▶ 計算の数</li> <li>▶ 最終計算時間</li> <li>▶ 結果のサイズ</li> </ul>
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 特定の TQL クエリが更新されたかどうかを検証します。</li> <li>▶ TQL クエリの計算時間を評価します。</li> <li>▶ TQL クエリの結果のサイズを評価します。</li> </ul>

## 監査簡略ログ / 監査詳細ログ (TQL の観点)

ログ名前は、`cmdb.audit.short.log` ログです。

ログ・ファイル	説明
目的	CMDB の状態の変更, CI タイプの変更, および TQL クエリの結果です。 このログを使用すると, TQL クエリの結果を追跡できます。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。



ログ・ファイル	説明
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ TQL クエリの最終計算がログに記録されます。</li> <li>▶ 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化していない場合は、その事実が記録されます。</li> <li>▶ 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化している場合は、CI および関係の結果が詳細ログに記録されます。CI および関係の数は簡略ログに記録されます。</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このログを使用して、TQL クエリ・サブシステムがどのような通知を発行したかを確認します。</li> <li>▶ それぞれの結果の最後にあるセクションをチェックします。このセクションには、追加、削除、または更新された CI および関係が含まれています。</li> <li>▶ CIT の変化を追跡して、クエリ結果も変化したかどうかを調べます。こうすることで、CIT の変化をクエリ計算の結果に関連付けられます。</li> </ul>

## 増分統計ログ

ログ名は `cmdb.incremental.statistics.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	各クエリの計算手順（完全または増分）を追跡します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。

ログ・ファイル	説明
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日付, 時刻, クエリ名, および増分統計の計算が実行されたかどうか (yes/no) が記録されます。</li> <li>▶ 増分統計の計算が実行されなかった場合は, その理由, 副計算の数 (増分計算にのみ該当), および完全な計算時間が記録されます。</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<p>計算プロセスを監視します。</p> <p>特定のクエリの計算に長い時間がかかる場合は, その計算が完全か増分かをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 完全な計算の場合は, 完全な計算が必要かどうかをチェックします。</li> <li>▶ 増分の場合は, 実行された副計算の数をチェックします。</li> </ul>

### 増分スプリッタ・ログ

ログ名は `cmdb.incremental.splitter.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	増分計算の最中に行われた増分スプリッタの結果を監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	増分スプリッタによって作成された各クエリ・グラフのクエリ・ノード番号のセットが記録されます。
基本的なトラブルシューティング	増分計算による TQL 結果が誤っている場合は, スプリッタの結果が正しいかどうかを検証します。

## 増分詳細ログ

ログ名は `cmdb.incremental.detailed.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	増分計算プロセスを監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	それぞれの増分副計算エントリには、次の要素が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ・クエリ・ノード</li> <li>▶ トリガ・クエリ・ノードと分類された要素の数</li> <li>▶ 副計算ステップが、モデルに追加された新しい要素によって行われたか、それとも既存の要素によって行われたか</li> <li>▶ 計算されたクエリ グラフ</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	増分計算の基本手順に従います。

## トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース


本項の内容

- ▶ 52 ページの「[計算された関係を追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 54 ページの「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 58 ページの「[結合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 61 ページの「[関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 63 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」
- ▶ 71 ページの「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 78 ページの「[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 80 ページの「[関係条件の結合] ダイアログ・ボックス」

- ▶ 82 ページの「[レイアウト設定] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 94 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 95 ページの「[関係のタイプを選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 96 ページの「[サブグラフ 条件の定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 98 ページの「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 100 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」




## [計算された関係を追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI タイプ・モデルから計算された関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<p>利用方法</p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[計算された関係を追加]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して <b>[計算された関係を追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>データ・フロー管理 (DFM) のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li><b>1</b> [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li><li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン (<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右) をクリックし、<b>[入力クエリ エディタ]</b> を開きます。</li><li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[計算された関係を追加]</b> を選択します。</li></ol>
-------------	--

<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF)の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 107 ページの「計算された関係の使用」</li> <li>▶ 502 ページの「CI タイプの関係」</li> </ul>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

<p><b>UI 要素</b></p>	<p><b>説明</b></p>
	<p>[<b>すべてを展開</b>] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。</p>
	<p>[<b>すべてを折りたたむ</b>] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。</p>
 <p><b>ツリー ビュー</b></p>	<p>[<b>ツリー ビュー</b>] をクリックして、計算された関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル別</li> <li>▶ クラス名別</li> <li>▶ 旧名称 [ クラス名 ] 別</li> </ul>
<p><b>&lt; 計算された関係 ツリー &gt;</b></p>	<p>2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する計算された関係を選択します。</p>
<p><b>関係の方向</b></p>	<p>クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。</p>
<p><b>関係名</b></p>	<p>計算された関係の名前です。</p>

UI 要素	説明
<b>関係の制限</b>	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注:</b> このリストは、1 つのクエリ・ノードまたは 2 つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可:</b> すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可:</b> 自己関係 (自身へとつながる関係) のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可:</b> 自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>




## [複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、複合関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<b>利用方法</b>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[複合関係の追加]</b> を選択します。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[複合関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン (<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右) をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[複合関係の追加]</b> を選択します。</li> </ol>
-------------	--

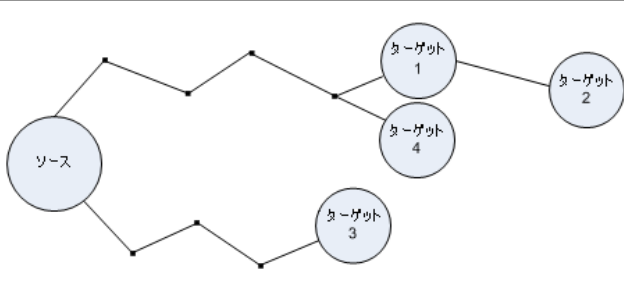
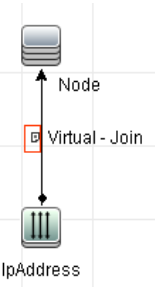
<b>重要情報</b>	複合定義は、必要な数だけ作成できます。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルール of 定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリ of 定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタ of 実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビュー of 作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレート of 作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブ of 作成」</li> </ul>
<b>関連情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 24 ページの「複合関係」</li> <li>▶ 31 ページの「複合関係 of 定義 - シナリオ」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素 of 説明を次に示します。

UI 要素	説明
	複合定義が追加されます。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、テーブルに標準設定 of 複合定義が入力されます。定義コンポーネントを編集するには、[編集] をクリックします。
	選択した複合定義が削除されます。
	選択した複合定義を編集します。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、[複合関係 条件 of 定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
<b>最大ステップ数</b>	CMDB 内 of 2 つ of CI 間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最長パスです。 <b>標準設定 : 5</b>
<b>最小ステップ数</b>	CMDB 内 of 2 つ of CI 間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最短パスです。 <b>標準設定 : 1</b>


UI 要素	説明
関係	2 つのクエリ・ノードを接続する関係です。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	複合関係の名前です。
関係の制限	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注:</b> このリストは、1 つのクエリ・ノードまたは 2 つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可:</b> すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可:</b> 自己関係 (自身へとつながる関係) のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可:</b> 自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>
ソースおよびターゲット CI の間にフル・パスを表示	このオプションを選択すると、クエリ結果に、CI をリンクする関係の実際の名前と、ソース CI とターゲット CI の間の完全パスが表示されます。
ソース	必須のソース・クエリ・ノードです。






UI 要素	説明
<b>最初の複合レベルで停止する</b>	<p>このオプションを選択すると、システムがパス内の 1 つ目のターゲットに達したときに、TQL クエリ結果の検索が停止されます。</p> <p>次のサンプルの複合リンク定義では、<b>深度</b>は 10 に定義され、<b>最初の複合レベルで停止する</b>が選択されています。</p>  <p>TQL クエリ結果には、<b>ターゲット 1</b>、<b>ターゲット 3</b>、および<b>ターゲット 4</b>は、すべてレベル 1 (パスで検出される 1 つ目の CI) であるため、これらが含まれています。<b>ターゲット 2</b>は、TQL 結果に含まれていません。ターゲット 2 はレベル 2 (パスで検出される 2 つ目の CI) だからです。</p>
<b>ターゲット</b>	<p>必須のターゲット・クエリ・ノードです。</p>
<b>可視</b>	<p>[<b>可視</b>] を選択すると、結合関係または複合関係に関するクエリ結果が含まれます。標準設定では、[<b>可視</b>] は選択されています。[<b>可視</b>] をクリアすると、編集表示枠の関係の名前の左に <input type="checkbox"/> ボックスが表示され、その関係に属するクエリ結果はトポロジ・マップに表示されないことが示されます。</p> 

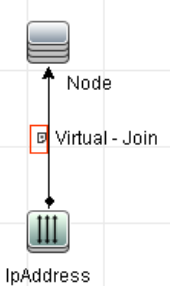
## [結合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは結合関係を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[結合関係の追加]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して <b>[結合関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p><b>1</b> [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</p> <p><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</p> <p><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[結合関係の追加]</b> を選択します。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスにアクセスした場合、属性および演算子はこのダイアログ・ボックス内で選択します。影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャからダイアログ・ボックスにアクセスした場合、属性および演算子は <b>[関係条件を結合]</b> ダイアログ・ボックスで選択します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>24 ページの「結合関係」</p> <p>34 ページの「結合関係の定義 - シナリオ」</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	結合定義を定義します。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[関係条件の結合] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、選択した属性および演算子がリストに追加されます。
	選択した結合定義が削除されます。
	結合定義を編集します。[関係条件を結合] ダイアログ・ボックスが開きます。 <b>注：</b> このオプションはモデリング・スタジオには関連しません。
<クエリノード1属性>ボックス	<end_1> クエリ・ノードの属性を選択します。 <b>注：</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<クエリノード2属性>ボックス	<end_2> クエリ・ノードの属性を選択します。 <b>注：</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<選択したクエリノード1>カラム	選択したクエリ・ノード。1 つ目の属性は <end_1> に適用されます。
<選択したクエリノード2>カラム	選択したクエリ・ノード。2 つ目の属性は <end_2> に適用されます。
And	すべての結合定義が、 <b>And</b> 演算子でリンクされます。 <b>注：</b> モデリング・スタジオには関連しません。
演算子ボックス	演算子を選択します。使用可能な演算子の詳細については、80 ページの「[関係条件の結合] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注：</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
演算子カラム	[関係条件を結合] ダイアログ・ボックスで選択した演算子。演算子の定義の詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。

UI 要素	説明
関係名	結合関係の名前です。
関係の制限	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注：</b>このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>
可視	<p>[<b>可視</b>] を選択すると、結合関係または複合関係に関係するクエリ結果が含まれます。標準設定では、[<b>可視</b>] は選択されています。[<b>可視</b>] をクリアすると、編集表示枠の関係の名前の左に非表示のボックス <input type="checkbox"/> が表示されます。関係に属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。</p> <div style="text-align: center;">  <p>The diagram illustrates a relationship between two nodes: 'Node' (top) and 'IpAddress' (bottom). A vertical line connects them, with a box labeled 'Virtual - Join' in the middle. The 'Virtual - Join' box has a red border and a small square icon, indicating it is selected for visibility. The 'Node' icon is a server rack, and the 'IpAddress' icon is a server rack with a vertical bar on the right side.</p> </div>




## [関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ内の 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[関係の追加]</b> を選択します。</li> </ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[関係を作成]</b>  アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。<b>[関係のタイプ]</b> を選択し、ダイアログ・ボックスが開きます。<b>[通常の関係]</b> を選択します。</li> </ul> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[関係の追加]</b> を選択します。</li> </ol>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>このオプションは、選択した 2 つのクエリ・ノード間（または選択した 1 つのクエリ・ノード）に有効な関係がない場合は表示されません。</p>



## 第1章・トポロジクエリ言語

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	[ <b>すべてを展開</b> ] をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	[ <b>すべてを折りたたむ</b> ] をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
 ツリー ビュー	[ <b>ツリー ビュー</b> ] をクリックして、関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 表示ラベル別</li><li>▶ クラス名別</li><li>▶ 旧名称 [ クラス名 ] 別</li></ul>
<関係ツリー>	2つのクエリ・ノード間の接続を定義する関係を選択します。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	関係の名前です。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。 <p><b>注：</b>このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li><li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li><li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li></ul>

## [関連クエリ ノードを追加] ウィザード

このウィザードでは TQL クエリを構築できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ</b>・モードを選択して<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のディスカバリ・コントロール・パネルで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ディスカバリ モジュール] 表示枠でジョブを選択します。</li> <li>2 [プロパティ] タブで [トリガ クエリ] を選択します。 [クエリ エディタを開く]  ボタンをクリックして、<b>[トリガクエリ エディタ]</b> を開きます。</li> <li>3 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[関連クエリ ノードを追加] ウィザード</b>を選択します。</li> </ol> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li>2 <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>入力クエリの編集</b> ボタン (<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右) をクリックし、<b>[入力クエリ エディタ]</b> を開きます。</li> <li>3 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[関連クエリ ノードを追加] ウィザード</b>を選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>TQL クエリが空の場合、左側の表示枠の CI タイプ・セレクトまたは [CI タイプ] タブに表示されているツリーから編集表示枠に必要な TQL クエリ・ノードをドラッグします。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>




<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>20 ページの「トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要」</p>

## [関連クエリ ノードのタイプ] ページ

このウィザード・ページでは、クエリ・ノードを TQL クエリに追加できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>TQL クエリが空の場合は、必要な TQL クエリ・ノードを [構成アイテム タイプ] 表示枠に表示されているツリーから編集表示枠にドラッグします。</p> <p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードの一般的な情報については、63 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」を参照してください。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	<p>[すべてを展開] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。</p>
	<p>[すべてを折りたたむ] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。</p>
<p> ツリー ビュー</p>	<p>[ツリー ビュー] をクリックして、CI タイプ・ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル別</li> <li>▶ クラス名別</li> <li>▶ 旧名称 [クラス名] 別</li> </ul> <p><b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>




UI 要素	説明
<p><b>&lt;クエリ ノード&gt; 必須</b></p>	<p>関係のカーディナリティを定義します。詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各クエリ・ノードの[<b>&lt;クエリ ノード&gt; 必須</b>]チェック・ボックスを選択すると、関係の他端にあるクエリ・ノードのインスタンスが最低 1 つクエリ結果に含まれます。このチェック・ボックスを選択すると、関係にカーディナリティ値 1.* が設定されます。</li> <li>▶ [<b>&lt;クエリ ノード&gt; 必須</b>]チェック・ボックスをクリアすると、関係にカーディナリティ値 0.* が設定されます。</li> </ul>
<p><b>&lt;TQL クエリ ノード の階層ツリー&gt;</b></p>	<p>必要なクエリ・ノードを選択します。選択したクエリ・ノードは、[<b>要素名</b>] ボックスに表示されます。</p> <p>このリストには、選択した（ソース）クエリ・ノードに対して有効な関係を持つ CI タイプのクエリ・ノードだけが表示されます。</p> <p>各クエリ・ノードの右に、CMDB に存在する、該当する CI タイプの CI インスタンスの数が表示されます。インスタンスの数は、[<b>関連クエリ ノードを追加</b>] ウィザードを閉じて再度開いた後のみ更新されます。</p> <p><b>注：</b>階層ツリーの最初のクエリ・ノードが標準で選択されています。</p>
<p><b>要素名</b></p>	<p>選択したクエリ・ノードの名前が含まれます（任意指定）。標準設定では、CI タイプは要素の名前として割り当てられます。</p> <p>TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって[<b>要素名</b>] ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。</p>
<p><b>インスタンスのある CIT のみ表示する</b></p>	<p>このチェック・ボックスを選択すると、CMDB にインスタンスのある CIT のみが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーにはソース・クエリ・ノードへの有効なリンクのある CIT がすべて含まれます。</p> <p><b>注：</b>[<b>インスタンスのある CIT のみ表示する</b>] チェック・ボックスは、標準設定で選択されています。</p>

## [関係タイプ] ページ

このウィザード・ページでは、関係を TQL クエリに追加できます。

<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; <b>[関係タイプ] ページ</b> &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>
-------------------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p> ツリー ビュー</p>	<p>[ツリー ビュー] をクリックして、関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル別</li> <li>▶ クラス名別</li> <li>▶ 旧名称 [クラス名] 別</li> </ul> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
<p>&lt; TQL クエリ関係の階層ツリー &gt;</p>	<p>必要な関係を選択します。</p>
<p><b>関係の方向</b></p>	<p>必要な関係の方向を選択します。方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。</p>
<p><b>関係名</b></p>	<p>関係の名前です。</p> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
<p><b>関係の制限</b></p>	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>




UI 要素	説明
関係タイプ	<p>選択したクエリ・ノード間の接続を定義する有効な関係です。このボックスには、関係階層ツリーで選択した関係が表示されます。</p> <p><b>注:</b> この機能は、エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ使用できます。</p>
インスタンスのある関係のみ表示する	<p>CMDB 内にインスタンスが存在する関係だけが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーには選択したクエリ・ノード間の有効な関係がすべて含まれます。</p>




### [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ


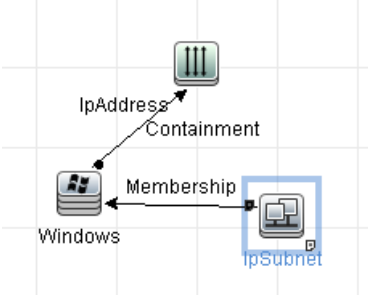
このウィザード・ページでは、属性条件をクエリ・ノードまたは関係に追加することで、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限する式を作成できます。


重要情報	<p>モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合、このウィザード・ページには <b>[属性]</b> および <b>[修飾子]</b> の 2 つのタブが表示されます。<b>[属性]</b> タブには、以下に説明されている要素が含まれます。<b>[修飾子]</b> タブの詳細については、90 ページの <b>「[修飾子] タブ」</b> を参照してください。</p>
ウィザード・マップ	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; <b>[関連クエリ ノードのプロパティ] ページ</b> &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	属性条件を追加します。
	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。

UI 要素	説明
	選択した行を下へ移動します。
	条件定義を表示します。
<b>詳細レイアウト設定</b>	<p>[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、サードパーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに TQL クエリの計算で使用する属性を決定できます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合にのみ関連します。</p>
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
<b>属性名</b>	リストから属性を選択します。
 <b>大括弧</b>	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>基準</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
<b>サブタイプを含める</b>	選択した CI とその子がトポロジ・マップに表示されます。
<b>NOT</b>	<p>定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。</p> <p><b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。</p>
<b>演算子</b>	必要な演算子を選択します。詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。

UI 要素	説明
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。
可視	<p>[可視] を選択すると、選択した TQL クエリ・ノードが編集表示枠に表示されます。[可視] をクリアすると、非表示のボックス  は、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に表示されます。</p>  <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。たとえば、特定の IP Address を定義することによって Windows をネットワークに接続しているが、クエリ結果には IP Address 要素だけを表示し、Windows 要素を表示したくない場合があります。</p>




 **[関連クエリ ノードのインスタンス] ページ**

このウィザード・ページでは、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべてのインスタンスがテーブルに表示されます。


<p><b>重要情報</b></p>	<p>レポートに表示されるカラムは、選択した CI タイプによって異なります。</p> <p>標準設定では、CI タイプ・マネージャで<b>アセット・データ</b>、<b>変更をモニタ</b>、および<b>比較可能</b>属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</p> <p>必要に応じて<b>非表示カラムを表示</b>ボタンをクリックし、可視として定義されているが静的として定義されていない属性を表示できます。静的属性の詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [関連クエリ ノードのインスタンス] ページに含まれる要素の情報については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; <b>[関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</b></p>

## [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、サブグラフの定義、複合関係、または計算された関係の作成時に、ソース CI からターゲット CI へのトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [複合関係の追加] ダイアログ・ボックスで、<b>[追加]</b>  ボタンをクリックします。詳細については、54 ページの「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで、 <b>[追加]</b> をクリックします。詳細については、98 ページの「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・リストから <b>[計算された関係]</b> を選択します。編集表示枠で <b>[トリプレット]</b> ページを選択してから、 <b>[追加]</b> をクリックします。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>トポロジ・グラフに含めるクエリ・ノードと関係を選択します。</p> <p><b>重要：</b> [サブグラフ定義] ダイアログ・ボックスから [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスにアクセスする場合のみ、[条件] フィールドが表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 24 ページの「複合関係」</li> <li>▶ 31 ページの「複合関係の定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 26 ページの「サブグラフの定義」</li> </ul>

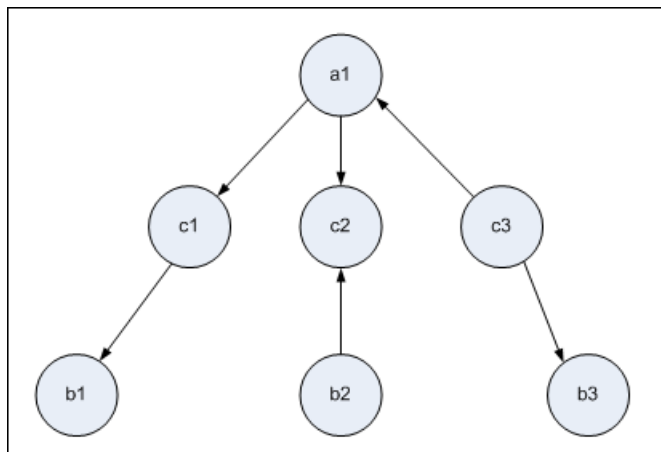
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>選択したソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義します。[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスから [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開くと、[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。[複合関係の追加] ダイアログ・ボックスから [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開くと、[複合関係条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p><b>[条件]</b> ボタンは、クエリ・ノードを <b>ソース</b>・リストまたは <b>ターゲット</b>・リストから選択した後に有効になります。</p> <p><b>注:</b> CI タイプ・マネージャではソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義できません。</p>
<b>関係</b>	<p>2 つのクエリ・ノードを接続する有効な関係を選択します。有効な関係のリストは、両方のクエリ・ノードを定義した後でのみ表示されます。</p>
<b>関係の方向</b>	<p>必要な方向を選択します。異なる関係の方向を設定すると、異なるクエリ結果が得られる場合があります。例については、73 ページの「複合定義に異なる関係の方向を設定」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 関係リストは、ソースとターゲットを選択するまで空のままになります。</p>
<b>ソース</b>	<p>必要なソース・クエリ・ノードを選択します。</p>
<b>ターゲット</b>	<p>必要なターゲット・クエリ・ノードを選択します。</p>



## 複合定義に異なる関係の方向を設定

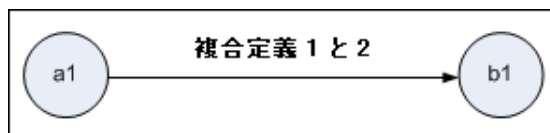
異なる関係の方向を設定すると、異なる TQL 結果が得られます。たとえば、ビジネス環境において、次の図に示すように、CIT **a** のクエリ・ノードと CIT **b** のクエリ・ノードを接続する複合関係を作成するとします。深さは **5** に定義されています（詳細については、99 ページの「深さ」を参照してください）。



[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスでは、複合定義を作成して、異なる関係の方向を使用してクエリ・ノード **a** と **b** をリンクできます。

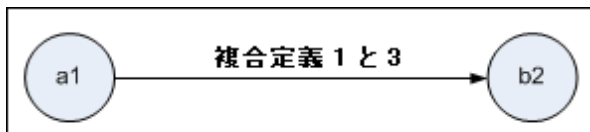
複合定義	ソース	ターゲット	関係	関係の方向
#1	クエリ・ノード <b>a</b>	クエリ・ノード <b>c</b>	<関係>	ソース --> ターゲット
#2	クエリ・ノード <b>c</b>	クエリ・ノード <b>b</b>	<関係>	ソース --> ターゲット
#3	クエリ・ノード <b>c</b>	クエリ・ノード <b>b</b>	<関係>	ソース <-- ターゲット

▶ 複合定義 1 と 2 の結果、次のクエリが得られます。

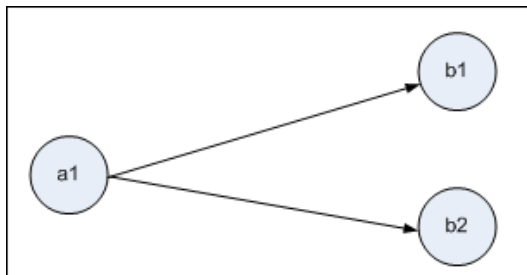


## 第 1 章 • トポジクエリ言語

- ▶ 複合定義 1 と 3 の結果, 次のクエリが得られます。




- ▶ 複合定義 1, 2, および 3 の結果, 次のクエリが得られます。



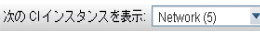





## [要素インスタンス] ダイアログ・ボックス






このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべての CI インスタンスがテーブルに表示されます。


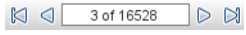
<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[要素インスタンスの表示]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[要素インスタンスの表示]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[要素インスタンスの表示]</b> を選択します。</li> </ol> <p><b>Integration Studio で利用するには、次の手順で行います。</b> ディスカバリ jython アダプタに基づいてインテグレーション・ポイントを作成します。<b>[トリガ CI インスタンス]</b> メニューで<b>[既存の CI を選択]</b> を選択します。</p>
--------------------	--

<p><b>重要情報</b></p>	<p>テーブルのカラムに、選択した CI タイプの属性が表示されます。表示される属性は、選択した CI タイプによって異なります。</p> <p>標準設定では、CIT マネージャで<b>アセット データ、変更をモニタ</b>、および<b>比較可能</b>属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「ポピュレーション・ジョブの使用」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「データ・プッシュ・ジョブの使用」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。


UI 要素	説明
	<p>テーブルに表示する CIT を指定します。テーブルには、選択した CIT の子も含まれます。</p>
	<p>選択した CI を削除するときをクリックします。</p>
	<p><b>CI のプロパティを表示</b>をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>クリックすると、CI インスタンスのリストが更新されます。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードに表示する CI インスタンスをフィルタします。[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックスで作成したフィルタ定義をクリアします。</p>

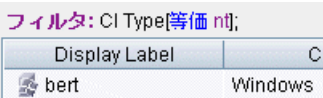
UI 要素	説明
	表示するカラムを選択できます。詳細については、594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	CI インスタンスの並べ替え順序を設定できます。詳細については、596 ページの「[カラム コンテンツの 並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	[検索] をクリックすると、検索ツールバーが表示されます。
	[メールを送信] をクリックすると、テーブル・データが電子メールで送信されます。
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。  <b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>

UI 要素	説明
 ページの 行数	各ページに表示する行の数を選択します。また、各ページの行数を手動で入力することもできます。
	クリックすると、ページごとに結果を移動したり、または最初のページや最後のページに移動したりできます。
<要素インスタンス>	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出された CI インスタンスです  インスタンスをダブルクリックすると、その CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
<要素インスタンスのショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI インスタンスの名前です。

## [CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に対して条件と値を選択することによって、リストに表示する CI インスタンスの数を減らすことができます。

利用方法	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで [フィルタ]  ボタンをクリックします。
------	---


<b>重要情報</b>	<p>定義したフィルタ条件の説明は、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスに表示されるテーブルのカラムの上に表示されます。たとえば、次の図では、CI タイプが <b>Windows</b> である CI インスタンスのみを表示するようにフィルタ条件を作成しました。</p> 
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>属性</b>	CI が属する CI タイプの属性がすべて表示されます。
<b>条件</b>	必要な演算子を選択します。詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
<b>NOT</b>	条件および値の否定によって結果をフィルタする場合に選択します。
<b>値</b>	必要な値を選択または入力します。

## [関係条件の結合] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、結合関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<b>利用方法</b>	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの [結合関係の追加] ダイアログ・ボックスで、 <b>[追加]</b>  ボタンをクリックします。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」。</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<選択したクエリノード 1>	選択したクエリ・ノード。1 つ目の属性は <end_1> に適用されます。



UI 要素	説明
<選択したクエリ ノード 2>	選択したクエリ・ノード。2 つ目の属性は <end_2> に適用されます。
演算子	<p>次の演算子のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[等価]</b> : 選択した 2 つの属性が等しいかどうかチェックされます。</li> <li>▶ <b>[不等価]</b> : 選択した 2 つの属性が等しくないかどうかチェックされます。</li> <li>▶ <b>[サブストリング]</b> : 1 つ目の属性の値が, 2 つの属性の値の部分文字列かどうかチェックされます。</li> <li>▶ <b>[サブストリング (大文字小文字を区別しない)]</b> : 1 つ目の属性の値が, 2 つ目の属性の値の部分文字列かどうかチェックされます (文字列の大文字と小文字は区別されません)。</li> </ul> <p><b>重要</b> : 演算子の<b>不等価</b>を使用するときは, 結合関係の両側で結果のサイズが制限されていることを確認してください。膨大な量の結果によりシステムが過負荷になるのを避けるために, より具体的な条件を定義することをお勧めします。</p>

## [レイアウト設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、UCMDB API を使用するとき TQL クエリの計算に使用する属性を決定できます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「HPUniversal CMDB Web サービス API」を参照してください。


<b>利用方法</b>	[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで [詳細レイアウト設定] をクリックします。
<b>重要情報</b>	このオプションは、CMDB API に問い合わせるときしか関係ないため、ユーザ・インタフェースに対するクエリ結果は、このダイアログ・ボックスで選択する属性の影響を受けません。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
<b>属性名</b>	属性の名前です。
<b>計算</b>	このチェック・ボックスを選択すると、クエリの計算に属性が含まれます。

## [クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[クエリ ノード / 関係のプロパティ]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で <b>[クエリ モード]</b> を選択して <b>[クエリ ノードのプロパティ]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p><b>1</b> [アダプタ定義] タブから利用するには、アダプタを選択し、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン ([<b>入力クエリ</b>] ボックスの右) をクリックし、[入力クエリ エディタ] を開きます。</p> <p><b>2</b> 必要なクエリ・ノードまたは関係を右クリックして <b>[クエリ ノードのプロパティ]</b> または <b>[関係のプロパティ]</b> を選択します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
要素名	<p>[要素名] ボックスには、選択したクエリ・ノードまたは関係の名前が表示されます (任意指定)。標準設定では、CI タイプは要素の名前として割り当てられます。TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって [要素名] ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。</p>
サブタイプを含める	<p>選択すると、選択した CI とその子がトポロジ・マップに表示されます。</p>
クエリ結果数	<p>[クエリ結果数] をクリックすると、各クエリ・ノード / 関係のインスタンス数が示されている TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。</p> <p><b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
可視	<p>[可視] を選択すると、選択した TQL クエリ・ノードが編集表示枠に表示されます。このオプションをオフにすると、非表示のボックス  が、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に表示されます。</p> <div data-bbox="578 885 906 1180" data-label="Diagram"> </div> <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。たとえば、特定の IP Address を定義することによって Windows を IP Subnet に接続しているが、クエリ結果には IP Address 要素だけを表示し、Windows 要素を表示したくない場合があります。</p>

## 〔属性〕タブ

この領域では、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を定義する式を作成できます。クエリ・ノードまたは関係に属性条件を追加して、クエリ結果をフィルタすることもできます。

<b>利用方法</b>	[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>〔属性〕</b> タブをクリックします。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	定義した属性条件を追加します。
	属性の定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
<b>詳細レイアウト設定</b>	[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、サードパーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに TQL クエリの計算で使用する属性を決定できます。
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。




UI 要素	説明
属性名	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
<b>( )</b> 大括弧	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
標準設定値	パラメータ化された属性について、パラメータの標準設定値を入力します。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。  <b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
パラメータ化	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、[はい] を選択します。属性に固定値を定義する場合は、[いいえ] を選択します。  <b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
パラメータ名	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、パラメータ名を入力する必要があります。  <b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。  <b>注:</b> コピーした値をウィンドウに貼り付けるには、キーボードの CTRL+V キーを押します。






## [カーディナリティ] タブ

この領域では関係のカーディナリティを定義します。これにより、クエリ結果で関係の端部に得られる CI インスタンスの数を定義できます。

<b>利用方法</b>	[クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[カーディナリティ]</b> タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	<p>選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。次に、クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限と上限を定義します。</p> <p>条件を定義する式を作成することによって、関係の接続クエリ・ノードが TQL クエリ結果に含まれるようにする関係条件を定義できます。例については、89 ページの「関係条件の例」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	定義したカーディナリティ定義が追加されます。
	[カーディナリティ] 領域からカーディナリティ定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。

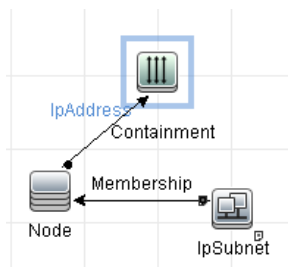
UI 要素	説明
	選択した行を下へ移動します。
	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
	[最小] ボックスに <b>1</b> を, [最大] ボックスに <b>*</b> を挿入します。 <b>注</b> : モデリング・スタジオにのみ関連します。
	[最小] ボックスに <b>0</b> を, [最大] ボックスに <b>*</b> を挿入します。 <b>注</b> : モデリング・スタジオにのみ関連します。
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには, [AND/OR] フィールド内をクリックし, [AND] または [OR] を選択します。
 <b>大括弧</b>	[大括弧] ボックス内をクリックすると, より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>基準</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義したカーディナリティ条件の定義が含まれています。
<b>最大</b>	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの上限を定義する値を入力します。 <b>注</b> : [最大] ボックスでアスタリスク (*) を使用すると, 無限大を表します。
<b>最小</b>	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限を定義する値を入力します。 たとえば, <end_1> が <b>IpAddress</b> で, <end_2> が <b>Windows</b> の場合, [最小] ボックスに「 <b>1</b> 」と入力し, [最大] ボックスにアスタリスク (*) を入力すると, 少なくとも 1 つの Windows オペレーティング・システムに接続されている IP Address のみが取得されます (アスタリスクは無限大を表します)。[最小] ボックスに「 <b>3</b> 」と入力し, [最大] ボックスにアスタリスク (*) を入力すると, 少なくとも 3 つの IP Address に接続されている Windows オペレーティング・システムのみが取得されます。



UI 要素	説明
クエリノード	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。リストには、選択したクエリ・ノードにリンクされている関係がすべて含まれます。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。  <b>注：</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。

### 関係条件の例

関係条件の例は、次の TQL クエリに基づいています。



## 第1章・トポロジクエリ言語

[関係のカーディナリティ] ダイアログ・ボックスで、クエリに対して次の関係条件を定義します。

- ▶ 包含 - **最小: 2, 最大: 4**
- ▶ メンバシップ - **最小: 1, 最大: \***

OR 演算子を使用すると、次のように**カーディナリティ**・セクションに定義が表示されます。

NOT	(	基準	)	AND/OR
<input type="checkbox"/>		Containment (Node, IpAddress): 2..4		OR
<input type="checkbox"/>		Membership (IpSubnet, Node): 1..*		

- ▶ [Containment (Node, IpAddress)] OR [Membership (IpSubnet, Node)] は、ノードは2つから4つのIP Addressを持っているか、またはIP Subnetのメンバである必要があることを意味します。

AND 演算子を使用すると、次のように**カーディナリティ**・セクションに定義が表示されます。

NOT	(	基準	)	AND/OR
<input type="checkbox"/>		Containment (Node, IpAddress): 2..4		AND
<input type="checkbox"/>		Membership (IpSubnet, Node): 1..*		

- ▶ [Containment (Node, IpAddress)] AND [Membership (IpSubnet, Node)] は、ノードは2つから4つのIP Addressを持ち、かつIP Subnetのメンバでもある必要があることを意味します。

### [修飾子] タブ

この領域では、選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。たとえば、修飾子を使用して、CITをabstractとして定義できます。これは、そのCITからインスタンスを作成できないことを意味します。

#### 利用方法

[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで [修飾子] タブをクリックします。

<b>重要情報</b>	標準設定では、複数選択すると条件が OR 演算子でリンクされます。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースpekティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>ABSTRACT_CLASS</b>	この CIT のインスタンスは作成できません。
<b>ALLOW_VOLATILITY</b>	<p>値のわずかな差異を許容する属性のマークに使用されます。たとえば、わずかなディスク・サイズの変更 (8.00008 GB から 8.00009 GB への変更) はレポートする必要がない場合があります。</p> <p>標準設定では、<b>ALLOW_VOLATILITY</b> は次の数値属性または日付属性についてのみ有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CIT : Node <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ MemorySize</li> <li>▶ SwapMemorySize</li> </ul> </li> </ul> <p>これらの属性は比較可能修飾子および静的修飾子も含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CIT : Host <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HostLastBootTime</li> </ul> </li> <li>▶ CIT : CPU <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CpuClockSpeed</li> </ul> </li> <li>▶ CIT : Filesystem <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Disk_size</li> </ul> </li> </ul> <p>この修飾子属性の詳細と、この機能をアクティブ化および非アクティブ化する手順については、26 ページの「ALLOW_VOLATILITY 修飾子」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
BDM_SCOPE	CI タイプがクラス・モデルの BDM 対象の一部であることを示します。
BLE_LINK_CLASS	HP Business Service Management にのみ関連します。
CALCULATED_LINK	この修飾子は計算された関係に割り当てられます。
CONTAINER	この修飾子は、Member (メンバ)、Container link (コンテナ・リンク)、Contains (包含)、または Contained (被包含) など、包含関係を表す関係に割り当てられます。
HIDDEN_CLASS	この CIT のインスタンスは、アプリケーションのどこにも表示されません。
ID_CLASS_NAME_OVERRIDE	クラス ID が別のクラスに基づいて計算されることを示します。
ITU_HIDDEN_CLASS	この CIT のインスタンスは、トポロジ・マップ・アプリケーションのどこにも表示されません。
MAJOR_APP	この修飾子が割り当てられた CI タイプは、[アプリケーション ブレークダウン] 概要レポートに表示されます。詳細については、401 ページの「アプリケーション・ブレークダウン・レポート」を参照してください。
MODELING_ENABLED	CIT をモデリング・スタジオのモデルとして機能させることができます。詳細については、294 ページの「ビジネス CI モデル」を参照してください。
NETWORK_DEVICES	ネットワーク・デバイスを表す、すべての CI タイプに共通の修飾子です。ネットワーク・デバイスに関連する TQL クエリに使用でき、クエリの CI タイプの代替として機能します。
無効な修飾子	このチェック・ボックスを選択すると、要素は、選択した修飾子のリストに修飾子がない場合にのみクエリ結果に含まれます。
PM_SUSPECT	HP Business Service Management のみ。
RANDOM_GENERATED_ID_CLASS	CI の CMDDB ID が、クラスのキー属性に基づいて生成されるのではなく、ランダムに生成されることを示します。
READ_ONLY_CLASS	この CIT は編集できません。

UI 要素	説明
RECURSIVE_DELETE	関係に適用されます。関係の一方の端で CI が削除されると、システムにより関係の他端の CI がチェックされます。ほかのどの CI とも関係付けられていない場合、この CI も削除されます。
TRACK_LINK_CHANGES	指定した関係で発生した変更が、変更レポートに表示されます。詳細については、411 ページの「CI 変更レポート」を参照してください。

## [ID] タブ

この領域では、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスの要素 ID に従って TQL クエリ結果をフィルタできます。

利用方法	[クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスで [ID] タブをクリックします。
重要情報	左右の矢印を使用して、必要な要素を左側の [オプション ID] 表示枠から右側の [選択された ID] 表示枠に移動して、TQL クエリ結果に含める要素を定義します。 <b>注:</b> このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 – ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

含まれている要素は次のとおりです（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ツールバー>	ツールバー・ボタンの説明は、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
[オプション ID] 表示枠	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。
[選択された ID] 表示枠	TQL クエリ結果に含める要素を定義するのに使用する要素が表示されます。

## [クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードの CI タイプを変更できます。


利用方法	<p>影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[クエリノードタイプの再設定]</b>を選択します。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[クエリノードタイプの再設定]</b>オプションを表示します。</p>
重要情報	CI タイプを CI タイプの子のいずれかのタイプに変更できます（存在する場合）。そのような CI タイプが存在しない場合、このオプションは表示されません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルール of 定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリ of 定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタ of 実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビュー of 作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレート of 作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブ of 作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<選択元の CI タイプのリスト>	必要な CI タイプを選択します。



## [関係のタイプを選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、作成する TQL 関係のタイプを選択できます。




利用方法	影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、およびモデリング・スタジオの編集表示枠で、ツールバーにある「 <b>関係を作成</b> 」ボタンをクリックし、2つのクエリ・ノードの間に線を引きます。  ボタンをクリックし、2つのクエリの間に線を引きます。「 <b>関係のタイプを選択</b> 」ダイアログ・ボックスが自動的に開きます。
重要情報	次の関係のタイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>通常の関係</b>：詳細については、61 ページの「[関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>結合関係</b>：詳細については、58 ページの「[結合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>複合関係</b>：詳細については、54 ページの「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>計算された関係</b>：詳細については、52 ページの「[計算された関係を追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』（PDF）の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

## [サブグラフ 条件の定義] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスでは、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を作成できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスで <b>[条件]</b>  をクリックします。</p> <p>モデリング・スタジオでは、[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで <b>[条件]</b>  をクリックします。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>次のタブが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>属性</b>：クエリ・ノードと関係に対して属性条件を定義できます。<b>[属性]</b> タブの要素の説明は、下の表を参照してください。</li> <li>▶ <b>修飾子</b>：選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。詳細については、90 ページの「<b>[修飾子]</b> タブ」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルール of 定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』(PDF) の「Microsoft Internet Information Services (IIS) Discovery」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
	サブグラフ条件の定義が追加されます。
	サブグラフ条件の定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。






UI 要素	説明
	選択した行を下へ移動します。
	サブグラフ条件の定義が表示されます。
<b>詳細レイアウト設定</b>	<p>[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、サードパーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに計算で使用する属性を決定できます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスを利用する場合にのみ関連します。</p>
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
<b>属性名</b>	リストから属性を選択します。
 <b>大括弧</b>	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>基準</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
<b>要素名</b>	ソースリストとターゲットリストから選択した CIT が含まれています。
<b>NOT</b>	<p>定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。</p> <p><b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システム内に 3 つのノードがあるとし、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのホストを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。</p>
<b>演算子</b>	必要な演算子を選択します。詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
<b>値</b>	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。

## [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。


<p><b>利用方法</b></p>	<p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。 編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし、[サブグラフの定義] を選択します。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部でクエリ・モードを選択して [サブグラフの定義] オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li>2 [アダプタ定義] タブで、 [入力クエリの編集] ボタン ([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし、[入力クエリエディタ] を開きます。</li> <li>3 必要なクエリ・ノードを右クリックして [サブグラフの定義] を選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>次のアイコンが、サブグラフを定義するクエリ・ノードの横に表示されます。</p> 
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>26 ページの「サブグラフの定義」</p> <p>36 ページの「サブグラフの定義の作成 - シナリオ」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	サブグラフの定義が追加されます。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでは、クリックすると [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、クリックするとテーブルに行が追加されます。
	サブグラフの定義が削除されます。
	サブグラフの定義を編集できます。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、クリックすると [トリプレットの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、クリックすると [サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
深さ	DFM プロセスに含める必要がある CMDB の 2 つの CI 間で許可されている最長パス（つまり、最も接続の多いクエリ・ノード）の数です。 <b>標準設定：5</b>
要素条件が存在します	[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスで、サブグラフの定義のソース、関係、またはターゲットのいずれかに属性条件が定義されている場合は、緑色のアスタリスクがその横に表示されます。詳細については、96 ページの「[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
関係	ソースからターゲット・クエリ・ノードへの接続に選択されている関係です。
関係の方向	選択されている関係の方向です。クエリ・ノード間の依存関係を示します。
ソース	選択されている必要なソース・クエリ・ノードです。
ターゲット	選択されている必要なターゲット・クエリ・ノードです。

## [ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、システムのプリファレンスをリセットできます。

<b>利用方法</b>	[ツール] > [ユーザ プリファレンス] を選択するか、またはステータス・バーで [ユーザ プリファレンスの設定] ボタン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	選択したプリファレンスはすべて（特定のウィザード・ページを表示するかどうかや、警告メッセージのプリファレンスなど）システムに保存されます。このダイアログ・ボックスでは、これらのプリファレンスをリセットできます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<左側の表示枠>	編集するプリファレンス ページを選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ウィザード プリファレンス</b>：特定のウィザード・ページを非表示にするか、表示するかを定義できます。</li> <li>▶ <b>オプションメッセージ プリファレンス</b>：特定のメッセージを非表示にするか、表示するかを定義できます。</li> <li>▶ <b>ディスカバリ プリファレンス</b>：次の項目を定義できます。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 特定のディスカバリ警告メッセージを非表示にするか、表示するか</li> <li>▶ 必要な標準設定の外部エディタ（メモ帳など）</li> <li>▶ ディスカバリでベイスック・モードまたはアドバンス・モードのいずれを使用するか</li> </ul> </li> <li>▶ <b>全般</b>：一般のアプリケーション・プリファレンスを定義できます。</li> </ul>
<プリファレンス リスト>	警告メッセージとユーザが選択したプリファレンスのリストです。
適用フィルタ	オプションのリストをフィルタするための検索語を入力します。
すべてリセット	クリックすると、すべてのプリファレンスが標準設定値にリセットされます。
ページのリセット	クリックすると、選択したプリファレンスが標準設定値にリセットされます。

## 🔍 トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、トポロジクエリ言語のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。

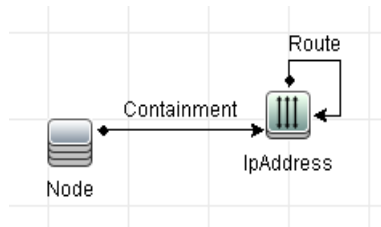
本項の内容

- ▶ 101 ページの「検証制限について」
- ▶ 103 ページの「影響分析 TQL クエリの検証」
- ▶ 104 ページの「エンリッチメント TQL クエリの検証」

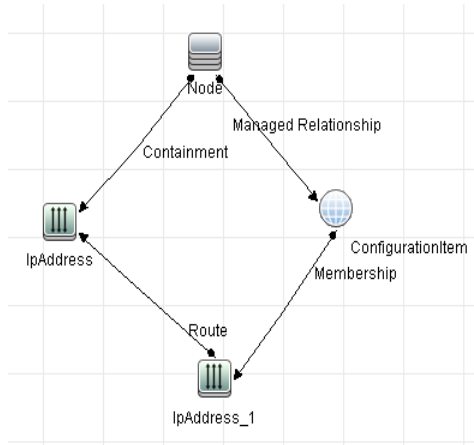
### 検証制限について

影響分析、ディスカバリ、およびエンリッチメント TQL クエリ・タイプを有効にするには、これらが次の制限に従っている必要があります。

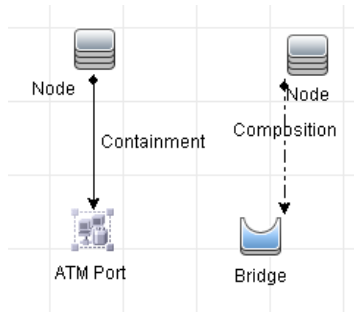
- ▶ **一意の名前** : TQL クエリ要素は一意の名前である必要があります。
- ▶ **自己関係** : TQL クエリは自己関係を含むことができません。つまり、次の例に示すように、関係がクエリ・ノードから、そのクエリ・ノード自身につながってはいけません。



▶ **環状図** : TQL クエリ構造は, 次の例に示すような閉じた環状にはできません。



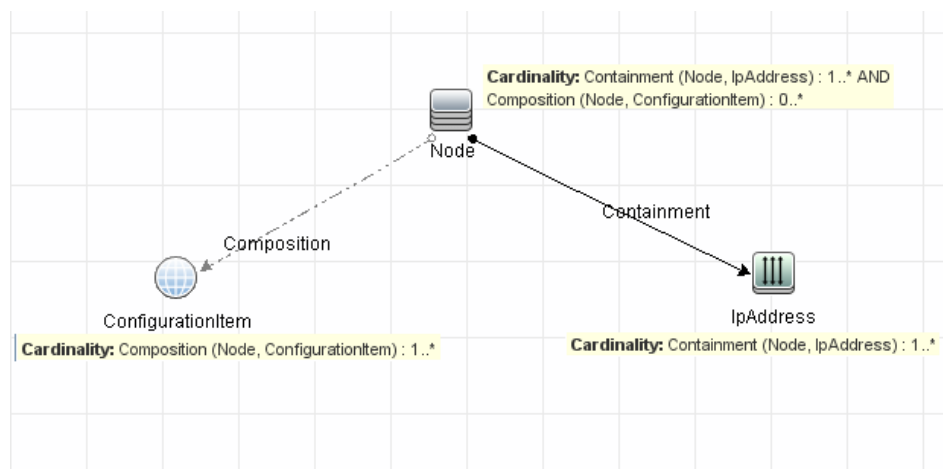
▶ **クエリ・ノードとグループの分離** : すべての TQL クエリ・ノードは互いにリンクされている必要があります。つまり, 次の例に示すように TQL クエリは分離されたクエリ・ノードやグループを含むことはできません。



## 影響分析 TQL クエリの検証

影響分析 TQL クエリは次の制限にも従っている必要があります。

- ▶ **クエリ・ノードの数** : 影響分析 TQL クエリは、少なくとも 2 つのクエリ・ノードで構成されている必要があります。
- ▶ **トリガと影響を受けるクエリ・ノードが接続されていること** : トリガされるクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードまでの関係のパスがある必要があります。
- ▶ **影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードの選択** : 影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、クエリ・ノードは次の制限に従う必要があります。
  - ▶ 複数のクエリ・ノードをトリガとして選択できます。ただし、1 つのクエリ・ノードに影響を受けるクエリ・ノードおよびトリガの両方として定義することはできません。
  - ▶ クエリ・ノードに、下限が 0 の関係がある場合（つまり、関係の一端にクエリ・ノードがリンクされていないかもしれない場合）、他端にリンクされているクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードになれません（TQL クエリに存在するかどうか分からないため）。下限の詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。たとえば、**Configuration Item** は、**下限 0** でクエリ・ノードに接続されているため、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードのいずれにもできません。



---

**注：**可視ではないクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードになれません。

---

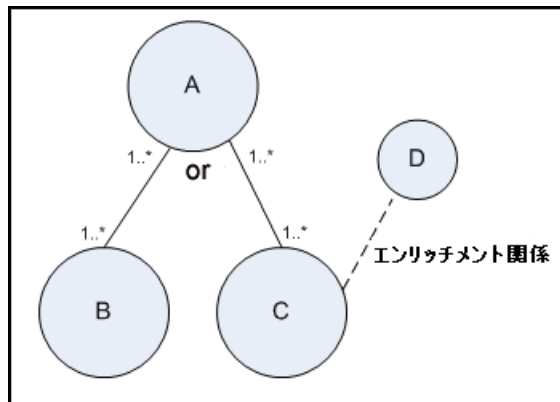
- ▶ **トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの間の接続：**トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードは、トリガ・クエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードに関係のパスによって接続されるよう定義する必要があります。

### エンリッチメント TQL クエリの検証

エンリッチメント TQL クエリは、次の制限に従っている必要があります。

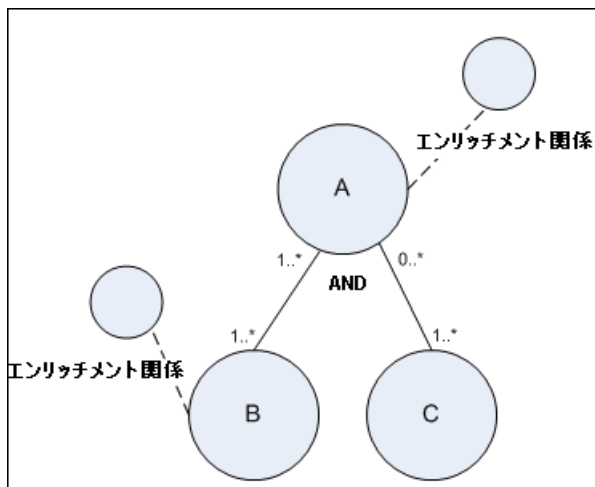
- ▶ **必須な要素：**必須でないクエリ・ノードにはエンリッチメントは実行できません。必須でないクエリ・ノードとは、TQL クエリ結果に必ずしも表示されないクエリ・ノードのことです。

**例 1：**この例では、TQL クエリ結果は **A** および **B**、または **A** および **C** です。このため、エンリッチメント・クエリ・ノードをクエリ・ノード **B** または **C** に追加できません。これらは必須な要素ではないためです。クエリ・ノード **A** にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。このクエリ・ノードは常に TQL クエリ結果に表示されるためです。エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、552 ページの「エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加」を参照してください。





**例 2:** この例では, **A** と **B** の両方が TQL クエリ結果に常に表示される必須な要素です。**C** のみが, カーディナリティが **0** なので必須な要素ではありません。このため, **C** にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できません。





# 2

---

## 計算された関係の使用

本章の内容

### 概念

- ▶ 計算された関係の概要 (108 ページ)
- ▶ 計算された関係 (108 ページ)
- ▶ 計算された関係タイプ (109 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### 計算された関係の概要

計算された関係は、2 つの CI の間の接続を表します。その CI 間のパスは、CI タイプ・マネージャによってトリプレットに基づいて定義された条件を満たします。トリプレットを定義する方法の詳細は、527 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。

CI タイプ・モデルのほかの関係と同様、計算された関係を使用して TQL クエリを作成できます。これにより、計算された関係を基にしてエンリッチメント・ルール、影響分析ルール、およびビューを作成できるようになります。

計算された関係の方向は、CI タイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。計算された関係に基づいているトリプレットの定義方法に応じて、2 つの CI の間には関係が 1 つ以上存在する可能性があります。

### 計算された関係

計算された関係は 1 つ以上のトリプレットで定義されます。各トリプレットは次のコンポーネントで定義されます。

- ▶ 1 つのソース CI タイプ
- ▶ 1 つのターゲット CI タイプ
- ▶ 2 つの CI タイプをリンクする物理的な関係タイプ（包含など）
- ▶ 関係の方向（必須）。方向は、ソース CI とターゲット CI 間の物理的な関係の方向と同じまたは反対の、いずれの可能性もあります。

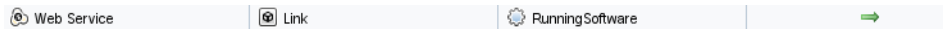
計算された関係は、クラス・モデル内から物理的な関係によって定義されるため、その存続期間は物理的な関係の存続期間によって決まります。クラス・モデルの物理的な関係が削除されたときは、対応する計算された関係もすべてのビュー結果から削除されます。

---

**注：** CI タイプ・マネージャで新しい CI タイプまたは関係を作成する場合は、適切なトリプレットを定義する必要があります。

---

トリプレット定義の例：



### 計算された関係タイプ

**Impacted By** という、標準で用意されている計算された関係があります。**Impacted By** には 2 つのサブタイプが含まれており、それぞれが異なるタイプの依存関係（完全な依存と潜在的な依存）を表します。

- ▶ **Impacted by (Directly)**
- ▶ **Impacted By (Potentially)**



# 3

---

## ダイレクト・リンクの URL の作成

本章 の内容

### 概念

- ▶ [ダイレクト・リンクの生成 - 概要](#) (112 ページ)

### タスク

- ▶ [ダイレクト・リンクの生成 - シナリオ](#) (114 ページ)
- ▶ [パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成](#) (114 ページ)

### 参照先

- ▶ [\[ダイレクト リンクの生成\] ユーザ・インタフェース](#) (116 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### ダイレクト・リンクの生成 - 概要

ダイレクト・リンクを使用することで、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

次のような URL を作成できます。

- ▶ HP Universal CMDB で特定の HP Universal CMDB ビューまたは CI を直接開きます。これによりユーザは、HP Universal CMDB コンテキストで検索せずに HP Universal CMDB から情報を取得できるようになります。

---

**注:** 特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDB で開くには、[**コンテキスト リンクに開く**] オプションを使用します。詳細については、118 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。

---

- ▶ HP Universal CMDB との統合を可能にします。
- ▶ [埋め込みリンク] オプションを使用して URL を作成した場合は、最初に HP Universal CMDB ログイン・ページが表示されます。ログイン名とパスワードを入力すると、ターゲット・ページがブラウザに表示されます。

---

**注:** ブラウザでターゲット・ページを開くには、[**埋め込みリンク**] オプションを使用します。詳細については、118 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。

---

URL の作成時には次のことができます。

- ▶ URL を電子メール受信者に送信する
- ▶ URL をクリップボードにコピーする
- ▶ URL をテストして、ターゲット アプリケーション・ページが見つかるか確認する



URL の送信先となるユーザには、ターゲット・ページを開くのに十分な権限が割り当てられているアカウントが必要です。ターゲット・ビューへのアクセスが必要なユーザおよびユーザ グループには、適切な表示権限および編集権限を適用する必要があります。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF) の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

---

---

## タスク

---

---

### **ダイレクト・リンクの生成 - シナリオ**

本シナリオでは、ダイレクト・リンクを生成して特定の CI の URL を電子メールで別のユーザに送信する方法について説明します。

Jane Harrison は ABC ソフトウェアという会社のシニア エンジニアです。彼女は、自分が作成したビューで問題のある CI を発見しました。そこで、HP ServiceCenter を通じてその同じビューを使用している Henry Jones に、この問題のある CI のことを知らせようと思いました。彼女が作成したビューには何百もの CI が含まれているため、Henry がその特定の CI を探すのに多くの時間を割かなくてもいいように、CI の URL を電子メールで Henry に送信することにしました。

Jane は IT ユニバース・マネージャの **[編集]** メニューから **[ダイレクトリンクの生成]** を選択しました。そして、**[コマンドの選択]** ページで **[コンテキストリンクで開く]** を選択し、**[ビューを表示]** オプションを選択してから **[次へ]** をクリックしました。

**[ダイレクトリンク パラメータ]** - **[ビューを表示]** ページでは、Jane 自身が作成したビューと問題のある CI を選択し、Henry が CI を開くモードとして **[トポロジの表示]** を選択しました。URL が作成されたので、Jane は問題のある CI へのリンクを電子メールで Henry に送信しました。

詳細については、117 ページの「**[ダイレクトリンクの生成]** ウィザード」を参照してください。

### **パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成**

このタスクでは、URL にパラメータ値を指定してテンプレートへのダイレクト・リンクを生成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 115 ページの「**テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する**」
- ▶ 115 ページの「**URL を編集する**」
- ▶ 115 ページの「**ブラウザに URL を貼り付ける**」

## 1 テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する

IT ユニバース・マネージャの [編集] > [ダイレクトリンクの生成] を選択して、[ダイレクトリンクの生成] ウィザードを実行します。[コマンドの選択] ページで、[埋め込みリンク] を選択します。オプションのリストから [ビュー トポロジを表示] を選択します。[ダイレクトリンクパラメータ] ページで、ドロップダウン・リストから必要なテンプレートを選択します。

## 2 URL を編集する

ウィザードが完了したら、[URL をコピー] をクリックして、メモ帳などのテキスト・エディタに URL に貼り付けます。

次のテキストを URL の末尾に追加します。

```
&params=[parameter1=value1,parameter2=value2]
```

ここで、parameter1 および parameter2 は選択したテンプレートのパラメータ名、value1 および value2 はパラメータに入力する値です。

---

**注：**特殊文字は URL エンコーディングを使用して入力する必要があります。前述の例では、[ 文字の URL エンコーディングは %5B, ] 文字の URL エンコーディングは %5D, コンマの URL エンコーディングは %2C です。このため、入力する実際のテキストは次のようになります。

```
&params=%5Bparameter1=value1%2Cparameter2=value2%5D
```

---

## 3 ブラウザに URL を貼り付ける

ブラウザに URL を貼り付けます。HP Universal CMDB は、指定した値が割当てたパラメータを含む、選択されているテンプレートを開きます。

---

---

## 参照先

---

---


### [ダイレクト リンクの生成] ユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」

### [ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ユーザに送信して HP Universal CMDB にアクセスできるようにするための URL を作成できます。

<b>利用方法</b>	[モデリング] メイン・メニューから、[編集] > [ダイレクト リンクの生成] を選択します。117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」でダイレクト・リンクのパラメータを設定した後、[完了] ページで [完了] をクリックします。  または、IT ユニバース・マネージャの [CI の選択] ツールバーの [ビューへのダイレクト リンクを生成] ボタン  をクリックします。
<b>関連タスク</b>	114 ページの「ダイレクト・リンクの生成 - シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
詳細	<p>エンド・ユーザがアクセスできるように、ダイレクト・リンクを作成し、ビューや CI など特定の要素を選択できます。詳細については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> この機能は、IT ユニバース・マネージャの [CI の選択] ツールバーから [ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックスにアクセスする場合にのみ関連します。</p>
URL をコピー	URL がクリップボードにコピーされます。
説明	URL に含まれるパラメータについて説明します。パラメータの選択の詳細については、118 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。
リンク URL	作成された URL で、指定の HP Universal CMDB 機能にアクセスします。
URL をメール	リンクの URL が含まれた電子メールが開きます。
URL をテスト	指定されたアプリケーション・ページが見つかるかどうか URL が検査されます。

## [ダイレクトリンクの生成] ウィザード

このウィザードでは、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

利用方法	[モデリング] メイン・メニューから、[編集] > [ダイレクトリンクの生成] を選択します。
重要情報	標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。[ようこそ] ページを表示しないようにするには、[次回からこのページを表示しない] チェック・ボタンを選択します。

<b>関連タスク</b>	114 ページの「ダイレクト・リンクの生成 - シナリオ」
<b>ウィザード・マップ</b>	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードには次の項目が含まれます。 [コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > [完了] ページ

### [コマンドの選択] ページ

このウィザード・ページでは、URL に追加する必要がある必須パラメータを選択できます。

次の2種類のリンクを作成できます。

- ▶ **コンテキスト・リンクで開く** : HP Universal CMDB コンテキストである必要なしに、特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDB に開く URL を作成します。
- ▶ **埋め込みリンク** : HP Universal CMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込むことができる URL を作成します。

<b>重要情報</b>	標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。[ようこそ] ページを表示しないようにするには、[次回からこのページを表示しない] チェック・ボタンを選択します。
<b>ウィザード・マップ</b>	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードには次の項目が含まれます。 [コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< 左側の表示枠 >	選択したコマンドのイラストです。
CI グリッド	CMDB で見つかった、選択した CI タイプとその子のすべての CI インスタンスを表示する URL を作成します。詳細については、125 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [CI グリッド] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI の選択	選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、122 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [CI の選択] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI タイプ・セクタ	CI タイプ・セクタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、123 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [CI タイプの選択] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
説明	選択したコマンドの説明です。
影響マップ	影響マップを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、126 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [影響マップ] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モデル エディタ	モデル・エディタを、モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、127 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [モデル・エディタ]」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。

### 第3章・ダイレクト・リンクの URL の作成

UI 要素	説明
クエリ・エディタ	<p>選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、128 ページの「ダイレクトリンク パラメータ - [クエリ エディタ]」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
関連 CI	<p>選択したビュー内で選択した CI とその直接の隣接を表示するトポロジ・マップを開く URL を作成します。詳細については、129 ページの「ダイレクトリンク パラメータ - [関連 CI] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
レポート・ビューア	<p>特定のレポートを開く URL を作成します。詳細については、130 ページの「ダイレクトリンク パラメータ - [レポートビューア] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
レポート・ビューア - 保存済みレポート	<p>保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開く URL を作成します。詳細については、130 ページの「ダイレクトリンク パラメータ - [レポート・ビューア - 保存済みレポート] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>



UI 要素	説明
CI のプロパティを表示	<p>CI のプロパティを表示する URL を作成します。詳細については、131 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [CI のプロパティを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビューを表示	<p>選択したビューおよび、任意でそのビューに事前に選択したクエリ ノードを表示する URL を作成します。詳細については、134 ページの「[ダイレクト リンク パラメータ] - [ビューを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [コンテキストリンクで開く] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビュー トポロジを表示	<p>選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、132 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [ビュー トポロジを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
モードで開始	<p>選択したページで HP Universal CMDB を開く URL を作成します。詳細については、135 ページの「[ダイレクト リンク パラメータ] - [モードで開始] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [コンテキストリンクで開く] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ステップ	手順の現在のステップ。



UI 要素	説明
ビュー エディタ	<p>モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開く URL を作成します。詳細については、132 ページの「ダイレクト リンク パラメータ - [ビュー エディタ] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビュー・セクタ	<p>ビュー・セクタを外部アプリケーションに埋め込み、アプリケーション内でビューを選択、表示できるようにする URL を作成します。詳細については、133 ページの「[ダイレクト リンク パラメータ] - [ビュー セクタ] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>

### **ダイレクト リンク パラメータ - [CI の選択] ページ**

このウィザード・ページでは、選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成できます。

ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ( [埋め込みリンク] > [CI の選択] ) > [完了] ページ
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
複数選択を許可	CI の単一選択または複数選択を可能にします。
選択されたビュー	<p>CI を選択する必要があるビューを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。CI の選択に表示するビューを選択します。</li> <li>▶ 選択したビューを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>







### **ダイレクト リンク パラメータ - [CI タイプの選択] ページ**

このウィザード・ページでは、外部アプリケーションに埋め込むことができる、選択した CI タイプの階層ツリーまたはリストへの URL を作成できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CI タイプセレクタ]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
CI タイプ・セレクタモード	選択した CI タイプが階層ツリーまたはリストで表示されます。
非表示 CIT (ツリーのみ)	<p>ツリーに表示しない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプセレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーに表示する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>



UI 要素	説明
<b>ルート CI タイプ (ツリーのみ)</b>	<p>階層ツリーで、ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。階層ツリーで、ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。標準設定は [Configuration Item] です。</li> </ul>
<b>選択モード</b>	<p>CI タイプの単一選択または複数選択を可能にします。</p>
<b>選択不可の CIT (ツリーのみ)</b>	<p>ツリーで選択できない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーで選択できない CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>
<b>可視 CIT (リストのみ)</b>	<p>CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> CIT をリストに表示することを選択した場合は、少なくとも 1 つの CI タイプを選択する必要があります。</p>

## ダイレクト リンク パラメータ - [CII グリッド] ページ

このウィザード・ページでは、CMDDB で見つかった、選択した CI タイプとその子のすべての CI インスタンスを表示できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CII グリッド]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
<b>クラス・タイプ</b>	必要な CI タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。</li> <li>▶  をクリックしてボックスをクリアします。</li> </ul>



## **ダイレクト リンク パラメータ - [影響マップ] ページ**

このウィザード・ページでは、影響分析マネージャで定義した影響分析ルールを実行できます。作成された URL では、選択した重大度および状態に対するトリガ CI の影響を受けるすべての CI のシミュレーションが表示されたトポロジ・マップを埋め込むことができます。詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [影響マップ]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

<b>UI 要素</b>	<b>説明</b>
<b>CI タイプでフィルタ</b>	<p>影響分析結果に表示しない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>
<b>ルール・バンドル</b>	影響ルールを実行できる場所を定義できます。





UI 要素	説明
<p><b>重大度</b></p>	<p>ドロップダウン・リストで必要な重大度を選択します。</p> <p><b>注:</b> 状態の重大度リストは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、503 ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</p> <p>たとえば、トリガ・クエリ・ノードの重大度を「<b>変更なし</b>」以外として定義する影響ルールを影響分析マネージャで作成するとします(491 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください)。この場合、「<b>No Change</b>」以外の重大度(たとえば、「<b>Plan</b>」)を選択すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム内の変化がトリガされます。</p> <p>詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><b>トリガ CI</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、影響マップでトリガとして使用する CI を選択します。これらの CI は、システムに対するシミュレートされた変更を表します。[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。[CI の選択] 表示枠の使用方法的詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ 選択した CI を削除するには、 をクリックします。</li> </ul>

### **ダイレクトリンク パラメータ - [モデル・エディタ]**

このウィザード・ページでは、モデル・エディタを、モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部アプリケーションに埋め込むことができます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成]ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] &gt; [モデルエディタ]) &gt; [完了] ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>294 ページの「ビジネス CI モデル」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
モデル名	<p>モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[モデルを選択] ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</li> <li>▶ 選択したモデルを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>
選択された検索中 CI	<p>モデル・エディタの CI の選択で強調表示する CI を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、CI の選択を開きます。</li> <li>▶ 選択した CI を削除するには、 をクリックします。</li> </ul>

### **ダイレクト リンク パラメータ - [クエリ エディタ]**

このウィザード ページでは、選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [クエリ エディタ]) > [完了] ページ
関連情報	294 ページの「ビジネス CI モデル」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
クエリ名	<p>モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[クエリを選択] ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・エディタに表示するクエリを選択します。</li> <li>▶ 選択したクエリを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>









## **ダイレクト リンク パラメータ - [関連 CI] ページ**

このウィザード・ページでは、特定の CI と、わずか 1 つの関係という距離でその CI にリンクされているすべての CI が表示されたトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [関連 CI]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<b>CI</b>	トポロジ・マップに表示する CI のタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [CI] ボックスの値を削除するには  をクリックします。</li> </ul>
<b>CI タイプでフィルタ</b>	1 つ以上の CI タイプの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。</li> <li>▶ [CI タイプでフィルタ] ボックスの値を削除するには  をクリックします。</li> </ul>
<b>表示に限定</b>	特定のビューの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要なビューを選択するときは  をクリックします。[ビューセレクト] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [次のビューに結果を制限] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## **ダイレクトリンクパラメータ - [レポートビューア] ページ**

このウィザード・ページでは、特定のレポートを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [レポートビューア]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
<b>レポート・タイプ</b>	必要なレポート・タイプを選択します。各レポート・タイプの詳細については、391 ページの「レポート」を参照してください。

## **ダイレクトリンクパラメータ - [レポート・ビューア - 保存済みレポート] ページ**

このウィザード・ページでは、保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [レポートビューア] - [保存済みレポート]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
レポート	<p>必要な保存済みレポートを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[レポートの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。必要なトポジまたはカスタム・レポートを選択します。</li> <li>▶ 選択したレポートを削除するには、 をクリックします。</li> </ul> <p>保存済みレポートの詳細については、391 ページの「レポート」を参照してください。</p>

### **ダイレクト リンク パラメータ - [CI のプロパティを表示]** ページ

このウィザード・ページでは、既存の CI の基本情報を表示できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CI のプロパティを表示]) > [完了] ページ
関連情報	246 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
ソース CI のオブジェクト ID	<p>必要な CI を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ソース CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは  をクリックします。[ソース CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ [ソース CI のオブジェクト ID] ボックスの値を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## **ダイレクト リンク パラメータ - [ビュー トポロジを表示] ページ**

このウィザード・ページでは、選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー トポロジを表示]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>次のビューのトポロジを表示</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL によって開く必要があるビューを選択するには  をクリックします。[ビューセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [次のビューのトポロジを表示] ボックスの選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>



## **ダイレクト リンク パラメータ - [ビュー エディタ] ページ**

このウィザード・ページでは、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
-------------	--

ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー エディタ]) > [完了] ページ
関連情報	287 ページの「ビジネス・ビューの構築」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
ビュー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL によって開く必要があるビューを選択するには  をクリックします。[ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [ビュー名] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

### [ダイレクト リンク パラメータ] - [ビュー セレクタ] ページ

このウィザード・ページでは、ビュー・セレクタを外部アプリケーションに埋め込み、そのアプリケーションでビューを選択、表示することができます。



重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの一般的な情報については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー セレクタ]) > [完了] ページ
関連情報	287 ページの「ビジネス・ビューの構築」

## [ダイレクト リンク パラメータ] - [ビューを表示] ページ

このウィザード・ページでは、特定のビュー、および任意でそのビューで選択した特定のノードの URL を作成できます。ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。ビューは IT ユニバース・マネージャで開きます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([コンテキストリンクで開く] > [ビューを表示]) > [完了] ページ

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
< 左側の表示枠 >	選択したオプションのイラストです。
<b>詳細表示枠 (可視性)</b>	IT ユニバース・マネージャの [詳細表示枠] を表示または非表示にします。
<b>ビュー結果から CI を選択</b>	<p>CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときにクリックします (任意指定)。ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ターゲット・ビューに必要な CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは  をクリックします。[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ [ビュー結果から CI を選択] ボックス内の選択した CI のオブジェクト ID を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

UI 要素	説明
選択されたビュー	<p>URL で開くターゲット・ビューです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL で開くターゲット・ビューを選択するときは  をクリックします。[ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [選択されたビュー] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>
ビュー モード	<p>次のビュー・オプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>トポロジの表示</b> : ビュー内のレイヤ全体が表示されます。</li> <li>▶ <b>ビュー内の関連項目</b> : 現在のビュー内の選択された CI とその直接の隣接が表示されます。</li> <li>▶ <b>CMDB 内の関連項目</b> : CMDB 内の選択された CI とその直接の隣接が表示されます。</li> </ul>

### [ダイレクト リンク パラメータ] - [モードで開始] ページ

このウィザード・ページでは、たとえば [モデリング スタジオ] ページなど、選択したページで UCMDB アプリケーションを開始できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、116 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([コンテキストリンクで開く] > [モードで開始] ページ) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
< 左側の表示枠 >	選択したモードのイラストです。
初期モード	選択したモードで UCMDB アプリケーションを開始します。

### **【完了】 ページ**

これは [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの最後のページです。ウィザードを閉じて URL を作成するときは **【完了】** をクリックします。[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックスが開きます。

<b>重要情報</b>	[ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、117 ページの「 [ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > <b>【完了】 ページ</b>



# 4

---

## ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

本章の内容

### 概念

- ▶ [ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み \(138 ページ\)](#)
- ▶ [UCMDB アプレット・タグ - 概要 \(139 ページ\)](#)

### 参照先

- ▶ [ダイレクト・リンクの操作フロー \(141 ページ\)](#)

---

**注:** この章は、統合開発者にのみ関係があります。

---

---

---

## 概念

---

---

### ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部アプリケーションに直接埋め込むことができます。ダイレクト・リンクは、ダイレクト・リンク・ウィザードを使用して作成する URL です。詳細については、117 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。

UCMDB アプレットは、次の方法で埋め込むことができます。

- ▶ URL そのものを使用して、CMDB のコンテンツを外部アプリケーションに表示します。たとえば、ダイレクト・リンク・ウィザードで URL を作成して、特定の CI のプロパティを表示できます。まだ HP Universal CMDB にログインしていない場合は、ログイン・ページが開きます。

---

**注：** URL を使用した統合を可能にするには、Iframe または新規ウィンドウでリンクを開く必要があります。この場合、クロスサイト・スクリプティングに関する問題により、UCMDB アプレットを Javascript を使用して管理することはできません。たとえば、オブジェクト ID を使用して特定 CI のプロパティを表示する URL を使用する場合、同じ URL を使用して他の CI のプロパティを表示することはできません。

---

- ▶ UCMDB アプレット・タグを使用して、UCMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込みます。これにより、統合開発者は HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの一部を独自のアプリケーションの一部として表示できます。また、Javascript を使用した埋め込み HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースとのやり取りが可能になります。

## UCMDDB アプレット・タグ - 概要

UCMDDB アプレット・タグは、UCMDDB アプレットの実行に必要な環境 (HTML, Javascript, およびサーバ・セッションのパラメータ) を作成します。次のいずれかの場合、タグの背後にあるコードにより、HP Universal CMDB サーバにログインできます。

- ▶ ログイン・パラメータが指定されていて、ユーザがまだログインしていない。
- ▶ **clear session** パラメータが **true** である。

ユーザ・セッションが確立されると、JSP プロセッサが結果を出すまで、タグは必要なアプレット環境 (HTML および Javascript コード) の記述を続けます。生成された HTML ページには、指定したサーバから UCMDDB アプレットをロードするのに必要な Javascript コードが含まれます。エラー発生時には、指定されたエラー文字列がページに印刷されます。この文字列は、**userErrorMessage** パラメータを使用してカスタマイズできます。また、エラー処理シナリオを開始するための HTML 要素および HTML ラップ Javascript コードを含むことがあります。

### UCMDDB アプレット・タグの使用例

```
<ucmdb:ucmdb_applet
serverConnectionString="http://labm3mam17.devlab.ad:8080"
serverType="UCMDDB"
directLinkParameters="initViewName=NetworkTopology"
userName="user-name"
userPassword="password"
customerId="1"
encoded="false"
printDebugLogs="true"
userErrorMessage=" これは一般エラーです "
navigation="false"
clearSessionCookies="false"
command="ShowCISelector"/>
```

---

**注意 :** `directLinkParameters` は、ダイレクト・リンク・ウィザードで作成された URL から取得します。各パラメータの値を、表示どおりにタグに挿入します。上記に表示されていないパラメータ値が URL に含まれている場合、それらをコピーして、タグの `directLinkParameters` 行に追加します。ダイレクト・リンクを作成する方法の詳細については、117 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。

---

UCMDB アプレット・タグは、`<HP Universal CMDB ルート・フォルダ> %deploy%ucmdb-ui%WEB-INF%tags%ucmdb_applet.tag` にあります。

UCMDB アプレット・タグを外部アプリケーション・サーバにコピーできます。次の場合、UCMDB アプレット・タグは HP Universal CMDB サーバからのログイン・データを要求します。

- ▶ 外部アプリケーション・サーバが JSP タグとやり取りできる場合。
- ▶ 外部アプリケーション・サーバおよびブラウザが HP Universal CMDB サーバにアクセスできる場合。

---

---

## 参照先

---

---

### **ダイレクト・リンクの操作フロー**

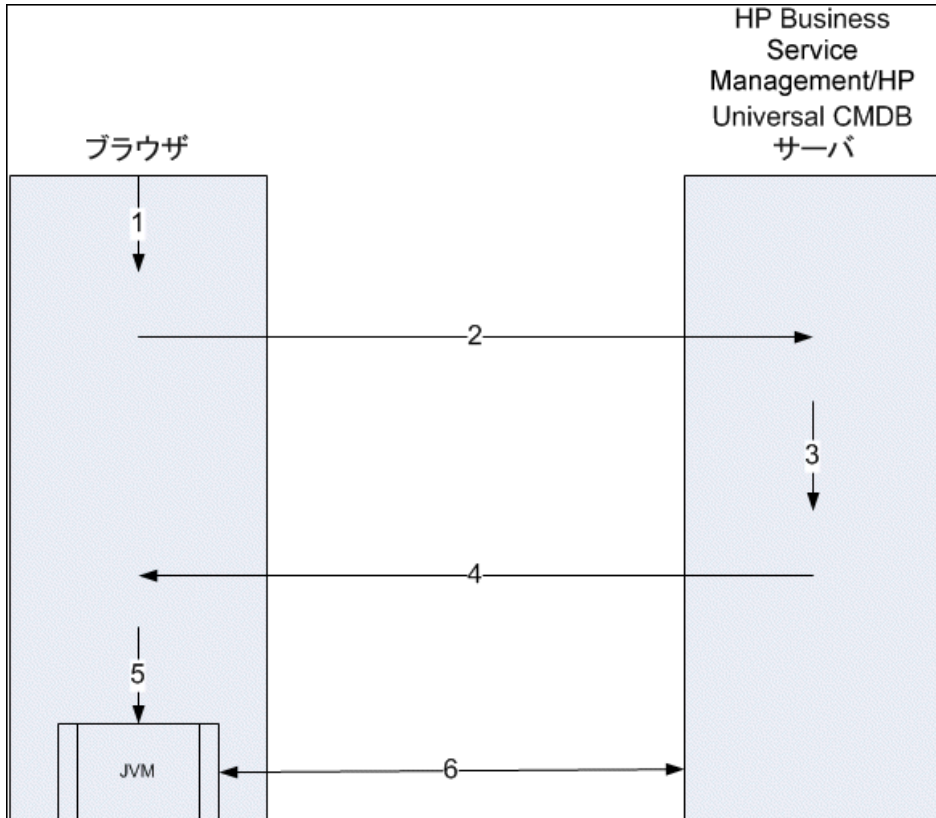
このセクションでは、ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部マシンに埋め込むさまざまなシナリオを説明します。

このセクションでは、次のフローについて説明します。

- ▶ 142 ページの「通常のログイン」
- ▶ 143 ページの「ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み」
- ▶ 145 ページの「UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み」

## 通常のログイン

このフローでは、HP Universal CMDB サーバへの通常のログインについて説明します。これは、ダイレクト・リンク・フローの基本情報となります。



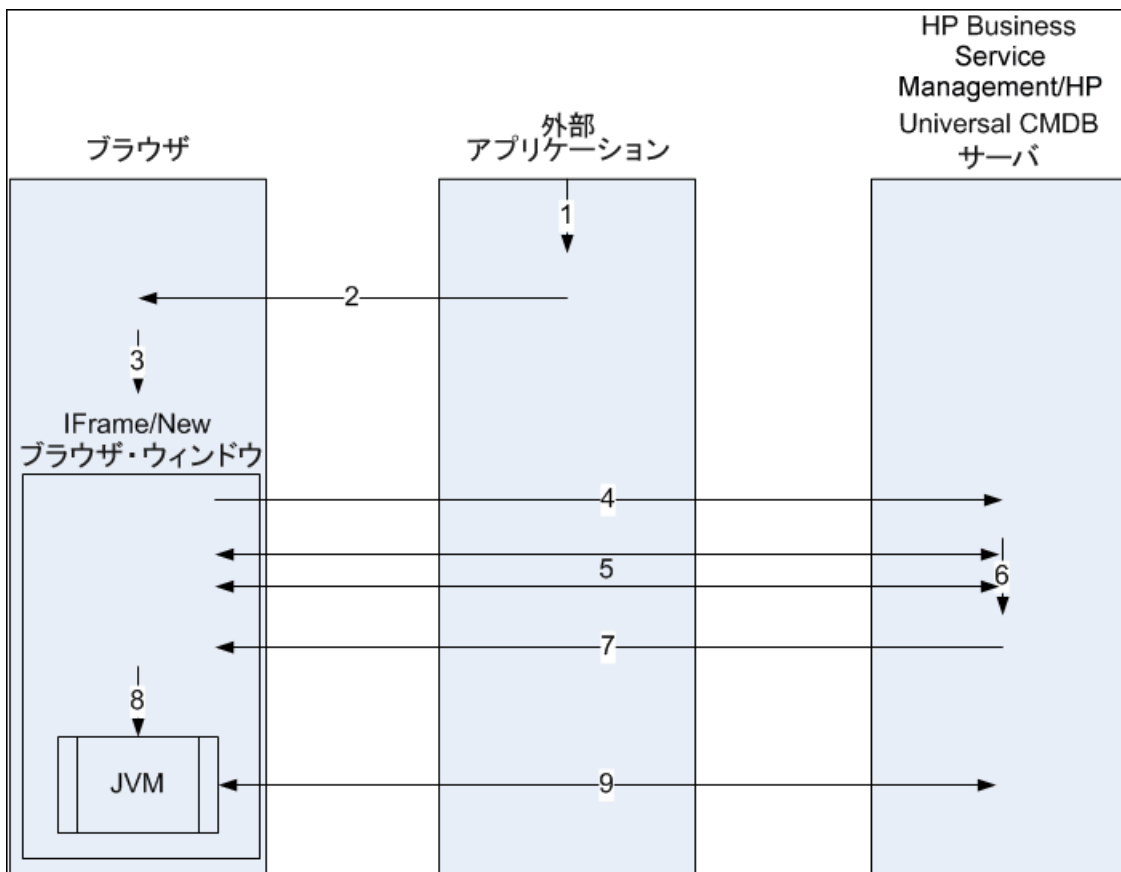
- 1 ダイレクト・リンク URL をブラウザに入力して、HP Universal CMDB サーバにログインします。
- 2 ブラウザはログイン要求を HP Universal CMDB サーバに送信します。
- 3 サーバはユーザの資格情報を確認し、必要に応じてユーザ・セッションを作成します。
- 4 サーバは要求された HP Universal CMDB の最初のページを返します。

- 5 ブラウザは **code base location** パラメータ (パラメータは、JVM に UCMDB アプレット・ファイルのロード元を指定します) を HP Universal CMDB サーバとして指定して、Java 仮想マシン (JVM) をロードします。
- 6 UCMDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

この時点で、UCMDB アプレットがロードされ、HP Universal CMDB がやり取りするサーバとして認識されます。

### ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、ダイレクト・リンクを使用して、新しいブラウザ・フレームで UCMDB アプレットを開く (指定したコンテキストで開く) 方法を示します。



## 第 4 章・ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

- 1 外部アプリケーションに、UCMDB アプレットの表示を必要とするページがあります。
- 2 返されたページには、Iframe または新しいブラウザ・ウィンドウでダイレクト・リンクを開くディレクティブが含まれます。
- 3 ブラウザは、ダイレクト・リンクをフレーム URL として新しいフレーム (Iframe または新しいウィンドウ) を開きます。
- 4 新しいフレームは、ダイレクト・リンクを HP Universal CMDB サーバに送信します。
- 5 ユーザがまだ HP Universal CMDB にログインしていない場合、HP Universal CMDB はログイン・ページを表示し、ユーザが資格情報を入力してログイン・ボタンをクリックするまで待機します。
- 6 必要に応じて、ユーザ・セッションが作成されます。
- 7 HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロードするディレクティブを含むページを返します。
- 8 ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードするディレクティブを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を "コード・ベース" として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 9 UCMDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

---

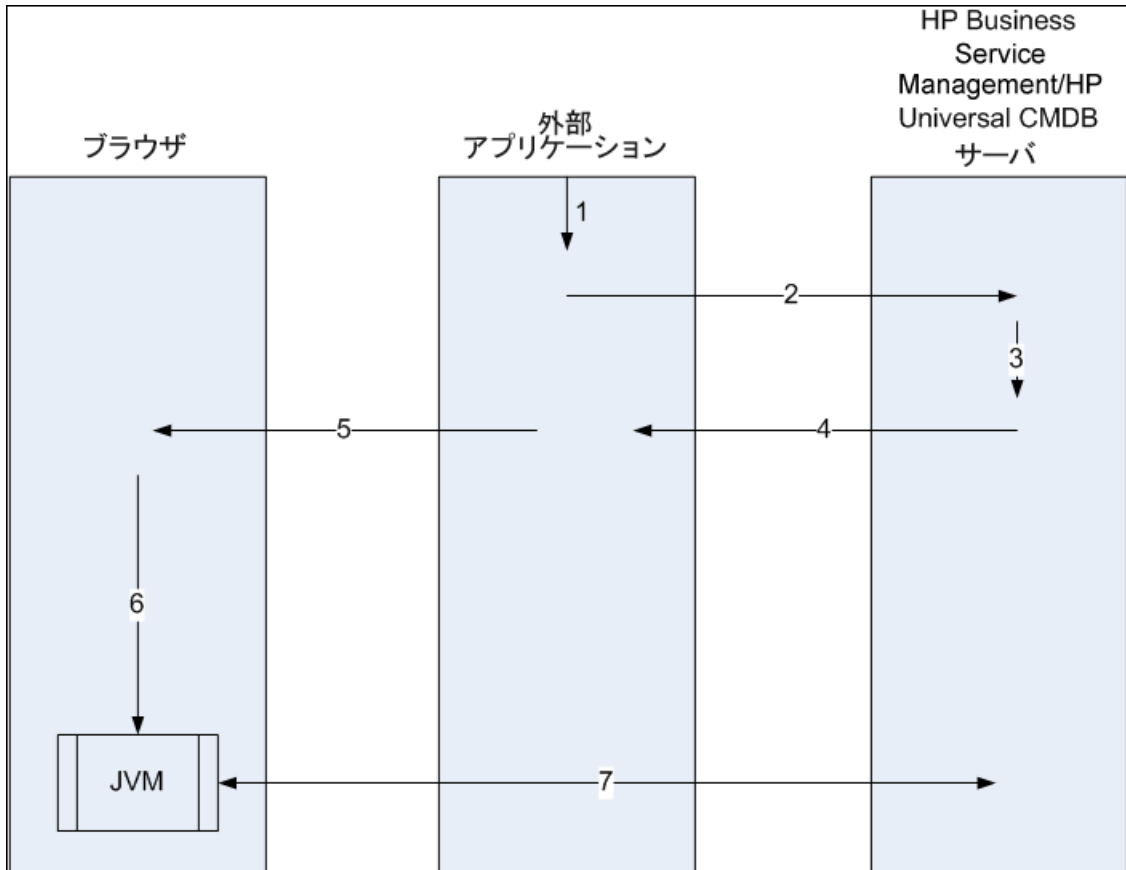
**注意:** HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンからアクセスできる必要があります。

---



## UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、UCMDB アプレット・タグをダイレクト・リンクとともに使用して、外部アプリケーション・ページに UCMDB アプレット（指定したコンテキストで開いた）を埋め込む方法を示します。



- 1 UCMDB アプレット・タグが、外部アプリケーションの処理済み JSP に格納されます。
- 2 UCMDB アプレット・タグは指定されたパラメータを使用して、HP Universal CMDB サーバへの HTTP/HTTPS 接続を作成し、アプレット HTML スニペット・コードを要求します。

- 3 ユーザがまだログインしていない場合、UCMDDB アプレット・タグのパラメータが使用されます（この手順の参照情報として、タグを参照）。ログインに失敗すると、UCMDDB アプレット・タグは、事前設定されているエラー・メッセージまたは UCMDDB アプレット・タグのパラメータで指定されたエラー・メッセージを返します。
- 4 HP Universal CMDB サーバは、UCMDDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを（埋め込み Javascript とともに）返します。これで、外部アプリケーションはこのスニペット・コードをページに実装し、ページをブラウザに送信できます。
- 5 外部アプリケーションは、HTML スニペット・コードを含む完了ページをブラウザに送信します。
- 6 ブラウザはページを処理します。UCMDDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を "コード・ベース" として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 7 UCMDDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

---

**注意:** HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンおよび外部アプリケーション・マシンからアクセスできる必要があります。

---

# 5

---

## CI の選択を使った作業

本章の内容

### 概念

- ▶ CI の選択の概要 (148 ページ)

### タスク

- ▶ 参照モードでのビューの表示 (149 ページ)
- ▶ [検索] モードでの CI の検索 (149 ページ)
- ▶ CI の選択の表示オプションの変更 (151 ページ)

### 参照先

- ▶ CI の選択のユーザ・インタフェース (153 ページ)
- ▶ トラブルシューティングと制限事項 (166 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### CI の選択の概要

---

**注 :** CI の選択は、前のバージョンの HP Universal CMDB ではビュー・エクスプローラと呼ばれていました。

---

CI の選択では、HP Universal CMDB 内の IT ユニバース・モデルの要素をビューを使って表示します。HP Universal CMDB では、CI の選択は IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオの左側の表示枠に表示されます。

CI の選択でビューを選択すると、CI 間で定義されている関係に従って、ビューに含まれている構成アイテム (CI) が階層ツリー形式で表示されます。TQL クエリに一致する CI が見つからない場合は、ビューは空の場合があります。ビューの詳細については、286 ページの「ビュー形式」を参照してください。

CI の選択を使用し、ビューを選択して CI を検索できます。ビューを選択して、CI のリストの参照や、名前または CI タイプで特定の CI の検索を行うことができます。後で使うために検索条件を保存することもできます。

CI の選択のコンポーネントの詳細については、153 ページの「CI の選択のユーザ・インタフェース」を参照してください。

---

---

## タスク

---

---

### 参照モードでのビューの表示

CI の選択を**参照**モードに設定すると、選択したビューの内容を表示できます。参照モードでの CI の選択のユーザ・インタフェースの詳細については、155 ページの「ビューの参照モード」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 149 ページの「前提条件」
- ▶ 149 ページの「表示するビューの選択」

#### 1 前提条件

[CI の選択] 表示枠で、[**ビューの参照**] モードを選択します。

#### 2 表示するビューの選択



省略記号のボタンをクリックして、[ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスを開き、表示するビューを選択します。選択したビューの名前が [**ビュー**] ボックスに表示されます。ビュー内の CI は、[CI の選択] 表示枠の下部にある CI ツリーに表示されます。HP Universal CMDB でほかのアプリケーションに移動しても、このビューが選択された状態が維持されます。

### [検索] モードでの CI の検索

CI の選択の検索ツールを使用すると、特定の CI を検索できます。検索は CMDB 全体で実行されます。CI の選択の検索ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、159 ページの「CI の検索モード」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 150 ページの「前提条件」
- ▶ 150 ページの「CI 名による検索」
- ▶ 150 ページの「構成アイテムのタイプによる検索」

- ▶ 150 ページの「検索の実行と結果の並べ替え」
- ▶ 151 ページの「高度な検索の実行」

### 前提条件

[CI の選択] 表示枠で **[CI の検索]** モードを選択し、**[簡易]** タブを選択します。

### CI 名による検索

名前を使って CI を検索するには、**[CI 名]** ボックスに CI の名前、または名前の一部を表す文字列を入力します。検索結果には、入力文字列を名前のどこか（定義したほかの検索条件の境界内）に含む、すべての CI が返されます。

---

**注：** CI 名による検索のオプションでは、大文字と小文字は区別されません。

---

### 構成アイテムのタイプによる検索

**[CI タイプ]** ボックスを使用して CI を検索できます。この検索では、**[CI タイプ]** ボックスで指定したタイプの CI が返されます。



省略記号のボタンをクリックして、必要な CI タイプを選択します。**[CI タイプ]** ボックスに CIT を手動で入力することはできません。

**[CI タイプ]** ボックスで CI を定義したら、異なるアプリケーションに移動するまで、または異なる値を定義するまで、HP Universal CMDB によって選択内容が記憶されます。

### 検索の実行と結果の並べ替え

検索を実行します。結果は **[CI の選択]** 表示枠の下部に表示され、エントリごと CI 名とタイプが示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。

検索結果で CI を選択すると、トポロジ・マップに、その CI が CMDB 内の関連する CI とともに表示されます。



(任意指定) [保存] ボタンをクリックして検索条件を保存し、検索名を入力します。詳細については、165 ページの「[検索基準の保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 高度な検索の実行

ほかの検索オプションでは、[詳細] タブを選択できます。CI 条件検索の詳細については、153 ページの「[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス」を参照してください。実行中のソフトウェア検索の詳細については、165 ページの「[実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## CI の選択の表示オプションの変更

CI の選択の表示オプションは変更できます。これらのオプションは、インフラストラクチャ設定マネージャで設定します。

---

**注意:** インフラストラクチャ設定マネージャで特定の設定を変更すると、HP Universal CMDB のパフォーマンスが低下する場合があります。設定を変更する際は、まず HP ソフトウェア・サポートまたは HP プロフェッショナルサービス担当者にお問い合わせください。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 152 ページの「前提条件」
- ▶ 152 ページの「選択した設定の変更」

## 1 前提条件

[マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定マネージャ] の順に選択して、インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします。

## 2 選択した設定の変更

変更できる設定は次のとおりです。

- ▶ **[すぐに表示される子の数]** : CI の選択で親クエリ・ノードを展開したときに即座に表示される子の数。
- ▶ **[子の最大数]** : CI の選択の親クエリ・ノードの下に表示される子の最大数。
- ▶ **[最大検索結果サイズ]** : 1 回の検索操作で返される CMDB インスタンスの最大数。
- ▶ **[最近使ったビュー リストのサイズ]** : ユーザごとに格納する最近使ったビューの最大数。



---



---

## 参照先

---



---

### CI の選択のユーザ・インタフェース

本項の内容





- ▶ 153 ページの「[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 155 ページの「CI の選択」
- ▶ 164 ページの「[検索の整理] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 165 ページの「[実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 165 ページの「[検索基準の保存] ダイアログ・ボックス」




### [CI 条件検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。

<b>利用方法</b>	[CI の選択] で、検索モードの [詳細] タブを選択し、[CI 条件検索] の横の省略記号のボタンをクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	属性条件を追加するときにクリックします。
	選択した行を削除するときにクリックします。
	選択した行を上に移動するときにクリックします。
	選択した行を下に移動するときにクリックします。

UI 要素	説明
	属性条件リストのプレビューを表示するときにクリックします。
<b>属性名</b>	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
<b>CI 名</b>	検索する CI の名前を入力します。
<b>CI タイプ</b>	検索する CI のタイプを入力します。
<b>演算子</b>	ドロップダウン・リストから演算子を選択します。
<b>関連する CI 名</b>	検索する関連 CI の名前を入力します。
<b>関連する CI タイプ</b>	省略記号のボタン  をクリックすれば、関連 CI を検索条件とした検索のための CI タイプをツリーから選択できます。
<b>関係タイプ</b>	省略記号のボタン  をクリックすれば、関連 CI を検索条件とした検索のための関係をツリーから選択できます。
<b>CI 条件で検索</b>	指定した条件で CI を検索するときに選択します。
<b>関連 CI 条件で検索</b>	指定した条件で、CI に関連する CI を検索するときに選択します。
<b>関連 CI 基準で検索</b>	指定した CI または CI タイプに関連する CI を検索するときに選択します。
<b>値</b>	属性条件の値を入力します。




## CI の選択

ビューを選択して CI を検索できます。



<b>利用方法</b>	[IT ユニバース マネージャ] ページとモデリング・スタジオの左側の表示枠に表示されます。
<b>重要情報</b>	<p>CI の選択では、ビューの参照モードと CI の検索モードの 2 つの機能を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビューの参照モードでは、ビューを検索、表示したり、ビューを参照して特定の CI を検索できます。ショートカット・メニューから CI に対する操作を実行することもできます。</li> <li>▶ CI の検索モードでは、CMDDB 内の CI を、名前や CI タイプで検索できます。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<p>149 ページの「参照モードでのビューの表示」</p> <p>149 ページの「[検索] モードでの CI の検索」</p>






### ビューの参照モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	クリックすると、ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	<p>[<b>テンプレートパラメータを表示</b>] をクリックすると [テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテンプレートのパラメータを編集できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、テンプレートが選択されている場合のみ有効です。</p>
	<p>[<b>選択した CI をモデル / ビューに追加</b>] をクリックすると、選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[<b>関連 CI としてモデルに追加</b>] をクリックすると、選択した CI が関連 CI としてモデルに追加されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルがモデル・エディタで開きます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI を含むモデルを表示</b>] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>IT ユニバース・マネージャでは、これは [<b>ビュー定義の表示</b>] を表しており、現在のビューに対するモデリング・スタジオのビュー定義に直接移動できます。</p> <p>モデリング・スタジオでは、これは [<b>選択されたビューを開く</b>] を表しており、選択したビューをエディタ表示枠で開きます。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックすると、[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいてビューを構築できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>ディスカバリおよび変更のサマリを表示</b>] をクリックすると、最初に CI を検出した DFM ジョブを手動で開始することによって、選択したビュー内のすべての CI が再検出されます。詳細については、278 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[<b>ビューへのダイレクト・リンクを生成</b>]をクリックすると、ダイレクトリンクの生成を使用してビューへのダイレクト・リンクを作成できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>参照結果のエクスポートの形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>注:</b> PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> </ul> </li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>注:</b> CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> </ul> </li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ヒント:</b> HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML 形式で保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>





UI 要素	説明
	<p>スナップショットを使用するには、[スナップショット] ボタンをクリックします。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>スナップショットを保存する</b>：選択して [スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックスを開き、ビューのスナップショットを保存します。詳細については、276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スナップショットを比較する</b>：スナップショット比較レポートを実行する場合に選択します。詳細については、422 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スナップショットをスケジュールする</b>：選択すると、[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スケジュールされたスナップショット ジョブを表示</b>：選択すると、[ジョブリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、444 ページの「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> <p><b>注</b>：このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>ビューベースレポート</b>] をクリックすると、選択したビューのトポロジ・レポートが表示されます。</p> <p><b>注</b>：このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>アセットレポート</b>] をクリックすると、選択したビューのアセット・レポートが開きます。詳細については、404 ページの「アセット・レポート」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>ビュー</b>] ボックスの右にある省略記号のボタンをクリックすると、[ビューセレクト] ダイアログ・ボックスが開きます。フォルダ・ツリーを参照して、表示するビューを見つけることができます。</p>
	<p>[<b>検索</b>] ボックスに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。</p>
<p>&lt;CI&gt;</p>	<p>現在選択されているビューに含まれている CI です。</p>
<p>&lt; ツールチップ &gt;</p>	<p>カーソルを CI に合わせると、関連する CI タイプのツールチップが表示されます。</p>

UI 要素	説明
検索	[検索] ボックスに CI 名またはその一部を入力して、CI ツリーで CI を検索します。
ビュー	<p>[ビュー] ボックスには、現在選択されているビューが表示されます。表示するビューを選択するには、[ビュー] ボックスの右側にある下矢印をクリックします。これにより、ごく最近にアクセスしたビューを含むビューの簡略リストが表示されます。リストの下部にある矢印をクリックすると、リスト全体をスクロールできます。最近アクセスしたビューは、ドロップダウン・リストの上部の分割線の上に表示されます。ビューの完全なリストは、分割線の下に表示されます。</p> <p>あるいは、カーソルをリスト内に合わせ、ビューの名前を入力します。入力した最初の数文字が既存のエントリに一致する場合は、HP Universal CMDB によりビューの名前の残りが入力されます。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合は、一致するビューがすべてリストに表示されます。</p>





## CI の検索モード





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>[<b>検索結果をテーブルで表示</b>] をクリックすると、別の表示枠が開いて検索結果に含まれる CI がテーブルに表示されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択した CI をモデル / ビューに追加</b>] をクリックすると、選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>関連 CI としてモデルに追加</b>] をクリックすると、選択した CI が関連 CI としてモデルに追加されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアクティブになります。</p>

UI 要素	説明
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルがモデル・エディタで開きます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI を含むモデルを表示</b>] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI または モデルを含むビューのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックすると、[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいてビューを構築できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>



UI 要素	説明
	<p>検索結果のエクスポートの形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。  <b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML 形式で保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>クリックして [検索の整理] ダイアログ・ボックスを開き、保存した検索のリストから検索を編集または削除します。</p>
	<p>クリックして、検索結果領域を展開または折りたたみます。</p>
	<p>クリックすると、検索が実行されます。検索結果は、[CI の選択] 表示枠の下部に表示されます。</p>

UI 要素	説明
	クリックして、後で使用するために現在の検索条件を保存します。
	[検索] フィールドに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。
< 検索結果 >	検索の実行後、結果は [CI の選択] 表示枠の下部にリストされます。結果は、次の 2 つのカラムに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[名前]</b>: CI の名前が含まれます。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>: CI の CI タイプが含まれます。</li> </ul> CI またはビューの名前が短縮されている場合は、ポインタをエントリに合わせると完全な名前が表示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。
[詳細] タブ	次の詳細検索オプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI 条件検索</b>: 属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。</li> <li>▶ <b>実行中のソフトウェア検索</b>: ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。</li> </ul> 検索ごとに、省略記号のボタン  をクリックして検索ダイアログ・ボックスを開きます。検索の実行後、[保存] ボタン  をクリックして、後で使用するために検索を保存します。
CI 名	名前で CI を検索するには、検索する CI の名前を入力します。
CI タイプ	CI タイプで CI を検索するには、省略記号のボタンをクリックして [構成アイテム タイプの選択] ダイアログ・ボックスから CI を選択します。
検索	[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、モデル内の CI を検索します。
検索	保存した検索のドロップダウン・リストから検索を選択します。


UI 要素	説明
検索結果数	[検索] ボックスの下の検索結果数には、検索で検出された CI の合計数が表示されます。
[簡易] タブ	[簡易] タブでは、標準の検索機能を使用できます。詳細な検索オプションを使用する場合は、[詳細] タブをクリックします。

## ショートカット・メニュー・オプション





メニュー項目	説明
<IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー・オプション>	IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップの通常のショートカット・メニューは、CI の選択からも利用できます。メニュー・オプションの詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
追加	選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
関連 CI としてモデルに追加	選択した CI が関連 CI として現在のモデルに追加されます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルのビューを生成	選択すると、現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルを新しいタブで開く	選択したモデルがモデル・エディタの新しいタブで開きます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるモデルを表示	[ <b>選択済みの CI を含むモデルを表示</b> ] を選択すると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。 <b>注：</b> このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるビューを表示	[ <b>選択済みの CI/モデルを含むビューを表示</b> ] を選択すると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。 <b>注：</b> このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

## [検索の整理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、保存した検索のリストから検索を編集または削除できます。

<b>利用方法</b>	[CI の選択] で [保存した検索のリストを管理] ボタン  をクリックします。
-------------	--

ユーザ・インターフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックして、選択した検索を編集します。簡易検索の場合は、[CI 簡易検索] ダイアログ・ボックスが開き、CI の名前やタイプを編集できます。CI 条件検索の場合は、[CI 条件検索] ダイアログ・ボックスが開きます。
	選択した検索を削除する場合にクリックします。
	クリックすると、検索ツリーが展開されます。
	クリックすると、検索ツリーが折りたたまれます。
< 検索ツリー >	保存したすべての検索がツリー形式で表示されます。
<b>検索</b>	[検索] ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

## [実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。


<b>利用方法</b>	[CIの選択] で、検索モードの <b>[詳細]</b> タブを選択し、[実行中のソフトウェア検索]の横の省略記号のボタンをクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>ホスト名</b>	検索するノードの名前を入力します。
<b>実行中のソフトウェア</b>	ドロップダウン・リストから実行中のソフトウェア CI を選択します。 <b>注:</b> ドロップダウン・リストには、利用可能な実行中のソフトウェア CI タイプの正確なリストが表示されないことがあります ([任意] オプションのみが表示される)。この場合、ホスト名検索のみを実行します。
<b>検索対象</b>	[実行中のソフトウェア] または [ノード] を選択します。 <b>注:</b> 特定のノードで実行されている実行中のソフトウェア CI を検索するには、ノード名を入力し、必要な実行中のソフトウェア CI を選択して検索を実行します。

## [検索基準の保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、後で使用するために現在の検索条件を保存できます。

<b>利用方法</b>	[CIの選択] の検索モードで、[保存] ボタン  をクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
既存のクエリ	既存の検索のリストがツリー形式で表示されます。
名前	現在の検索の名前を入力します。
検索	[検索] ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

### トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、CI の選択のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

本項の内容

#### 利用できないビューと CI

次の理由から、[CI の選択] の [ビュー] リストに CMDB 内のすべてのビューが表示されない場合や、ビューの内容が表示されない場合があります。

- ▶ [ビュー] リストには、必要な権限をユーザが持っているビューだけが含まれます。同様に、検索モードは、CI の検索権限を持っている場合のみ利用できます。権限を設定するには、[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] の順に選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF) の「セキュリティ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ 現在非アクティブなビューは、[ビュー] リストに赤色に表示されますが、これらのビューを選択することはできません。IT ユニバース・マネージャでは、非アクティブなビューは淡い色のテキストで表示されます。
- ▶ 標準で用意されているビューで、ユーザがライセンスを持っていないビューは、[ビュー] リストに表示されますが、これらのビューには CI は含まれていません。標準で用意されているビューの詳細については、291 ページの「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

---

**注:** 1 つ以上のクエリ・ノードを TQL クエリから削除した後、変更内容をビューに更新するのに時間がかかる場合があります。この間、削除した CI はビューに表示されています。ビューが更新される前に、削除した CI を選択すると、エラー・メッセージが表示されます。**[更新]** ボタンをクリックしてビューを更新してください。

---





# 6

---

## トポロジ・マップの使用

本章の内容

### 概念

- ▶ トポロジ・マップの概要 (170 ページ)
- ▶ 大きなビューの取り扱い (171 ページ)

### 参照先

- ▶ トポロジ・マップのユーザ・インタフェース (172 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・マップの概要

トポロジ・マップは、ビューのグラフィック表示を提供します。ビューの 1 レイヤ内のすべての CI がアイコンで表され、それらをつなぐ線が CI 間の関係を表します。トポロジ・マップ内でも、左の表示枠 [CI の選択] でもを選択できます。[CI の選択] でドリル・ダウンして、ビューの別のレイヤをトポロジ・マップに表示することもできます。

CI のラベルがアイコンの下に表示されます。[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックスの [全般] で、行ごとの最大文字数と最大行数を設定できます。詳細については、100 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



トポロジ・マップ内の CI アイコンに下向き矢印が付いている場合は、トポロジ・マップには、ビューの階層セットによって作成された追加の CI レイヤがあります。矢印をクリックして、サブレイヤに含まれる CI を表示できます。

データ・フロー管理プロセスで新しい CI が検出された場合など、IT ユニバースのデータが変更されると、トポロジ・マップも動的に自動更新されます。

トポロジ・マップの上にあるツールバーとメイン・メニューを使って、ズームイン、トポロジ・マップのレイアウトの変更、トポロジ・マップの印刷ができます。このほかに、トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右クリックすると表示されるショートカット・メニューから使用できる機能もあります。

## 大きなビューの取り扱い

トポロジ・マップでは、単一のレイヤに 900 個を超える CI が含まれているビューは表示できません。CI の数が 900 個を超えるレイヤを含んでいるビューを選択すると、トポロジ・マップの表示が空白になります。900 を超える CI があるレイヤは、テキスト・モードでテーブルに表示できます。

トポロジ・マップで大きなビューを表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ▶ モデリング・スタジオでビューを再定義して、TQL クエリの結果を減らします。詳細については、324 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- ▶ ビューの別の階層を定義して、そのビューのレイヤ間で CI を再配分します。階層の定義の詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。
- ▶ 設定パラメータで、許可される CI の最大数を設定しなおします。インフラストラクチャ設定マネージャで、[表示設定] の下にある [TS の最大オブジェクト数 GUI] パラメータを選択します。ただし、レイヤあたりの CI の最大数を増やすと、トポロジ・マップの再描画が非常に遅くなる可能性があります。

インフラストラクチャ設定マネージャの詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF) の「Infrastructure Settings Manager User Interface」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---

### トポロジ・マップのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 172 ページの「[画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 174 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 191 ページの「メイン・メニュー」
- ▶ 192 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 193 ページの「[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 193 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 195 ページの「ツールバー・オプション」
- ▶ 203 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」

### [画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップをファイルに保存できます。

利用方法	トポロジ・マップから [操作] > [画像にマップをエクスポート] を選択します。
関連タスク	238 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
実際のサイズ	グラフ・ノードのサイズが最大になるようにしてビューを保存します。
現在のズーム レベル	ビューをトポロジ・マップに表示されているとおりに保存します。たとえば、 <b>インタラクティブ・ズーム・モード</b> を使ってビューの倍率を下げている場合は、保存されたビューでもグラフ・ノードが小さく表示されます。詳細については、198 ページの「インタラクティブ・ズーム」を参照してください。
カスタム	[幅] ボックスと [高さ] ボックスで、保存するビューのサイズを指定します。
ファイル名	必要なファイル名と保存場所を指定します（または、[ブラウザ] をクリックしてファイルと保存場所を検索します）。
用紙にフィット	ビューを拡大または縮小して表示枠にぴったり合わせます。
画像品質	印刷するマップの品質です。[高]、[中間]、または [低] を選択します。
選択済みオブジェクトのみ	マップ内で選択されているグラフ・ノード / CI とそれらの関係だけを保存します。
タイプ	必要なファイル形式を選択します。
可視ウィンドウのみ	グラフのうち表示枠内に表示されている部分だけを保存します。

## [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビュー内の特定のレイヤのレイアウトをカスタマイズして、可能な範囲内で最大限明確なプレゼンテーションを実現することによって、管理対象のデータをよりの確に把握して監視できるようになります。

<b>利用方法</b>	[レイアウト] > [レイアウト プロパティ] を選択します。
<b>重要情報</b>	レイヤ内に表示されるグラフ・ノードと関係の論理位置を割り当てることにより、ビューのレイヤのレイアウトを定義します。レイヤのレイアウトをカスタマイズするには、標準設定値を変更します。  レイアウト定義の設定は、特定のレイヤに対してのみできます。定義を別のレイヤや別のビューに対して保存することはできません。  パラメータ値はピクセル数です。

### [グローバル] タブ

この領域では、グローバルなレイアウト・パラメータを定義できます。

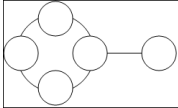
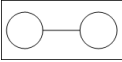

<b>利用方法</b>	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [グローバル] タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	[グローバル] タブでは、レイアウトのグローバルな設定を定義できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>描画にフィット</b>	次のいずれかのオプションを選択して、レイアウトを調整します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>用紙に合わせる</b> : レイアウトを画面の用紙に合わせます。</li> <li>▶ <b>印刷に合わせる</b> : レイアウトを印刷ページに合わせます。</li> <li>▶ <b>フィットなし</b> : レイアウトを変更しません。</li> </ul>

UI 要素	説明
ラベリング	[ラベリングの実行] を選択して、レイアウトの再描画時にラベルが表示されるようにします。このフィールドが選択されていないと、再描画レイアウトにラベルは表示されません。
スタイル	[スタイルを強制的に適用] を選択し、選択したレイアウトをトポロジ・マップのネストされたすべてのレイヤに適用します。

### [すべてのスタイル] タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [すべてのスタイル] タブをクリックします。
重要情報	<p>[すべてのスタイル] タブでは、非接続グラフ・ノードと接続コンポーネントの一般的なレイアウト・パラメータを定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 非接続グラフ・ノードは、ほかのグラフ・ノードにまったく接続されていないノードです。</li> <li>▶ 非接続コンポーネントは、ほかのコンポーネントにまったく接続されていないコンポーネントです。コンポーネントには、相互に接続できる一群のグラフ・ノードが含まれています。</li> </ul> <p>次の図は 5 つのグラフ・ノードを持つ接続コンポーネントを示しています。</p>  <p>次の図は 2 つのグラフ・ノードを持つ接続コンポーネントを示しています。</p>  <p>次の図は、それぞれ単一の非接続グラフ・ノードから成る 4 つの非接続コンポーネントを示しています。</p> 

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p><b>コンポーネント</b></p>	<p>非接続グラフ内のコンポーネント間の間隔は、各コンポーネントのサイズに基づいた定数値と比例値で構成されます。</p> <p>[<b>コンポーネントの検出</b>] を選択すると、非接続コンポーネントを表示できます。すべてのコンポーネントを一緒にレイアウトすることも、ほかのコンポーネントに関係なく個別にレイアウトすることもできます。コンポーネントのグループ化を選択すると、各コンポーネントがレイアウトされ、その後一緒にまとめられます。</p> <p>[<b>コンポーネントの検出</b>] が選択されている場合、次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>コンスタント スペーシング</b> : それぞれの非接続コンポーネントの周囲の固定間隔 (水平および垂直) を設定します。 <b>標準設定値</b> : 20</li> <li>▶ <b>プロポーションアル スペーシング</b> : それぞれの非接続コンポーネントの周囲の間隔 (水平および垂直) を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 <b>標準設定値</b> : 0.05</li> </ul>





UI 要素	説明
切断されたノード	<p>非接続グラフ内のグラフ・ノード間の間隔は、各グラフ・ノードのサイズに基づいた定数値と比例値で構成されます。</p> <p>[<b>切断されたノードの検出</b>] を選択すると、非接続グラフ・ノードを表示できます。非接続グラフ・ノードをグループ化して1つのコンポーネントにすることも、各ノードを個別にレイアウトすることもできます。</p> <p>[切断されたノードの検出] が選択されている場合、次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>コンスタント スペーシング</b>：それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の固定間隔（水平および垂直）を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>プロポーションアル スペーシング</b>：それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の間隔（水平および垂直）を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 <b>標準設定値</b>：0.05</li> </ul>
余白スペーシング	レイアウトの右、左、上、下の余白スペーシングの値を入力します。

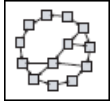
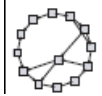
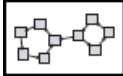
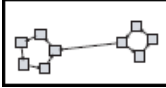
### [円形] タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [円形] タブをクリックします。
重要情報	[円形] タブでは、選択したグループ化オプションに基づいて、グラフ・ノードをグループまたはクラスタにまとめることができます。これは特に、リングおよびスター・ネットワーク・トポロジと、リンク分析に適しています。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p><b>クラスタリング</b></p>	<p>次の設定の値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>クラスタ サイズ ファクタ</b>：平均クラスタ・サイズとクラスタ数との比率を指定します。クラスタのサイズは、そのクラスタ内の全グラフ・ノードの加重の合計として定義されます。加重値を各グラフ・ノードに割り当てることができます。</li> <li>▶ <b>最小クラスタ数</b>：レイヤ内の最小クラスタ数です。</li> <li>▶ <b>最大クラスタ数</b>：レイヤ内の最大クラスタ数です。</li> </ul>
<p><b>クラスタ レイアウト スタイル</b></p>	<p>対称型または円型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>対称</b>：対称型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</li> </ul> <div data-bbox="575 786 975 998" data-label="Diagram"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>円型</b>：円型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</li> </ul> <div data-bbox="575 1086 811 1329" data-label="Diagram"> </div>

UI 要素	説明
<b>レイアウト品質</b>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>ドラフト</b>：結果が短時間で生成されます（[中間] および [プルーフ] より高速）。</li></ul>  <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>中間</b>：[ドラフト] と [プルーフ] の中間の結果が生成されます。つまり、[ドラフト] より正確なグラフ・レイアウトが生成されますが、[プルーフ] ほど正確ではありません。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>プルーフ</b>：より正確な結果が生成されますが、時間がかかります。</li></ul>  <p><b>注</b>：各品質設定の速度と生成されるレイアウトの間の関係は、レイアウトされるグラフの性質に応じて異なります。各オプションを試して、最適な結果を見つけることができます。</p>

UI 要素	説明
<p><b>スペーシング</b></p>	<p>同一クラスタ内とクラスタ間での各グラフ・ノードの間隔を設定します。</p> <p>次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b> : 同一クラスタ内での各グラフ・ノード間の間隔を設定します。間隔が大きくなるほど、クラスタ境界上に位置するグラフ・ノードが多くなります。</li> </ul> <p><b>標準設定値</b> : 50</p> <p>次の図はグラフ・ノードの間隔が小さい場合を示しています。</p>  <p>次の図はグラフ・ノードの間隔が大きい場合を示しています。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>円形の間</b> : クラスタ間の間隔を設定します。</li> </ul> <p><b>標準設定値</b> : 50</p> <p>次の図はクラスタの間隔が小さい場合を示しています。</p>  <p>次の図はクラスタの間隔が大きい場合を示しています。</p> 

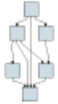
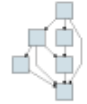
**[階層構造] タブ**

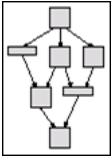
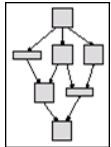
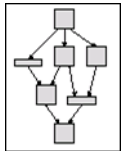
<p><b>利用方法</b></p>	<p>[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[階層構造]</b> タブをクリックします。</p>
--------------------	--

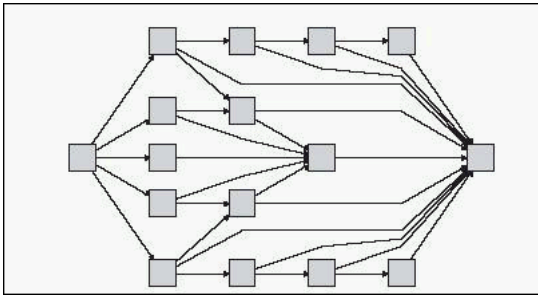
<b>重要情報</b>	[階層構造] タブでは、組織または情報管理システムの依存関係、プロセス・モデル、ソフトウェア呼び出しグラフ、およびワーク・フローを表す優先順位関係を表示します。階層レイアウトでは、グラフ・ノードを異なるレベルに配置することで依存関係が強調されます。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>後方エッジ</b>	<p>階層レイアウト内で逆行関係がどのように表示されるかを指定します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>最小後方エッジ</b>：レイヤ内に表示される逆行関係の数を最小に設定します。</li> <li>▶ <b>フィードバック フローの最適化</b>：レイヤ内に表示される逆行関係の数を最大に設定します。このモードはフロー・チャートに適しています。</li> </ul>
<b>水平スペーシング</b>	<p>各レベルの隣り合う 2 つのグラフ・ノード間の水平方向の最小間隔を設定できます。</p> <p>次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：28</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：この設定は、[ルーティング] &gt; [直交] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ内のエッジ間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>

UI 要素	説明
<p><b>レイアウト品質</b></p>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：結果が短時間で生成されます（[中間] および [プルーフ] より高速）。</li> </ul> <p><b>ドラフト</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>中間</b>：[ドラフト] と [プルーフ] の中間の結果が生成されます。つまり、[ドラフト] より正確なグラフ・レイアウトが生成されますが、[プルーフ] ほど正確ではありません。</li> <li>▶ <b>プルーフ</b>：より正確な結果が生成されますが、時間がかかります。</li> </ul> <p><b>プルーフ</b></p>  <p><b>注</b>：各品質設定の速度と生成されるレイアウトの間の関係は、レイアウトされるグラフの性質に応じて異なります。各オプションを試して、最適な結果を見つけることができます。</p>

UI 要素	説明
<b>レベルの配置</b>	<p>グラフ・ノードを垂直方向に位置合わせする方法を設定できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 上。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの上端で位置合わせされています。</li></ul>  <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 中央。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの中央で位置合わせされています。</li></ul>  <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 下。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの下端が位置合わせされています。</li></ul> 

UI 要素	説明
<p><b>方向</b></p>	<p>階層の向きを設定できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>上から下</b>: 子は親の上に配置されます。</li> <li>▶ <b>左から右</b>: 子は親の左に配置されます。</li> <li>▶ <b>下から上</b>: 子は親の下に配置されます。</li> <li>▶ <b>右から左</b>: 子は親の右に配置されます。</li> </ul>
<p><b>直交ルーティング - 固定ノードサイズ</b></p>	<p>この設定は、[ルーティング] &gt; [直交] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があるため、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。</p>
<p><b>ポリラインルーティング - ベンド間のスペーシング</b></p>	<p>この設定は、[ルーティング] &gt; [ポリライン] を選択した場合にのみ使用できます。ポリライン・ルーティングでは、任意の角度で曲がる 1 つ以上の直線分としてエッジ（連結線）がルーティングされます。エッジ（連結線）が重なり合わないよう、パス・ノードが自動的に追加されます。</p> <p><b>標準設定値 : 12</b></p> 
<p><b>ルーティング</b></p>	<p>レイアウトのルーティング・タイプを選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>直交</b></li> <li>▶ <b>ポリライン</b></li> </ul>



UI 要素	説明
方向付けのないレイアウト	階層図のレベル構築にエッジの方向を使用しません。
変数レベル スペーシング	<p>可変レベル間隔では、レベル間のエッジの密度に従って、隣り合う 2 つのレベル間の間隔を調整します。</p> <p>図中のエッジが直交ルーティングされている場合は、これによってレベル間にルーティングされた水平方向のエッジ間に必要な垂直方向の間隔が確保されます (上から下または下から上のレイアウトで)。</p> <p>ポリライン・ルーティングの場合は、可変レベル間隔を使うことによって、密度の高い図でも各エッジを区別しやすくなります。</p>
垂直スペーシング	<p>異なるレベルにある隣り合う 2 つのグラフ・ノード間の垂直方向の最小間隔を設定できます。</p> <p>次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>: レベル内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>: 28</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>: この設定は、[ルーティング] &gt; [直交] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ内のエッジ間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>: 12</li> </ul>

### [直交] タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [直交] タブをクリックします。
重要情報	[直交] タブでは、直交線レイアウトのルート関係を水平方向と垂直方向で設定できます。この結果、関係を示す線の折れ曲がりには常に 90 度になります。



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

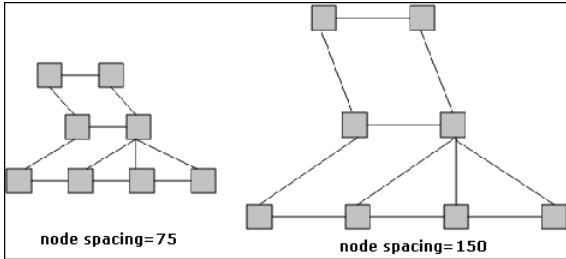
UI 要素	説明
<p><b>固定ノードサイズ</b></p>	<p>グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。</p>
<p><b>水平スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>
<p><b>レイアウト品質</b></p>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：レイアウトを下書き品質に設定します。</li> <li>▶ <b>中間</b>：レイアウトを中間品質に設定します。</li> <li>▶ <b>プルーフ</b>：レイアウトを最高品質に設定します。</li> </ul>
<p><b>垂直スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：100</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> </ul>

## [対称] タブ

利用方法	[レイアウトプロパティ] ダイアログ・ボックスで [対称] タブをクリックします。
重要情報	[対称] タブでは、複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示します。対称レイアウトでは、グラフ内に存在する対称性が強調されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
レイアウト品質	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：結果が短時間で生成されます（[中間] および [プルーフ] より高速）。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>中間</b>：[ドラフト] と [プルーフ] の中間の結果が生成されます。つまり、[ドラフト] より正確なグラフ・レイアウトが生成されますが、[プルーフ] ほど正確ではありません。</li> <li>▶ <b>プルーフ</b>：より正確な結果が生成されますが、時間がかかります。</li> </ul>  <p><b>注</b>：各品質設定の速度と生成されるレイアウトの間の関係は、レイアウトされるグラフの性質に応じて異なります。各オプションを試して、最適な結果を見つけることができます。</p>

UI 要素	説明
<p><b>スペーシング</b></p>	<p>レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向と垂直方向の固定間隔を設定できます。指定した値はレイアウトのガイドラインであり、特定のグラフ・ノードのペアの間隔がここで指定した値と異なる場合もあります。グラフ・ノード間隔を大きく指定するほど、最終的なレイアウトのグラフ・ノード間隔が広がります。</p> <p><b>標準設定値 : 50</b></p> <p>次の図は間隔が小さい場合と大きい場合を示しています。</p> 

## [ルーティング] タブ

<b>利用方法</b>	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [ルーティング] タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	[ルーティング] タブでは、原則としてグラフ・ノードの位置はそのまま、線が直交するようにルーティングしなおすことができます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>ノード位置の固定</b>	表示内のすべてのグラフ・ノードの位置を維持します。レイアウトを改良する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードを移動できるようにする場合は、このオプションをクリアします。重なり合いを避け、折れ曲がりの数が最少になるように、最小限の移動が行われます。
<b>固定ノード サイズ</b>	グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。

UI 要素	説明
<p><b>水平スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>
<p><b>垂直スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>

## メイン・メニュー

トポロジ・マップを操作するためのオプションが含まれています。

<b>利用方法</b>	画面の左上にあります。
<b>重要情報</b>	メイン・メニューの各ドロップダウン・リストに含まれている個々のオプションについては、195 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>編集</b>	トポロジ・マップ用の選択オプションが含まれています。
<b>エディタ アイテム</b>	現在のマネージャ用のトポロジ・マップ・ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは、CI タイプ・マネージャには表示されません。
<b>レイアウト</b>	トポロジ・マップのレイアウトを変更するためのオプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは、レポートには表示されません。
<b>マネージャ</b>	さまざまな UCMDB モジュールへのリンクが含まれています。
<b>操作</b>	トポロジ・マップを印刷またはエクスポートするためのオプションが含まれています。
<b>リソース</b>	現在のマネージャ用の左表示枠ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは IT ユニバース・マネージャまたはレポートには表示されず、CI タイプ・マネージャでは <b>CI タイプ</b> と呼ばれます。
<b>ツール</b>	ユーザ・プリファレンス・ツール、ログ設定ツール、および画面キャプチャ・ツールが含まれます。
<b>ビュー</b>	モジュールの各表示枠の表示 / 非表示を切り替えられます。

## [印刷] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの内容を印刷できます。

<b>利用方法</b>	[操作] > [印刷] を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>トポロジ・マップの印刷結果は、画面キャプチャとほぼ同じです。したがって、印刷前に次の作業を行うことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 印刷設定を定義し、必要に応じてトポロジ・マップの内容を整理します。詳細については、193 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ トポロジ・マップの内容を印刷用に整理します。それには、[レイアウト] オプションと [レイアウト プロパティ] を使用します。レイアウト・オプションの詳細については、198 ページの「レイアウト」を参照してください。レイアウト・プロパティの詳細については、174 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	238 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>部数</b>	印刷する部数を入力します。
<b>プロパティ</b>	必要に応じてドキュメントのプロパティを定義します。







## [印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、印刷前にトポロジ・マップの内容をプレビューできます。

利用方法	[操作] > [印刷プレビュー] を選択します。
関連タスク	238 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

メニュー項目	説明
	マップを印刷します。詳細については、192 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	マップをズーム・アウトして表示します。
	マップの特定の詳細にズーム・インします。
	ビュー全体を表示枠内にぴったり収めます。

## [印刷設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの印刷設定を定義できます。

利用方法	[操作] > [印刷設定] を選択します。
関連タスク	238 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」


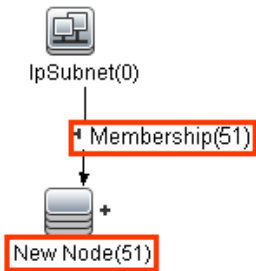

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。





UI 要素	説明
実際のサイズ	ビューを実際の大きさに印刷します。
色	テキストの色を設定します。
フォント	必要なフォントを設定します。



UI 要素	説明
ページ設定	印刷設定を定義します。
ページ	マップを行と列に分割し、各セクションを別々に印刷します。[ページカラム] ボックスと [ページ行] ボックスに、それぞれ列数と行数を入力します。
位置	キャプションの位置を [位置] リストから選択します。
背景を印刷	ビューの背景を印刷します。
境界を印刷	マップを境界線付きで印刷します。境界線の色を選択するには、[色] をクリックします。
印刷キャプション	テキスト領域にキャプションを入力し、[フォント] をクリックして使用するカスタム・フォントを選択します。
トンボを印刷	クロップ・マークを印刷します。
現在の選択範囲を印刷	選択したグラフ・ノードとその関係を印刷します。
現在のウィンドウを印刷	ビューの表示枠内に表示されている部分を印刷します。
描画全体を印刷	ビューの全体を印刷します。
ページ番号を印刷	ページ番号を印刷します。
ズーム レベル	現在のズーム・レベルでビューを印刷します。



## 🔍 ツールバー・オプション




トポロジ・マップの各ツールバー・オプションについて、次の表で説明します。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	追加数	<p>エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算します。作成された TQL クエリ・ノード・インスタンスおよび関係の数は、次の図のようにエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係の横に表示されます。</p>  <p><b>注：</b>このオプションがツールバーに表示されるのは、エンリッチメント・マネージャだけです。</p>
	詳細表示枠	<p>[詳細表示枠] を画面の下部中央に表示するか非表示にするかを切り替えます。</p> <p><b>利用方法：</b> [表示] &gt; [詳細表示枠] を選択します。</p>
	クエリ結果数を計算する	<p>各 TQL クエリ・ノード / 関係について、見つかったインスタンスの数を計算します。</p>
	ラベルの長さを変更 / ラベルプロパティの変更	<p>ラベルに含める最大文字数を入力します。</p> <p><b>利用方法：</b> IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは、[レイアウト] &gt; [ラベルプロパティの変更] を選択します。その他のマネージャでは、[レイアウト] &gt; [ラベルの長さを変更] を選択します。</p>

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	CI タイプ・ツリー	CI タイプ・セレクトを画面の右に表示するか非表示にするかを切り替えます。 <b>利用方法：</b> [表示] > [CI タイプ ツリー] を選択します。 <b>注：</b> モデリング・スタジオでは、このオプションは [CI タイプ] と呼ばれます。
	関係を作成	ほとんどのマネージャでは、2 つの既存の TQL クエリ・ノードの間に関係を作成します。詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。 IT ユニバース・マネージャでは、既存の CI の間に関係を作成します。詳細については、218 ページの「既存の CI の関連付け」を参照してください。
	選択した項目の削除	IT ユニバース・マネージャから CI を削除するか、影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャから TQL クエリ・ノードを削除します。
	マップをドラッグ	ビューをドラッグします。 <b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [マップをドラッグ] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] > [ドラッグ モード] を選択します。
	レイヤを 1 つドリル・ダウン	トポロジ・マップ内の 1 つ下のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別の CI レイヤが下位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。 <b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	関連 CI の取得を無効化 / 有効化	CI の選択で新しい CI を選択するときに、関連する CI でのトポロジ・マップの再描画の無効化と有効化を切り替えます。 <b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャの [関連 CI] タブにのみ表示されます。
	エンティティ・ツリー	マネージャ固有のエンティティ・ツリーを画面の左に表示するか非表示にするかを切り替えます。 <b>利用方法：</b> [表示] > [エンティティ ツリー] を選択します。 <b>注：</b> モデリング・スタジオでは、左表示枠 (リソース, CI タイプ, CI の選択) の各タブが別個のオプションとして表示されます。








ボタン	オプション名	このオプションの機能
	画像にマップをエクスポート	トポロジ・マップをファイルに保存します。詳細については、172ページの「[画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>利用方法:</b> [操作] > [画像にマップをエクスポート] を選択します。
	ウィンドウに合わせる	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [ウィンドウに合わせる] を選択します。
	ダイレクト・リンクの生成	ビューまたは CI へのダイレクト・リンクを生成します。 <b>利用方法:</b> [編集] > [ダイレクトリンクの生成] を選択します。
	レイヤを1つ上げる	トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別の CI レイヤが上位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、288ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	マップからすべての継承を非表示	継承関係とそれらが接続しているクエリ・ノードの表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [マップからすべての継承を非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、CI タイプ・マネージャだけです。
	全クエリノードのラベルを非表示	CI/CIT/ クエリ・ノード / パターン ラベルの表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [全クエリノードのラベルを非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	全関係ラベルを非表示	関係ラベルの表示と非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [全関係ラベルを非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは [エッジのラベルを非表示] と呼ばれます。
	全関係を非表示	表示されているマップ内の関係の表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [全関係を非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>[関連 CI を取得] 表示枠の表示 / 非表示</b>	<p>[関連 CI を取得] 表示枠の表示 / 非表示を切り替えます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャの [関連 CI] タブにのみ表示されます。</p>
	<b>凡例の非表示 / 凡例を表示</b>	<p>トポロジ・マップの凡例の表示 / 非表示を切り替えます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<b>インタラクティブ・ズーム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ クリックしてマウス・ポインタを上に移動すると、表示倍率が低くなります。</li> <li>▶ クリックしてマウス・ポインタを下に移動すると、表示倍率が高くなります。</li> </ul> <p><b>利用方法:</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] &gt; [インタラクティブ・ズーム] を選択します。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</p>
	<b>レイアウト・プロパティ</b>	<p>ビューのクエリ・ノードと関係の位置を指定することにより、ビューのレイヤ・レイアウトを定義します。詳細については、174 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法:</b> [レイアウト] &gt; [レイアウト プロパティ] を選択します。</p>
	<b>レイアウト</b>	<p>リストからレイアウト表示を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>階層レイアウト:</b> トポロジ・マップ内の優先関係を表示できます。</li> <li>▶ <b>対称型レイアウト:</b> 複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示できます。</li> <li>▶ <b>円型レイアウト:</b> グラフのノードをグループまたはクラスタにまとめます。</li> <li>▶ <b>直交レイアウト:</b> 水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングすることで、非常にわかりやすいビューを表示できます。</li> <li>▶ <b>手動レイアウト:</b> トポロジ・マップに手動で加えた変更を表示できます。</li> </ul> <p>各オプションの詳細については、174 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このレイアウト・オプションは、エンリッチメント・マネージャ、CIT マネージャ、影響分析マネージャでのみ使用されます。</p>

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	ログ設定	[ログ設定] ダイアログ・ボックスが開きます。 <b>利用方法:</b> [ツール] > [ログ設定] を選択します。
	マップ概要	トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに便利です。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [マップ概要] を選択します。ITユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] > [マップ概要を表示] を選択します。
	ワークスペースの最大化 / ワークスペースの復元	トポロジ・マップの通常表示と全画面表示を切り替えます。
	ナビゲーション	時計回りで次の接続された CI/CIT/TQL クエリ・ノードにポインタを移動します。 ▶ 関係を左クリックすると、時計回りに次の CI/CIT/ ノード / パターンへ移動します。 ▶ CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンを右クリックすると、時計回りに次の CI/CIT/ ノード / パターンへの方向 (関係) が強調されます。 <b>利用方法:</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [ナビゲーション] を選択します。 <b>注:</b> ▶ このオプションは、関係で接続されている CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンだけに使用できます。 ▶ このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	新規 CI	新規の関連付けされていない CI を作成します。詳細については、212 ページの「CI を使った作業」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。
	新規関連 CI	新規の関連 CI を作成します。詳細については、212 ページの「CI を使った作業」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>中央に配置</b>	<p>選択した CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンをマップの中央に配置します。</p> <p><b>利用方法：</b> [レイアウト] &gt; [中央に配置] を選択します。</p> <p><b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</p>
	<b>印刷</b>	<p>トポロジ・マップの内容を印刷します。詳細については、192 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法：</b> [操作] &gt; [印刷] を選択します。</p>
	<b>印刷プレビュー</b>	<p>マップの内容を印刷前にプレビューできます。</p> <p><b>利用方法：</b> [操作] &gt; [印刷プレビュー] を選択します。</p>
	<b>印刷設定</b>	<p>トポロジ・マップの印刷設定を定義します。詳細については、193 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法：</b> [操作] &gt; [印刷設定] を選択します。</p>
	<b>エンリッチメント結果を削除する</b>	<p>エンリッチメント・ルールに基づいて CMDB から作成されたインスタンスを削除します。</p> <p><b>注：</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、エンリッチメント・マネージャだけです。</p>
	<b>画面キャプチャ</b>	<p>画面キャプチャ・ツールを使用して、画面のスナップショットを取ります。</p> <p><b>利用方法：</b> [ツール] &gt; [画面キャプチャ] を選択します。</p>
	<b>選択</b>	<p>単一の CI/CIT/TQL クエリ・ノード、または複数の CI/CIT/TQL クエリ・ノードを選択します。</p> <p><b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] &gt; [選択] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] &gt; [選択モード] を選択します。</p>
	<b>すべて選択</b>	<p>選択したレイヤ内のすべての CI と関係を選択します。</p> <p><b>利用方法：</b> [編集] &gt; [すべて選択] を選択します。</p> <p><b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</p>












ボタン	オプション名	このオプションの機能
	全クエリ・ノードを選択	<p>選択したレイヤ内のすべてのクエリ・ノードを選択します。</p> <p><b>利用方法:</b> [編集] &gt; [全クエリノードを選択] を選択します。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</p>
	カラムの選択	<p>表示するカラムを選択できます。詳細については、594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャのテキスト・モードでのみ表示されます。</p>
	変更時間枠の設定	<p>[時間枠を変更] ダイアログ・ボックスが開き、追加または変更した CI インジケータの表示時間を設定できます。</p> <p><b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、ITユニバース・マネージャだけです。</p>
	表示される中間層関係の対象範囲を設定します	<p>レイヤ間の関係の範囲を選択して、ビューに表示します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>なし:</b> レイヤ間の関係をすべて非表示にします。</li> <li>▶ <b>中間層:</b> 複製メタリンクではない、標準のレイヤ間の関係を表示します。</li> <li>▶ <b>フル:</b> レイヤ間の関係をすべて表示します。</li> </ul>
	削除の候補を表示	<p>現在のビュー内で削除の候補となる CI に  アイコンを付けて識別します。</p> <p><b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、ITユニバース・マネージャだけです。</p>
	スケジュール情報の表示	<p>選択したジョブのスケジュール情報を表示します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[ディスカバリ スケジューラ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、DFM の [依存関係マップ] タブのツールバーに表示されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[依存関係マップ] タブ」を参照してください。</p>
	カラム・コンテンツの並べ替え	<p>表示されているカラムの順序を設定できます。詳細については、596 ページの「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャのテキスト・モードでのみ表示されます。</p>







ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<p><b>そろえる</b></p>	<p>角度がある 2 つのクエリ・ノード間の選択した関係をまっすぐにできます。</p> <p><b>利用方法：</b> [レイアウト] &gt; [そろえる] を選択します。</p> <p><b>注：</b> このオプションは、エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャでのみ使用できます。</p>
	<p><b>ユーザ・プリファレンス</b></p>	<p>[ユーザ・プリファレンス] ダイアログ・ボックスが開き、そこで警告メッセージのプリファレンスをリセットできます。詳細については、100 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法：</b> [ツール] &gt; [ユーザ プリファレンス] を選択します。</p>
	<p><b>ズーム・イン</b></p>	<p>トポロジ・マップ内の拡大する部分をクリックし、選択の矩形で囲むことによって、その部分を拡大表示できます。選択した領域は、トポロジ・マップに収まる最大の倍率で表示されます。</p> <p><b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] &gt; [ズーム イン] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] &gt; [ズーム イン] を選択します。</p>

## トポロジ・マップのサイドバー

トポロジ・マップの各サイドバー・オプションについて、次の表で説明します。トポロジ・マップのサイドバーは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオに表示されます。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>レイアウト ツールバーを右 / 左へ移動</b>	サイドバーを画面の右側または左側に移動します。
	<b>ズーム・イン / ズーム・アウト</b>	トポロジ・マップでズーム・インまたはズーム・アウトします。
	<b>選択モード</b>	トポロジ・マップで選択モードを有効にします。
	<b>ドラッグ・モード</b>	トポロジ・マップでドラッグ・モードを有効にします。
	<b>最適なレイアウトを取得するために更新</b>	トポロジ・マップを更新し、レイアウトを最適化します。
	<b>ウィンドウに合わせる</b>	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。
	<b>エッジのラベルを非表示</b>	すべての関係のラベルを非表示にします。
	<b>ラベル・プロパティの変更</b>	[マップのラベル プロパティ] ダイアログ・ボックスを開いて、行ごとの最大ラベル長とラベルごとの最大行数を設定できます。
	<b>マップ概要を表示</b>	トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに便利です。
	<b>階層レイアウト</b>	トポロジ・マップを、優先関係を示すレイアウトで表示します。

## 第6章・トポロジ・マップの使用

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>直交ルーティングを持つ階層レイアウト</b>	水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングすることで、トポロジ・マップを、優先関係を示すレイアウトで表示します。
	<b>円型レイアウト</b>	グラフ・ノードをグループまたはクラスタにまとめたレイアウトで、トポロジ・マップを表示します。
	<b>直交レイアウト</b>	水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングするレイアウトで、トポロジ・マップを表示します。
	<b>対称型レイアウト</b>	トポロジ・マップを、複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して示すレイアウトで表示します。
	<b>印刷</b>	トポロジ・マップを印刷します。
	<b>画像にマップをエクスポート</b>	トポロジ・マップをファイルに保存します。

# 第 II 部

---

モデリング



# 7

---

## IT ユニバース・マネージャ

本章 の内容

### 概念

- ▶ IT ユニバース・マネージャの概要 (208 ページ)
- ▶ IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業 (209 ページ)
- ▶ ビューのツリー構造 (211 ページ)
- ▶ CI を使った作業 (212 ページ)
- ▶ 関係を使った作業 (216 ページ)

### タスク

- ▶ CMDB での CI と関係の作成 (224 ページ)
- ▶ 関連 CI の表示 (225 ページ)
- ▶ アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出) (227 ページ)
- ▶ 影響分析結果の取得 -シナリオ (230 ページ)
- ▶ ビューのスナップショットの取得 (238 ページ)
- ▶ トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存 (238 ページ)

### 参照先

- ▶ IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース (239 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### IT ユニバース・マネージャの概要

IT ユニバースマネージャを使うと、IT ユニバースモデルのコンテンツを管理できます。次に、このアプリケーションの基本機能を示します。

- ▶ **関係を作成せずに CI を作成**：CMDB に追加する新しい CI を個々に定義して、新しい関係が作成されないようにできます。詳細については、213 ページの「非関連 CI の作成」を参照してください。
- ▶ **対応する関係を持つ CI を作成**：新しい CI を定義して既存の CI に関連付けることで、新しい CI と新しい関係を CMDB に定義できます。詳細については、213 ページの「関連 CI の作成」を参照してください。
- ▶ **既存の CI を追加して、追加した CI の関係を作成**：CI を既存の CI に関連付けると、既存の CI に対して新しい関係を作成できます。詳細については、218 ページの「既存の CI の関連付け」を参照してください。
- ▶ **CI の削除**：CI を CMDB から削除できます。詳細については、214 ページの「CI の削除」を参照してください。
- ▶ **影響分析結果の取得**：ビューに定義した影響ルールを実行すると、定義された特定の変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートし、変化の根本原因を発見できます。影響ルールの詳細については、474 ページの「影響分析マネージャの概要」を参照してください。
- ▶ **ビューのスナップショットを取る**：HP Universal CMDB では、ビューのステータスを別の時点で取得したステータスと比較して、1 つのスナップショットに表示できます。スナップショットを取る方法の詳細については、238 ページの「ビューのスナップショットの取得」を参照してください。

### IT ユニバース・モデルの作成

CMDB 内の IT ユニバース・モデルには、HP Universal CMDB 内で操作する CI 生成ツールによって生成された CI と関係が含まれています。ほとんどの CI と関係は、次のいずれかのソースから発生します。



- ▶ **データ・フロー管理 (DFM)** : 社内のインフラストラクチャ内で検出された IT リソースやトポロジに基づいて、CI と関係を自動的に作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「データ・フロー管理の概要」を参照してください。
- ▶ **IT ユニバース・マネージャ** : ビジネスの論理要素や物理要素を表す CI と関係を手動で作成できます。詳細については、212 ページの「CI を使った作業」を参照してください。
- ▶ **エンリッチメント・マネージャ** : エンリッチメント TQL クエリに定義されているエンリッチメント・クエリ・ノードの属性からデータを受け取ることで、CI と関係を CMDB に追加できます。詳細については、543 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

## IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業

IT ユニバースマネージャでは、ビュー レベルでデータを分析します。ビューは、IT ユニバースのサブセットで、特定の観点領域に関連する CI だけが含まれています。すべてのビューは、ビューの内容を決定するパターンに基づいています。

- ▶ **パターン・ビューとテンプレート・ベース・ビュー**は、ビューの構造を定義する TQL (トポロジ・クエリ言語) クエリから構築されます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。
- ▶ **パースペクティブ・ベース・ビュー**は、CI のグループを選択し、パースペクティブを適用することによって手作業で構築します。パースペクティブとは、ビューに含まれる関連 CI の定義に使用するパターンです。

ビューの各タイプに応じたエディタを使うことによって、すべてのビューはモデリング・スタジオで構築します。異なる種類のビューと、それぞれの機能については、286 ページの「ビュー形式」を参照してください。

---

**注:** ビューを編集するには、ビューの**変更**権限が必要です。必要な権限がない場合は、HP Universal CMDBの管理者にお問い合わせください。

---

DFM で作成した CI は、CI (およびその関係) がビューの TQL 定義に適合するように、各ビューに自動的に追加されます。[CI の選択] でビューを開くと、そのビューの TQL クエリにより、定義されているパターンに一致する CI が CMDB に問い合わせられます。一致する CI が見つからない場合 (プロセスがまだ実行されていない DFM プロセスのビューのときなど)、ビューは空の状態のままになります。

IT ユニバース・マネージャのビューで作業しているときに新しい CI を定義すると、CI (および関連する関係) が CMDB に作成されます。CI は、現在のビューの TQL 仕様を満たしている場合のみビューに追加されます。

作成した CI と関係が TQL の要件を満たしていない場合、その CI と関係は CMDB 内に作成されますが、ビューには表示されません。同様に、既存の CI をビュー内の CI に関連付け、新しいパターンが TQL の要件を満たしていない場合、関連付けた CI はビューに表示されませんが、その関係は作成されています。

## テンプレートとテンプレート・ベース・ビュー



テンプレートを IT ユニバース・マネージャで開くと、パターン・ビューのようにトポロジ・マップでテンプレートが表示されます。[CI の選択] ツールバーの [テンプレートパラメータを表示] ボタンをクリックすると、[テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・パラメータの値を変更してトポロジ・マップ内の表示結果を変更できます。さまざまなパラメータ値を試してトポロジ・マップがどう変わるのかをご覧ください。なお、変更はテンプレート自体に保存することはできません。選択したパラメータとともにテンプレート・ベース・ビューに表示結果を保存するには、[テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックスで [ビューに名前を付けて保存] ボタンをクリックします。

IT ユニバース・マネージャ内のテンプレートへのダイレクト・リンクを作成して、パラメータ値を直接 URL に挿入することもできます。詳細については、114 ページの「パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成」を参照してください。

## ビューのライフサイクル

一定期間、[CI の選択] からビューへのアクセスがなければ、システムのメモリを節約するためにビューはクリアされます。ただし、ビューは CMDB からは削除されていないので、そのビューをクリックすると再び取得できます。未使用のビューをクリアする標準設定の期間は 1 時間です。

---

**注：**永続として定義されているビューはクリアされることはなく、常にメモリに保持されます。

---

## 非表示ビュー

非表示ビューのバンドルを定義してそのバンドルにビューを割り当てると、ITユニバース・マネージャに表示されない非表示ビューとしてビューを指定できます。

**ビューを非表示ビューとして指定するには、次の手順で行います。**

- 1 インフラストラクチャ設定マネージャで、**[CI の選択に含まれる非表示のバンドル名]** を選択します。
- 2 標準設定値として新規バンドル名を入力し、設定を保存します。
- 3 関連するビューをモデリング・スタジオで開き、ツールバーの **[定義プロパティの表示]** ボタンをクリックします。
- 4 **[定義プロパティの表示]** ダイアログ・ボックスで、非表示ビューのバンドルを選択しそのバンドルにビューを割り当てます。



## ビューのツリー構造

ビューは、ITユニバース・マネージャの左側の表示枠に階層ツリー形式で表示されます。これを CI の選択と呼びます。ビューの名前は、ツリー上部の [ビュー] ボックスに表示され、ビュー内の CI を格納するフォルダとして機能します。

[CI の選択] ツリーの最初のレベルは、ルート CI のクエリ・ノードから構成されています。ルート CI は、ビューのサブツリーの起点です。ビューには、任意の数のサブツリーが含まれます。ルート CI の下には分岐 CI があり、各分岐の末端の最終クエリ・ノードであるリーフ CI まで展開されます。

サブツリー内の各レベルの CI は、そのすぐ上の分岐上にある CI に関連付けられているとみなされます。この関係付けは、一般に依存関係を表しています。したがって、上位の（ルート CI に近い）分岐はビジネス・プロセス内の 1 つ下の（リーフ CI に近い）分岐上にある CI に依存するビジネスのコンポーネントを表します。たとえば、アプリケーションはそのアプリケーションを実行するサーバに依存します。

上位クエリ・ノードと下位クエリ・ノードの関係付けは、親子関係と呼ばれます。親 CI は多くの関係付けられた子 CI を持つことができ、子 CI は親に動作ステータスを渡します。

ツリーのトポロジは、そのビューに定義された階層によって決定されます。パターン・ビューでは、これらは特定のビューに対して定義されます。テンプレート・ベース・ビューやパースペクティブ・ベース・ビューの階層は、テンプレートまたはパースペクティブの一部として定義されます。階層定義の詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

### CI を使った作業

IT ユニバース・マネージャでは、関連 CI および非関連 CI の作成、CI の削除、CI プロパティの編集、エイジング・メカニズムを使用した古い CI の削除を行うことができます。

本項の内容

- ▶ 213 ページの「非関連 CI の作成」
- ▶ 213 ページの「関連 CI の作成」
- ▶ 214 ページの「CI の削除」
- ▶ 214 ページの「CI のプロパティ」
- ▶ 215 ページの「エイジング・メカニズムを使った期限切れ CI の削除」

## 非関連 CI の作成



ITユニバース・マネージャで新しいCIを定義するには、ツールバーで**[新規CI]** ボタンをクリックします。**[新規CI]** ダイアログ・ボックスが開き、新しいCIのプロパティを定義できます。CIがCMDBに作成されます。詳細については、268ページの「**[新規CI]** / **[新規関連CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注:** CIは、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

---

このようにして作成されたCIは、CMDBに存在するほかのCIと関係を持たない独立したエンティティとして追加されます。

## 関連 CI の作成

新しいCIが、既存のCIの親、子、または兄弟として追加されるように定義できます。

**新しい関連CIを定義するには、次の手順を実行します。**

- 1 新しいCIを関連付けるCIをビューで選択します。
- 2 ツールバーで**[新規関連CI]** ボタンをクリックします。
- 3 **[新規関連CI]** ダイアログ・ボックスで、CIのプロパティと関係を定義します。詳細については、268ページの「**[新規CI]** / **[新規関連CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。



CIと関係がCMDBに作成されます。

---

**注:** CIと関係は、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

---

## CIの削除

CIを削除するには、ITユニバース・マネージャのショートカット・メニューで**[CMDBから削除]**を選択します。CIがCMDBおよびすべてのビューから削除されます。CIに子がある場合は、親CIを削除しても子は自動的に削除されません。ビュー内で親CIと、親CIとともに表示される子CIの関係を削除せずに親CIを削除すると、子CIはビューに表示されなくなります。

子CIがほかのビューに表示されていない場合、子CIはビューに表示されませんがCMDBには残されています。それらの子CIは、パターン要件を満たした場合にそのビューに表示されるようになります。

このルールの例外は、子CIと親CIの関係が**Composition**の場合です。この場合は、親CIが削除されると、それに含まれているCIもCMDBから削除されます。たとえば、ノードCIが子CPUCIのコンテナである場合、ノードCIが削除されると、CPUもCMDBから削除されます。

DFMプロセスによって作成されたCIを削除すると、次にDFMが実行されるたびにCIが復元され（CIがまだ有効であった場合）、関連するすべてのビューに再び表示されます。

## CIのプロパティ

ITユニバース・マネージャでは、CIのプロパティを編集できます。CIのプロパティは複数のカテゴリに分割されて**[新規CI]**ダイアログ・ボックスに表示されます。

- ▶ CIの一般プロパティは、すべてのCIで共通です。一般プロパティには、CIの作成中に自動的に定義されるものと、**[新規CI]**ダイアログ・ボックスで手動による定義が必要なものがあります。
- ▶ CIT固有のプロパティは、CIタイプ・マネージャでCIT定義の一部として作成されます。CIT固有のプロパティの値は、DFM中に検出されたCIから取得されます。インフラストラクチャ内のエンティティを表すためにCIを手動で作成する場合は、これらの値を手動で入力することもできます。詳細については、499ページの「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ キープロパティには一般プロパティとCIT固有のプロパティがあり、CIタイプのインスタンスを作成するために値を割り当てる必要があります。

ITユニバース・マネージャから[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスしてCIのプロパティを表示するには、CIを右クリックして[**プロパティ**]を選択するか、[詳細]表示枠で[プロパティ]タブをクリックします。CIの編集に必要な権限を持っている場合は、CIのプロパティを編集することもできます。CIのプロパティの詳細については、246ページの「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CIT固有のプロパティは、[項目別]ボタンを使用してプロパティを並べ替えると、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの**特定のプロパティ**・セクションに表示されます。自動的に作成されたCIのプロパティには編集できるものもありますが、CIが[**Allow CI Update**] (全般プロパティ) に設定されている場合は、DFMがCIを更新するときに変更内容を上書きする場合があります。選択したプロパティの説明は、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログボックスの下部にある詳細領域で確認できます。

DFM CIのCIT固有のプロパティには、変更を監視するように標準で設定されるものがあります。これらのプロパティが修正された場合は、変更に関する情報をCI変更レポートに表示できます。詳細については、411ページの「CI変更レポート」を参照してください。

## エイジング・メカニズムを使った期限切れCIの削除

CIまたは関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合(CIがDFMによって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによってCIがCMDBから削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CIライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。

## 関係を使った作業

CMDB における CI 間の関係の多くは、DFM などによって自動的に作成されます。また、IT ユニバース・マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオでは、手動で関係を作成することもできます。

本項の内容

- ▶ 216 ページの「関係の作成」
- ▶ 217 ページの「階層関係の作成」
- ▶ 218 ページの「既存の CI の関連付け」
- ▶ 219 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 219 ページの「関連 CI の表示」
- ▶ 220 ページの「関係の削除」
- ▶ 220 ページの「中間層の関係」

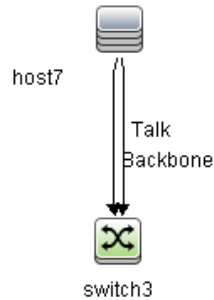
### 関係の作成

関係を作成するには、1 つまたは複数の CI を [CI の選択] 表示枠またはトポロジ・マップで右クリックし、ショートカット・メニューで [CI に関連付け] を選択します。トポロジ・マップでは、ツールバーの [関係を作成] ボタンを使用してビュー内の 2 つの CI の間に線を引くことによって、2 つの CI の関係を定義できます。いずれの操作でも [関係を挿入] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、252 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」を参照してください。





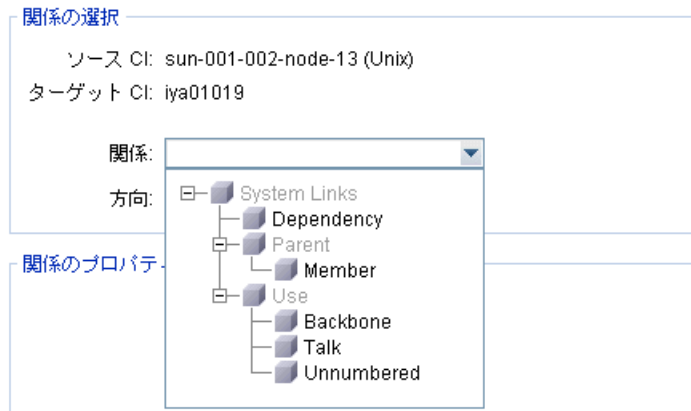
CMDB内のCIとほかのCIとの間には、必要な数の関係を作成できます。新しい各関係は、独自のエンティティとしてCMDB内に存在し、ITユニバース・マネージャで編集可能な独自のプロパティを持っています（246ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。各関係が異なる関係のタイプに基づいている場合は、2つの同じCIの間に複数の関係を作成することもできます。次の例では、host7はBackboneとTalkの2つの関係をswitch3に対して持っています。



### 階層関係の作成

ITユニバース・マネージャで、あるCIを別のCIに関連付けることによって、CI間に階層関係（親-子）を作成できます。これにより、一方のCIは他方のCIの影響を受けるようになります。

このように定義した関係は、関係のタイプ **[Usage]** (関係が2つの非モニタリング CI 間の場合)、または関係のタイプ **[Monitored By]** (関係内の子 CI がモニタ・タイプ CI の場合) に制限されるものがあります。ただし、特定のタイプの CI 間では、ほかの関係タイプが使用されます。たとえば、2つのノード CI 間で関係を定義する場合、複数の関係タイプが可能になります。



**注:** 子 CI を親 CI に関連付ける場合、CMDB 内でその関係を作成します。このため、子は、関係が存在するすべてのビューにおいて親 CI に影響を与えるとともに、子と関係が SQL クエリに一致するすべてのビューに表示されます。

## 既存の CI の関連付け

[関係を挿入] ダイアログ・ボックスを使用すると、既存の CI を関連付けることができます。このダイアログ・ボックスには、次の2つのモードがあります。

- ▶ 関連付ける CI を選択する。
- ▶ 元の CI と関連付ける CI の関係を定義する。

関連付ける CI を選択する場合、複数の CI をビューから選択して元の CI に関連付けることができます。ただし、一度の操作で関連付ける CI はすべて、同じ関係のタイプを持っている必要があります。たとえば、[Usage] 関係を使用する CI を、[Monitored By] 関係を使用する CI と同じ操作で関連付けることはできません。

## ビュー階層の設定

ビューのクエリ・ノード定義と関係定義を設定した後は、そのビューに対して階層を設定できます。これにより、選択した CI が異なるレベルで表示されるようになり、ビュー内の CI の組織構造を定義できます。階層を定義しなかった場合、トポロジ・マップまたはテーブルは標準で、クエリ結果に含まれるすべての CI を 1 つのレベルで表示します。たとえば、クエリ結果にノードと IP Subnet が含まれる場合、トポロジ・マップまたはテーブルではどちらの CI タイプも同じレベルで表示されます。

---

**注：**トポロジ・マップで 1 つのレイヤに表示できる CI の最大数は 900 個です。ビューに 900 個を超える CI が存在するレイヤがある場合、階層が変更されるまで、そのビューはトポロジ・マップに表示されません。ただし、900 個を超える CI が存在するレイヤは、テキスト・モードのテーブルには表示できます。

---

階層設定の詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

## 関連 CI の表示

選択した CI に関連する CI はすべて、トポロジ・マップで表示できます。ビューで CI を選択し、[関連 CI] タブを選択します。[関連 CI を取得] 表示枠では、表示範囲を選択できます。[ビュー] を選択すると、トポロジ・マップには、選択した CI とビュー内の関連 CI だけが表示されます（ビュー階層内の位置は関係しません）。[CMDB] を選択すると、選択された CI と CMDB 内の関連 CI すべてが表示されます。[関連 CI を取得] 表示枠の結果に CI タイプごとのフィルタを適用して、CI にパースペクティブを適用することもできます。詳細については、266 ページの「[関連 CI を取得] 表示枠」を参照してください。

[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックスを使って関連 CI を表示することもできます。詳細については、273 ページの「[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 関係の削除

トポロジ・マップには、現在のビューに含まれる CI の関係だけが表示されます。ただし、同じ関係がほかのビューにも含まれる場合があります。IT ユニバース・マネージャで関係を削除すると、その関係は CMDB とすべてのビューから削除されます。

関係を削除した場合、ビューのパターンに一致する場合には、関係の対極にある CI はビューに表示された状態になる場合があります。ただし、削除した関係が **composition link** である場合、ターゲット CI もともに削除されます。

パースペクティブ・ベース・ビューでは、モデリング・スタジオのパースペクティブ・ベース・ビュー・エディタでビューから非表示にすることによって、CI をビューから完全に削除できます (CMDB からは削除されません)。

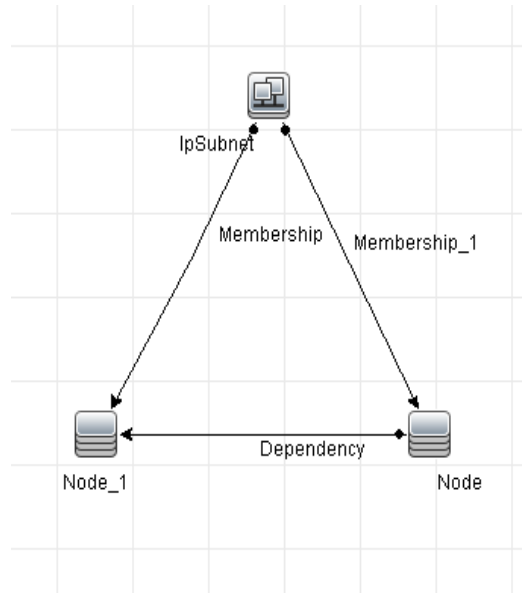
DFM プロセスによって作成された関係を削除すると、次に DFM が実行されるときに関係が復元され (関係がまだ有効であった場合)、関連するすべてのパターン・ビューに再び表示されます。

ビューからサブツリーまたは複数の CI と関係を削除するには、数分かかることがあります。

## 中間層の関係

一部の状況下で IT ユニバース・マネージャは、ビューのレイヤにある CI 間の関係を表示するとき、そのレイヤにある CI 間の実際の関係ではなく、ビューのさらに深いレイヤにある CI 間の関係を反映することがあります。このような関係を **レイヤ間の関係** と呼びます。

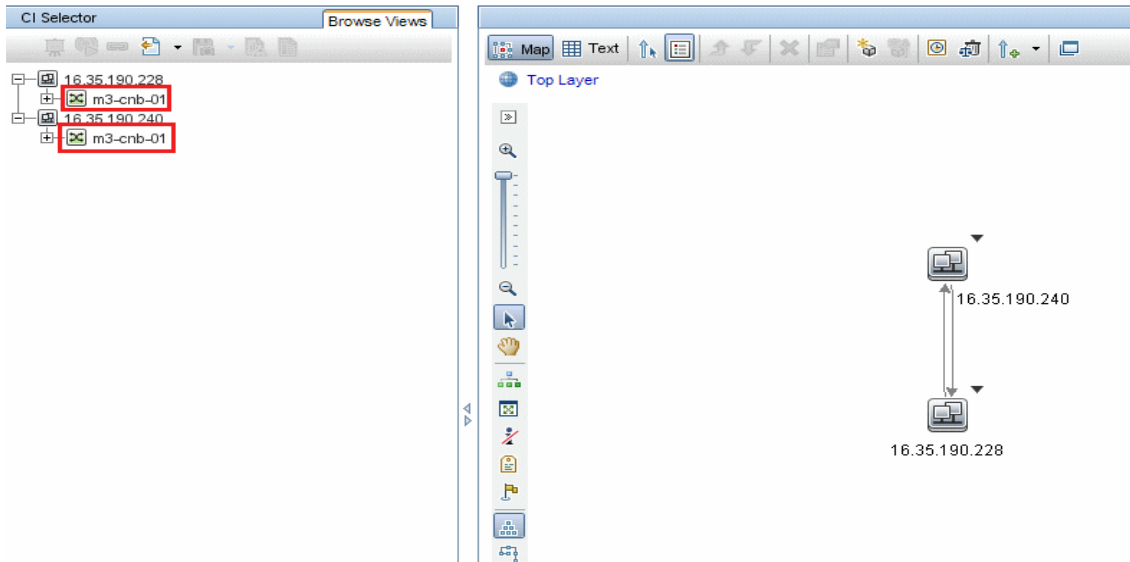
たとえば次のビューでは、2つのノード CI が **dependency** 関係でお互いに関連し合っています。また、それぞれが **membership** 関係によって IP Subnet と関連すると同時に、ノードが IP Subnet の下のレイヤになるようにビュー階層が定義されます。



ITユニバース・マネージャでビューを削除すると、実際の関係はビューの下層レイヤにある CI 間にだけ存在しますが、異なる IP Subnet 下にあるノード CI 間の関係は、親 IP Subnet 間関係としてビューの上層レイヤに表示されます。IP Subnet 間のフル・パスを表示するには、関係をダブルクリックしてください。

上のレイヤで、複数の同じタイプの親 CI の下に同じ CI が表示されている場合、レイヤ間の関係は別の形式になります。この場合、子 CI とその関係は、階層定義によってビュー表示に複製されます。この子 CI の関係は、親 CI 間におけるレイヤ間の関係を表します。このタイプのレイヤ間の関係を**複製メタリンク**と呼びます。

たとえば、次のビューでは、階層の IP Subnet CI の下に単一のノード CI が表示されます。このノードとその子は、各 IP Subnet の下に 1 つ、つまりビューには 2 つ表示されます。各ノードは、事実上ほかの IP Subnet の下にあるノードの子 CI に関連しています。また、2 つの IP Subnet 間に 1 つのレイヤ間の関係も生成します。



レイヤ間の関係および複製メタリンクは、トポロジ・マップに灰色で表示されます。IT ユニバース・マネージャには、レイヤ間の関係を表示するための次のオプションがあります。

- ▶ **なし**：レイヤ間の関係をすべて非表示にします。
- ▶ **中間層**：複製メタリンクではない、最初のタイプのレイヤ間の関係を表示します。
- ▶ **フル**：複製メタリンクを含む、すべてのレイヤ間の関係を表示します。

レイヤ間の関係のツールチップには、その関係を表す内部関係が表示されます。内部関係が1つしかない場合、関係ラベルにはその関係タイプが表示されます。内部関係が複数個ある場合、ラベルは[中間層]になり、ツールチップにはすべての内部関係が一覧表示されます。内部関係が10個を超える場合は、最初の10個のみが表示され、内部関係がさらに存在することを示す注意が表示されます。

---

---

## タスク

---

---

### **CMDB での CI と関係の作成**

このタスクでは、関連 CI と非関連 CI、および CI 間の関係を CMDB 内に作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 225 ページの「新しい非関連 CI の定義」
- ▶ 225 ページの「新しい関連 CI の定義」
- ▶ 225 ページの「既存の CI の関係付け」



## 新しい非関連 CI の定義



ツールバーの **[新規 CI]** ボタンをクリックします。**[新規関連 CI]** ダイアログ・ボックスで、CI タイプをツリーから選択し、新しい CI のプロパティを定義します。詳細については、268 ページの「**[新規 CI] / [新規関連 CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 新しい関連 CI の定義



ツールバーで **[新規関連 CI]** ボタンをクリックします。**[新規関連 CI]** ダイアログ・ボックスで、CI タイプをツリーから選択し、新しい CI のプロパティを定義します。ダイアログ・ボックスの **[関係]** ページで、関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については、268 ページの「**[新規 CI] / [新規関連 CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 既存の CI の関係付け

ビューで CI を選択します。CI を右クリックして **[CI に関連付け]** を選択します。**[関係を挿入]** ダイアログ・ボックスで、ターゲット CI を選択します。ダイアログ・ボックスの **[関係]** ページで、関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については、252 ページの「**[関係を挿入]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 関連 CI の表示

次の手順で、IT ユニバース・マネージャで関連 CI を表示するオプションについて説明します。

- ▶ 226 ページの「関連 CI の表示」
- ▶ 226 ページの「表示範囲の選択」
- ▶ 226 ページの「関連 CI のフィルタ処理」
- ▶ 226 ページの「CI へのパースペクティブの適用」

## 関連 CI の表示



ITユニバース・マネージャで、トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を選択して、**[関連 CI]** タブを選択します。**[関連 CI の取得を有効化]** ボタンをクリックします。選択した CI とその関連 CI が表示されます。**[CI の選択]** から別の CI または複数の CI を選択すると、それに応じて表示が変更されます。

---

**注:** 関連 CI の内容は、マップ・モードまたはテキスト・モードで表示できます。

---

[関連 CI を取得] ユーザ・インタフェースの詳細については、266 ページの「[関連 CI を取得] 表示枠」を参照してください。

## 表示範囲の選択

[関連 CI を取得] 表示枠で、関連 CI の表示範囲を選択します。**[関連 CI を表示]** ボタンをクリックします。選択した範囲に応じて、表示内容が変更されます。

## 関連 CI のフィルタ処理

[CI タイプで関連する CI をフィルタリング] セクションで、関連 CI で表示する CI タイプを選択します。**[関連 CI をフィルタ]** ボタンをクリックします。フィルタ処理の結果がタブに表示されます。上記で選択した範囲は適用されたままで、選択したフィルタに応じて表示内容が削減されます。

## CI へのパースペクティブの適用

[パースペクティブを CI に追加] セクションで、選択した CI に適用するパースペクティブを選択します。**[パースペクティブを適用]** ボタンをクリックします。結果がタブに表示されます。

---

**注:** この機能は、範囲として **[CMDDB]** が選択されている場合にのみ有効です。

---

## アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出)

アプリケーションの所有者または管理者は、アプリケーションに発生する問題を常に把握している必要があります。たとえば、ディスカバリが正しく機能していて、現在の設定でアプリケーション・データベースに接続できることを知っておく必要があります。本項では、アプリケーションのディスカバリの現在のステータスをチェックする再検出手順を実行する方法について説明します。

---

### 注：

- ▶ セットアップと設定は、UCMDB 管理者が実行します。詳細については、228 ページの「前提条件」を参照してください。
- ▶ 再検出は、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。詳細については、229 ページの「ビューへのアクセス」を参照してください。
- ▶ この手順を実行するのに、データ・フロー管理 (DFM) の知識は必要ありません。
- ▶ 標準設定では、10,000 個より少ない CI を含むビューに対して再検出手順を実行できます。この数値を変更する方法の詳細については、278 ページの「重要情報」を参照してください。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 228 ページの「前提条件」
- ▶ 229 ページの「ビューへのアクセス」
- ▶ 229 ページの「ビューに結果を表示」
- ▶ 230 ページの「再検出のスケジュール設定」

## 1 前提条件

---

**注：**この手順は、UCMDB 管理者が実行します。

---

- a DFM で、アプリケーションを検出する必要があるジョブを含むモジュールを作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「ディスカバリ・コントロール・パネルのアドバンス・モード・ワークフロー」を参照してください。
- b モジュールとすべてのジョブをアクティブにします。ジョブは、アクティブな状態にしておく必要があります。
- c モジュールがエラーなく実行されたことを確認します。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「エラー・メッセージの概要」、および『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
- d アプリケーションのエラーを修正し、次の実行時に DFM でエラーが検出されないことを確認します。

---

**注意：**アプリケーションの所有者は、DFM によってエラーが報告されている場合は、ビューを再検出できません。エラーのないベースラインを設定する必要があります。

---

- e モデリング・スタジオで、再検出対象のアプリケーション CI (1 つまたは複数) を含むビューを定義します。これらは、アプリケーションを検出するジョブをアクティブにするときに作成される CI です。詳細については、304 ページの「パターン・ビューの作成」を参照してください。
- f アプリケーションの所有者にビューの名前を通知します。

## 2 ビューへのアクセス

---

**注:** このステップは、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。

---

ITユニバース・マネージャで、再検出対象のアプリケーション CI を含むビューにアクセスします。詳細については、149 ページの「[検索] モードでの CI の検索」を参照してください。

## 3 ビューに結果を表示



- a 完全なアプリケーションをチェックする必要があります:** [CI の選択] ツールバーの [ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ボタンをクリックします。[ディスカバリのステータスおよびビューの変更を表示] ダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログ・ボックスには、DFM によってジョブのディスカバリが最後に実行されたときの、ビュー内で CI を検出したジョブとトリガ CI に関する情報が表示されます。詳細については、278 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ディスカバリを実行するには、[検出を再実行] ボタンをクリックします。ジョブとトリガ CI に関する情報を表示するには、リンクを使用してドリルダウンします。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「エラー・メッセージの概要」を参照してください。

- b アプリケーションの特定のコンポーネントをチェックする必要があります:** コンポーネントの CI を [トポロジマップ] 表示枠で選択し、[詳細] 表示枠に [ディスカバリ] タブを表示します。詳細については、278 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

複数の CI を再検出するには、CTRL キーを押して CI を選択し、[ディスカバリ] タブを表示します。

ディスカバリを実行するには、[検出を再実行] ボタンをクリックします。

## 4 再検出のスケジュール設定

再検出手順を実行する頻度について、スケジュールを設定できます。[ジョブ定義] ウィンドウで、[ビューでディスクカバ리를再実行] アクションを選択します。詳細については、127 ページの「[ジョブ定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 影響分析結果の取得 -シナリオ

影響分析マネージャでは、特定のインフラストラクチャの変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートできる影響ルールを作成できます。影響ルールの結果は、IT ユニバース・マネージャに表示されます。このタスクの影響分析結果は、接続されているノードに CPU 操作の変化がどのような影響を与えるかを示しています。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 230 ページの「影響分析 TQL クエリの定義」
- ▶ 231 ページの「影響ルールの定義」
- ▶ 233 ページの「モデリング・スタジオでのビューの作成」
- ▶ 233 ページの「影響分析結果の取得」

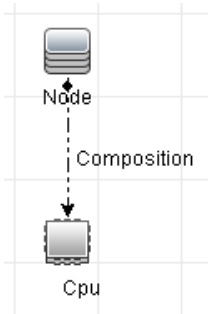
### 1 影響分析 TQL クエリの定義

影響分析 TQL クエリを定義するには、影響ルールを作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

影響分析 TQL クエリを作成するには、[マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択します。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

## 影響分析 TQL クエリの例：

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを Composition 関係でリンクします。



## 2 影響ルールの定義

影響ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、**[影響を受けるものを定義]**を選択して、**[影響を受けるクエリ ノード]** ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択して、**[次へ]** をクリックします。次に、**[追加]** ボタンをクリックして、**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については、491 ページの「**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注：**影響ルール定義の **[change]** 状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は **[operation]** のみです。

---

**影響ルール例：**

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [条件] 領域で、システムの変更シミュレーションがトリガされる条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で、影響を受けるクエリ・ノードに対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU 動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が 100% に設定されているため、ノードの重大度は CPU の重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

影響ルール定義

詳細:

条件

状態: operation

演算子: 等価

値の比較: Normal

対象範囲

任意

すべて

範囲  % -  %

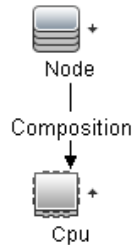
固定された重大度: Critical

重大度はトリガの重大度との相対値 (%):

OK キャンセル



結果の TQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



### 3 モデリング・スタジオでのビューの作成

モデリング・スタジオに移動し、定義した影響ルールの TQL クエリと一致するビューを作成します。詳細については、355 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

### 4 影響分析結果の取得

[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択し、[CI の選択] から必要なビューを選択します。影響分析結果を取得するには、トポロジ・マップ内のトリガとなる CI インスタンスに対して影響ルールを実行する必要があります。トリガ CI を右クリックし、[影響分析を実行] を選択して [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスを開きます。影響ルールを実行する方法の詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

**影響分析結果の取得例：**

Composition の関係によって接続されている CPU とノードを含む、影響分析 TQL クエリが作成されています。CPU クエリ・ノードはトリガ・クエリ・ノードとして定義され、タイプ・ノードのクエリ・ノードは影響を受けるクエリ・ノードとして定義されています。

このクエリには、次の影響ルールが定義されています。

影響ルール定義

詳細:

条件

状態: operation

演算子: 等価

値の比較: Normal

対象範囲

任意

すべて

範囲  % -  %

固定された重大度: Critical

重大度はトリガの重大度との相対値 (%):

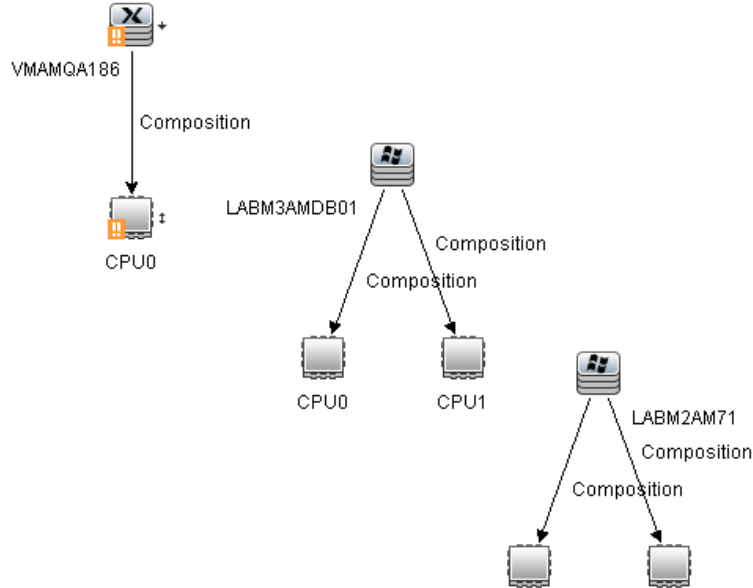
OK キャンセル

ビューから CPU CI を右クリックし、[影響分析を実行] を選択して [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスを開きます。トリガの重大度を、[Normal] 以外の値に設定します。



結果を表示するには、以下のいずれかをクリックします。

- ▶ **ビューで表示**：この場合は、ビュー内のすべての CI にステータスが割り当てられます。CPU CI（重大度が変更されたもの）に接続しているノード CI だけが影響を受けます。[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで、トリガの重大度がオレンジ色を割り当てた **[Major (7)]** に設定されているため、トリガ CI と影響を受けた CI がオレンジ色に変わります。

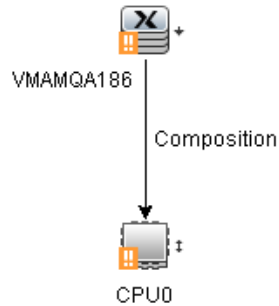


- ▶ **マップを表示**：トリガ CPU CI とその影響を受けるノード CI だけを含むマップが、別のウィンドウに表示されます。2 つの CI を接続する関係には、影響分析マネージャで定義された影響ルール名を使った名前が付けられます。

---

**注:** 必要に応じて、マップを埋め込むための URL を作成できます。詳細については、126 ページの「ダイレクトリンクパラメータ - [影響マップ] ページ」を参照してください。

---



- ▶ **レポートを生成:** シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストを表示する影響分析レポートを生成します。詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## ビューのスナップショットの取得

ITユニバース・マネージャでビューのスナップショットを取って保存し、スナップショット比較レポートを使って、異なる時間にとられた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。ビューのスナップショットを撮る方法の詳細については、276ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。比較したビューの実際の差異を表示する方法の詳細については、422ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。

## トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存

トポロジ・マップの内容を印刷し、それをファイルに保存できます。印刷する前に、要件に従って印刷設定を定義し、トポロジ・マップの内容を整列することをお勧めします。印刷設定を定義する方法の詳細については、193ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。印刷の前にトポロジ・マップの内容をプレビューする方法の詳細については、193ページの「[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス」を参照してください。トポロジ・マップの内容を印刷する方法の詳細については、192ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。トポロジ・マップをファイルに保存する方法の詳細については、274ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 参照先

### ITユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 239 ページの「[CI をモデルに追加] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 240 ページの「[CI をビューに追加] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 241 ページの「[時間枠を変更] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 242 ページの「[CI / 関係履歴] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 246 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 252 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 257 ページの「[IT ユニバース マネージャ] ページ」
- ▶ 268 ページの「[新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 273 ページの「[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 278 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 280 ページの「[影響を表示] 表示枠」

### [CI をモデルに追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI をモデルに追加できます。

利用方法	[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択します。[CI の選択] で 1 つの CI または複数の CI を右クリックしてから、[CI をモデルに追加] を選択します。
重要情報	この機能はインスタンス・ベース・モデルにのみ関連します。選択した CI はパターン・ベース・モデルには追加できません。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<モデルのツリー>	[既存のモデル] を選択した場合は、モデルをツリーから選択します。
新規 CI プロパティの定義	[新規モデル] を選択した場合は、モデルの名前とプロパティを定義します。
既存のモデル	[既存のモデル] を選択して、選択した CI を既存のモデルに追加します。
新規モデル	[新規モデル] を選択して、選択した CI を新規モデルに追加します。
CI タイプの選択	[新規モデル] を選択した場合は、モデルの CI タイプを選択します。

## [CI をビューに追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI をパースペクティブ・ベース・ビューに追加できます。

利用方法	[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択します。[CI の選択] で 1 つの CI または複数の CI を右クリックして、[CI をビューに追加] を選択します。
------	--



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<ビューのツリー>	[既存のビュー] を選択した場合は、ビューをツリーから選択します。
既存のビュー	[既存のビュー] を選択して、選択した CI を既存のパースペクティブ・ベース・ビューに追加します。
新規ビュー	[新規ビュー] を選択して、選択した CI を新規パースペクティブ・ベース・ビューに追加します。
ビュー名	[新規ビュー] を選択した場合は、ビューの名前を編集します。






## [時間枠を変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの変更を表示するとともに、表示する変更の時間枠を設定できます。

<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [IT ユニバース マネージャ] を選択します。メイン・ツールバーまたは [IT ユニバース] ステータス・バーで、[変更時間枠の設定] ボタン  をクリックします。</p>
<b>重要情報</b>	<p>トポロジ・マップに変更インジケータが表示されている場合、[IT ユニバース] ステータス・バーには <b>[変更時間枠はアクティブです]</b> というメッセージが表示されます。</p> <p>インジケータを非表示にするには、ダイアログ・ボックスを開き <b>[変更を表示しない]</b> を選択するか、[IT ユニバース] ステータス・バーから <b>[変更時間枠のリセット]</b> ボタン  を選択します。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
<b>選択した時間枠に従って変更を表示</b>	<p>このオプションを選択すると、選択した期間中に追加または変更された各 CI の横に、次のインジケータを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  追加された CI のインジケータ</li> <li>▶  変更された CI のインジケータ</li> </ul> <p>ドロップダウン・リストから期間を選択します。[カスタム] を選択した場合、省略記号ボタン  をクリックして [開始日付] および [終了日付] フィールドを選択します。ビューの CI に対する選択期間中の変更がマップに表示されます。</p> <p>インジケータが表示されているときにそのインジケータをクリックすると、選択した期間中のその CI の履歴を表示する [CI 履歴] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<b>変更を表示しない</b>	<p>このオプションを選択すると、変更インジケータを非表示にできます。</p>


## [CI / 関係履歴] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、変更があった CI または関係の属性、および2つの構成ファイルの違いが表示されます。

<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ITユニバース・マネージャの CI の選択またはトポロジ・マップで、選択した CI または関係を右クリックし、[CI履歴] を選択します。</li> <li>▶ データ・フロー管理で、[検出済み CIs] ダイアログ・ボックスで CI を右クリックし、[CI履歴] を選択します。</li> </ul> <p><b>注：</b> CI および関係の履歴データは、ITユニバース・マネージャの [詳細] 表示枠の [履歴] タブにも表示されます。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>[変更をモニタ] または [比較可能] 修飾子でマークされている属性のみが、CMDB履歴データベース内で追跡されます。CI履歴に表示させる属性がある場合は、CIタイプ・マネージャの [属性] タブで、その属性の [変更をモニタ] または [比較可能] 修飾子を選択します。CIの場合、一部の属性は標準設定で [変更をモニタ] が指定されています。関係の場合、CIタイプ・マネージャで属性を手動で指定する必要があります。</p> <p>さらに、関係の履歴を追跡するには、CIタイプ・マネージャの [修飾子] タブで、関係の TRACK_LINK_CHANGES 修飾子を選択する必要があります。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>[<b>更新</b>] をクリックするとテーブル内のデータが更新されます。</p>
	<p>構成ファイルの内容の 2 つの履歴エントリの相違を表示します。この機能は、次の状況で使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ タイプが [<b>Configuration Document</b>] である CI の [<b>Document Content</b>] 属性の 2 つの履歴エントリを選択して、相互に比較する。</li> <li>▶ タイプが [<b>Configuration Document</b>] である CI の [<b>Document Content</b>] 属性の 1 つの履歴エントリを選択して、その CI の現在の内容と比較する。</li> </ul> <p>[<b>相違を表示</b>] ボタンをクリックすると Visualdiff レポートが開きます。このレポートには、2 つのエントリの比較が表示されます。2 つ目のエントリに追加したテキストは、黄色で強調表示されます。1 つ目のエントリから削除したテキストは、赤色で強調表示されます。エントリ間の違いは、緑色で強調表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。  <b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML 形式で保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>
<b>属性</b>	属性の名前です。
<b>日付の変更</b>	最後に変更が行われた日付です。






UI 要素	説明
<b>適用フィルタ</b>	次のフィルタの1つまたは複数を使って、テーブル内のデータがフィルタ処理されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>【時間範囲でフィルタ】</b>： [CI 履歴] を表示する期間を選択します。</li><li>▶ <b>【変更タイプ】</b>： テーブルに表示する変更のタイプを選択します。</li><li>▶ <b>【属性】</b>： テーブルに表示する属性のタイプを選択します。</li></ul>
<b>変更元</b>	変更理由が示されます。たとえば、このフィールドにはユーザまたは DFM ジョブの名前が含まれます。
<b>新規値</b>	属性の新しい値です。
<b>旧値</b>	属性の古い値です。


## [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存の CI または関係の基本情報を表示、編集できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [IT ユニバース マネージャ] の順に選択し、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を選択します。[詳細] 表示枠で、[プロパティ] タブを選択し [編集] をクリックします。</li> <li>▶ CI の選択またはトポロジ・マップで CI を右クリックし、[プロパティ] を選択します。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスには、次の2種類のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 一般プロパティ：CI または関係に関する一般情報が含まれています。これらのプロパティは、すべての CIT に共通しており、後述のようにドキュメント化されています。</li> <li>▶ CIT 固有のプロパティ：特定の CI に固有のプロパティが含まれています。これらのプロパティは、CI または関係のタイプによって異なるため、ドキュメント化されていません。</li> </ul> <p>プロパティをカテゴリごとに並べ替える場合、CIT 固有のプロパティはリストの上部に表示され、一般プロパティは下部に表示されます。</p> <p>選択したプロパティの説明は、ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域に表示されます。説明領域を表示するには、[詳細領域を表示/非表示] ボタンをクリックします。</p> <p>必須フィールドにはアスタリスクが示されています。</p> <p><b>注：</b> HP Universal CMDB は、サロゲート・ペアおよび結合文字を完全にはサポートしていません。</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックすると、プロパティがカテゴリごとに表示されます。
	クリックすると、プロパティがアルファベット順に表示されます。
	[CI プロパティ] ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域の表示と非表示が切り替わります。
	[展開] をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーが展開されます。
	[折りたたみ] をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーが折りたたまれます。

UI要素	説明
 エクスポート	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。  <b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。  <b>Windows</b> では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。  <b>Linux</b> では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML 形式で保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>



UI 要素	説明
<p>&lt;クイック・フィルタ&gt;</p>	<p>[クイック フィルタ]ボックスに文字列を入力して、プロパティ名および値をフィルタ処理します。左端のボックスをクリックして、フィルタ・オプションのドロップダウン・メニューを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[すべて]</b> を選択すると、プロパティ名およびプロパティ値内のフィルタ文字列が検索されます。<b>[名前]</b> を選択すると、プロパティ名内のフィルタ文字列のみが検索されます。<b>[値]</b> を選択すると、プロパティ値内のフィルタ文字列のみが検索されます。</li> <li>▶ <b>[大文字と小文字を区別]</b> を選択すると、入力されたとおりのフィルタ文字列が検索されます。<b>[大文字と小文字を区別しない]</b> を選択すると、フィルタ文字列の大文字小文字は考慮されません。</li> <li>▶ <b>[ワイルドカードを使用する]</b> を選択すると、フィルタ文字列内でワイルドカード記号 * を使用できます。</li> <li>▶ <b>[はじめがマッチする]</b> を選択すると、プロパティ名またはプロパティ値の先頭のフィルタ文字列が検索されます。<b>[正確にマッチする]</b> を選択すると、完全に一致するフィルタ文字列が検索されます。<b>[いずれかがマッチする]</b> を選択すると、プロパティ内のすべてのフィルタ文字列が検索されます。</li> </ul>
<p>Actual Deletion Period</p>	<p>CI または関係が削除されるまでの日数です。</p>
<p>Allow CI Update</p>	<p>このオプションを選択すると、DFM プロセスが検出した情報を使用して、CI または関係のプロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合、値は検出された値によって上書きされます。</p> <p>このオプションをオフにすると、CI または関係のプロパティは、DFM プロセスによって上書きされません。</p>
<p>適用</p>	<p><b>[適用]</b> をクリックすると、CI または関係のプロパティに加えた変更内容が保存されます。</p>
<p>CI タイプ</p>	<p>CI または関係のタイプ (読み取り専用の値)。HP Universal CMDB の CIT の詳細については、499 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</p>
<p>Created By</p>	<p>CI または関係を手動で作成した管理者のユーザ名です (該当する場合) (読み取り専用の値)。</p>
<p>Create Time</p>	<p>CI または関係が作成された日時です。</p>

UI 要素	説明
<b>Deletion Candidate Period</b>	エイジング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
<b>Description</b>	CI または関係の簡単な説明です。
<b>Display Label</b>	CI の選択に表示される CI または関係の名前です。
<b>Edit</b>	[詳細] 表示枠の [プロパティ] タブでは CI のプロパティを表示できますが、編集することはできません。[Edit] をクリックして [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開き、そこでプロパティを編集できます。
<b>Enable Aging</b>	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : <b>False</b> :DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
<b>Global Id</b>	CMDB 内の CI または関係の内部 ID (読み取り専用の値) です。
<b>Last Access Time</b>	<p>DFM による更新または検出時に、CI または関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI または関係に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
<b>Last Modified Time</b>	CI または関係のプロパティが最後に更新された日時です。
<b>Name</b>	CI または関係の名前です。


UI 要素	説明
Note	CI または関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI または関係を自動的に作成したソース、あるいは CI または関係が作成されたアプリケーションの ID（読み取り専用の値）です。
リセット	[リセット] ボタンをクリックすると、CI または関係の元のプロパティ設定が復元されます。
Updated by	CI または関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
User Label	CI または関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合、CI 名が標準設定ラベルとして表示されます。

### ショートカット・メニュー



メニュー項目	説明
プロパティ名と値をコピー	選択したプロパティの名前と値がメモリにコピーされます。

## [関係を挿入] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[CIの選択] で選択した CI に対して、複数の CI を関係付けることができます。

<b>利用方法</b>	ITユニバース・マネージャで、トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右クリックして、[CIに関連付け] を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>2つの CI の間に関係を作成するには、CI の選択またはトポロジ・マップでソース CI を選択し、ショートカット・メニューで [CIに関連付け] を選択します。ダイアログ・ボックスの最初のページ ([CIの選択] ページ) で、ターゲット CI (1つまたは複数) を選択します。次に、[関係] をクリックし、ダイアログ・ボックスの2ページ目で関係のタイプを選択します。</p> <p>また、ツールバーの [関係を作成] ボタン  をクリックし、2つの CI の間に線を引くことによって、2つの CI の間に関係を視覚的に作成することもできます。この場合、[関係を挿入] ダイアログ・ボックスの小型版が開き、次のタブが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[関係の選択]</b> : 利用可能な関係のタイプを含むツリーが表示されます。必要な関係を選択してください。</li> <li><b>注</b>: 選択した関係をダブルクリックすると、標準設定のプロパティを使用して保存できます。</li> <li>▶ <b>[関係のプロパティ]</b> : 選択した関係のプロパティが表示されます。254 ページの「[関係のプロパティの定義] 表示枠」に説明されている方法で、プロパティを編集できます。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	224 ページの「CMDB での CI と関係の作成」
<b>関連情報</b>	155 ページの「CI の選択」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックすると、左側の表示枠で選択した CI が [ターゲット CI] 表示枠に追加されます。
	クリックすると、選択した CI が [ターゲット CI] 表示枠から削除されます (CI は CMDB からは削除されません)。

UI 要素	説明
ターゲット CI の選択	ビュー ツリーに表示するビューを選択し、[ターゲット CI] 表示枠に移動する CI を選択します。 [ターゲット CI の選択] 表示枠の詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。
ソース CI	ソース CI として選択した CI です。
ターゲット CI	選択した CI が関係のターゲット CI として表示されます。

### [関係] ページ

このページでは、元の CI とダイアログ・ボックスの [CI の選択] ページで選択した CI との間に作成する関係を定義できます。

利用方法	[関係を挿入] ダイアログ・ボックスで [関係] ボタンをクリックします。
重要情報	複数の関係を定義するときは、関係ごとに異なる説明とプロパティ値を定義できます。その場合は、ここではプロパティの定義は省略して、関係の作成後に各関係を個別に編集します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

### [関係の選択] 表示枠

UI 要素	説明
方向	関係の方向を選択します。 一部の関係タイプ ( <b>Composition</b> , またはグループ CI とモニタ CI の間など) については、1 方向しか利用できません。
関係	元の CI と関係付け先の CI の間に作成する関係のタイプを定義します。リストからオプションを選択してください。

UI 要素	説明
ソース CI	関係の 1 つ目の CI の名前が表示されます。これはビューで選択した CI です。
ターゲット CI	元の CI に関連付けられる、関係の 2 つ目の CI の名前が表示されます。

**[関係のプロパティの定義] 表示枠**

UI 要素	説明
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、関係を削除するまでの期間です。
Allow CI Update	値が true に設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名 (該当する場合) です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	関係が削除候補になった後の日数です。
Description	関係の詳細な説明です。
Destination Network Address	ルート・リンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先のネットワーク・アドレスを示します。
Enable Aging	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : False。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>

UI 要素	説明
Last Access Time	<p>DFM による更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
Last Modified Time	<p>関係のプロパティが最後に更新された日時です。</p>
Must	<p>値を <b>true</b> に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に <b>[Must]</b> を定義して、サブツリーの上位までステータスを <b>[致命的]</b> にする必要がある場合があります。</p> <p>関係に定義した <b>must</b> ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。</p>
Name	<p>関係の簡単な説明です。値を入力しなければ、名前の代わりに関係のタイプが使用されます。</p>
Note	<p>関係に関する、ほかの情報を入力できます。</p>
Origin	<p>関係を自動的に作成したソース、または関係が作成されたアプリケーションの ID です。</p>
Updated By	<p>CI のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。</p>

UI 要素	説明
User Label	関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合、関係名が標準設定ラベルとして表示されます。
Weight	<p>重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば、子 CI に 3 の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べて、親のステータスの計算に 3 倍の影響があります。</p> <p>関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI が持っている、ほかの関係では使用されません。</p>



## [ITユニバース マネージャ] ページ

このページでは、CI と関係をビューで定義、管理できます。



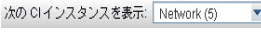
<b>利用方法</b>	<p>[ナビゲーション] メニューから [IT ユニバースマネージャ] を選択するか, [マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [IT ユニバース マネージャ] を選択します。</p>
<b>重要情報</b>	<p>[IT ユニバース マネージャ] ページには、次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[CI の選択]</b>：選択したビューの CI が表示されます。ドロップダウン・リストからビューを選択するか、特定の CI を検索できます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[トポロジマップ]</b>：選択したビューの CI がマップ・モードまたはテキスト・モードで表示されます。</li> <li>▶ <b>[詳細] 表示枠</b>：選択した CI またはビューのプロパティ、履歴、およびディスカバリが表示されます。</li> <li>▶ <b>[関連 CI の取得]</b>：この表示枠は、[トポロジ マップ] の [関連 CI] タブからアクセスできます。タブ内の表示内容を制御します。</li> </ul> <p>IT ユニバース・マネージャでは、新しい CI の作成、既存の CI の変更、または CI の削除を行えます。これらのアクションはすべて、IT ユニバースの全モデルに直接影響します。たとえば、ビューで CI を削除すると、その CI は IT ユニバース・モデルから削除され、いずれのビューにも表示されなくなります。</p>


## トポロジマップ

この領域には、現在選択しているビューの CI がグラフィック形式またはテーブル形式で表示されます。標準設定では、CI はグラフィック形式で表示されます。

<b>利用方法</b>	[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>CI の選択またはトポロジ・マップで CI を選択すると、メイン・メニューの [構成アイテム] ドロップダウン・リストがアクティブになります。このドロップダウン・リストで利用できるオプションは、CI を右クリックして利用できるオプションと同じです。</p> <p>[トポロジマップ] ショートカット・メニューをカスタマイズすると、ほかのコマンド (ping, プログラムの実行, URL の表示など) を CI タイプ・マネージャ内から追加できます。詳細については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> グループ化されている CI およびその関係については、ショートカット・メニューの全オプションがアクティブになるわけではありません。グループ化されている CI は、CI の選択およびトポロジ・マップで括弧内に表示されます。グループ化されている CI へのリンクをダブルクリックすると、リンク・マップを開いて個々の CI と関係を表示することができます。リンク・マップで CI または関係を右クリックすると、通常のショートカット・メニューを表示できます。グループ化されている CI の詳細については、367 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>関連情報</b>	169 ページの「トポロジ・マップの使用」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
 マップ マップ・モード	<p>[マップ] をクリックすると、CI の選択したレイヤがトポロジ・マップ形式で表示されます。</p> <p><b>注:</b> ビューで選択したレイヤが大きすぎてトポロジ・マップ形式で表示できない場合は、テキスト形式でレイヤを表示するためのリンクとともにメッセージが表示されます。</p>
 テキスト テキスト・モード	<p>[テキスト] をクリックすると、選択したレイヤにある CI の属性プロパティがテーブル形式で表示されます。</p> <p>テキスト・モードのツールバー・アイコンの詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>テーブルに表示する CIT を指定します。テーブルには、選択した CIT の子も含まれます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、テキスト・モードでのみ表示されます。</p>
<p>&lt; 現在位置表示リスト &gt;</p>	<p>トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は<b>最上位レイヤ</b>です。また、下のレイヤから CI を選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが表示されます。</p>
<p>&lt; CI タイプ属性 &gt;</p>	<p>テキスト・モードで表示されるカラムは、選択した CI の CIT 属性を表しています。</p>
<p>&lt; [IT ユニバース] ステータス バー &gt;</p>	<p>トポロジ・マップ下のステータス・バーには、次のプロセスのステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析がアクティブかどうか</li> <li>▶ 変更時間枠がアクティブかどうか</li> <li>▶ 削除の候補が表示されているかどうか</li> <li>▶ データが最後に更新された時刻</li> </ul>

UI要素	説明
<凡例>	<p>CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>追加済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CIが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響を受ける</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたCIを示します。</li> <li>▶ <b>影響を受けてトリガする</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガCIを示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CIが削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CIが変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CIにメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガCIを示します。</li> </ul>
<メイン・メニュー>	<p>詳細については、191ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>
<クエリ・ノード>	<p>トポロジ・マップ内のクエリ・ノードは、CIを表します。ポインタをクエリ・ノードの上に置くと、CIのタイプを説明するツールチップが表示されます。</p>
<関係>	<p>トポロジ・マップ内のリンクは、関係を表します。ポインタを関係の上に置くと、関係のタイプを説明するツールチップが表示されます。</p> <p><b>注</b>：計算された関係を選択すると、ツールバーの「削除」ボタン  が無効になります。</p>
<ツールバー>	<p>詳細については、195ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：ダイレクト・リンクを通じてトポロジ・マップにアクセスするときは、関連CIマップからのオプションがツールバーに表示されます。詳細については、273ページの「[CMDBから関連CIを取得]ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<[トポロジマップ]サイドバー>	<p>詳細については、203ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
関連 CI	[関連 CI] タブをクリックすると、ビュー内または CMDB 全体に対して、選択された CI の相互依存関係が表示されます。 [関連 CI を取得] 表示枠で、表示範囲を制御できます。
結果の表示	[結果の表示] タブをクリックすると、ビュー内の全レイヤが表示されます。

**ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー**

ITユニバース・マネージャのページには次の要素があり、[CIの選択]表示枠または[トポロジマップ]で、CIまたは関係を右クリックすると表示されます。

メニュー項目	説明
<p><b>アクション</b></p>	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[ディスカバリ ジョブへの CI の追加]</b> : [ディスカバリ ジョブへの CI の追加] ダイアログ・ボックスが表示され、選択した CI の DFM ジョブを手動で呼び出すことができます。このオプションを使用すると、利用可能な DFM ジョブの 1 つを通じて、CI に関する追加の情報を検出できます。</li> <li>▶ <b>[ディスカバリ ジョブからの CI の削除]</b> : [ディスカバリ ジョブからの CI の削除] ダイアログ・ボックスが表示され、CI を DFM ジョブから手動で削除できます。</li> <li>▶ <b>[ディスカバリ ステータスの表示]</b> : 選択した CI の [ディスカバリ ステータス] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ <b>CI 資格情報を開く</b> : [プロトコル パラメータ] ダイアログ・ボックスが表示され、該当 CI に対して以前に定義した資格情報の詳細を表示できます。変更を行うことはできません。このオプションは、資格情報プロパティを持つ CI のみに関係しています。 詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[プロトコルパラメータ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>Edit CI Credentials</b> : [資格情報の選択] ダイアログ・ボックスが表示され、別の資格情報セットを選択したり既存の資格情報を編集したりできます。このオプションは、資格情報プロパティを持つ CI のみに関係しています。 詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「サポートされるプロトコル」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>CI をモデルに追加</b></p>	<p>選択した CI を新規モデルまたは既存のモデルに追加します。</p>
<p><b>CI をビューに追加</b></p>	<p>選択した CI を新規または既存のパーспекティブ・ベース・ビューに追加します。</p>
<p><b>CI /関係履歴</b></p>	<p>[CI 履歴] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、242 ページの「[CI /関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

メニュー項目	説明
CI 比較レポート	<p>選択した CI に対して CI 比較レポートを実行します。詳細については、417 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。</p>
CMDB から削除	<p>選択した CI または関係をビューおよび CMDB から削除できます。</p> <p><b>注：</b>親 CI を削除すると、選択した CI およびその子はビューから削除されますが、データベースからは選択した CI のみが削除されます。</p>
関連 CI の取得	<p>[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、273 ページの「[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
ラベル	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[ラベルを編集]：</b>[ラベルを編集] ダイアログ・ボックスが開き、CI の名前を編集できます。</li> <li>▶ <b>[標準設定ラベルに戻す]：</b>CI 名が CMDB の標準設定値にリセットされます。</li> </ul>
メモ	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[メモを追加]：</b>編集ボックスが開き、メモを CI に追加できます。</li> <li>▶ <b>[メモを削除]：</b>選択した CI のメモに保存されているテキストがすべて削除されます。</li> </ul>
プロパティ	<p>選択した CI または関係の [プロパティ] ページが表示されます。詳細については、246 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
CI に関連付け	<p>[関係を挿入] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、252 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
影響分析を実行	<p>影響分析マネージャで定義した影響ルールを実行できます。[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響ルールを定義した場合のみです。</p>

メニュー項目	説明
複合パスを表示	複合関係に対してのみ表示されます。選択した関係のリンクマップが表示され、複合関係に含まれるCIが表示されます。



メニュー項目	説明
影響を表示	<p>影響ルールで根本原因 CI として定義された CI を選択し、その影響を受けたすべての CI とそのステータスを別のウィンドウに表示できます。</p> <p>このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後（詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください）。</li> <li>▶ [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで [<b>ビューで表示</b>] をクリックした後。</li> <li>▶ 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。</li> </ul> <p>たとえば (<b>IP Address CI</b> に対して) 影響ルールが定義され、その <b>IP Address</b> にリンクされたノード、ポート、およびクライアント・サーバ・システムがそのルールから影響を受けるように指定されたとします。</p> <p>この場合は、[<b>影響を表示</b>] オプションを使用すると、<b>IP Address CI</b> の影響を受けるすべての CI を表示できます。</p>
根本原因を表示	<p>このオプションを使用すると、一連の影響ルールから影響を受ける CI に関する根本原因情報を取得できます。[根本原因を表示] の出力には、CI に影響を与える一連のトリガ CIT または影響を受ける CIT を示す論理マップが表示されます。</p> <p>根本原因 CI は、別のウィンドウに表示されます。この CI に影響ルールが 1 つだけ定義されている場合は、[影響分析] ウィンドウが直接表示されます。</p> <p>このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後（詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください）。</li> <li>▶ [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで [<b>ビューで表示</b>] をクリックした後。</li> <li>▶ 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。</li> </ul> <p>表示されるウィンドウには、根本原因 CI と影響ルール・チェーン内のほかのすべての CIT が含まれます。</p> <p>影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示するには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。</p>


## 詳細表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素	説明
<b>[ディスカバリ] タブ</b>	選択した CI の DFM 実行ステータスが表示されます。詳細については、278 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス」および『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
<b>[履歴] タブ</b>	選択した CI の履歴が表示されます。詳細については、242 ページの「[CI / 関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<b>[プロパティ] タブ</b>	選択した CI のプロパティ（[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスに表示されるのと同じプロパティ）を表示します。プロパティは [プロパティ] タブで表示できますが、プロパティを編集するにはこのダイアログ・ボックスを開く必要があります。詳細については、246 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [関連 CI を取得] 表示枠

この表示枠では、選択した CI の関連 CI を表示するさまざまなオプションを制御できます。


<b>利用方法</b>	IT ユニバース・マネージャの [関連 CI] タブに表示されません。非表示の場合は、ツールバーの <b>[関連 CI を取得] 表示枠を表示</b> ボタン  をクリックすると表示されます。
<b>重要情報</b>	次のコントロールを使用して、[関連 CI] タブ内の表示を制御できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示範囲の設定</li> <li>▶ CI タイプ別の関連 CI のフィルタ処理</li> <li>▶ 選択した CI へのパースペクティブの適用</li> </ul> 複数の CI の関連 CI を同時に表示できます。CTRL キーを使用して、[CI の選択] またはトポロジ・マップで複数の CI を同時に選択します。 <b>注：</b> 関連 CI の取得機能はフェデレート CI には使用できません。
<b>関連タスク</b>	225 ページの「関連 CI の表示」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	前の検索結果を表示します。
	次の検索結果を表示します。
	このボタンが選択されている場合、関連 CI が現在の結果に追加されます。選択されていない場合は、現在の表示内容がクリアされ、新しい関連 CI のみが表示されます。
<b>パースペクティブを CI に追加</b>	<p>選択した CI に適用するパースペクティブをリストから選択します。リストには、選択した CI に関連するパースペクティブのみが表示されます。選択した CI は、選択したパースペクティブの内容として使用され、ビューの結果が表示されます。</p> <p><b>注：</b>パースペクティブの適用は、範囲として CMDB が選択されている場合のみ有効です。範囲に [ビュー] が選択されている場合、この機能は非アクティブです。</p>
<b>CI タイプで関連する CI をフィルタリング</b>	関連 CI の結果に表示する CI タイプをリストから選択します。選択した CI タイプのみが結果に表示されます。
<b>範囲の選択</b>	<p>関連 CI の表示範囲を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>表示：</b>選択したビュー内のすべての関連 CI。</li> <li>▶ <b>CMDB：</b>CMDB 内のすべての関連 CI。</li> </ul> <p><b>注：</b>この機能は、ショートカット・メニューから開いた [CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックスでは使用できません。</p>
<b>関連 CI を表示</b>	クリックすると、選択した範囲に応じて関連 CI が表示されます。

## [新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI または新しい関連 CI を定義できます。

<b>利用方法</b>	IT ユニバース・マネージャで、ツールバーの [New CI] アイコン  をクリックして非関連 CI を作成します。トポロジ・マップで CI を選択し、[New Related CI] アイコン  をクリックして関連 CI を作成します。
<b>重要情報</b>	<p>新しい CI を定義するには、ダイアログ・ボックスの上部のツリーで CI タイプを選択します。インスタンスを作成できるツリーの CI タイプは、黒色に表示されます。淡い色のテキストで表示されている CI タイプは、インスタンスを作成できません。</p> <p>[新規 CI プロパティの定義] 領域でプロパティを編集します。下のテーブルには、すべての CI に共通するプロパティが表示されます。また、各 CI に固有のプロパティもあります。</p> <p>関連 CI を作成する場合は、[関係] ボタンをクリックしてダイアログ・ボックスの関係モードに移動します。関係を選択してプロパティを編集します。</p>
<b>関連タスク</b>	224 ページの「CMDB での CI と関係の作成」
<b>関連情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 155 ページの「CI の選択」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>Actual Deletion Period</b>	エイジング・メカニズムが有効なときに、CI を削除してからの期間です。
<b>Allow CI Update</b>	<p>値が true に設定されている場合、このオプションは、DFM プロセスが検出した情報を使用して CI プロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合、値は検出された値によって上書きされます。</p> <p>値が false に設定されていると、CI プロパティは DFM プロセスによって上書きされません。</p>

UI 要素	説明
Created By	手動で CI を作成した管理者のユーザ名（該当する場合）です。
Create Time	CI が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	エイジング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
Description	CI の説明です。
Display Label	トポロジ・マップに表示される CI のラベルです。
Enable Aging	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合（CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど）、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> :False。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
Is Candidate For Deletion	CI が削除の候補であることを表します。
Last Access Time	<p>DFM による更新または検出時に、CI が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
Last Modified Time	CI のプロパティが最後に更新された日時です。
Name	CI の名前です。
Note	CI に関する、ほかの情報を入力できます。

UI 要素	説明
Origin	CI を自動的に作成したソース, または CI が作成されたアプリケーションの ID です。
Relationship	関連 CI については, [Relationship] をクリックしてダイアログボックスの関係モードに移動します。
Select CI Type	新しい CI の CI タイプをツリーから選択できます。選択した CI またはビューに利用できる CI タイプが, CI タイプ・ツリーでアクティブになります。ほかの CI タイプは, 淡い色のテキストで表示されて選択できません。  CI タイプ・ツリーを現在のビューからの CI タイプに制限するには, 右側の [現在のビューからの CI タイプ] を選択します。すべての CI タイプをツリーに表示するには, [すべての CI タイプ] を選択します。
Updated By	CI のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
User Label	CI の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合, CI 名が標準設定ラベルとして表示されます。

### [関係] ダイアログ・ボックス

このページでは, 新しい CI とビューで選択した CI 間の関係, および関係のプロパティを定義できます。

利用方法	[新規関連 CI] ダイアログ・ボックスで [関係] ボタンをクリックします。
重要情報	このページは, 新しい関連 CI でのみ表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
Allow CI Update	値が true に設定されていると, DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
CI の定義	[CI 定義] をクリックすると, ダイアログ・ボックスの CI プロパティ・モードに戻ります。

UI 要素	説明
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名 (該当する場合) です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Description	関係の説明です。
方向	ドロップダウン・リストで関係の方向を選択します。
Enable Aging	<p>CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていないときなど), エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : <b>False</b>。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エージング・メカニズムが無効の場合, このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは, 特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
Last Access Time	<p>DFM による更新または検出時に, 関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは, 特定の関係に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは, エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
<b>Must</b>	<p>値を <b>true</b> に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するとき子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に <b>[Must]</b> を定義して、サブツリーの上位までステータスを致命的にする必要がある場合があります。</p> <p>関係に定義した <b>Must</b> ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。</p>
<b>Name</b>	CI の名前です。
<b>Network Address</b>	ルート・リンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先のネットワーク・アドレスを示します。
<b>Note</b>	CI に関する、ほかの情報を入力できます。
<b>Origin</b>	関係を自動的に作成したソース、または関係が作成されたアプリケーションの ID です。
<b>関係</b>	2 つの CI の間に作成する関係のタイプを定義できます。
<b>ソース CI</b>	関係の 1 つ目の CI の名前です。これはビューで選択した CI です。
<b>ターゲット CI</b>	関係の 2 つ目の CI の名前です。これは作成中の新しい CI です。
<b>Updated By</b>	関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
<b>Update Time</b>	CI のプロパティが最後に更新された日時です。



UI要素	説明
User Label	関係の表示ラベルを定義できます。
Weight	<p>重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば、子 CI に 3 の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べて、親のステータスの計算に 3 倍の影響があります。</p> <p>関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。</p>


## [CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CMDB で指定した CI に関連する CI を、マップ形式またはテーブル形式で表示できます。

利用方法	ITユニバース・マネージャで、対象の CI を右クリックして「 <b>関連 CI の取得</b> 」を選択します。
重要情報	<p>[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックスは、ITユニバース・マネージャの「<b>関連 CI</b>」タブのスタンドアロン・バージョンです。「<b>関連 CI を取得</b>」表示枠内の機能を使用して、表示内容を制御できます。詳細については、266 ページの「<b>関連 CI を取得</b>」表示枠を参照してください。</p> <p>[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・ボックスでは、関連 CI の表示範囲を選択できません。範囲は CMDB 全体となります。</p> <p><b>注:</b> テキスト・モード形式には、「要素インスタンス」ダイアログ・ボックスで使われているアイコンが使用されます。詳細については、75 ページの「要素インスタンス」ダイアログ・ボックスを参照してください。</p>
関連タスク	225 ページの「 <b>関連 CI の表示</b> 」




## [影響分析を実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響分析マネージャで該当のビューに定義した影響ルールを実行できます。

<b>利用方法</b>	[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択します。トポロジ・マップでトリガ・クエリ・ノードを右クリックして [影響分析を実行] を選択するか, [IT ユニバース] ステータス・バーで [直ちに影響分析を実行] ボタン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	<p>次のことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ CI の影響を受けるすべての CI を新しいウィンドウに表示できます。マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。詳細については、276 ページの「マップを表示」を参照してください。</li> <li>▶ 影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。詳細については、275 ページの「ビューで表示」を参照してください。</li> <li>▶ シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストを表示するレポートを生成できます。詳細については、275 ページの「レポートを生成」を参照してください。</li> </ul> <p><b>注:</b> このダイアログ・ボックスは、該当のビューに影響ルールが定義されている場合にのみ表示されます。詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p>
<b>関連タスク</b>	230 ページの「影響分析結果の取得 -シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
すべての影響ルール	選択すると、影響分析のすべての影響ルールを実行します。
影響ルールのバンドル	影響分析に必要な影響ルールを含むバンドルを選択します。

UI要素	説明
レポートを生成	<p>影響分析レポートを生成します。このレポートに表示される情報は、次のように分かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CIT 別のグループ化</b>：影響を受けるすべての CI（シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI）。CIT で並べ替えられます。</li> <li>▶ <b>影響を受けるアプリケーション</b>：影響を受けるすべての CI のうち、特定のビジネス サービスに属するもの。</li> <li>▶ <b>トリガ CI</b>：システムに加える変化を表す CI。</li> </ul> <p>影響分析レポートの詳細については、442 ページの「影響分析レポート」を参照してください。</p>
特定のバンドル内の影響ルールのみ	<p>影響分析の指定されたバンドルから影響ルールを実行する場合に選択します。</p>
ビューで表示	<p>選択した状態に関して、影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。トポロジ・マップには、トリガ CI のステータスに加えて、その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。</p> <p>トポロジ・マップには、次の影響分析インジケータも表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ CI は、この  インジケータが表示されます。</li> <li>▶ 影響を受け、トリガにもなる CI は、この  インジケータが表示されます。</li> <li>▶ 影響を受ける CI は、この  インジケータが表示されます。</li> </ul> <p><b>注</b>：ここに表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネージャでその状態の重大度リストに定義されたものです。詳細については、537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI要素	説明
マップを表示	<p>影響ルールを選択して、選択した状態に関してトリガCIの影響を受けるすべてのCIのシミュレーションを、新しいウィンドウに表示できます。このCIに影響ルールが1つだけ定義されている場合は、[影響ルール]ウィンドウが直接表示されます。詳細については、280ページの「[影響を表示]表示枠」を参照してください。</p> <p>マップ内の関係は、影響ルールを表します。また関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。</p> <p><b>注：</b>[マップを表示]では、複数のトリガの結果を表示できます。</p>
トリガの重大度	<p>スケールから必要な重大度を選択します。</p> <p><b>注：</b>状態の重大度スケールは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、503ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</p> <p>たとえば影響分析マネージャでは、トリガ・クエリ・ノードの重大度を[Warning (1)]以外に定義する影響ルールを作成できます。この場合、[Warning (1)]以外の重大度（たとえば[Minor (3)]）を選択すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム内の変化がトリガされます。</p> <p>詳細については、491ページの「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

## [スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューのスナップショットを取り、保存できます。


利用方法	ITユニバース・マネージャで、CIの選択から[スナップショット]ボタン  をクリックし、[スナップショットを保存する]を選択します。
重要情報	スナップショット比較レポートを使うと、異なる時間に取りれた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。詳細については、422ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。
関連タスク	238ページの「ビューのスナップショットの取得」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
詳細	スナップショットの説明です (任意指定)。
注	スナップショットに関するメモです (任意指定)。
ビュー名	CI の選択に表示されるビューの名前です。このフィールドは編集できません。

## [ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI およびジョブをビューで再検出することによって、アプリケーションなどに対する最近の変更を調べることができます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>IT ユニバース・マネージャで、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビューの CI をすべて再検出するには、[CI の選択] ツールバーで [ディスカバリおよび変更のサマリを表示] ボタン  をクリックします。[ディスカバリのステータスおよびビューの変更を表示] ダイアログ・ボックスが表示されます。</li> <li>▶ 1 つまたは複数の CI をビューで再検出するには、CI を選択して、[詳細] 表示枠の [ディスカバリ] タブを表示します。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>標準設定では、10,000 個より少ない CI を含むビューに対して再検出手順を実行できます。</p> <p><b>ビューで再検出できる CI の数を増やすには、次の手順を実行します。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします ([管理] &gt; [インフラストラクチャ設定マネージャ])。</li> <li>2 インフラストラクチャ設定テーブルで、[再検出をサポートするビュー内の最大 CI 数] 設定を選択します。</li> <li>3 [値] カラムをクリックして数値を変更します。</li> <li>4 サーバを再起動して変更内容を反映させます。</li> </ol> <p>インフラストラクチャ設定マネージャの操作の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定マネージャ」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>227 ページの「アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出)」</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックすると、選択した CI のステータスが更新されます。このボタンは、再ロードするデータがないときには無効になっています。
	クリックすると、ディスカバリが再実行されます。
<b>ビュー上のディスカバリ進行ステータス</b>	詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
<b>ビューに関する変更履歴</b>	詳細については、242 ページの「[CI / 関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [影響を表示] 表示枠

このページでは、トリガ CI のステータスと、その影響を受ける CI のすべてのステータスを表示するウィンドウが開きます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで <b>[マップを表示]</b> をクリックします。</p> <p>影響分析がすでにアクティブになっている場合は、[IT ユニバース] ステータス・バーから <b>[影響分析はアクティブです]</b> リンクをクリックします。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>影響の結果</b>：選択した CI に影響を受けるすべての CI のマップを表示します。</li> <li>▶ <b>トリガ CI</b>：選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。</li> </ul> <p>影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響ルールを定義した場合のみです。詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p> <p>影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示するには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。</p> <p>マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>230 ページの「影響分析結果の取得 -シナリオ」</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<凡例>	<p>CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>追加済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CIが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響を受ける</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたCIを示します。</li> <li>▶ <b>影響を受けてトリガする</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガCIを示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CIが削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CIが変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CIにメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガCIを示します。</li> </ul>
<関係>	<p>これらの関係は、影響分析マネージャで定義した影響ルールを表します。詳細については、491ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<ステータスと各ステータスを表す色>	<p>表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネージャでその状態の重要度リストに定義されたものです。詳細については、537ページの「[リスト/列挙定義の作成/更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<ツールバー>	<p>[影響を表示] 表示枠のツールバーには、[ITユニバースマネージャ] ツールバーのボタンのほとんどがあります。</p>
< [トポロジマップ] サイドバー >	<p>詳細については、203ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>



# 8

---

## モデリング・スタジオ

本章の内容

### 概念

- ▶ モデリング・スタジオの概要 (285 ページ)
- ▶ ビュー形式 (286 ページ)
- ▶ ビジネス・ビューの構築 (287 ページ)
- ▶ テンプレートとパースペクティブ (290 ページ)
- ▶ 定義済みのフォルダとビュー (291 ページ)
- ▶ テンプレート・ベース・ビューの作成 (293 ページ)
- ▶ ビジネス CI モデル (294 ページ)
- ▶ パースペクティブ・ベース・ビューの作成 (296 ページ)
- ▶ 公開 CI と監視 (299 ページ)

### タスク

- ▶ パターン・ビューの作成 (304 ページ)
- ▶ テンプレートの作成 (305 ページ)
- ▶ パースペクティブの作成 (307 ページ)
- ▶ テンプレート ベース ビューの作成 (310 ページ)
- ▶ 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成 (312 ページ)
- ▶ レポート設定の定義 (314 ページ)
- ▶ インスタンス・ベース・モデルの作成 (315 ページ)
- ▶ パターン・ベース・モデルの作成 (317 ページ)
- ▶ モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 (319 ページ)

## 第8章・モデリング・スタジオ

- ▶ CIのコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 (320 ページ)

### 参照先

- ▶ モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース (321 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### モデリング・スタジオの概要

モデリング・スタジオは、ビューを作成、管理するためのツールです。独自のビューを作成することも、HP Universal CMDB に付属する用意済みのビュー（ファクトリ・ビュー）を利用することもできます。

構成管理データベース内の IT Universe model (IT ユニバース・モデル) は、何千もの configuration item (CI) (構成アイテム) (CI) を保持する大規模なモデルになることがあります。ビューでは、IT ユニバース・モデル全体のサブセットを構築して、特定の対象領域に関連する CI だけを保持できます。独自のビューを定義することにより、組織のビジネス・ニーズに関連する情報だけを表示できます。

HP Universal CMDB では、パターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、およびパースペクティブ・ベース・ビューの 3 つのビュー形式がサポートされます。これらのビューは、異なるプロセスを介してポピュレートされます。詳細については、286 ページの「ビュー形式」を参照してください。

## ビュー形式

HP Universal CMDB では、ビューを設定するための形式として次の 3 つのビュー形式がサポートされます。

- ▶ **パターン・ビュー**は、ビューの構造を定義する TQL (Topology Query Language) クエリから構築されます。ビューを構築するときに新しい TQL クエリを作成することも、既存のクエリに基づいてビューを構築することもできます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。ビューを表示または更新すると、モデリング・スタジオはクエリに適合するすべての要素を CMDB から検索し、それらの要素でビューを自動的に更新します。
- ▶ **テンプレート・ベース・ビュー**は、TQL クエリに基づいて作成され、さらにテンプレートが適用されます。テンプレートは、パラメータを含む再利用可能なビューです。これらの設定は、テンプレートの一部として保存されます。これにより、パラメータ情報を入力し直すことなく、同じ設定を持つビューを複数構築できます。ビューには、クエリ定義とテンプレートの条件に適合する CI と関係だけが表示されます。テンプレートの詳細については、290 ページの「テンプレートとパースペクティブ」を参照してください。
- ▶ **パースペクティブ・ベース・ビュー**は、個々の CI のコレクションを選択し、それにパースペクティブと呼ばれる特殊なテンプレートを適用することによって構築されます。インスタンス・ビューは廃止され、パースペクティブ・ベース ビューに置き換えられました。パースペクティブの詳細については、290 ページの「テンプレートとパースペクティブ」を参照してください。

左表示枠のビュー・ツリーから編集するビューを選択すると、ビューが対応するエディタの編集表示枠で開きます。

## ビジネス・ビューの構築

モデリング・スタジオでは、独自のビューを定義して、ビジネス環境をモデル化できます。

本項の内容

- ▶ 287 ページの「ビューの構造」
- ▶ 288 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 289 ページの「トポロジ・レポート」

### ビューの構造

作成したビューは、ビジネス・ユーザに自社の構造、プロセス、および目標の論理的な表現を提供します。これらの要件を満たすには、通常、ビジネスのさまざまな側面を表現する複数のビューを構築します。たとえば、次の側面を中心とするビジネス・ビューを構築できます。

- ▶ 企業の構造：支店の地理的な位置やデータ・センターなどを基準にしてデータが分類されます。
- ▶ ビジネス プロセス：ビジネス ラインやアプリケーションを基準にしてデータが分類されます。
- ▶ ビジネスの目標：売り上げや主要カスタマを基準にしてデータが分類されます。

ビューは組織の個々の要求によって異なり、ビューの実際の階層構造にはそれらの要求が反映されます。

ビューの通常の階層形式は次のとおりです。

- ▶ **最上位レベル**：ビューの最上位レベルは、ルート CI とその下の分岐で構成され、通常は**場所**、**ビジネス ライン**、**カスタマ**、**アプリケーション**などの論理的な**ビジネス CI** タイプから構築されます。
- ▶ **中間レベル**：ビューの中間の分岐は、通常、実際のハードウェアやソフトウェアを表す**システム CI** タイプ、またはモニタを含むグループを表す**モニタ・グループ CI** タイプ、あるいはその両方で構成されます。

- ▶ **最下位レベル** : ビューの最下位レベルは、サブツリーの末端にあるリーフ CI で構成され、**モニタ CI** タイプから構築されます。

---

**注** : 最下位レベルは、HP Business Service Management などの監視ソリューションが CMDB に接続され、モデル化されている場合にのみ関連します。

---

## ビュー階層の設定

パターン・ビュー・エディタでは、画面右側の [階層] 表示枠を使用してビュー階層を設定できます。階層を設定するには、**手動**と**ルール・ベース**の 2 つの方法を使用できます。標準設定では、手動メソッドが選択されています。

### 手動の階層メソッド

手動の階層メソッドでは、ビューのクエリ・ノードはツリー形式で表示されます。階層を作成するには、選択したクエリ・ノードを手動で別のクエリ・ノードの下にドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。クエリ・ノードを別のクエリ・ノードの下に移動できるのは、作成後の階層が有効な場合のみです。詳細については、356 ページの「[階層] 表示枠」を参照してください。

ビューから階層に 1 つのクエリ・ノードを複数回配置することができます。配置したら、必要なレイアウトに応じて、クエリ・ノードが異なるレイヤに表示されるように階層を調整できます。作成されたビューは、別のクエリ・ノードを TQL クエリに追加した場合と同じになります。階層で同じクエリ・ノードを 2 回使用すると、より簡単な TQL クエリを使用して必要なビューを作成できます。



## クエリ ノードのグループ化



ビュー階層を手動で設定する場合、表示が見やすくなるようにサブグループを作成して異なる基準で CI をグループ化できます。[次の項目別にグループを追加] ボタンをクリックして、次のオプションのいずれかを選択します。トポロジ・マップ内に同じタイプの CI のサブグループを作成するには、[タイプ別グループを追加] オプションを使用します。特定のクエリ・ノードのサブグループを作成するには、[クエリ ノード別グループを追加] オプションを選択します。共通の属性で CI をグループ化するには、[属性別グループを追加] ボタンを使用し、367 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」で説明されている方法で正規表現を入力します。正規表現の詳細については、599 ページの「正規表現の例」を参照してください。

ネストされたグループ（内部に別のクエリ・ノード・グループを含むクエリ・ノード・グループ）を作成することにより、トポロジ・マップに表示される TQL クエリの結果を微調整することもできます。

たとえば、ノード・タイプのクエリ・ノードを CIT でグループ化した後、**operation state** 属性を使用してより焦点を絞ったグループを作成できます。

## ルール・ベースの階層メソッド

ルール・ベースの階層メソッドでは、[階層ルール] ダイアログ・ボックスを使用して階層ルールを定義します。ソース CIT、ターゲット CIT、関係タイプ、関係の方向を選択して、階層ルールの条件を定義します。定義した条件を満たす CI がビュー内にあった場合、その CI はルールの対象となります。つまり、ターゲット CI がソース CI の配下のレイヤに配置されます。階層ルールの定義の詳細については、331 ページの「[階層ルール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## トポロジ・レポート

レポート・モジュールでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。このようなレポートは、ビューの**トポロジ・レポート**と呼ばれます。トポロジ・レポート設定は、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタの [レポート] タブで定義します。トポロジ・レポートの詳細については、392 ページの「トポロジ・レポートの概要」を参照してください。

## テンプレートとパースペクティブ

テンプレートは、定義されたパラメータを持つ再利用可能なパターンです。テンプレートを使用してテンプレート・ベース・ビューを構築し、個々のビューのパラメータ値を設定します。テンプレートに対して行った変更は、そのテンプレートに基づいて作成された既存のすべてのビューに影響します。

テンプレート・ベース・ビューは、パターン・ビューと同様に IT ユニバース・マネージャで開くことができます。IT ユニバース・マネージャでは、テンプレート自体を開いてさまざまなパラメータ値の結果を表示することもできます。結果を保存する場合は、テンプレート・ベース・ビューとして保存する必要があります。テンプレート、テンプレート・ベース・ビュー、パターン・ビューはパターン・ビュー・エディタで定義します。

パースペクティブは、特定の CI のコレクションに適用するために設計されたテンプレート的一种で、パターン・ビューのパターンと似ています。たとえば、パースペクティブを IP Address が含まれるノードで構成できます。その場合、作成されたパースペクティブ・ベース・ビューには、ノード CI に含まれる IP Address と一緒に CI の選択にある CI のすべての CI が表示されます。

最も基本的なパースペクティブは **Content Only** パースペクティブと呼ばれるもので、クエリ・ノードそのものだけで構成されます。**Content Only** パースペクティブを CI のコレクションに適用した場合、結果のビューに含まれるのは選択された CI のみです。

パースペクティブは、パターン・ビュー・エディタでも作成、編集されます。パターン・ビュー・エディタでは、複数のビュー、テンプレート、パースペクティブを同時に開くことができます。

パースペクティブは、IT ユニバース・マネージャのビューのリストには表示されませんが、パースペクティブ・ベース・ビューは、ほかのビューと同様に IT ユニバース・マネージャで開くことができます。詳細については、296 ページの「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」を参照してください。

このように、モデリング・スタジオの CI の選択にある [リソース] タブのビュー・ツリーには、次の 5 つの個別のエンティティを含めることができます。

- ▶ パターン・ビュー
- ▶ テンプレート
- ▶ テンプレート・ベース・ビュー

- ▶ パースペクティブ
- ▶ パースペクティブ・ベース・ビュー

ツリーにフィルタを設定して、表示するビューまたはテンプレートのタイプを選択できます。

次の表には、ビューのタイプと、作成および表示する場所がまとめられています。

ビューのタイプ	作成場所	IT ユニバース・マネージャで開けるか
パターン・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
テンプレート	パターン・ビュー・エディタ	はい (現在のセッションでのみ)
テンプレート・ベース・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
パースペクティブ	パターン・ビュー・エディタ	なし
パースペクティブ・ベース・ビュー	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ	はい

## 定義済みのフォルダとビュー

モデリング・スタジオの CI の選択にある [リソース] タブのビュー・ツリーには、以降のセクションで説明するように、定義済みのフォルダとビューが含まれています。

- ▶ 291 ページの「定義済みのフォルダ」
- ▶ 292 ページの「ファクトリ・ビュー」
- ▶ 292 ページの「定義済みのパースペクティブ」

### 定義済みのフォルダ

CI の選択の階層ファイル・フォルダ・システムは、ビューの整理に役立ちます。定義済みのフォルダは、用意済みのビューのために提供されています。これらのフォルダを変更したり、組織の要件に合わせてフォルダを追加したりできます。

## ファクトリ・ビュー

HP Universal CMDBには、用意済みのパターン・ビュー、テンプレート、およびパースペクティブが含まれています。これらのビューを使って、CMDB の使用を簡単に始めることができます。

用意済みのビューは、初期状態では空です。各パターン・ビューに組み込まれた TQL クエリは、いずれかの CI ジェネレータによって CI が CMDB に追加された直後から、パターンの要件に適合する CI を認識し、それらをビューに追加できるようになります。

CI のビューは、検出プロセスが実行されたときに作成されます。付属する用意済みのビューは、関連するデータ・フロー管理 (DFM) パッケージに対応しています。たとえば、Oracle ビュー (**[Root] > [Database] > [Oracle] > [Oracle]**) には、データ・フロー管理で Database — Oracle モジュールがアクティブ化されたときに作成された CI が設定されます。DFM の実行の詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「ディスカバリ・コントロール・パネルのアドバンス・モード・ワークフロー」を参照してください。

用意済みのビューの一部は、システムにとって基本的なものとみなされ、フォルダから削除できません。

## 定義済みのパースペクティブ

HP Universal CMDB には、用意済みのパースペクティブも用意されています。その一例として、追加の CI がなく、ビュー・コンテンツ自体の要素だけが含まれている Content Only パースペクティブがあります。

## テンプレート・ベース・ビューの作成

同じテンプレートに基づくテンプレート・ベース・ビューには、同じクエリ・ノードと関係が含まれています。異なるのはパラメータ値のみです。テンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベース ビュー] ウィザードを使用して作成します。このウィザードでは、同じテンプレートを使用して一度に複数のビューを作成できます。複数のビューを作成するときは、パラメータ値を手動で入力するか、CSV ファイルからインポートするかを選択できます。値をインポートするには、ウィザードで CSV ファイルを正しく整形する必要があります。最初の行に少なくとも 1 つのテンプレート・パラメータの名前を含める必要があります。また、そのパラメータに少なくとも 1 つのレコードを含める必要があります。レコードは個別の行に含める必要があります、各レコードのパラメータ値はコンマで区切って、同じ行内に含める必要があります。

また、ウィザードではパラメータ値に基づいてビュー名の式を定義できる [Advanced Naming] 機能を提供します。たとえば、ベース・テンプレートが **Server\_Template** という名前で、テンプレートのパラメータの 1 つが **シリアル番号** である場合、ビュー名を **Server <シリアル番号>** と定義できます。このように、ウィザードではパラメータのシリアル番号の各値を各ビューの名前に自動的に挿入します。

CSV ファイルから値をインポートするときにビューに名前を割り当てる別の方法では、**template\_based\_view\_name** というファイルにカラムを含めます。このカラムに対応するファイル・エントリは、ウィザードでビュー名として自動的に入力されます。なお、この命名方法は [Advanced Naming] 機能よりも優先されます。つまり、[Advanced Naming] が選択されている場合でも、ファイルの **template\_based\_view\_name** カラムのエントリにビュー名が割り当てられます。

テンプレート・ベース・ビューの作成の詳細については、376 ページの「[テンプレート ベース ビュー] ウィザード」を参照してください。

また、エディタでビューが開いているときは、[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスからテンプレート・ベース・ビューのパラメータを編集することもできます。詳細については、382 ページの「[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

テンプレート・ベース・ビューのレポート・レイアウトは編集できません。レポート・レイアウトを変更するには、ビューのベース・テンプレートで変更を行う必要があります。

## ビジネス CI モデル

本項の内容

- ▶ 294 ページの「インスタンス・ベース・モデル」
- ▶ 295 ページの「パターン・ベース・モデル」

パースペクティブ・ベース・ビューのビュー・コンテンツを構成する CI のコレクションの選択方法は 2 つあります。1 つは、CI の選択から CI を選択し、それを編集表示枠にドラッグするという方法です。この場合、パースペクティブをコレクションに適用することによってビューを作成できます。このコレクションをほかのビューで再利用するには、選択プロセスを繰り返す必要があります。ビューに表示する CI を選択するもう 1 つの方法は、モデルを作成するというものです。

モデルとは、ビジネス・サービスやビジネス内容などのビジネス・エンティティを定義する CI インスタンスの再利用可能コレクションです。モデルを作成することで、異なるビューを作成するほかのパースペクティブで再利用可能な CI のコレクションが作成されます。その後、モデルに加えた変更は、そのモデルをベースとしているすべてのビューに反映されます。モデルには次の 2 つのタイプがあります。インスタンス・ベース・モデルとパターン・ベース・モデルです。

### インスタンス・ベース・モデル

インスタンス・ベース・モデルの作成では、まずベースとなるビジネス CI を選択します。使用可能なビジネス CI は、グループ、アプリケーション、ビジネス・サービス、ビジネス単位、ビジネス内容などです。そして、次の方法で CI をモデルに追加します。

- ▶ CI の選択から [モデル エディタ] に手動で CI をドラッグします。
- ▶ 公開パスを使用して関連 CI を公開して選択し、モデルに追加します。
- ▶ 選択した CI に監視を定義して、自動的に CI をモデルに追加します。

また、CI を空のキャンバスにドラッグし、[新規モデルの作成] を選択するという方法でもモデルの作成を開始できます。

作成したモデルは CI そのものであり、モデル内の CI は **Contains** 関係によってそのモデルに関連付けられます。ビューの作成のためにパースペクティブをモデルに適用する前に、モデルを保存しておく必要があります。

---

**注意：**モデルに加えた変更は、そのモデルに基づいているビューだけでなくユニバース全体に影響します。したがって、モデルから CI を削除すると、CI 間に存在していた関係が CMDB から削除されることとなります。

---

IT ユニバース・マネージャで作業を行う場合は、選択した CI を直接新規モデルまたは既存のモデルに追加できます。詳細については、239 ページの「[CI をモデルに追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### パターン・ベース・モデル

もう 1 つの構築可能なモデルは、パターン・ベース・モデルです。パターン・ベース・モデルでは、含まれる CI を手動で選択するのではなく、それらを判別する TQL クエリを定義します。パターン・ベース・モデルを既存の TQL クエリに基づいて構築することも、新しい TQL クエリを作成することもできます。

モデルの TQL クエリには少なくとも 1 つのクエリ・ノードをモデルの出力として指定する必要があります。そのタイプの CI が TQL クエリのパターンに一致すれば、その CI がモデル出力に含まれます。

通常モデルと同様、作成したパターン・ベース・モデルは、CI として保存されます。また、パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成するために使用されます。作成された新しい TQL クエリは通常のクエリとして保存され、パターン・ビューのベースとして使用されます。

## パースペクティブ・ベース・ビューの作成

パースペクティブ・ベース・ビューは、モデルまたは CI のコレクションに適用されるパースペクティブによって構成されます。パースペクティブは、IT ユニバース・モデルのサブセットに適用されるように設計された特別なタイプのテンプレートです。

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタの [コンテンツ] 表示枠には、ビューのベースとするために選択したモデルまたは CI が表示されます。[パースペクティブ] 表示枠には選択したパースペクティブが表示されます。[結果の表示] 表示枠には、選択したコンテンツとパースペクティブに基づいた結果のビューが表示されます。コンテンツまたはパースペクティブの選択を変更すると、それに応じて [結果の表示] 表示枠のビューが更新されます。詳細については、361 ページの「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 296 ページの「コンテンツ」
- ▶ 297 ページの「パースペクティブ」
- ▶ 298 ページの「複数のパースペクティブに基づいたビュー」
- ▶ 299 ページの「子 CI の包含と除外」

### コンテンツ

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツは、次の 2 つの方法で選択できます。

- ▶ CI の選択を使用して、個々の CI を手動でビューに追加できます。コレクションの CI は互いに独立しています。この場合、CI のコレクションはモデルとして定義されず、ほかのビューで再利用できません。
- ▶ CI の選択を使用して、1 つ以上のモデルをビューに追加できます。あるいは、[モデル エディタ] でモデルを扱うところから始めて、[選択したモデルのビューを生成] を選択し、そのモデルに基づいたビューを作成することもできます。この場合、同じモデルを選択することによって、同一のコンテンツで別のビューを作成できます。

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成する際、個々の CI とモデルの両方を選択できます。ただし、その場合、モデルは普通の CI として扱われます。モデル自体は、子 CI の階層なしでビューに含まれます。



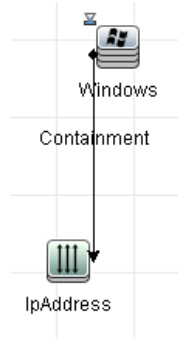
IT ユニバース・マネージャで作業を行う場合は、選択した CI を直接新規または既存のパーспекティブ・ベース・ビューのコンテンツに追加できます。詳細については、240 ページの「[CI をビューに追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## パーспекティブ

ビューに対して選択したパーспекティブによって、ビューに含まれる CI が決まります。パーспекティブは、テンプレートに似た再利用可能なパターンです。パーспекティブと通常のテンプレートの違いは、パーспекティブには**コンタクト・クエリ・ノード**として指定されている 1 つ以上のクエリ・ノードが含まれるという点です。コンタクト・クエリ・ノードとは、パターン内のクエリ・ノードで、特定のコンテンツにパターンを適用するのに使用され、クエリ・ノードの横に表示される小さいアイコンで示されます。



たとえば、次のパーспекティブでは、Windows タイプのクエリ・ノードがコンタクト・クエリ・ノードとして指定されており、IP Address が Containment 関係によって関連付けられています。



このパーспекティブが CI コレクションに適用された場合、結果のビューには、元のコレクションのすべての CI とコレクションの Windows CI（パーспекティブを適用して追加された CI）に接続されている IP Address が表示されます。

パーспекティブには複数のコンタクト・クエリ・ノードを含めることができますが、パーспекティブ内の切断されたグラフごとに少なくとも 1 つのコンタクト・クエリ・ノードが必要です。

パーспекティブに変更を加えると、そのパーспекティブに基づいているすべてのビューが影響を受けます。

## 複数のパースペクティブに基づいたビュー

複数のパースペクティブを選択してビューのコンテンツに適用できます。複数のパースペクティブを選択するには、次の 2 つの方法があります。

- ▶ パースペクティブ・グループ
- ▶ パースペクティブ・チェーン

**パースペクティブ・グループ**では、複数のパースペクティブを選択して同じ入力コンテンツに同時に適用します。

**パースペクティブ・チェーン**では、複数のパースペクティブをビュー作成の異なるレベルで選択します。第 1 レベルのパースペクティブは元のビュー・コンテンツに適用され、CI コレクションの形式で結果を生成します。この CI コレクションが次のレベルの入力コンテンツになります。第 2 レベルのパースペクティブはこのコンテンツに適用され、ビューの結果を生成します。複数レベルのパースペクティブに基づいてビューを構築し、各レベルで次のレベルの入力コンテンツを生成することができます。

パースペクティブ・グループとパースペクティブ・チェーンの両方を同時に適用することもできます。この場合、パースペクティブ適用対象のレベルごとに複数のパースペクティブを選択します。

たとえば、**IP Subnet CI** のコレクションを入力コンテンツとして選択し、IP サブネットに関連する**ノード CI** を追加するパースペクティブを第 1 レベルのパースペクティブとして選択します。この段階の結果は、元の **IP Subnet** とそれに関連するノードで構成されます。次に、第 2 パースペクティブ・レベルを追加し、それに対して 2 つのパースペクティブを選択します。一方はノードに関連する **CPU CI** を追加し、もう一方はノードに関連する **File System CI** を追加します。最終結果には、元の **IP Subnet** とそれに関連するノード、それらのノードに関連する CPU およびファイル・システムが含まれます。

このようなオプションによって、パースペクティブの機能が各構成部分に分解されるため、パースペクティブ・ベース・ビューを作成するプロセスが簡略化されます。必要なビューごとに別個の大きく複雑なパースペクティブを構築するのではなく、小さく基本的なパースペクティブから特定のケースの要件に合わせてカスタム・パースペクティブの組み合わせを構築できます。

## 子 CI の包含と除外

子が存在する CI をビューに追加するとき、選択した CI タイプの子がパースペクティブのパターンに含まれている場合にのみ、CI とその子がビューに含まれるようになります。この場合、そのタイプのすべての CI の子が含まれます。ビューの作成後、ビュー上で特定の CI を非表示にできます。それには、[結果の表示] 表示枠で CI を選択し、ショートカット・メニューから [**ビューから CI を非表示**] を選択するか、ツールバーの [**ビューから CI を非表示**] ボタンをクリックします。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加され、ビューの基礎となっている元のコンテンツの一部ではない CI に対してのみ有効です。したがって、ビューが CI のコレクションに基づいている場合、そのコレクションの CI はビューで非表示にできません。ビューがモデルに基づいている場合、そのモデル自体はビューで非表示にできませんが、そのモデルに含まれている CI は非表示にできます。

## 公開 CI と監視

モデリング・スタジオでは、2 つの高度な方法、すなわち関連 CI の公開および監視の定義という方法で既存のモデルに CI を追加できます。

本項の内容

- ▶ 299 ページの「CI の公開」
- ▶ 302 ページの「監視」

## CI の公開

モデルを作成する方法の 1 つは、モデル内で CI に関連する CI を追加することです。モデリング・スタジオには、そのような CI を公開するのに役立つツールが用意されています。関連 CI を公開するプロセスには、公開パスの作成が含まれます。公開パスは、互いに関連する CI タイプのチェーンです。公開パスの最初のアイテムは、CI の公開を開始した CI の CI タイプです。モデリング・スタジオは、関連 CI をすべて探し出し、その CI タイプを一覧表示します。いずれかのタイプを選択して、パスの次のステップを作成します。ダイアログ・ボックス下部の表示枠に、そのタイプの関連 CI がすべて表示されます。ここで、モデルに含める CI を選択できます。パスの次のステップを作成するには、このプロセスを繰り返します。

## 第 8 章 • モデリング • スタジオ

たとえば、Windows タイプの CI から CI の公開を開始する場合、インタフェース、ネットワーク、IP といったタイプの関連 CI が公開されるかもしれません。ネットワークを選択すると、下部の表示枠にネットワーク・タイプの関連 CI が表示されます。その関連 CI を CI バスケットにドラッグするか、CI バスケットアイコンをクリックすれば、モデルに追加することができます。



[次へ] をクリックすると、選択したネットワークを使用してパスの次のステップが作成されます。Windows, UNIX, IP といったタイプの関連 CI が公開されます。UNIX を選択すると、下部の表示枠に UNIX の CI が表示されます。選択した CI を [CI バスケット] 表示枠にドラッグすれば、モデルに追加することができます。



[次へ] をクリックすると、選択した UNIX を使用してパスの次のステップが作成されます。



この場合、**Windows > Network > Unix** の公開パスが作成されます。各ステップで、公開されている関連 CI をモデルに追加するというオプションもあります。CI の公開の詳細については、369 ページの「[CI を公開] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CI を公開せずに公開パスを作成することも可能です。詳細については、328 ページの「[公開パスの作成 / 編集 / 保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 監視

モデルに追加する関連 CI を探し出すもう一つの方法は、モデル内の選択した CI に監視を定義するというものです。監視は、指定されたタイプの関連 CI が新しく作成されたときにトリガされるメカニズムです。どの監視も公開パスと関連付けて定義されます。公開パスに含まれる CI タイプの関連 CI が新しく作成されると、監視がトリガされ、モデルの横にインジケータが表示されます。監視の定義の詳細については、350 ページの「[新規監視] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注:** 新しいモデルは、CI に監視を定義する前に保存しておく必要があります。

---

監視によって検出された関連 CI はすべて、[監視の更新] ダイアログ・ボックスに表示されます。このダイアログ・ボックスでは、モデルに追加する関連 CI を選択したり、抑制する、つまりモデルから除外する関連 CI を選択したりできます。詳細については、388 ページの「[監視の更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

また、検出された CI を自動的にモデルに含めるというオプションもあります。それには、[新規監視] ダイアログ・ボックスのチェック・ボックスを選択します。この場合、監視で検出されたすべての CI がモデルに追加されます。

監視は、モデルに関連しなくなったモデル内の CI を検出するのにも使用できます。このような CI は、監視に関連付けられている公開パスをたどって探し出された場合、[監視の更新] ダイアログ・ボックスにも表示されます。モデルから CI を削除するという提案を受け入れることができます。また、その提案を受け入れず、モデルに CI を残しておくこともできます。

---

**注:** 監視は個々の CI に定義されますが、監視の結果、モデル内のすべての CI の公開パスに含まれている CI タイプの関連 CI が表示されます。

---

---

---

## タスク

---

---


### パターン・ビューの作成

このタスクでは、パターン・ビューを作成してその TQL クエリを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 304 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く」
- ▶ 304 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 305 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 305 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 305 ページの「権限の設定」

#### 1 パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く

[**新規作成**] ボタン  をクリックして [**パターン ビュー**] を選択します。[新規パターン ビュー] ダイアログ・ボックスで、新しいビューの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。パターン・ビュー・エディタが開きます。詳細については、349 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

#### 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

---


**注:** 空のビューで開始する場合、ビューを保存するには、クエリ・ノードを少なくとも 1 つ追加する必要があります。

---



### 3 ビュー階層の設定

ビューの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[保存]  をクリックしてビューを保存します。

### 4 レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、314 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

### 5 権限の設定

新しいビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal Cmdb 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。


## テンプレートの作成

このタスクでは、新しいテンプレートを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 306 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く」
- ▶ 306 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 306 ページの「パラメータ値の設定」
- ▶ 306 ページの「テンプレート階層の設定」
- ▶ 307 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 307 ページの「権限の設定」

## 1 パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く

[**新規作成**]  ボタンをクリックして [テンプレート] を選択します。[新規テンプレート] ダイアログ・ボックスで、新しいテンプレートの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、349 ページの「[新規パターンビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

---

**注:** 空のテンプレートで開始する場合、テンプレートを保存するには、クエリ・ノードを少なくとも 1 つ追加する必要があります。

---

## 3 パラメータ値の設定

TQL クエリ内のノードまたは関係を右クリックして、[クエリ ノードのプロパティ] を選択します。[属性] タブで、パラメータ化された値を持つ属性を追加します。詳細については、83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。


---

**注:** パラメータを設定しない場合、テンプレートを保存するときにパターン・ビューとして保存する必要があります。

---

## 4 テンプレート階層の設定

テンプレートの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[保存]  をクリックしてテンプレートを保存します。

## 5 レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、314 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

## 6 権限の設定

新しいテンプレートのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal Cmdb 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。


## パースペクティブの作成

このタスクでは、新しいパースペクティブを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 308 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く」
- ▶ 308 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 308 ページの「コンタクト・クエリ・ノードの選択」
- ▶ 308 ページの「パースペクティブ階層の設定」
- ▶ 309 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 309 ページの「権限の設定」

## 1 パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く

[**新規作成**] ボタン  をクリックして [**パースペクティブ**] を選択します。  
[新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックスで、新しいパースペクティブの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、349 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

## 3 コンタクト・クエリ・ノードの選択

TQL クエリでコンタクト・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを少なくとも 1 つ選択します。クエリ・ノードを右クリックし、[**コンタクト クエリ ノードとして設定**] を選択します。


---

**注:** コンタクト・クエリ・ノードを選択しない場合、パースペクティブを保存するときにパターン・ビューとして保存する必要があります。

---

## 4 パースペクティブ階層の設定

パースペクティブの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、288 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[**保存**]  をクリックしてパースペクティブを保存します。

## 5 レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートの列の順序の設定、各列の並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、314 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

## 6 権限の設定

新しいパースペクティブのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## テンプレート ベース ビューの作成

このタスクでは、1つのテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。


このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 310 ページの「前提条件」
- ▶ 310 ページの「新しいテンプレート・ベース・ビューの定義」
- ▶ 310 ページの「テンプレートの選択」
- ▶ 311 ページの「パラメータ値の追加方法を選択する」
- ▶ 311 ページの「パラメータの設定」
- ▶ 311 ページの「権限の設定」

### 1 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、305 ページの「テンプレートの作成」を参照してください。

### 2 新しいテンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベース ビュー] ウィザードを使って定義します。[新規作成] ボタン  をクリックして [テンプレート ベース ビュー] を選択します。

### 3 テンプレートの選択

ウィザードの [テンプレートの選択] ページで、ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細については、377 ページの「[テンプレートの選択] ページ」を参照してください。


## 4 パラメータ値の追加方法を選択する

ウィザードの「パラメータ値をインポート」ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。詳細については、378 ページの「[パラメータ値をインポート] ページ」を参照してください。


## 5 パラメータの設定

[パラメータ] ページで、ビューのパラメータ値を入力します。詳細については、379 ページの「[パラメータ] ページ」を参照してください。

---

**注:** ビューの作成後、エディタのツールバーまたはショートカット・メニューから [パラメータを表示]  を選択して、パラメータを編集することもできます。

---

終了したら、[完了] をクリックしてエディタでビューを開きます。[保存]  をクリックすると、ビューが保存されます。

## 6 権限の設定

ビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成

このタスクでは、複数のテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。


このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 312 ページの「前提条件」
- ▶ 312 ページの「新しいテンプレート・ベース・ビューを定義する」
- ▶ 312 ページの「テンプレートの選択」
- ▶ 313 ページの「パラメータ値の追加方法とビューの命名方法を選択する」
- ▶ 313 ページの「パラメータの設定」
- ▶ 313 ページの「ビューを保存する場所を選択する」
- ▶ 313 ページの「ビューを保存する」
- ▶ 313 ページの「権限の設定」

### 1 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、305 ページの「テンプレートの作成」を参照してください。

### 2 新しいテンプレート・ベース・ビューを定義する

新しいテンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベース ビュー] ウィザードを使用して定義します。[新規作成] ボタン  をクリックして [テンプレート ベース ビュー] を選択します。

### 3 テンプレートの選択

ウィザードの [テンプレートの選択] ページで、ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細については、377 ページの「[テンプレートの選択] ページ」を参照してください。



#### 4 パラメータ値の追加方法とビューの命名方法を選択する

ウィザードの [パラメータ値をインポート] ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。また、[Advanced Naming] 機能を使用する場合は、このページのチェック・ボックスを選択します。詳細については、378 ページの「[パラメータ値をインポート] ページ」を参照してください。

#### 5 パラメータの設定

[パラメータ] ページで、ビューのパラメータ値を入力します。CSV ファイルからのパラメータ値のインポートを選択した場合は、パラメータ値がテーブルに自動的に入力されます。このページでは、ビュー名とパラメータ値を手動で編集できます。また、テーブルに新しいビューを追加したり、テーブルからビューを削除したりすることもできます。詳細については、379 ページの「[パラメータ] ページ」を参照してください。

#### 6 ビューを保存する場所を選択する

[ビューの場所を選択] ページで、新しいビューを保存するビュー・ツリーの場所を選択します。詳細については、380 ページの「[ビューの場所を選択] ページ」を参照してください。

#### 7 ビューを保存する

[サマリ] ページで、作成したビューの詳細を確認します。これ以上変更しない場合は、[保存] をクリックして選択した場所にビューを保存します。

#### 8 権限の設定

作成した各ビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## レポート設定の定義

このタスクでは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブのレポート設定を定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 314 ページの「前提条件」
- ▶ 314 ページの「レポートのカラムとして表示する属性の選択」
- ▶ 315 ページの「レポートへの関数カラムの追加 - 任意指定」
- ▶ 315 ページの「カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定」
- ▶ 315 ページの「レポートへのグラフの追加 - 任意指定」


### 1 前提条件

ビュー、テンプレート、またはパースペクティブのコンテンツと階層を定義したら、レポート設定を定義できます。パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。


### 2 レポートのカラムとして表示する属性の選択

ビューのクエリ・ノードごとに、[階層] 表示枠で該当するクエリ・ノードを選択し、そのクエリ・ノードのレポートにカラムとして表示する属性を選択します。[クエリ ノード定義] 表示枠で属性を選択するには、属性を [属性] リストから [レポートのレイアウト] リストに移動します。[レポートのレイアウト] リストの矢印ボタンを使用してカラムの順序を設定します。詳細については、358 ページの「[クエリ ノード定義] 表示枠」を参照してください。

### 3 レポートへの関数カラムの追加 - 任意指定

選択したクエリ・ノードを構成するデータが、子クエリ・ノードのいずれかで実行される関数から派生する場合、任意でそのクエリ・ノードにカラムを追加することができます。[関数の追加] ボタン  をクリックして [関数の追加] ダイアログ・ボックスを開き、そこから関連する設定を選択できます。詳細については、322 ページの「[機能の追加]、[機能の編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 4 カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定

[並べ替え順を設定] ボタン  をクリックして [カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックスを開きます。レポートの並べ替えに使用するカラムを決定するには、カラムを [利用可能なカラム] リストから [並べ替えられたカラム] リストに移動します。矢印ボタンを使用してカラムの並べ替え順序を設定します。各カラムの並べ替え方向を設定するには、[昇順ソート] ボタンまたは [降順ソート] ボタンを使用します。詳細については、375 ページの「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 5 レポートへのグラフの追加 - 任意指定

任意でレポートにグラフを追加できます。グラフは、ビューの選択したレイヤに対してテーブルの代わりに追加します。グラフの追加に必要な条件が満たされると、[クエリ ノード定義] 表示枠の [グラフのプロパティ] セクションで [グラフを定義] リンクがアクティブになります。リンクをクリックしてグラフ設定を入力します。詳細については、360 ページの「グラフのプロパティ」を参照してください。


## インスタンス・ベース・モデルの作成

このタスクでは、インスタンス・ベース・ビューのベースとして使用できるビジネス CI モデルの作成方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 316 ページの「新規モデルの作成」
- ▶ 316 ページの「手動での CI へのモデルの追加」
- ▶ 316 ページの「CI を公開する」
- ▶ 316 ページの「モデルの CI に監視を定義する」

## 1 新規モデルの作成

モデリング・スタジオで、**[新規作成]**  ボタンをクリックし、**[インスタンスベースモデル]** を選択して、**[新規モデル]** ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプを選択し、プロパティの値を入力します。詳細については、349 ページの「**[新規モデル]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 手動での CI へのモデルの追加

CI の選択で、モデルに含める CI を検索します。CI を選択してモデルにドラッグします。

---

**ヒント:** CTRL キーを押しながら CI を選択すれば、複数の CI を選択できます。

---

## 3 CI を公開する

モデルの CI を選択し、公開パスをたどって関連 CI を公開します。公開 CI の中から選択した CI をモデルに追加します。完了したらモデルを保存します。詳細については、369 ページの「**[CI を公開]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 4 モデルの CI に監視を定義する

モデルの CI を右クリックし、**[監視]** > **[新規監視]** を選択します。**[新規監視]** ダイアログ・ボックスが開きます。公開パスを選択し、**[OK]** をクリックします。CI の横に、監視が定義されていることを示す小さいアイコンが表示されます。詳細については、350 ページの「**[新規監視]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## パターン・ベース・モデルの作成

このタスクでは、パースペクティブ・ベース・ビューのベースとして使用できるパターン・ベース・モデルの作成方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 318 ページの「新規モデルの定義」
- ▶ 318 ページの「モデルの詳細の入力」
- ▶ 318 ページの「TQL クエリの選択」
- ▶ 318 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 318 ページの「出力クエリ・ノードの設定」
- ▶ 318 ページの「モデルの保存」

## 1 新規モデルの定義

パターン・ベース・モデルは、[パターン ベース モデル] ウィザードを使って定義します。[新規作成] ボタン  をクリックして [パターン ベース モデル] を選択します。

## 2 モデルの詳細の入力

最初のウィザード・ページで、モデルの CI タイプを選択し、プロパティを入力します。詳細については、353 ページの「[CI タイプの選択] ページ」を参照してください。

## 3 TQL クエリの選択

次のウィザード・ページで、モデルの TQL クエリを選択します。新しい TQL クエリを作成することも、ツリーから既存のクエリを選択することもできます。TQL クエリ・エディタが開き、選択したクエリが表示されます。詳細については、353 ページの「[クエリの選択] ページ」を参照してください。

## 4 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

## 5 出力クエリ・ノードの設定

TQL クエリで、モデルの出力として使用するクエリ・ノードを 1 つ以上選択します。該当するクエリ・ノードを右クリックし、[モデル出力に追加] を選択します。クエリ・ノードは、横にある小さいアイコンで示されます。

## 6 モデルの保存

終了したら、モデルに一意の名前を付けて保存します。新しい TQL クエリを作成した場合、クエリもモデルとは別に保存され、通常の TQL クエリとして再利用できます。


## モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成

本タスクでは、モデリング・スタジオでモデルおよびパースペクティブに基づいたビューを作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 319 ページの「モデルを開く」
- ▶ 319 ページの「パースペクティブの選択」
- ▶ 319 ページの「ビューを保存する」

### 1 モデルを開く

モデリング・スタジオの左表示枠で [リソース タイプ] として [モデル] を選択し、関連するモデルを選択してから、左表示枠のツールバーで [モデルを開く]  をクリックします。

### 2 パースペクティブの選択

[モデル エディタ] でモデルを右クリックし、[選択したモデルのビューを生成] を選択します。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。モデルに適用するパースペクティブを選択します。詳細については、329 ページの「[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 3 ビューを保存する

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタが開いて新しいビューが表示されます。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成します。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、361 ページの「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。


## CIのコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成

本タスクでは、モデリング・スタジオで CI のコレクションおよびパースペクティブに基づいたビューを作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 320 ページの「新規ビューの作成」
- ▶ 320 ページの「CI のビューへの追加」
- ▶ 320 ページの「パースペクティブの選択とビューの保存」

### 1 新規ビューの作成

モデリング・スタジオで、[新規作成]  ボタンをクリックし、[パースペクティブベースビュー] を選択して、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタを開きます。詳細については、361 ページの「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

### 2 CI のビューへの追加

CI の選択で、ビューに含める CI を検索します。CI を選択してビューにドラッグします。CI の選択の詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。

---

**ヒント:** CTRL キーを押しながら CI を選択すれば、複数の CI を選択できます。

---

### 3 パースペクティブの選択とビューの保存

[パースペクティブ] 表示枠で、CI コレクションに適用するパースペクティブを選択します。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成できます。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、361 ページの「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。



---

---

## 参照先

---

---

### モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 322 ページの「[機能の追加], [機能の編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 324 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 326 ページの「[選択した項目に対する操作の選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 326 ページの「[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 328 ページの「[公開パスの作成 / 編集 / 保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 329 ページの「[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 330 ページの「[サイクル定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 331 ページの「[非表示 CI] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 331 ページの「[階層ルール] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 332 ページの「左表示枠」
- ▶ 338 ページの「[CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 339 ページの「モデル エディタ」
- ▶ 346 ページの「[モデリング スタジオ] ページ」
- ▶ 348 ページの「[選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 349 ページの「[新規モデル] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 349 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 350 ページの「[新規監視] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 351 ページの「[公開パスを開く] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 352 ページの「[パターン ベース モデル] ウィザード」
- ▶ 355 ページの「パターン・ビュー・エディタ」
- ▶ 361 ページの「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」

- ▶ 367 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 368 ページの「[クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 369 ページの「[CI を公開] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 372 ページの「[クエリを保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 373 ページの「[ビュー / テンプレート / パースペクティブを保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 374 ページの「[データ ソースの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 375 ページの「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 376 ページの「[テンプレート ベース ビュー] ウィザード」
- ▶ 382 ページの「[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 382 ページの「TQL クエリ・エディタ」
- ▶ 386 ページの「[選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 388 ページの「[監視の更新] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 389 ページの「[ <クエリ / テンプレート / パースペクティブ名> の依存関係] ダイアログ・ボックス」

## [機能の追加], [機能の編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートに含めるクエリ・ノードの関数およびパラメータを定義できます。

<b>利用方法</b>	パターン・ビュー・エディタで、[クエリ ノード定義] 表示枠の [レポートのレイアウト] ボックスの下にある <b>[関数の追加]</b> ボタンをクリックします。
-------------	--

<b>重要情報</b>	<p>ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの選択したクエリ・ノードに対してレポート・カラムを定義する場合、いずれかの子クエリ・ノードに定義された関数から派生するデータで構成されるカラムを定義できます。定義対象とする関連の子クエリ・ノード、属性、関数を選択します。</p> <p>最初に、必要なクエリ・ノードと関数を選択します。属性リストが調整され、選択した組み合わせについて関連属性が表示されます。必要な属性を選択します。</p>
<b>関連タスク</b>	314 ページの「レポート設定の定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

<b>UI 要素</b>	<b>説明</b>
<b>属性</b>	リストから属性を選択します。
<b>関数</b>	<p>[機能] リストから、カラムに関する結果の計算に使用する関数を選択します。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>平均</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の平均値です。</li> <li>▶ <b>連結リスト</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の値のリストを表示します。</li> <li>▶ <b>カウント</b> : 選択したクエリ・ノードの CI インスタンス数を計算します。</li> <li>▶ <b>明確なリスト</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の一意の値のリストを表示します。</li> <li>▶ <b>最大</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の最大値です。</li> <li>▶ <b>最小</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の最小値です。</li> <li>▶ <b>合計</b> : 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の値の合計です。</li> </ul>



UI 要素	説明
関連クエリ ノード	関数を実行する子クエリ・ノードです。
タイトル	レポートに表示されている関数属性の名前です。


## [ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードまたは関係の CI タイプを変更できます。

利用方法	TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで、必要なクエリ・ノードを右クリックし、 <b>[クエリノードタイプの変更]</b> を選択します。関係の場合は、必要な関係を右クリックし、 <b>[関係タイプを変更]</b> を選択します。
重要情報	選択したクエリ・ノードの CI タイプは、そのクエリ・ノードの既存の関係および条件に基づいてほかの有効なタイプに変更できます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<b>[すべてを展開]</b> をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	<b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。

UI 要素	説明
 ツリー ビュー	CI タイプ / 関係ツリーの表示形式を選択するには、[ツリービュー]をクリックします。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル別</li> <li>▶ クラス名別</li> <li>▶ 旧名称[クラス名]別</li> </ul>
<CI タイプ/関係ツリー>	必要な CI タイプまたは関係を選択します。
関係の方向	関係の方向を選択します。 <b>注：</b> 関係にのみ関連します。
関係名	関係の名前です。 <b>注：</b> 関係にのみ関連します。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul> <b>注：</b> 関係にのみ関連します。

## [選択した項目に対する操作の選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI からモデルおよびビューを作成できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、[CI の選択] で検索した CI を空のキャンバスにドラッグします。
<b>重要情報</b>	個々の CI または複数の CI をキャンバスにドラッグできます。また、通常の CI またはモデル、あるいはその両方を選択してキャンバスにドラッグできます。複数の CI を選択するには、CTRL キーを押しながら CI を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI 要素	説明
<b>新規モデルの作成</b>	選択した CI から成るモデルを作成するときに選択します。キャンバスにドラッグした CI の中に、モデル CI タイプへの有効なリンクを持たない CI が少なくとも 1 つ含まれている場合、このオプションは無効になります。
<b>新規ビューの作成</b>	選択によって形成された CI のコレクションに基づいたビューを作成するときに選択します。
<b>選択した CI のモデルの編集</b>	選択したモデルを [モデル エディタ] で編集するときに選択します。 <b>注:</b> このオプションは、キャンバスに単一のモデルがドラッグされている場合にのみ表示されます。

## [関連 CI の条件] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、隣接検索パスの CI タイプに条件を定義することができます。


<b>利用方法</b>	[CI を公開] ダイアログ・ボックスの条件カラムにある [条件の追加] ボタンまたは [定義を編集] ボタンをクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
	定義した属性条件を追加します。
	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
	条件定義を表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
 大括弧	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。 <b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノード CI があり、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。

## [公開パスの作成 / 編集 / 保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規隣接検索パスの定義または既存パスの編集を行うことができます。

<b>利用方法</b>	<p>新しい隣接検索パスを定義するには、モデル・エディタで <b>[隣接検索]</b>  ボタンをクリックし、<b>[隣接検索パスの作成]</b> を選択します。</p> <p>既存の隣接検索パスを編集するには、<b>[隣接検索パスを開く]</b> ダイアログ・ボックスで隣接検索パスを選択し、<b>[編集]</b> をクリックします。</p> <p>公開パスを保存するには、<b>[CI を公開]</b> ダイアログ・ボックスの <b>[パスの保存]</b> をクリックします。</p>
-------------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>説明</b>	パスの説明を入力します。
<b>名前</b>	パスの名前を入力します。
<b>プレビュー</b>	<p><b>[CI を公開]</b> ダイアログ・ボックスが開き、パスの関連 CI が表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは <b>[隣接検索パスの保存]</b> ダイアログ・ボックスには表示されません。</p>
<b>パスを公開</b>	<p>アイコンをクリックして  アイコンをクリックして CI タイプのツリーが表示されたダイアログ・ボックスを開き、パスを作成します。パスの次のアイテムの CI タイプを選択します。</p> <p>公開パス・アイテムの上にポインタを置くと、次のオプションが有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>選択した項目の削除:</b> 隣接検索パスから選択したアイテムを削除します。</li> <li>▶ <b>条件の追加:</b> <b>[関連 CI の条件]</b> ダイアログ・ボックスが開きます。ここで公開パスアイテムの条件を設定できます。</li> <li>▶ <b>クエリ ノード タイプの再設定:</b> CI タイプのツリーが開きます。ここで公開パスアイテムの CI タイプを変更できます。</li> </ul>



## [新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルからビューを作成するためのパースペクティブを選択できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのモデル・エディタ、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ、または CI の選択でモデルを右クリックして [選択したモデルのビューを生成] を選択するか、モデル・エディタから [選択したモデルのビューを生成] アイコン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	左表示枠でパースペクティブを選択し、矢印ボタンを使用して右表示枠に移動します。
<b>関連タスク</b>	319 ページの「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<b>利用可能なパースペクティブ</b>	モデルへの適用対象として選択可能なパースペクティブのリストです。
<b>選択したパースペクティブ</b>	モデルへの適用対象として選択したパースペクティブです。

## [サイクル定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューにサイクル階層を定義できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで、[階層] 表示枠のクエリ・ノードを右クリックし、[ <b>サイクルの定義</b> ] を選択します。
<b>重要情報</b>	ビュー階層にサイクルを定義することで、ビューの TQL クエリ定義を拡張できます。[階層] 表示枠でソース・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを選択します。[サイクル定義] ダイアログ・ボックスにそのソースに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。サイクル内のターゲット・クエリ・ノードとその階層は、ソース・クエリ・ノードの子または兄弟（選択した折りたたみルールに応じて異なる）として扱われます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<b>Folding Rule</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ソースの下で折りたたまれたサイクル</b>: ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの子になります。</li> <li>▶ <b>親の下で平均化されたサイクル</b>: ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの兄弟になります。</li> </ul>
<b>Target</b>	選択したソース・クエリ・ノードに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。この場合の有効なターゲット・クエリ・ノードとは、次の条件すべてを満たすクエリ・ノードです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ソース・クエリ・ノードに関連付けられている</li> <li>▶ ソース・クエリ・ノードの祖先（またはソース・クエリ・ノード自体）である</li> <li>▶ クエリ・ベース・ノードである（グループ化ノードではない）</li> </ul>

## [非表示 CI] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、非表示 CI をビューに戻すことができます。


<b>利用方法</b>	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで、[結果の表示] 表示枠のツールバーにある <b>[非表示 CI を表示]</b> アイコンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素	説明
<チェックボックス>	元に戻す CI のチェック・ボックスを選択します。
CI タイプ	除外された CI の CI タイプです。
名前	除外された CI の名前です。
復元	選択した CI をビューに含めるときに、 <b>[復元]</b> をクリックします。
すべて選択	ビューに含めるためにリスト内のすべての CI を選択するときに、 <b>[すべて選択]</b> をクリックします。
すべて選択解除	リスト内のすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 <b>[すべて選択解除]</b> をクリックします。

## [階層ルール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、階層ルールを定義してビューの階層を設定できます。

<b>利用方法</b>	パターン・ビュー・エディタの [階層] 表示枠で、階層メソッドとして [ルールベース] を選択しているには、ツールバーから [階層ルールを追加] ボタン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	定義する階層ルールごとに、ソース CI タイプ、ターゲット CI タイプ、関係、方向を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	階層ルールを追加するときにクリックします。
	選択した階層ルールを削除するときにクリックします。
<b>関係</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから関係を選択します。
<b>関係の方向</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから方向を選択します。
<b>ソース</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからソース CI タイプの CI タイプを選択します。
<b>ターゲット</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからターゲット CI タイプの CI タイプを選択します。

## 左表示枠







この領域では、ビューと TQL クエリの参照、エディタ表示枠で開く CI またはモデルの検索、TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで使用する CI タイプの選択ができます。








<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのエディタ表示枠の左側にあります。
<b>重要情報</b>	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI の選択</b>：詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ <b>リソース</b>：エディタ表示枠で開くモデル、ビュー、または TQL クエリを選択できます。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>：TQL クエリにクエリ・ノードとして追加する CI タイプをツリーから選択できます。</li> </ul>







## [リソース] タブ

重要情報	リソース・タイプとして [ビュー] または [クエリ] が選択されている場合、ビュー、クエリ、またはフォルダをドロップ・アンド・ドラッグして、それらのあるフォルダから別のフォルダに移動できます。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 <b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。
	CMDDB から選択したリソースを削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	リソースのツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、 <b>[すべてを展開]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。
	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 <b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。
	リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] が選択されている場合は、 <b>[空のフォルダを非表示]</b> をクリックして、ビューまたは TQL クエリを含むフォルダのみを表示します。  リソース・タイプとして [モデル] を選択している場合は、 <b>[コンテンツがあるモデルのみを表示]</b> をクリックして、CI を含むモデルのみを表示します。

UI 要素	説明
	<p>リソース・タイプとして <b>【ビュー】</b> を選択している場合、ツリーに表示されるビューおよびテンプレートのタイプを絞り込むには、<b>【フィルタ ツリー】</b> をクリックします。</p> <p>リソース・タイプとして <b>【クエリ】</b> を選択している場合は、ツリーに表示される TQL クエリをクエリ・タイプで絞り込むことができます。</p> <p>リソース・タイプとして <b>【モデル】</b> を選択している場合、テーブル内のモデルを CI タイプで絞り込むには、<b>【フィルタ ツリー】</b> をクリックします。</p>
	<p>選択した TQL クエリを新しいタブで開くには、<b>【クエリを開く】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【クエリ】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>
	<p>選択したビューを新しいタブで開くには、<b>【ビューを開く】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【ビュー】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>
	<p>選択したモデルのプロパティを表示するには、<b>【CIのプロパティ】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【モデル】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>
	<p>選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するには、<b>【選択済みの CI/モデルを含むビューを表示】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【モデル】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>
	<p>選択したモデルをモデル・エディタで開くには、<b>【モデルを開く】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【モデル】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>
	<p>保存したビューまたはクエリを含む XML ファイルをモデリング・スタジオにインポートするには、<b>【XML からインポート】</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして <b>【クエリ】</b> または <b>【ビュー】</b> を選択している場合에만表示されます。</p>

UI 要素	説明
	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートするには、[XML へエクスポート] をクリックします。このオプションは、ビューまたはクエリをあるワークステーションから別のワークステーションへ移動するときに使用できます。 <b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。
<リソース>	リソース・タイプとして <b>ビュー</b> または <b>クエリ</b> が選択されている場合、使用可能なビューまたは TQL クエリがそれぞれのフォルダの下にツリー形式で表示されます。リソース・タイプとして [モデル] が選択されている場合は、使用可能なモデルがテーブルに表示されます。 ビューの場合は、次のビュー・タイプが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  パターン・ビューを表します。</li> <li>▶  テンプレートを表します。</li> <li>▶  テンプレート・ベース・ビューを表します。</li> <li>▶  パースペクティブを表します。</li> <li>▶  パースペクティブ・ベース・ビューを表します。</li> </ul>
リソース タイプ	表示枠に表示するリソース・タイプを選択します。選択できるオプションは、[モデル]、[ビュー]、[クエリ] です。

### [リソース] タブのショートカット・メニュー



[リソース] タブでは、リソースを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	説明
新規ビュー / テンプレート / パースペクティブの作成	選択したビュー、テンプレート、またはパースペクティブに基づく新しいビュー、テンプレート、パースペクティブを作成します。 <b>注:</b> このオプションは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブ・タイプのクエリが選択されている場合にそれらのクエリのみに対してアクティブになります。
削除	CMDB から選択したリソースを削除します。
XML へエクスポート	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートします。このオプションは、ビューまたはクエリをあるワークステーションから別のワークステーションへ移動するときに使用できます。
新規フォルダ	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。




メニュー項目	説明
新規テンプレート・ベース・ビュー	<p>選択したテンプレートのパラメータを編集して、新しいテンプレート・ベース・ビューを定義します。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、ビュー・ツリーでテンプレートを選択している場合にのみアクティブになります。</p>
クエリ / ビュー / モデルを開く	<p>新しいタブで選択したビュー、TQL クエリ、またはモデルを開きます。</p>
プロパティ	<p>選択したモデルの [CI プロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p><b>注:</b> このオプションはモデルにのみ関連します。</p>
更新	<p>リソース・ツリーを更新します。</p>
削除	<p>選択したモデルを削除します。</p> <p><b>注:</b> このオプションはモデルにのみ関連します。</p>
フォルダの名前の変更	<p>選択したフォルダの名前を変更します。</p>
名前を付けて保存	<p>選択した TQL クエリに新しい名前を付けて保存します。</p>
含まれるビューを表示	<p>選択したモデルの [選択済みの CI/モデルを含むビューを表示] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したモデルの [選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p><b>注:</b> このオプションはモデルにのみ関連します。</p>

### [CI タイプ] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	<p>CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、<b>[すべてを展開]</b> をクリックします。</p>
	<p>CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、<b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。</p>



UI 要素	説明
 ツリー ビュー	[ツリー ビュー] をクリックして、CI タイプ・ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル別</li> <li>▶ クラス名別</li> <li>▶ 旧名称[クラス名]別</li> </ul>
	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときにクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、エディタ表示枠でビューまたは TQL クエリを開いている場合のみアクティブになります。
	CI タイプ・ツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
<CI タイプ ツリー>	使用可能な CI タイプがツリー形式で表示されます。


### [CI タイプ] タブのショートカット・メニュー

[CI タイプ] タブでは、CI タイプを右クリックして次の要素を選択できます。



メニュー項目	説明
選択した CIT をクエリに追加	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときに選択します。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
要素インスタンスの表示	[CI インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを追加または削除できます。


<b>利用方法</b>	モデル・エディタのモデル内から、 <b>[ウォッチポイント]</b>  ボタンをクリックして <b>[CI ウォッチポイントの管理]</b> を選択するか、モデルの CI を右クリックして <b>[ウォッチポイント]</b> > <b>[CI ウォッチポイントの管理]</b> を選択します。
-------------	---

ユーザ・インターフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
 <b>追加</b>	新しい監視の追加が行える <b>[新規監視]</b> ダイアログ・ボックスを開くときにクリックします。
 <b>削除</b>	選択した監視を削除するときにクリックします。
<b>自動</b>	チェック・マークは、監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加されることを示します。
<b>ソース CI</b>	公開パスの開始部分となる CI が表示されます。
<b>監視名</b>	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
<b>監視パス</b>	監視の公開パスが表示されます。





## モデル エディタ






この機能では、モデルを作成および編集できます。






<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、新しいモデルを作成する場合は <b>[新規作成]</b> ボタン  をクリックし、 <b>[インスタンス ベース モデル]</b> を選択します。または、 <b>[リソース タイプ]</b> として <b>[モデル]</b> を選択し、既存のモデルを開きます。
<b>重要情報</b>	<p>モデル・エディタには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[内容] 表示枠</b>：モデルに含まれている CI およびモデルが一覧表示されます。</li> <li>▶ <b>情報表示枠</b>：選択した CI またはモデルのプロパティ、関連 CI、監視が表示されます。</li> </ul> <p>モデルに CI を追加するには、CI の選択から既存モデルの内容表示枠に CI をドラッグします。ただし、すでにモデルに含まれている CI はドラッグできません。</p> <p>選択したソース CI とターゲット CI を <b>Usage</b> 関係で関連付けることができるのであれば、CI の選択から情報表示枠の <b>[関連 CI]</b> タブに CI をドラッグできます。</p>







### [内容] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
 マップ	CI を図にアイコンで表示する場合は <b>[マップ モード]</b> を選択します。
 テキスト	CI をリスト形式で表示する場合は <b>[テキスト モード]</b> を選択します。
	<b>[CI のプロパティ]</b> をクリックすると、選択した CI の <b>[構成アイテムのプロパティ]</b> ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>[選択済みの CI を含むモデルを表示]</b> をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。

UI 要素	説明
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルが別のモデル・エディタ・タブで開きます。</p>
	<p>現在のモデルに基づいてビューを作成する場合は、[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックします。適用するパースペクティブを選択できる [新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>選択した CI をモデルから削除するときをクリックします (CI は CMDB に残ります)。</p>
	<p>[<b>新規モデルの挿入</b>] をクリックすると、既存モデル内に新規モデルを定義できる [新規モデル] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>[<b>すべてを展開</b>] をクリックすると、モデルの階層が展開します。</p>
	<p>[<b>すべてを折りたたむ</b>] をクリックすると、モデルの階層が折りたたまれます。</p>
	<p>次のオプションを使用する場合は[<b>公開</b>]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>公開を開始</b>： [CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [CI を公開] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスの作成</b>： [公開パスの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [公開パスの作成] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスを開く</b>： [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>

UI 要素	説明
	<p>次のオプションを使用する場合は<b>【監視】</b>をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>監視の更新</b>：監視結果を表示し、モデルに追加する CI を選択します。詳細については、<b>【監視の更新】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>新規監視</b>：選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、<b>【新規監視】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>CI 監視の管理</b>：新しい監視を CI に追加します。または、既存の監視を削除します。詳細については、<b>【CI 監視の管理】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	<p>モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は、<b>【CI コレクション】</b> をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>新規 CI コレクションの挿入</b>：空の新しい CI コレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、<b>【関連 CI】</b> タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> <li>▶ <b>CI コレクションに結合</b>：モデルの CI を 1 つまたはいくつか選択し、その CI を既存の CI コレクションに結合するか、新しいコレクションを作成します。</li> <li>▶ <b>CI コレクションの解除</b>：CI コレクションを選択して解除します。CI は、メイン・モデルの直下に存在するようになります。</li> </ul>
	<p><b>【検索】</b> ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに、<b>【検索】</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b>：このボタンはテキスト・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>マップを更新し、マップのレイアウトを最適化するときにクリックします。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>表示枠のサイズに合わせてマップのサイズを変更するときは、<b>【ウィンドウに合わせる】</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>モード</b>・ドロップダウン・リストからカーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 選択</li> <li>▶ マップをドラッグ</li> <li>▶ ズーム イン</li> </ul> <p><b>注</b>：この機能はマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>[印刷] ボタンをクリックして、[印刷]、[印刷プレビュー]、[印刷設定] のいずれかを選択します。</p>
	<p>CI を選択して [<b>外部関係の表示</b>] をクリックすると、その CI の関連 CI が表示されます。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>外部関係を非表示</b>] をクリックすると、関連 CI が非表示になります。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>現在の CI に監視が定義されていることを示します。</p>
	<p>監視が、現在のモデルに関連付けられた新しい CI を検出したことを示します。クリックすると、[監視の更新] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<p><b>[CI タイプ] カラム</b></p>	<p>モデルの各 CI のタイプが表示されます。</p>
<p><b>検索</b></p>	<p>[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、モデル内の CI を検索します。</p>
<p><b>次を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、モデル内の次の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>前回を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、モデル内の前の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>ハイライト表示</b></p>	<p>検索フレーズに一致する、モデル内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。</p>
<p><b>[名前] カラム</b></p>	<p>モデルの各 CI の名前が表示されます。</p>

## ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
CI コレクション	<p>モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は、[CI コレクション] をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>新規 CI コレクションの挿入</b>：空の新しいコレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、[関連 CI] タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> <li>▶ <b>CI コレクションに結合</b>：モデルの CI を 1 つまたはいくつか選択し、その CI を既存の CI コレクションに結合するか、新しいグループを作成します。</li> <li>▶ <b>CI コレクションの解除</b>：CI コレクションを選択して解除します。CI は、メイン・モデルの直下に存在するようになります。</li> </ul>
ウィンドウに合わせる	<p>表示枠のサイズに合わせてマップのサイズが変更されます。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
選択したモデルのビューを生成	<p>選択すると、現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。</p>
外部関係を非表示	<p>マップ上の関連 CI が非表示になります。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
新規モデルの挿入	<p>既存モデル内に新規モデルを作成できる [新規モデル] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
選択したモデルを新しいタブで開く	<p>選択したモデルが別のモデル・エディタ・タブで開きます。</p>
印刷	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 印刷</li> <li>▶ 印刷プレビュー</li> <li>▶ 印刷設定</li> </ul>
プロパティ	<p>選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
レイアウト更新	<p>マップが更新され、マップのレイアウトが最適化されます。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>

メニュー項目	説明
公開	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>公開を開始</b>：[CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[CI を公開] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスを開く</b>：[隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
選択した CI をモデルから削除	<p>選択した CI がモデルから削除されます (CI は CMDB に残ります)。</p>
選択	<p>カーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 選択</li> <li>▶ マップをドラッグ</li> <li>▶ ズームイン</li> </ul> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
含まれるモデルを表示	<p>選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。</p>
含まれるビューを表示	<p>選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。</p>
外部関係の表示	<p>選択した CI の関連 CI を表示します。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
監視	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>監視の更新</b>：監視結果を表示し、モデルに追加する CI を選択します。詳細については、[監視の更新] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>新規監視</b>：選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、[新規監視] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>CI ウォッチポイントの管理</b>：新しい監視を CI に追加します。または、既存の監視を削除します。詳細については、[CI ウォッチポイントの管理] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
ズーム	<p>パーセントのリストからマップのサイズを選択します。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>



## 情報表示枠 - [プロパティ] タブ



この領域には、選択した CI のプロパティが表示されます。

<b>重要情報</b>	この表示枠は、IT ユニバース・マネージャの情報表示枠の [プロパティ] タブとまったく同じです。詳細については、246 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
-------------	--

## 情報表示枠 - [関連 CI] タブ

この領域には、Impacted By (Potentially) 関係が含まれるいずれかのトリプレットによって、モデルに関連付けられている CI が表示されます。


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	選択した CI への関係を削除するときにクリックします。
	[反転方向] をクリックすると、選択した CI の関係の方向が切り替わります。 <b>注：</b> このオプションは、CI が <b>usage</b> 関係によって関連付けられている場合にのみアクティブになります。
<CI リスト>	Usage 関係によってモデルに関連付けられている CI の名前と CI タイプのリストが、関係の方向とともに表示されます。
<b>適用フィルタ</b>	結果をフィルタする際の基準となるフィールドを選択し、[適用] ボックスに値を入力します。

## 情報表示枠 - [監視] タブ

この領域には、選択した CI に対して定義されているウォッチポイントが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI 要素	説明
	監視を編集できる [CI 監視の管理] ダイアログ・ボックスを開くときにクリックします。
自動	監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加されるかどうかを示します。
ソース CI	公開パスの開始部分となる CI が表示されます。
監視名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
監視パス	監視の公開パスが表示されます。

## [モデリング スタジオ] ページ

このページでは、モデルとビューを作成および編集できます。


利用方法	ナビゲーション・メニューから [モデリング スタジオ] を選択するか、[マネージャ] > [モデリング] > [モデリング スタジオ] を選択します。
重要情報	<p>[モデリング スタジオ] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>左表示枠</b> : CI を検索したり、開くビュー、モデル、または TQL クエリを選択したりできます。詳細については、332 ページの「左表示枠」を参照してください。</li> <li>▶ <b>エディタ表示枠</b> : 選択したビュー、モデル、または TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。</li> </ul> <p>ビューまたはモデルを開くまで、エディタ表示枠は空のキャンバスになっています。ビュー、モデル、または TQL クエリを開くと、それぞれに関連するエディタが表示されます。エディタ表示枠では同時に複数のビュー、モデル、クエリを開くことができます。それぞれ別のタブに表示されます。</p>
関連情報	モデル エディタ, パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ, パターン・ビュー・エディタ, TQL クエリ・エディタ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。




UI 要素	説明
 <b>新規作成</b>	<p>[<b>新規作成</b>] ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>インスタンス ベース モデル</b>: 新しいインスタンス・ベース・モデルを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パターン ベース モデル</b>: 新しいパターン・ベース・モデルを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パターン ビュー</b>: 新しいパターン・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>テンプレート ベース ビュー</b>: 新しいテンプレート・ベース・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パースペクティブ ベース ビュー</b>: 新しいパースペクティブ・ベース・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>テンプレート</b>: 新しいテンプレートを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パースペクティブ</b>: 新しいパースペクティブを作成する場合。</li> <li>▶ <b>クエリ</b>: 新しい TQL クエリを作成する場合。</li> </ul>
	<p>ビュー、モデル、またはクエリに加えた変更を保存するときに、[<b>保存</b>] をクリックします。</p> <p>ビューの場合は、ビューの名前を変更し、そのビューを適切なフォルダに保存できるダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>ビュー、モデル、または TQL クエリに新しい名前を付けて保存する場合は、[<b>名前を付けて保存</b>] をクリックします。</p>
	<p>最後に加えた変更を取り消すときに、[<b>元に戻す</b>] をクリックします。</p>
	<p>最後に行った操作を繰り返すときに、[<b>やり直す</b>] をクリックします。</p>
	<p>エディタの通常表示と全画面表示を切り替えるときに、[<b>ワークスペースの最大化</b>] をクリックします。</p>
<p>&lt;メニュー&gt;</p>	<p>詳細については、191 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>

## [選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。

<b>利用方法</b>	モデル・エディタで <b>[選択済みの CI を含むモデルを表示]</b>  ボタンをクリックするか、ショートカット・メニューから <b>[含まれるモデルを表示]</b> を選択します。
-------------	--

ユーザ・インターフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
	[ <b>CI のプロパティ</b> ] をクリックすると、選択したモデルの [ <b>構成アイテムのプロパティ</b> ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[ <b>選択済みの CI / モデルを含むビューを表示</b> ] をクリックすると、選択したモデルを含むビューのリストが表示されます。
	[ <b>モデルの削除</b> ] をクリックすると、選択したモデルが削除されます。
<b>CI タイプ</b>	選択した CI を含むモデルの CI タイプが表示されます。
<b>検索</b>	[ <b>検索</b> ] ボックスにモデル名またはモデル名の一部を入力して、リスト内でモデルを検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前回を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<b>名前</b>	選択した CI を含むモデルの名前が表示されます。 <b>注:</b> 現在のモデルの名前は淡い色のテキストで表示されます。

## [新規モデル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI のコレクションを含む再利用可能なモデルを定義できます。

利用方法	[ <b>新規作成</b> ] * ボタンをクリックして [ <b>インスタンス ベース モデル</b> ] を選択するか、CI の選択のツリーから編集表示枠に CI をドラッグして [ <b>新規モデルの作成</b> ] を選択します。
関連タスク	315 ページの「インスタンス・ベース・モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素	説明
新規 CI プロパティの定義	CI プロパティの値を入力します。キー・プロパティと必須プロパティの値を入力する必要があります。キー・プロパティには鍵のマーク  が付き、必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
CI タイプの選択	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

## [新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、パターン・ビュー・エディタを使用して新しいパターン・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを定義できます。


利用方法	モデリング・スタジオで、[ <b>新規作成</b> ] * ボタンをクリックし、ドロップダウン・メニューから [ <b>パターン ビュー</b> ]、[ <b>テンプレート</b> ]、または [ <b>パースペクティブ</b> ] を選択します。
重要情報	選択して [OK] をクリックした後、直接パターン・ビュー・エディタに移動してビューの作成を開始します。詳細については、355 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。
関連タスク	304 ページの「パターン・ビューの作成」、305 ページの「テンプレートの作成」、307 ページの「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<TQL クエリ・ツリー>	既存の TQL クエリがツリー形式で表示されます。
ベース クエリの選択	既存の TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合、このオプションを選択し、ツリーから TQL クエリを選択します。パターン・ビュー・エディタが開き、選択した TQL クエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作成	新しい TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合、このオプションを選択します。パターン・ビュー・エディタが開き、空のキャンバスが表示されます。
検索	[検索] ボックスに TQL クエリ名または TQL クエリ名の一部を入力して、リスト内の TQL クエリを検索します。

## [新規監視] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを定義できます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、[ウォッチポイント]  ボタンをクリックして [ウォッチポイントの新規作成] を選択するか、モデルの CI を右クリックして [ウォッチポイント] > [ウォッチポイントの新規作成] を選択します。
------	--


<b>重要情報</b>	<p>選択した CI の公開パスが見つからなかった場合は、監視を定義できません。</p> <p>新規モデルの場合、モデルを保存しないうちは CI に監視を定義できません。</p>
<b>関連タスク</b>	315 ページの「インスタンス・ベース・モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>モデルを自動的に更新</b>	選択したパスで公開された CI をすべて自動的にモデルに追加するときに選択します。
<b>更新を手動で制御</b>	隣接検索された CI を選択したパスからモデルに手動で追加するときに選択します。
<b>監視公開パスを選択</b>	ドロップダウン・リストから公開パスを選択します。
<b>CI タイプに対する公開パスを表示</b>	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。下部のドロップダウン・ボックスのリストに、この CI タイプで始まるすべての公開パスが表示されます。

## [公開パスを開く] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のパスを開くことができます。

<b>利用方法</b>	モデル・エディタのモデル内から、 <b>[隣接検索]</b>  ボタンをクリックして <b>[隣接検索パスを開く]</b> を選択するか、モデルの CI を右クリックして <b>[隣接検索] &gt; [隣接検索パスを開く]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	使用する公開パスを選択したら、 <b>[実行]</b> をクリックします。選択したパスで CI が見つかった場合、そのパスの <b>[CI を公開]</b> ダイアログ・ボックスが開きます。CI が見つからなかった場合は、当該パスで CI が見つからなかったことを伝えるメッセージが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
詳細カラム	既存パスの説明が表示されます。
編集	選択したパスを編集できる [公開パスの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
実行	選択した公開パスの [CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。
検索	[検索] ボックスにパス名またはパス名の一部を入力して、リスト内のパスを検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、パスのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
[名前] カラム	既存パスの名前が表示されます。
削除	選択したパスが削除されます。
CI タイプに対する公開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。下部のテーブルに、選択した CI で始まるすべてのパスが表示されます。

## [パターン ベース モデル] ウィザード

このウィザードでは、パターン・ベース・モデルを作成できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、[新規作成] * ボタンをクリックし、ドロップダウン・メニューから [パターン ベース モデル] を選択します。
重要情報	パターン・ベース・モデルを作成すると、通常のモデルと同様に、モデルは CI として保存されます。新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、クエリも保存され、TQL クエリ・ツリーに表示されます。
関連タスク	317 ページの「パターン・ベース・モデルの作成」




ウィザード・マップ	[パターンベースモデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
関連情報	295 ページの「パターン・ベース・モデル」

### [CI タイプの選択] ページ

このウィザードでは、モデルの CI タイプを選択し、詳細を定義できます。

ウィザード・マップ	[パターンベースモデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。




UI 要素	説明
新規 CI プロパティの定義	CI プロパティの値を入力します。キー・プロパティと必須プロパティの値を入力する必要があります。キー・プロパティには鍵のマーク  が付き、必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
CI タイプの選択	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

### [クエリの選択] ページ

このウィザード・ページでは、モデルのベースとなる TQL クエリを選択できます。


ウィザード・マップ	[パターンベースモデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<TQL クエリ ツリー>	既存の TQL クエリがツリー形式で表示されます。
ベース クエリの選択	既存の TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、このオプションを選択し、ツリーからクエリを選択します。TQL クエリ・エディタが開いて、選択したクエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作成	新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、このオプションを選択します。TQL クエリ・エディタが開き、空のキャンバスが表示されます。
検索	[検索] ボックスに TQL クエリ名または TQL クエリ名の一部を入力して、リスト内のクエリを検索します。








## パターン・ビュー・エディタ



この機能では、パターン・ビュー、テンプレート、パースペクティブを作成できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>パターン・ビュー・エディタで新しいビューを開くには、モデリング・スタジオに移動し、<b>[新規作成]</b>  ボタンをクリックし、必要なタイプのビューを選択します。</p> <p>パターン・ビュー・エディタで既存のビューを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠にある [リソース] タブに移動し、[リソース タイプ] として <b>[ビュー]</b> を選択します。ツリーでビューを右クリックして <b>[ビューを開く]</b> を選択します。または、ビューをダブルクリックするか、ビューをエディタ表示枠にドラッグします。エディタ表示枠にビューのトポロジ・マップが開きます。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>エディタには、<b>ビュー・モード</b>、または<b>レポート・モード</b>でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ビュー・モード</b>では、次の表示枠が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[クエリ定義] 表示枠</b>：詳細については、382 ページの「TQL クエリ・エディタ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[詳細] 表示枠</b>：詳細については、384 ページの「詳細表示枠」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[階層] 表示枠</b>：ビューの階層を設定できます（エディタ・ページの右側部分にあります）。</li> </ul> </li> <li>▶ <b>レポート・モード</b>では、次の表示枠が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[階層] 表示枠</b>：ビューの階層を設定できます（エディタ・ページの左側部分にあります）。</li> <li>▶ <b>クエリ・ノード定義</b>：レポートに含める属性を選択し、その順序を設定できます。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>注</b>：ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存するには、モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある <b>[保存]</b> ボタンを使用します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>304 ページの「パターン・ビューの作成」、305 ページの「テンプレートの作成」、307 ページの「パースペクティブの作成」</p>

## 【階層】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>階層内にサブグループを作成するには、<b>[次の項目別にグループを追加]</b> をクリックします。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>属性別グループを追加</b> : [クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を選択できます。</li> <li>▶ <b>タイプ別グループを追加</b> : 選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して階層内にサブグループが作成されます。</li> <li>▶ <b>クエリ ノード別グループを追加</b> : 選択したクエリ・ノードのみに対して階層内にサブグループが作成されます。</li> </ul>
	<p><b>[属性別グループを編集]</b> をクリックすると、[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を編集できます。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードの名前を変更するには、<b>[名前の変更]</b> をクリックします。</p>
	<p>階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するには、<b>[クエリ ノードの削除]</b> をクリックします。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層の 1 つ上のレイヤに配置するには、<b>[クエリ ノード レイヤを上へ移動]</b> をクリックします。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層でその上にあるクエリ・ノードの配下に配置するには、<b>[クエリ ノード レイヤを下へ移動]</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b> : 選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合、<b>[クエリ ノード レイヤを下へ移動]</b> をクリックすると、階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に移動します。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層ツリーで上に移動するには、<b>[クエリ ノードを上へ移動]</b> をクリックします。階層内のクエリ・ノードの順序によって、[レポート] でビューに対して生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。</p>

UI 要素	説明
	選択したクエリ・ノードを階層ツリーで下に移動するには、 <b>[クエリノードを下へ移動]</b> をクリックします。階層内のクエリ・ノードの順序によって、 <b>[レポート]</b> でビューに対して生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。
	トポロジ・レポートのプレビューを表示するには、 <b>[プレビュー]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このオプションは、レポート・モードが選択されている場合にのみ <b>[階層]</b> 表示枠に表示されます。
<b>&lt;階層ツリー&gt;</b>	階層ツリー内での TQL クエリのクエリ・ノードの配置には、ビューに対して定義された階層が反映されます。  クエリ・ノードをクリックしてドラッグすると、階層を変更できます。クエリ・ノードをクリックしてドラッグを開始すると、そのクエリ・ノードを配下に配置できるクエリ・ノードが緑で強調表示されます。
<b>階層メソッド</b>	階層を設定するメソッドを選択します。  ▶ <b>手動:</b> 階層を手動で設定します。クエリ・ノードをドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。 ▶ <b>ルールベース:</b> <b>[階層ルール]</b> ダイアログ・ボックスが開き、階層のルールを設定できます。

### ショートカット・メニュー

**[階層]** 表示枠では、階層ツリーでクエリ・ノードを右クリックすると次の要素を選択できます。






メニュー項目	説明
<b>属性別グループを追加</b>	<b>[属性別グループを編集]</b> を選択すると、 <b>[クエリノードのグループ化]</b> ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を編集できます。
<b>タイプ別グループを追加</b>	<b>[タイプ別グループを追加]</b> を選択すると、選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して階層内にサブグループを作成できます。
<b>クエリノード別グループを追加</b>	<b>[クエリノード別グループを追加]</b> を選択すると、選択したクエリ・ノードに対してのみ階層内にサブグループを作成できます。

メニュー項目	説明
サイクルの定義	[ <b>サイクルの定義</b> ] を選択すると、サイクル階層を定義できます。詳細については、330 ページの「[サイクル定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
クエリ ノードの削除	階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するときに選択します。
クエリ ノードを下へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを下に移動するときに選択します。
クエリ ノード レイヤを下へ移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーでその上にあるクエリ・ノードの配下に配置するときに、[ <b>クエリ ノード レイヤを下へ移動</b> ] を選択します。 <b>注:</b> 選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合、[ <b>クエリ ノード レイヤを下へ移動</b> ] を選択すると、階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に配置します。
クエリ ノード レイヤを上へ移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーの 1 つ上のレイヤに配置するときに、[ <b>クエリ ノード レイヤを上へ移動</b> ] を選択します。
クエリ ノードを上へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを上に移動するときに選択します。
名前の変更	選択したクエリ・ノードの名前を変更するときに選択します。
サブグラフ階層	選択したクエリ・ノードに対して定義したサブグラフをフラット表示するか、クエリ・ノードの下に折りたたんで表示するかを定義できます。 <b>注:</b> このオプションは、サブグラフが定義されているクエリ・ノードにのみ適用されます。

### [クエリ ノード定義] 表示枠

<b>重要情報</b>	[クエリ ノード定義] 表示枠は、テンプレート・ベース・ビューでは使用できません。レポート・レイアウトを変更するには、ビューのベース・テンプレートを編集します。エディタでテンプレート・ベース・ビューを開いて [レポート] タブを選択すると、ビューのベース・テンプレートへのリンクを含む警告メッセージが表示されます。
-------------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	選択した属性をレポートのレイアウト順序で上に移動するには、 <b>[上]</b> をクリックします。
	選択した属性をレポートのレイアウト順序で下に移動するには、 <b>[下]</b> をクリックします。
	選択した属性の関数を編集するには、 <b>[編集]</b> をクリックします。
	選択した属性をレポート・レイアウトから削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	選択した属性を [レポートのレイアウト] リストに移動するときにクリックします。
<b>関数の追加</b>	<p><b>[関数の追加]</b> をクリックすると、<b>[関数の追加]</b> ダイアログ・ボックスが開き、選択したクエリ・ノードについて、レポートに含める関数を定義できます。追加した各関数は属性として扱われ、レポートのカラムになります。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、ビュー階層で選択したクエリ・ノードの配下にクエリ・ノードがある場合にのみアクティブになります。</p>
<b>属性</b>	選択したクエリ・ノードに使用できる属性のリストです。
<b>グラフを定義</b>	<p>ビューの現在のレイヤのデータをグラフ形式で表示するには、<b>[グラフを定義]</b> をクリックします。[グラフのプロパティ] フィールドが表示されます。</p> <p>[グラフを定義] オプションは、次の条件を満たすクエリ・ノードまたはグループ化ノードに対してのみアクティブになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビュー階層で配下にレイヤがある</li> <li>▶ 属するビューのレイヤで唯一のクエリ・ノードである</li> <li>▶ レポート・レイアウトに対して数値属性が少なくとも 1 つ選択されている</li> </ul>

UI 要素	説明
レポートのレイアウト	レポートの表示対象として選択された属性のリストが表示されます。レポートでの属性の順序を変更する場合や、関数を追加する場合は、ツールバー・ボタンを使用します。
並べ替え順を設定	クリックすると、[カラムの並べ替え順序の設定] ダイアログ・ボックスが開き、レポート・カラムの順序を設定できます。

### グラフのプロパティ



表示枠の [グラフのプロパティ] 部分には、次の要素が含まれています。

UI 要素	説明
	グラフをレポートから削除するには、[グラフを削除] をクリックします。レポートはテーブル形式で生成されます。
次でブレークダウン	グラフは、CI またはグループ化ノードの表示ラベル別にブレークダウンされます。すべてのレポートについてこの設定が適用されます。
グラフのタイプ	円グラフを作成するには [円] を、棒グラフを作成するには [棒] を選択します。
値	ドロップダウン・リストから値を選択します。






## パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ







この機能では、パースペクティブ・ベース・ビューを作成および編集できます。

<b>利用方法</b>	<p>モデリング・スタジオで、[新規作成] ボタン  をクリックし、[パースペクティブ ベース ビュー] を選択して新しいビューを作成するか、CI の選択から空のキャンバスに CI をドラッグして [新規ビューの作成] を選択します。</p> <p>エディタで既存のビューを開くには、[リソース] 表示枠でリソース・タイプとして [ビュー] を選択し、ツリーから必要なパースペクティブ・ベース・ビューを選択して [ビューを開く]  をクリックするか、ビューをダブルクリックします。</p>
<b>重要情報</b>	<p>パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[内容] 表示枠</b>：CI またはモデル、あるいはその両方をビューに含めるには、それらをこの表示枠にドラッグします。</li> <li>▶ <b>[パースペクティブ] 表示枠</b>：ビューの作成のためにコンテンツに適用するパースペクティブを選択します。</li> <li>▶ <b>[結果の表示] 表示枠</b>：現在のビューのプレビューが示されたトポロジ・マップが表示されます。この表示枠には、IT ユニバース・マネージャの機能のほとんどが含まれています。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 319 ページの「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」</li> <li>▶ 320 ページの「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」</li> </ul>

### [内容] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>現在のビューの確認のために IT ユニバース・マネージャに直接移動します。</p>
	<p>[プロパティ] をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>[選択済みの CI を含むモデルを表示] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。</p>






UI 要素	説明
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI または モデルを含むビューのリストが表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルが別のモデル・エディタ・タブで開きます。</p>
	<p>選択したモデルに基づいてビューを作成する場合は、[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックします。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブタイプを選択できます。</p>
	<p>選択した CI をビュー・コンテンツから削除するときにクリックします。</p>
	<p>[<b>定義プロパティの表示</b>] をクリックすると、[定義プロパティの表示] ダイアログ・ボックスが開き、ビューのプロパティを設定できます。</p>
	<p>[検索] ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに、[<b>検索</b>] をクリックします。</p>
<p><b>[CI タイプ] カラム</b></p>	<p>ビューの各 CI のタイプが表示されます。</p>
<p><b>検索</b></p>	<p>[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、ビュー内の CI を検索します。</p>
<p><b>次を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の次の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>前回を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の前の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>ハイライト表示</b></p>	<p>検索フレーズに一致する、ビュー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。</p>
<p><b>[名前] カラム</b></p>	<p>ビューの各 CI の名前が表示されます。</p>

## ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
選択したモデルのビューを生成	選択したモデルに基づいてビューを作成するときに選択します。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。
選択したモデルを新しいタブで開く	選択したモデルが別のモデル・エディタ・タブで開きます。
プロパティ	選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
ベース CI の削除	選択した CI またはモデルがビュー・コンテンツから削除されます。
含まれるモデルを表示	選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。
含まれるビューを表示	選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。

## [パースペクティブ] 表示枠







ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。






UI 要素	説明
	選択したパースペクティブの選択したレベルを削除します。
	選択したパースペクティブを現在のレベルから前のレベルに移動します。
	選択したパースペクティブを現在のレベルから次のレベルに移動します。
	選択したパースペクティブに新しいレベルを追加します。前のパースペクティブ・レベルの結果は、新しいレベルの入力コンテンツとして使用されます。
	ダイアログ・ボックスを開き、使用可能なパースペクティブが表示されます。矢印ボタンを使用して、必要なパースペクティブを利用可能なカラムから選択済みカラムに移動します。

UI 要素	説明
モデル階層の上に適用	<p>モデルに基づくビューの場合、[モデル階層の上に適用] チェック・ボックスを選択すると、ビューにモデル階層が組み込まれ、モデルに含まれている CI およびモデル自体にパースペクティブが適用されます。このチェック・ボックスをクリアすると、モデル階層がビューから除外され、モデル自体にのみパースペクティブが適用されるようになります。この場合、モデルは通常の CI として扱われます。</p> <p><b>注:</b> CI コレクション、またはモデルと CI コレクションに基づくビューの場合、このオプションは無効です。</p>
パースペクティブ	<p>選択したパースペクティブのリストが表示されます。</p> <p>選択が行われる前に、ウィンドウに標準設定のパースペクティブが表示されます。標準設定のパースペクティブの値を設定するには、[新しいパースペクティブ ベース ビューのために選択されたパースペクティブ] インフラストラクチャ設定を使用します。</p>

### [結果の表示] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
マップ	マップ・モードで結果を表示するときにクリックします。
テキスト	テキスト・モードで結果を表示するときにクリックします。
	ビューの 2 つの CI 間に関係を作成します。
	トポロジ・マップの凡例の表示/非表示を切り替えます。
	トポロジ・マップ内の 1 つ上のレベルに移動します。
	トポロジ・マップ内の 1 つ下のレベルに移動します。
	選択した CI をビューから削除します。
	[CI のプロパティを表示] をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素	説明
	[更新] をクリックすると、ビューの結果が更新されます。
	[ビューから CI を非表示] をクリックすると、選択した CI がビューで非表示になります。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加された CI に関係しません。元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。 <b>注：</b> 非表示になっている CI は [非表示 CI] ダイアログ・ボックスで復元できます。
	[非表示 CI を表示] をクリックすると、ビューで非表示になっている CI を手動で復元できる [非表示 CI] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[選択された CI に基づいてビューを作成] をクリックすると、[結果の表示] 表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。
	[プレビュー表示の展開] をクリックすると、プレビューが別の表示枠で表示されます。
<b>&lt;現在位置表示 リスト&gt;</b>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は <b>最上位レイヤ</b> です。また、下のレイヤから CI を選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが表示されます。

UI 要素	説明
<凡例>	<p>CI の横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[追加済み]</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響を受ける</b>：[影響分析] がアクティブの場合、影響を受ける CI を示します。</li> <li>▶ <b>影響を受けてトリガする</b>：[影響分析] がアクティブの場合、影響を受けるトリガ CI を示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CI が削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CI にメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。</li> </ul>
<トポロジ マップ>	<p>[結果の表示] 表示枠のトポロジ・マップは、IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップのレイアウトに従います。詳細については、258 ページの「トポロジ マップ」を参照してください。</p>
< [トポロジ マップ] サイドバー >	<p>詳細については、203 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>


### ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
<IT ユニバースのショートカット・メニュー・オプション>	<p>IT ユニバース・マネージャでは、ショートカット・メニュー・オプションを使用できます。詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。</p>
選択された CI に基づいてビューを作成	<p>[<b>選択された CI に基づいてビューを作成</b>] を選択すると、[結果の表示] 表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。</p>

メニュー項目	説明
ビューから CI を非表示	選択した CI をビューで非表示にするときにクリックします。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係します。元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。モデルに基づくビューの場合、モデルは非表示にできませんが、その CI は非表示にできます。
非表示 CI を表示	非表示の CI をビューに復元します。

## [クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI のグループを定義したり、既存のグループを編集したりできます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタの [階層] 表示枠で [次の項目別にグループを追加] ボタン  をクリックして [属性別グループを追加] を選択するか、必要なクエリ・ノードを右クリックしてショートカット・メニューから [属性別グループを追加] を選択します。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
表現キャプチャグループインデックス	正規表現の関連部分の番号を入力します。表現全体が関連する場合は「0」を入力します。
グループ化	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
グループ化のマスク	選択した属性の構造を表す正規表現パターンを入力します。詳細については、289 ページの「クエリ ノードのグループ化」を参照してください。

## [クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリまたはビューのプロパティを設定できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオの TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで、 <b>[クエリ / ビュー定義プロパティ]</b> ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
<b>ベース クエリ</b>	新しいクエリの基にする既存の TQL クエリを選択します。 <b>注：</b> ▶ このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。 ▶ このフィールドは任意指定です。
<b>バンドル</b>	TQL クエリまたはビューをカテゴリ別にグループ化する方法です。現在のクエリまたはビューに関連付けられたバンドルを選択するか、現在のクエリまたはビュー用に新しいバンドルを作成します。 <b>注：</b> このフィールドは任意指定です。
<b>説明</b>	TQL クエリまたはビューの説明です。
<b>レイヤ間リンク</b>	トポロジ結果に表示されるレイヤ間の関係の範囲を設定します。 <b>注：</b> このフィールドはビューにのみ関連します。
<b>永続</b>	TQL クエリを永続として定義する場合に選択します。永続クエリは、常にメモリに保持されます。 <b>注：</b> このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。



UI 要素	説明
優先度	TQL クエリまたはビューの優先度をドロップダウン・リストから選択します (低, 中, 高, 至急, 非アクティブ)。この設定により, システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。 <b>注:</b> ビューの優先度を変更すると, ビューの基になる TQL クエリの優先度も変更されます。
対象範囲	TQL クエリの対象範囲をドロップダウン・リストから選択します。 <b>注:</b> このフィールドは統合 TQL クエリにのみ関連します。
タイプ	TQL クエリのタイプをドロップダウン・リストから選択します。 <b>注:</b> このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。





## [CI を公開] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスでは, モデルの CI に関連する CI を検索し, モデルに追加することができます。

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタで, CI を選択し, <b>[隣接検索]</b>  ボタンをクリックして <b>[隣接検索を開始]</b> を選択するか, モデルの CI を右クリックして <b>[隣接検索] &gt; [隣接検索を開始]</b> を選択します。
------	---

<b>重要情報</b>	<p>上部の表示枠には、選択した CI に関連する CI の CI タイプが表示されます。下部の表示枠には、上部の表示枠で選択したタイプの CI が表示されます。</p> <p>公開の始点にした CI の CI タイプが公開の最初ステップとなります。上部の表示枠のリストから CI タイプを選択すると、その CI タイプがパスの 2 番目のステップになります。[次へ] をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。</p> <p>ボックスの上部に表示される括弧で囲まれた数字は、それまでに作成されたパスの長さを表します。</p>
<b>関連タスク</b>	315 ページの「インスタンス・ベース・モデルの作成」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	選択した項目を CI バスケットから削除するときをクリックします。
	下部の表示枠で選択した CI を CI バスケットに追加するときをクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、CI のリスト内の次の項目を検索するときをクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、CI のリスト内の前の項目を検索するときをクリックします。
<下部の表示枠>	上部の表示枠で選択したタイプの関連 CI のリストが表示されます。
CI 数	各タイプの関連 CI がいくつ見つかったかを示します。
CI バスケット	モデルに含めるために選択した関連 CI が表示されます。
CI タイプ	選択した CI に関連する CI の、CI タイプのリストが表示されます。








UI 要素	説明
<b>条件</b>	チェック・マークは、選択した CI タイプに条件が定義されていることを示します。選択する CI タイプの [条件] カラムをクリックし、[条件の追加] ボタンまたは [定義を編集] ボタンをクリックすると、[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、CI タイプに条件を定義したり、CI タイプの条件を編集したりできます。
<b>検索</b>	[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、CI のリストで CI を検索します。
<b>完了</b>	CI バスケットへの CI の追加が完了したときに [完了] をクリックします。
<b>次へ</b>	[次へ] をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。
<b>隣接検索パス</b>	<p>作成中の公開パスが表示されます。</p> <p>パス内の青い矢印  をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプのドロップダウン・リストが表示されます。</p> <p>パス内の CI タイプをクリックすると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ページへ移動</b> : パス内の選択したステップで使用できる CI タイプでテーブルが更新されます。</li> <li>▶ <b>定義を編集</b> : [関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ <b>選択した項目の削除</b> : 選択した CI タイプが公開パスから削除されます (パスは前の CI タイプで終了します)。</li> </ul>
<b>パスの保存</b>	パスを保存できる [公開パスの保存] ダイアログ・ボックスが開きます。このオプションは、一意の公開パスが作成された場合にかぎり有効になります。

## [クエリを保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい TQL クエリを保存できます。


<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、新規 TQL クエリの定義時に、 <b>[保存]</b>  ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。









UI 要素	説明
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 <b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。
	CMDB から選択したリソースを削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	リソースのツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、 <b>[すべてを展開]</b> をクリックします。
	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 <b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>&lt;リソース ツリー&gt;</b>	クエリの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
<b>検索</b>	[検索] ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して、リスト内のフォルダを検索します。
<b>クエリ名</b>	新しい TQL クエリの名前を入力します。

## [ビュー / テンプレート / パースペクティブを保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの定義時に、  ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 <b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。
	CMDB から選択したリソースを削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	リソースのツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、 <b>[すべてを展開]</b> をクリックします。
	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 <b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>&lt;リソース ツリー&gt;</b>	ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
<b>検索</b>	<b>[検索]</b> ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して、リスト内のフォルダを検索します。

UI 要素	説明
新規クエリ	新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する場合、[ <b>新規クエリ</b> ] を選択します。 <b>注:</b> このフィールドはテンプレート・ベース・ビューおよびパースペクティブ・ベース・ビューには適用されません。
ビュー名	新しいビュー、テンプレート、またはパースペクティブの名前を入力します。

## [データ ソースの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ・ノードに必要なデータ・ソースを選択できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、TQL クエリ・ノードを右クリックし、[ <b>データ ソースの設定</b> ] を選択します。
重要情報	TQL クエリが各クエリ・ノードの結果を生成するために使用するデータ・ソースを選択できます。データ・ソースの詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Integration Studio の概要」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。









UI 要素	説明
<データ ソース リスト>	使用可能なデータ・ソースのリストです。
すべてのデータ ソース	選択したクエリ・ノードについて、すべての UCMDB および外部ソースの CI を TQL クエリの結果に含めるときに選択します。
ローカル・データ・ソース	TQL クエリ結果の選択したクエリ・ノードについてののみ UCMDB から CI を含めるときに選択します。
データ ソースの選択	選択したクエリ・ノードについて、選択したソースのみの CI を TQL クエリの結果に含めるときに選択します。

## [カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートでのカラム・コンテンツの順序を設定できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、パターン・ビュー・エディタ（レポート・モード）の [クエリ ノード定義] 表示枠から [ <b>並べ替え順を設定</b> ] をクリックします。
<b>重要情報</b>	レポートは [並べ替えられたカラム] 表示枠の属性の順序に従って各カラムで並べ替えられます。選択した各カラムは、指定に従って昇順または降順に並べ替えられます。
<b>関連タスク</b>	314 ページの「レポート設定の定義」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動するには、 [ <b>並べ替えられたカラムへ移動</b> ] をクリックします。
	選択した属性を [利用可能なカラム] 表示枠に移動するには、 [ <b>利用可能なカラムへ移動</b> ] をクリックします。
	すべての属性を [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動するときにクリックします。
	すべての属性を [利用可能なカラム] 表示枠に移動するときにクリックします。
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] リストの中で下に移動するときにクリックします。
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] リストの中で上に移動するときにクリックします。
	選択したカラムを昇順で並べ替えるには、 [ <b>昇順ソート</b> ] をクリックします。
	選択したカラムを降順で並べ替えるには、 [ <b>降順ソート</b> ] をクリックします。

UI 要素	説明
利用可能なカラム	レポートの表示対象カラムとして選択した属性です。
並べ替えられたカラム	並べ替え対象として選択したカラムです。

## [テンプレート ベース ビュー] ウィザード

このウィザードでは、手動で、または CSV ファイルからパラメータ・データをインポートすることで、テンプレート・ベース・ビューを定義できます。

利用方法	[ <b>新規作成</b> ]  ボタンをクリックして [テンプレート ベース ビュー] を選択します。
重要情報	このウィザードでは、同じテンプレートを使用して複数のテンプレート・ベース・ビューを作成できます。複数のビューを作成すると、ウィザードに最終ページとして [ビューを保存] ページが含まれます。単一のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合、ウィザードが [パラメータ] ページを終了したら、エディタで新しいビューが開きます。新しいビューはエディタで保存できます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 310 ページの「テンプレート ベース ビューの作成」</li> <li>▶ 312 ページの「複数のテンプレート・ベース・ビューの作成」</li> </ul>
ウィザード・マップ	<p>[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。</p> <p>[テンプレートの選択] ページ &gt; [パラメータ値をインポート] ページ &gt; [パラメータ] ページ &gt; [ビューの場所を選択] ページ &gt; [サマリ] ページ &gt; [ビューを保存] ページ</p>
関連情報	293 ページの「テンプレート・ベース・ビューの作成」









## [テンプレートの選択] ページ

このウィザード・ページでは、ビューの基にするテンプレートを選択できます。

<b>重要情報</b>	ツリー内のテンプレートを使用しない場合、最初に新しいテンプレートを作成し、それに基づいてビューを作成できます。テンプレートの作成の詳細については、305 ページの「テンプレートの作成」を参照してください。
<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ値をインポート] ページ > [パラメータ] ページ > [ビューの場所を選択] ページ > [サマリ] ページ > [ビューを保存] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。


UI 要素	説明
	テンプレートのツリーを更新するには、[更新] をクリックします。
	[すべてを展開] をクリックすると、テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	[すべてを折りたたむ] をクリックすると、テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>&lt;テンプレートツリー&gt;</b>	既存のテンプレートがツリー形式で表示されます。
<b>検索</b>	[検索] ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して、リスト内のテンプレートを検索します。

## [パラメータ値をインポート] ページ

このウィザード・ページでは、CSV ファイルからパラメータ値をインポートできます。

<b>重要情報</b>	同じテンプレートに基づくビューを多く作成する場合は、CSV ファイルでパラメータ値を保存し、ウィザードにパラメータ値を直接インポートできます。
<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ値をインポート] ページ > [パラメータ] ページ > [ビューの場所を選択] ページ > [サマリ] ページ > [ビューを保存] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素	説明
<b>パラメータ値を手動で追加</b>	単一ビューまたは複数ビューのどちらの場合でも、パラメータ値を手動で入力する場合、このオプションを選択します。
<b>パラメータ値を CSV ファイルからインポート</b>	CSV ファイルからパラメータ値をインポートする場合、このオプションを選択します。省略記号のボタンをクリックして、  必要なファイルに対してお使いのファイルを参照します。
<b>Use Advanced Naming</b>	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、[Use Advanced Naming] オプションを選択します。このボックスでは、少なくとも 1 つのパラメータ名を含む式を山括弧で囲んで入力します。選択したパラメータの値に基づいてビューに名前が付きます。

## [パラメータ] ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成した各ビューのテンプレート・パラメータの値を設定できます。

<b>重要情報</b>	複数のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 <b>[次へ]</b> をクリックして、 <b>[ビューを保存]</b> ページに進みます。単一のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 <b>[完了]</b> をクリックすると、エディタで新しいビューが開きます。
<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ値をインポート] ページ > <b>[パラメータ] ページ</b> > [ビューの場所を選択] ページ > [サマリ] ページ > [ビューを保存] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。








UI 要素	説明
	新しいインスタンスを追加するときにクリックします。
	選択したビュー・インスタンスを削除するときにクリックします。
<b>&lt;パラメータ・カラム&gt;</b>	各パラメータ・カラムで、各ビューに必要なパラメータ値を入力または選択します。
<b>リセット</b>	クリックすると、選択したパラメータが元の値にリセットされます。
<b>Use Advanced Naming</b>	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、 <b>[Use Advanced Naming]</b> オプションを選択します。このボックスでは、少なくとも <b>1</b> つのパラメータ名を含む式を山括弧で囲んで入力します。選択したパラメータの値に基づいてビューに名前が付きます。 <b>注:</b> すべてのビュー名は一意である必要があります。
<b>ビュー名</b>	新しいビューそれぞれに名前を入力するか、割り当てられた標準設定の名前を使用します。

## [ビューの場所を選択] ページ

このウィザード・ページでは、作成したビューを保存する場所を選択できます。

<b>重要情報</b>	作成したすべてのビューは同じ場所に保存する必要があります。
<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ値をインポート] ページ > [パラメータ] ページ > <b>[ビューの場所を選択] ページ</b> > [サマリ] ページ > [ビューを保存] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	ビュー・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 <b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。
	<b>[更新]</b> をクリックすると、ビューのツリーが更新されます。
	<b>[すべてを展開]</b> をクリックすると、ビューのツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	<b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックすると、ビューのツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>&lt;ビューのツリー&gt;</b>	ビューのツリーからフォルダ（またはルート）を選択します。
<b>検索</b>	<b>[検索]</b> ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して、ツリー内のテンプレートを検索します。

## [サマリ] ページ

このウィザード・ページでは、保存する前に作成したビューの詳細が表示されます。

<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ> [パラメータ値をインポート] ページ> [パラメータ] ページ> [ビューの場所を選択] ページ> <b>[サマリ] ページ</b> > [ビューを保存] ページ
------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<b>ビューのサマリを保存</b>	ベース・テンプレートの名前, 作成したビューの数, ビューの保存に選択した場所を含む, 作成したビューのサマリ。

## [ビューを保存] ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成したビューを保存できます。


<b>重要情報</b>	このウィザード・ページは、複数のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合にのみ関連します。
<b>ウィザード・マップ</b>	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ> [パラメータ値をインポート] ページ> [パラメータ] ページ> [ビューの場所を選択] ページ> [サマリ] ページ> <b>[ビューを保存] ページ</b>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<b>結果を保存</b>	テーブルに、新しいビューの名前と、各ビューが正常に保存されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

## [テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テンプレート・ベース・ビューのパラメータを編集できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのテンプレート・ベース・ビューで、定義されたパラメータを含むクエリ・ノードを右クリックし、[ノード パラメータの表示] を選択するか、ツールバーの [パラメータを表示]  ボタンをクリックします。
<b>重要情報</b>	定義されたパラメータを含むクエリ・ノードを右クリックして、ショートカット・メニューからダイアログ・ボックスを開くと、選択したクエリ・ノードのパラメータのみがダイアログ・ボックスに表示されます。ツールバーからダイアログ・ボックスを開くと、ビュー内にあるクエリ・ノードに定義されているすべてのパラメータが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。









UI 要素	説明
<パラメータ>	パラメータの値を編集します。

## TQL クエリ・エディタ

この機能では、TQL クエリを作成および編集できます。

<b>利用方法</b>	<p>TQL クエリ・エディタで新しい TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオに移動し、[新規作成]  ボタンをクリックして、[クエリ] を選択します。</p> <p>TQL クエリ・エディタで既存の TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠にある [リソース] タブに移動し、[リソース タイプ] として [クエリ] を選択します。ツリーで TQL クエリを右クリックして [クエリを開く] を選択します。または、TQL クエリをダブルクリックするか、TQL クエリを空のキャンバスにドラッグします。新しいタブで TQL クエリが開きます。</p>
<b>重要情報</b>	TQL クエリを保存するには、モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある [保存] ボタンを使用します。
<b>関連タスク</b>	28 ページの「TQL クエリの定義」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直接移動するには、 <b>[ビュー結果を IT ユニバースに表示]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの場合にのみ適用されます。
	クエリ・ノード間に関係を設定するには、 <b>[関係を作成]</b> をクリックします。
	トポロジ・マップの凡例の表示と非表示を切り替えるには、 <b>[凡例を表示]</b> / <b>[凡例の非表示]</b> をクリックします。
	各 TQL クエリ・ノードまたは関係について、見つかったインスタンスの数を計算するには、 <b>[クエリ結果数を計算する]</b> をクリックします。
	IT ユニバース・マネージャに表示される際の TQL クエリの結果をプレビューするには、 <b>[プレビュー]</b> をクリックします。
	クエリの場合、 <b>[クエリ定義プロパティ]</b> ダイアログ・ボックスが開き、TQL クエリのタイプ、範囲、および優先度を編集できます。 ビューの場合、 <b>[定義プロパティの表示]</b> ダイアログ・ボックスが開きます。
	選択したクエリ・ノードまたは関係をクエリから削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	<b>[テンプレートパラメータ値]</b> ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・ベース・ビューでクエリ・ノードのパラメータを編集できます。 <b>注:</b> このボタンは、テンプレート・ベース・ビューの場合にのみ表示されます。

UI 要素	説明
<凡例>	<p>CI の横に表示されるアイコンが次の特殊な意味を持つことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ パースペクティブ内のコンタクト・クエリ・ノードとして定義されている</li> <li>▶ パターン・ベース・モデルの出力クエリ・ノードとして定義されている</li> <li>▶ 属性が定義されている</li> <li>▶ 選択した ID が定義されている</li> <li>▶ 非表示要素として設定されている</li> <li>▶ サブグラフが定義されている</li> </ul>
<メインメニュー>	<p>詳細については、191 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>
<ショートカット・メニュー・オプション>	<p>詳細については、38 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。</p>
< [トポロジマップ] サイドバー >	<p>詳細については、203 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>



### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

<b>重要情報</b>	<p>詳細表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。</p> <p>データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ  が表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルール of 定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリ of 定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビュー of 作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブ of 作成」</li> </ul>




ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。
カーディナリティ	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 : 3 である場合、TQL クエリは 1~3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。
データ ソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。 <b>注:</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプ:</b> 選択したクエリ・ノード/関係の CIT です。</li> <li>▶ <b>可視:</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。</li> <li>▶ <b>サブタイプを含める:</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。</li> </ul>
編集	[編集] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。




UI 要素	説明
エンリッチメント ルール	<p>選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて <b>[編集]</b> をクリックして <b>[クエリ・ノード/関係の定義]</b> ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、568 ページの「<b>[クエリ ノード定義]</b>」, <b>[関係の定義]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。</p>
影響を受けるクエリ ノード	<p>選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、<b>[編集]</b> をクリックして <b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、490 ページの「<b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。</p>
修飾子	<p>クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、90 ページの「<b>[修飾子]</b> タブ」を参照してください。</p>
選択された ID	<p>TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、93 ページの「<b>[ID]</b> タブ」を参照してください。</p>

## [選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むビューのリストを表示できます。


利用方法	<p>モデル・エディタで <b>[選択済みの CI / モデルを含むビューを表示]</b>  ボタンをクリックするか、ショートカット・メニューから <b>[含まれるビューを表示]</b> を選択します。</p>
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直接移動するには、 <b>[ビュー結果を IT ユニバースに表示]</b> をクリックします。
	選択したビューを削除するには、 <b>[選択した項目の削除]</b> をクリックします。
	選択したビューをパースペクティブから切断するには、 <b>[パースペクティブからビューを切断]</b> をクリックします。ビューは、パターン・ビューになります。
<b>検索</b>	[検索] ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して、リスト内のビューを検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前回を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<b>ハイライト表示</b>	検索フレーズに一致する、リスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>ビュー名</b>	選択したテンプレートまたはパースペクティブに依存するビューのリストが表示されます。 <b>注:</b> 現在のビューの名前は淡い色のテキストで表示されます。

## [監視の更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、モデルに定義されたウォッチポイントにより、関連 CI で見つかった変更が表示されます。

<b>利用方法</b>	モデル・エディタのモデル内から、 <b>[ウォッチポイント]</b>  ボタンをクリックして <b>[ウォッチポイントの更新]</b> を選択するか、モデルの CI を右クリックして <b>[ウォッチポイント] &gt; [ウォッチポイントの更新]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	[監視の更新] ダイアログ・ボックスには、関連付けられた公開パスを介し、モデルに関連する CI について見つかった変更が表示されます。モデルに含まれていない新しい関連 CI が見つかった場合、推奨更新は CI の追加となります。モデルの CI がパスを介して関連しなくなったことがわかった場合、推奨更新は CI の削除となります。  このオプションは、モデルに監視が定義されていて、CI が見つかった場合にのみ有効となります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>承認</b>	モデルに追加する CI のチェック・ボックス、またはモデルから削除する CI のチェック・ボックスを選択します。
<b>すべて承認</b>	推奨された変更をすべてモデルに適用するときに、 <b>[すべて承認]</b> をクリックします。
<b>CI</b>	監視により見つかった CI の名前です。
<b>CI タイプ</b>	監視により見つかった CI のタイプです。
<b>すべてクリア</b>	見つかったすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 <b>[すべてクリア]</b> をクリックします。
<b>復元</b>	[抑制された CI] 表示枠で、モデルに含めることを検討する CI のチェック・ボックスを選択します。
<b>抑制の表示/非表示</b>	ダイアログ・ボックスの [抑制された CI] 表示枠の表示と非表示を切り替えます。

UI 要素	説明
推奨更新	推奨された変更が CI の追加か CI の削除かを示します。
抑制	モデルから除外する CI のチェック・ボックス, またはモデルに残す CI のチェック・ボックスを選択します。
すべて抑制	モデルに対する推奨された変更をすべて受け入れないときに, <b>[すべて抑制]</b> をクリックします。

## [ <クエリ / テンプレート / パースペクティブ名> の依存関係 ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, クエリ, テンプレート, またはパースペクティブへの変更を保存するときに依存ビューのステータスを確認できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, 依存ビューを含むクエリ, テンプレート, またはパースペクティブを変更します。 <b>[保存]</b> をクリックすると, ダイアログ・ボックスが開きます。
重要情報	リソースに対して行った変更はすべて, そのリソースに基づくビューに影響します。変更を保存する前に, 依存ビューで希望する結果を指定する必要があります。各依存ビューに対して, <b>[削除]</b> , <b>[再適用]</b> , <b>[デタッチ]</b> のいずれかの使用可能なオプションを選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
削除	選択した依存ビューを削除するには, このオプションを選択します。
デタッチ	テンプレートまたはパースペクティブから選択した依存ビューをデタッチするには, このオプションを選択します。ビューは, パターン・ビューになります。 <b>注:</b> このオプションはクエリには関連しません。

UI 要素	説明
<b>再適用</b>	修正したクエリ、テンプレート、またはパースペクティブを、選択した依存ビューに適用するには、このオプションを選択します。ビュー・タイプは以前のタイプ (パターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー) のままです。
<b>Resource</b>	依存ビューがツリー形式で表示されます。

# 9

---

## レポート

本章の内容

### 概念

- ▶ トポロジ・レポートの概要 (392 ページ)
- ▶ カスタム・レポートの概要 (392 ページ)

### タスク

- ▶ トポロジ・レポートの表示 (393 ページ)
- ▶ カスタム・レポートの生成 (394 ページ)
- ▶ CI の比較 (395 ページ)
- ▶ スナップショットの比較 (396 ページ)

### 参照先

- ▶ Cron 式 (398 ページ)
- ▶ [レポート] のユーザ・インタフェース (399 ページ)
- ▶ ツールバー・オプション (469 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・レポートの概要

トポロジ・レポートでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオで定義されているすべてのビューには、レポート・モジュールの対応するトポロジ・レポートがあります。レポート設定は、パターン・ビュー・エディタのレポート・モードでビュー定義を使用して定義します。詳細については、355 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

ビューに表示される CI の選択の詳細については、147 ページの「CI の選択を使った作業」を参照してください。

また、パースペクティブ、パースペクティブ・ベース・ビュー、およびレポート・ベース・ビューにも、トポロジ・レポートがあります。このようなビューのレポート設定は、ベース・テンプレートまたはパースペクティブで定義される設定に基づいています。

レポート・モジュールでテンプレートを開き、テンプレートのパラメータを編集できます。その後、**[ビューに名前を付けて保存]** をクリックして、レポート・ベース・ビューとしてテンプレートのインスタンスを保存できます。

### カスタム・レポートの概要

カスタム・レポートは、監視対象環境の状況を追跡 / 分析できるグラフとテーブルで構成されています。カスタム・レポートでは、HP Universal CMDB によって収集され、CMDB に保管されたパフォーマンス・データを表示 / 評価できます。レポートを作成するときに、時間範囲や位置など、さまざまなレポート設定を指定できるだけでなく、ドリルダウンして詳細情報を確認できます。



---

---

## タスク

---

---

### トポロジ・レポートの表示

このタスクでは、以前に保存したビューまたはパターンに基づいてレポートを作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 393 ページの「前提条件」
- ▶ 393 ページの「レポートを選択する」
- ▶ 393 ページの「テンプレート・パラメータを編集する」

#### 1 前提条件

(任意指定) モデリング・スタジオを使用して新規ビューを定義します。詳細については、283 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。

#### 2 レポートを選択する

レポート・モジュールで、同じ名前のビューに対応する既存のトポロジ・レポートを選択します。そのレポートをダブルクリックまたは右クリックして、[レポートを開く]を選択します。右の表示枠でレポートが開きます。詳細については、465 ページの「トポロジ・レポート」を参照してください。

#### 3 テンプレート・パラメータを編集する

テンプレートに対応するレポートを選択した場合は、テンプレートのパラメータを編集して、レポートを生成します。[ビューに名前を付けて保存]をクリックして、テンプレート・ベース・ビューとして保存します。

## カスタム・レポートの生成

このタスクでは、カスタム・レイアウトに基づいてレポートを定義および生成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 394 ページの「レポート・タイプを選択する」
- ▶ 394 ページの「必須パラメータを指定する」
- ▶ 394 ページの「レポートを生成する」

### 1 レポート・タイプを選択する

[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。

- ▶ レポート名を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
- ▶ [新規レポートの作成] ボタンをクリックし、必要なレポートを選択する。
- ▶ レポート名をダブルクリックする。



### 2 必須パラメータを指定する

選択したレポート・タイプの必須パラメータを指定します。各レポート・タイプの必須パラメータの詳細については、399 ページの「[レポート] のユーザ・インターフェース」に記載されている関連するレポートを参照してください。

### 3 レポートを生成する

[生成] をクリックして、レポートを作成します。必要であれば、パラメータを再設定して[生成]を再度クリックし、更新されたレポートを表示できます。

## CI の比較

このタスクでは、2つの複合 CI の階層を比較し、CI の構成ドキュメントを表示して、2つの構成ドキュメント間の相違を示す方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 395 ページの「必要な CI を選択する」
- ▶ 396 ページの「CI の構成ドキュメントを表示する」
- ▶ 396 ページの「2つの構成ドキュメントの相違を表示する」

### 1 必要な CI を選択する

比較する2つの CI を選択します。2つの複合 CI の階層が CI 比較レポートで比較されます（詳細については、417 ページの「CI 比較レポート」を参照してください）。選択したビューまたは CMDB に表示される2つの CI を比較できます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。

#### 一致しない CI の例：

この例では、他方に一致する CI がいないため CI **LABM3QCRNDDB03** の横に「一致する CI なし」アイコンが表示されます。

CI LABM3QCRNDDB02 と LABM3ASTDB01 の MemorySize の値が異なるため、MemorySize プロパティの横に異なる属性値を表示アイコンが表示されます。

Name	Value
DiscoveredVen...	
DiscoveredOsN...	Windows 2003
DiscoveredOsV...	Microsoft
Host Operating ...	3790
Memory Size	2,045

Name	Value
DiscoveredVen...	
DiscoveredOs...	Windows 2003
DiscoveredOs...	Microsoft
Host Operating ...	3790
Memory Size	4,093

## 2 CI の構成ドキュメントを表示する

CIT Configuration Document の CI を選択して、構成ドキュメントを表示します。詳細については、417 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。

## 3 2 つの構成ドキュメントの相違を表示する

CIT Configuration Document の CI を選択して、2 つの構成ドキュメントの相違を表示します。詳細については、417 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。

## スナップショットの比較

このタスクでは、ビューのスナップショットを取り、異なる時刻に取った特定ビューの 2 つのスナップショットを比較する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 397 ページの「ビューのスナップショットを取る」
- ▶ 397 ページの「スナップショットを定期的に保存する」

▶ 397 ページの「スナップショットを比較する」

## 1 ビューのスナップショットを取る

a トポロジ・レポートを選択します。



b [スナップショット] ボタンをクリックして [スナップショットを保存する] を選択し、ビューのスナップショットを取って保存します。詳細については、276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 スナップショットを定期的に保存する

オプションで、タスクを定義することによって、指定の時刻に特定ビューのスナップショットを取るようスケジュールできます。詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 3 スナップショットを比較する

異なる時刻に取ったビューのスナップショットを比較します。[モデリング] > [レポート] を選択し、スナップショット比較レポートを作成します。詳細については、422 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。

### 異なる時刻に取ったビューのスナップショットの例：

次の例では、右表示枠の 192.168.163.0 CI の横にある [削除された項目] アイコンが、新しいビューで CI が削除されたことを示しています。

凡例: ✖ 削除された項目 ✨ 新規項目 🔄 更新された項目 📌 更新された項目を含む

NetworkTopology	Tue Jul 07 11:37:31 GMT+08:00 2009
<ul style="list-style-type: none"> <li>📌 192.168.161.0</li> <li>📌 192.168.184.0</li> <li>📌 192.168.206.0</li> <li>📌 192.168.21.0</li> <li>📌 192.168.211.0</li> <li>📌 192.168.213.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>📌 192.168.161.0</li> <li>✖ 192.168.163.0</li> <li>📌 192.168.206.0</li> <li>📌 192.168.21.0</li> <li>📌 192.168.211.0</li> <li>📌 192.168.213.0</li> </ul>
検索(E): <input type="text"/>	検索(E): <input type="text"/>

---



---

## 参照先

---



---

### Cron 式

cron 式は、6～7 個のフィールドを空白文字で区切った文字列です。これらのフィールドのうち、6 個は必須であり、1 個は任意です。

次の表は、cron 式に使用されるフィールドを示します。

フィールド名	使用できる値	使用できる特殊文字
秒	0-59	, - * /
分	0-59	, - * /
時間	0-23	, - * /
日	1-31	, - * ? / L W C
月	1-12 または JAN-DEC	, - * /
曜日	1-7 または SUN-SAT	, - * ? / L C #
年 (任意指定)	空, 1970-2099	, - * /

次の表は、cron 式の使用例を示します。

Cron 式	意味
<b>0 0 12 * * ?</b>	このタスクは、毎週水曜日の午後 12:00 に実行されます。
<b>0 15 10 ? * *</b>	このタスクは、毎日午前 10:15 に実行されます。
<b>0 15 10 * * ? 2011</b>	このタスクは、2011 年中の毎日午前 10:15 に実行されます。
<b>0 0/5 14 * * ?</b>	このタスクは、毎日午後 2 時から午後 2:55 までの間、5 分間隔で実行されます。
<b>0 15 10 15 * ?</b>	このタスクは、毎月 15 日の午前 10:15 に実行されます。

Cron 式	意味
0 15 10 ? * 6L	このタスクは、毎月最後の金曜日の午前 10:15 に実行されます。
0 15 10 ? * 6#3	このタスクは、毎月第 3 金曜日の午前 10:15 に実行されます。

Cron 式の詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://confluence.zutubi.com/display/pulse0101/Project+Cron+Triggers>（英語サイト）

## [レポート] のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 401 ページの「アプリケーション・ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 404 ページの「アセット・レポート」
- ▶ 406 ページの「変更済みアプリケーション・レポート」
- ▶ 409 ページの「変更されたビューのレポート」
- ▶ 411 ページの「CI 変更レポート」
- ▶ 415 ページの「CMDB 使用率レポート」
- ▶ 417 ページの「CI 比較レポート」
- ▶ 422 ページの「スナップショット比較レポート」
- ▶ 428 ページの「データベース・ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 430 ページの「削除候補レポート」
- ▶ 432 ページの「依存関係レポート」
- ▶ 435 ページの「ディスカバリ・エラー・レポート」
- ▶ 437 ページの「汎用ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 439 ページの「ゴールド・マスタ・レポート」
- ▶ 442 ページの「影響分析レポート」
- ▶ 444 ページの「[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス」

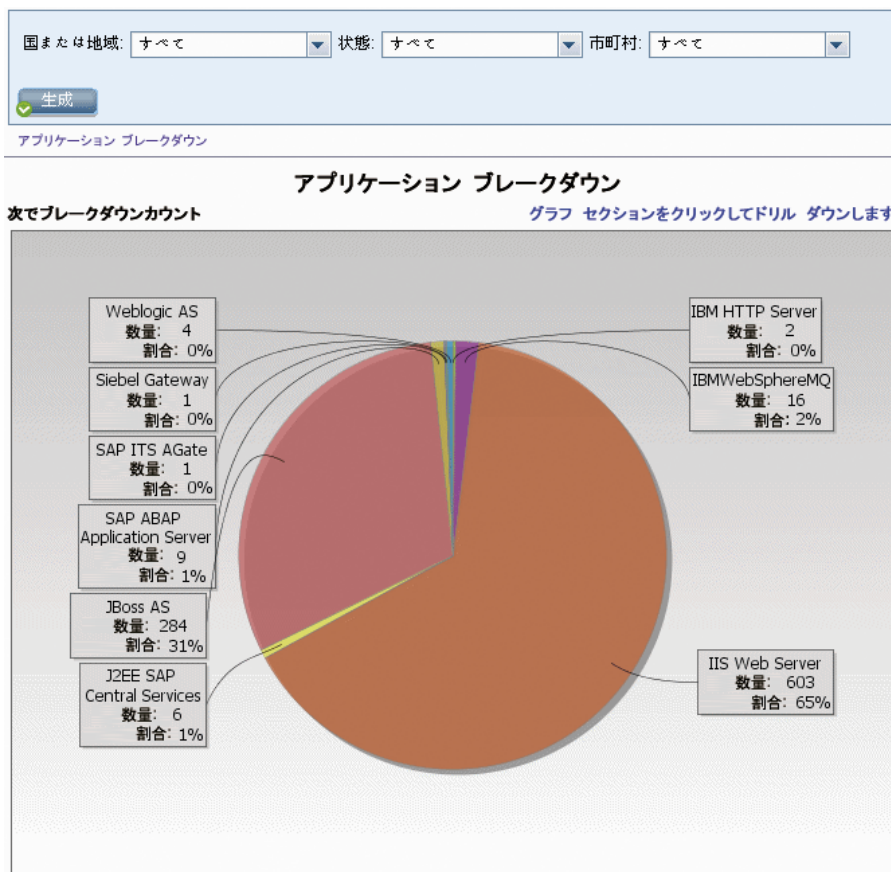
## 第9章・レポート

- ▶ 447 ページの「ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 450 ページの「ノード OS ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 453 ページの「変更数レポート」
- ▶ 455 ページの「[レポート] ページ」
- ▶ 460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 465 ページの「トポロジ・レポート」
- ▶ 466 ページの「変更レポートを表示」



## 🔍 アプリケーション・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、アプリケーションのブレイクダウンとそのバージョンが表示されます。メジャー・アプリケーションは、**MAJOR\_APP** クラス修飾子を割り当てられた Running Software CIT です。詳細については、526 ページの「[[修飾子] ページ」を参照してください。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [アプリケーション ブレークダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ <b>新規レポートの作成</b> * ボタンをクリックし、[アプリケーション ブレークダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [アプリケーション ブレークダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [アプリケーション ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

<p><b>UI 要素</b></p>	<p><b>説明</b></p>
<p>&lt;現在位置表示リスト&gt;</p>	<p>現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。</p> <p><b>注：</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。</p>
<p>&lt;棒グラフ / 円グラフ&gt;</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるアプリケーションを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックするとバージョンごとに並べ替えられたアプリケーションが表示され、ドリルダウンするとアプリケーション・インスタンスとその属性が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、アプリケーション名、各アプリケーションで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>円グラフの下にある凡例には、各 CI の名前とその下のレベルにバージョンが表示されます。</p>
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
市町村	<p>アプリケーション・ブレイクダウン・データを表示する市町村を選択するか、[すべて]を選択してすべての市町村のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、<b>City</b> 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
国または地域	<p>アプリケーション・ブレイクダウン・データを表示する国または地域を選択するか、[すべて]を選択してすべての国または地域のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、[<b>国または地域</b>] 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
状態	<p>アプリケーション・ブレイクダウン・データを表示する状態を選択するか、[すべて]を選択してすべての状態のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、<b>State</b> 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>

## 🔍 アセット・レポート

このレポートには、指定したビューのすべての CI、その属性値、および CMDB におけるその子 CI のリストが表示されます。アセット・レポートは、ビューの内容を表示 / 分析して、関心のあるデータに重点的に取り組むのに使います。たとえば、アセット・レポートでは、ビューに含まれている特定アプリケーションの一部であるすべてのサーバのリストを表示できます。

Display Label	PrimaryDnsName
000E7FFD99F1	LABM3MAM11.devlab.ad
16.59.56.213	

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [アセット レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[アセット レポート] を選択する。</li> <li>▶ [アセット レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [アセット レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>レポートには、CI タイプ・マネージャの [属性] タブの [アセット データ] 修飾子でマークされている属性のみが含まれます。詳細については、513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
次に基づく情報を検索	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDB</b>. 選択したビューからの情報に加えて、CMDB における子 CI とその属性値に関する情報も含めます。 このオプションでは、選択したビューの CI に <b>[Container]</b> 修飾子のある関係で接続されている CI がレポートに含まれます。たとえば、ビューに含まれているサーバの CPU とメモリがレポートに含まれます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]</b>: 選択したビューに含まれている CI とその属性に関する情報のみが含まれます。</li> </ul>
ビュー	<p>ビュー・セレクタを開いてビューを選択できます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 特定のビューからアセット・レポートを生成すると、レポートにはトポロジ・マップの関連ビューと同じ階層構造が保持されます。</p>

## 🔗 変更済みアプリケーション・レポート

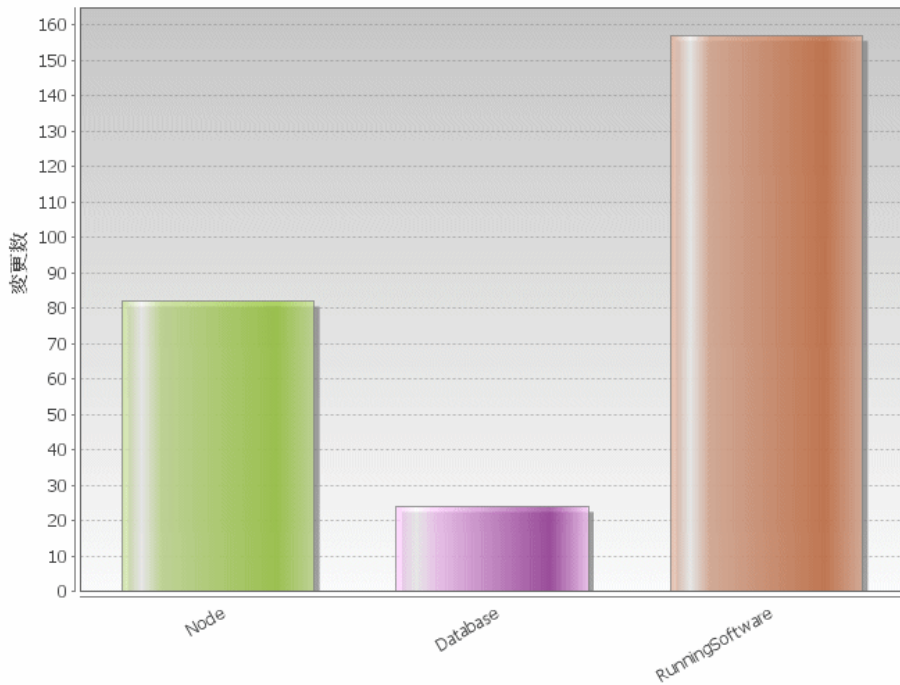
このレポートには、定義した期間内にアプリケーションで検出された変更件数を示す棒グラフが表示されます。

時間範囲: カスタム ▼ 開始日付: 2010年11月10日 (水曜日) 午前 02:47 CST ▼ 終了日付: 2010年11月 ▼  
生成

### CI タイプ別変更数

次でブレイクダウン 変更数

グラフセクションをクリックしてドリルダウンします



利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [変更済みアプリケーション レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[変更済みアプリケーション レポート] を選択する。</li> <li>▶ [変更済みアプリケーション レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [変更済みアプリケーション レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
関連タスク	394 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

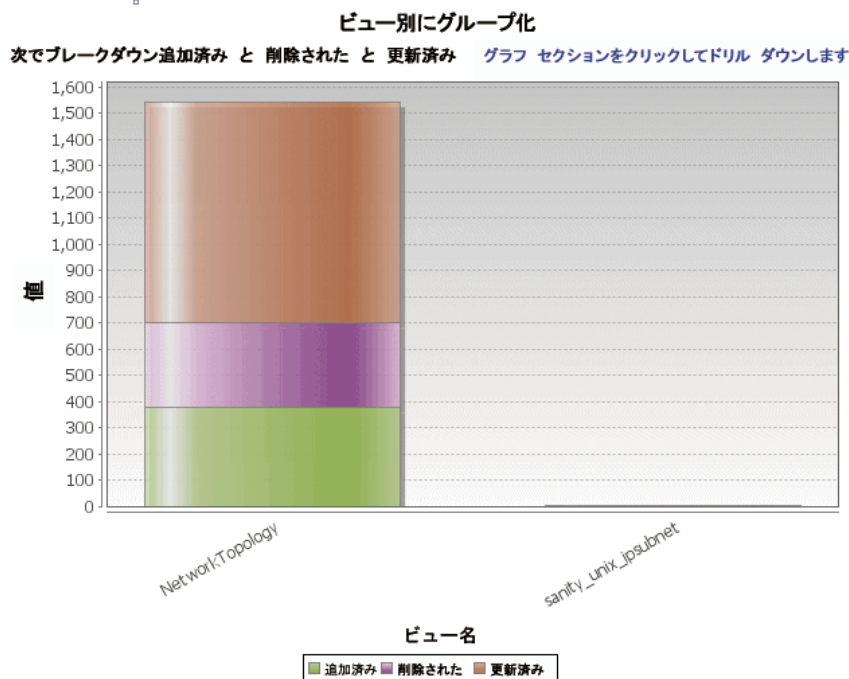
UI 要素	説明
<棒グラフ>	<p>それぞれの棒が異なるアプリケーション・タイプを示します。各棒の色は、アプリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。</p> <p>凡例の各色は、異なるタイプの変更を示します。各アプリケーションの CI タイプは関連する棒の下に表示されます。</p> <p>各棒の上にマウスを置くと、追加、削除、更新（色が異なる）された CI の数や棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>棒の必要な色をクリックすると、ドリルダウンしてテーブル形式で情報が表示されます。</p>
<現在位置表示リスト>	<p>現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。</p> <p><b>注：</b>現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。</p>
<ツールバー>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
開始日付	レポートの開始日時を設定します。

UI 要素	説明
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> <b>[カスタム]</b> を選択すれば、<b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>



## 🔗 変更されたビューのレポート

このレポートには、定義した期間内に特定ビューで発生した変更件数が表示されます。



<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [変更されたビューのレポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[変更されたビューのレポート] を選択する。</li> <li>▶ [変更されたビューのレポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [変更されたビューのレポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	394 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
棒グラフ	<p>それぞれの棒は異なるビューを示します。各ビューの名前は関連する棒の下に表示されます。各棒の色は、ビューで発生したさまざまなタイプの変更（追加、削除、更新）を示します。各棒の関連する色の上にマウスを置くと、ビュー名、変更タイプ、およびビューで変更された CI インスタンスの数がツールチップに表示されます。</p> <p>各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。</p> <p>ビューのスナップショットが異なる時刻に取られた場合、棒をクリックして [ビューをスナップショットで比較する] ダイアログ・ボックスを開き、ビューの相違点を表示できます。詳細については、422 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>変更されたビューのレポートの [開始日付] の日付前に取られたスナップショット（利用できない場合は [開始日付] の日付後）と [終了日付] の日付前に取られた別のスナップショット、2つのスナップショットの相違を示す変更のあるビューだけがレポートに表示されます。</p>
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	<p>変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b>[カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## 🔍 CI 変更レポート

CI 変更レポートでは、特定の CI とその子に加えられた実際の変更を表示 / 分析できます。変更レポートは、該当の CI に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CI の変更に加えて、問題の原因を追跡できることもあります。また、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。このレポートでは、CI 属性の変更や、CI とその子の追加または削除された CI を表示できます。

時間範囲: 直近の 1 日 ▼ 開始日付: 2009年11月29日 (日曜日) 午後 03:39 PST ▼ 終了日付: 2009年11月30日 (月曜日) 午後 03:39 PST ▼

選択された CI: 172.16.7.0 ... 次に基づく情報を検索:  CMDB  ビュー

生成

Display Label	Class Name	Attribute Name	
16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192
16.59.56.0\	Windows	SwapMemorySize	4,092
16.59.56.0\	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003
16.59.56.0\	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003 R2
16.59.64.0\	IpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2am175.devlab.ac
16.59.64.0\	IpAddress	IP Network Mask	255.255.254.0
16.59.66.0\	IpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2hp2-rm.devlab.a
16.59.66.0\	IpAddress	IP Network Mask	255.255.255.0
16.59.56.0\	Windows	PrimaryDnsName	labm3am255.devlab.ac
16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192

### 利用方法

- [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。  
[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。
- ▶ [CI 変更レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
  - ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[CI 変更レポート] を選択する。
  - ▶ [CI 変更レポート] をダブルクリックする。
  - ▶ [カスタム レポート] 表示枠の [CI 変更レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>CIのプロパティが「<b>変更をモニタ</b>」または「<b>比較可能</b>」とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については、513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>CI 変更レポートの表示内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 選択した CI と [変更レポートのリンク名] インフラストラクチャ設定で指定した関係に関連するすべての子 CI で行われた変更。この設定の標準設定値は <b>impact_link</b> 関係です。 生成したレポートに表示される CI を変更するには、[マネージャ] &gt; [管理] &gt; [インフラストラクチャ設定マネージャ] の順にアクセスして、次の設定を編集します。</li> <li>▶ [変更レポートのリンク名] を選択して、選択した計算済み関係にリンクしている CI を取得します。CI タイプ・マネージャで選択した関係の [詳細] ページで ([表示名] ボックスではなく) [名前] ボックスに表示されているとおり、設定値を関係の名前に変更します。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。空欄の場合、クラス名は <b>managed_relationship</b> であるとみなされます。</li> <li>▶ [変更レポートのリンク修飾子] を選択して、修飾子で定義されている CI を取得します。設定値を該当する修飾子の名前に変更します。修飾子の詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。空欄の場合、修飾子は <b>Container</b> であるとみなされます。</li> <li>▶ CI に追加または削除された <b>Composition</b> 関係のある CI。</li> <li>▶ 関係が <b>TRACK_LINK_CHANGES</b> 修飾子で定義され、CI に追加または削除された CI。修飾子の詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
次に基づく情報を検索	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDB</b> : CMDB 全体で CI とその子に発生した変更が表示されます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]</b> : 選択したビューで CI とその子に発生した変更が表示されます。</li> </ul>
選択された CI	必要な CI を選択します。[CI の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、147 ページの「CI の選択を使った作業」を参照してください。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスに自動的に表示されます。  <b>注</b> : <b>[カスタム]</b> を選択すれば、 <b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

### [CI 変更] タブ

重要情報	CI の変更履歴を表示するには、必要な CI の行の任意の部分を右クリックし、 <b>[CI 履歴]</b> を選択します。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
属性名	変更された CI 属性の名前です。
日付の変更	変更の発生した日付です。

UI 要素	説明
変更	CIのプロパティを手動で変更したユーザの名前、またはCIのプロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。
クラス名	変更された CI の CI タイプです。
表示ラベル	ルートから CI へのパスのラベルです。 <b>注:</b> CI 名のバックスラッシュ (¥) は、親子関係を <parent_CI>¥<child_CI> という形式で示します。たとえば、エントリ 16.59.63.0\Windows は、16.59.63.0 CI の子である Windows CI に関する変更情報を提供します。
新規値	CI 属性の新しい値です。
旧値	CI 属性の以前の値です (変更前)。

### [関係の変更] タブ

<b>重要情報</b>	CI の変更履歴を表示するには、必要な CI の行の任意の部分 を右クリックし、[CI 履歴] を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
日付の変更	更新が実行された日付です。
変更	CI のプロパティを手動で変更したユーザの名前、または CI のプロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。

UI 要素	説明
コンテナ ラベル	ルートからコンテナ CI へのパスのラベルです。 CI 名のバックスラッシュ (¥) は、親子関係を <parent_CI>¥<child_CI> という形式で示します。たとえば、エントリ 16.59.63.0¥Windows は、dancer.hp.com CI の子である Windows CI に関する変更情報を提供します。
イベント・タイプ	次の値のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>関連 CI を追加</b> : <b>Composition</b> 関係を使用して、含まれている CI がコンテナ CI に追加されます。</li> <li>▶ <b>関連 CI を削除</b> : <b>Composition</b> 関係を使用してコンテナ CI にリンクされていた含まれている CI が削除されます。</li> </ul>
新規値	relationship 属性の新しい値です。
旧値	relationship 属性の以前の値です (変更前)。
関連するラベル	ルートから包含 CI へのパスのラベルです。
Relationship 属性	変更された relationship 属性の名前です。

## CMDB 使用率レポート

このレポートには、一般的な CMDB 統計データが表示されます。たとえば、統計データには、作成された影響ルールの数、CMDB にある CI の数、または取られたスナップショットの数が含まれます。

名前	値
— CIs and Relationships	11
— Views and Reports	0
— Enrichment Rules	26
— Correlation Rules	13
— Snapshots	0
— Connected users	4
— Running Discovery Jobs	0

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[CMDB 使用率レポート] を選択する。</li> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<p><b>名前</b></p>	<p>CMDB 統計の名前です。</p>
<p><b>値</b></p>	<p>システムで検出された CMDB 統計のインスタンス数です。</p>



## 🔍 CI 比較レポート

このレポートでは、2つの複合 CI の階層を比較できます。複合 CI は、CONTAINER 修飾子のある関係によって別の CI にリンクされている CI です。選択したビューまたは CMDB に表示される複合 CI とその子 CI を表示できます。

比較:  ...

比較:  ...

相互ビュー: unix\_View\_1

比較:  ビュー  CMDB

凡例: ✖ 一致する CI なし ↻ 更新された項目 ⊕ 更新された項目を含む

000129F42269

- 000129F42269
  - Interface
  - IpAddress
    - 16.44.49.38
  - SNMP
    - SNMP (000129F42269)

16.59.50.88 DefaultDomain

- 16.59.50.88 DefaultDomain
  - IpAddress
    - 16.59.50.88
  - SNMP
    - SNMP (16.59.50.88 Default)

検索(E):




Name	Value
DiscoveredProdu...	snmp
Application Categ...	
Application Versio...	
ProductName	
! Candidate For ...	Sat May 1 2010 0...





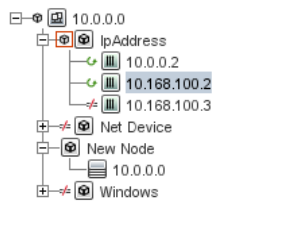
検索(E):

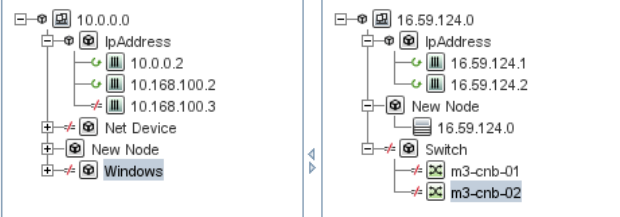
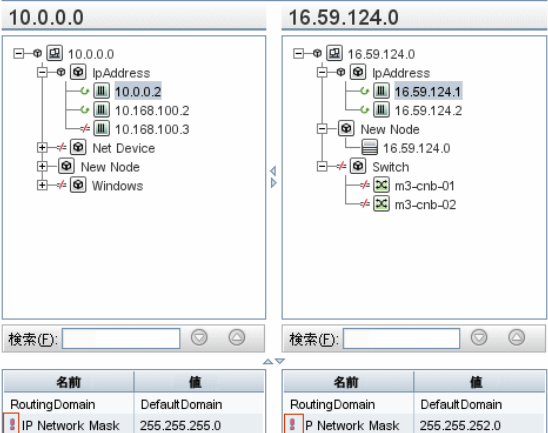

Name	Value
DiscoveredProdu...	snmp
Application Categ...	
Application Versio...	
ProductName	
! Candidate For ...	Sun May 2 2010 0...

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CI 比較レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[CI 比較レポート] を選択する。</li> <li>▶ [CI 比較レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [CI 比較レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CI を比較] ページは 2 つの表示枠に分かれています。各表示枠に、選択した CI の階層ツリー構造が表示されます。[選択を同期化] を押していれば、一方の表示枠で CI を選択すると、他方の表示枠で対応する CI が自動的に選択されます。</li> <li>▶ 比較できるのは、同じ CI タイプの 2 つの CI、または階層内にある同じ CI タイプの子のいずれかです。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 395 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 394 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。</p>
	<p>「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。</p>
	<p><b>設定ファイルの相違を表示</b> : 2 つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには、<b>xml</b>、<b>txt</b>、または <b>ini</b> 拡張子が使用されています。</p> <p>2 つの表示枠で CIT <b>Configuration File</b> の CI を選択し、[相違を表示] ボタンをクリックします。ウィンドウが開いて、構成ファイルの相違が（青でマークされて）表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>ツリー内の異なる CI のみを表示</b> &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; に、一致していない CI を含むツリー構造部分のみが表示されます。</p>
	<p><b>異なる属性値のみを表示</b> : &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; で、選択した CI の比較可能なすべての属性値が表示されている状態と、異なる属性値のみが表示されている状態が切り替わります。</p>
	<p>一方の表示枠で CI を選択すると、他方の表示枠で対応する CI を自動的に選択できます。</p> <p>標準設定の状態では、[選択を同期化] ボタンが選択されています。このボタンの選択を解除すると、2つの各ツリーで異なる CI を選択できます。これで、2つの異なる CI を比較して、異なるプロパティを確認できます。</p>
	<p><b>更新された項目を含む</b> : CI 属性値が変更されたことを示します。たとえば、次の図では <b>IpAddress</b> CI の横に [更新された項目を含む] アイコンが表示されています。これは <b>IpAddress</b> の子である <b>CI 10.168.100.2</b> アイコンの属性が変更されたためです。</p> <div data-bbox="625 890 925 1130" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>

UI 要素	説明												
<p>≠</p>	<p><b>一致する CI なし</b> : ある表示枠の CI が別の表示枠の対応する CI と一致しないことを示します。</p> <p>次の例では、他方の表示枠に対応する CI がいないため、<b>Windows</b> アイコンの横に <b>[一致する CI なし]</b> アイコンが表示されています。</p> 												
<p>↻</p>	<p><b>更新された項目</b> : CI の属性値が変更されたことを示します。</p> <p>たとえば、次の図では CI <b>10.0.0.2</b> と <b>16.59.124.1</b> に <b>[更新された項目]</b> アイコンが表示されています。これは、CI <b>10.0.0.2</b> と <b>16.59.124.1</b> が <b>[異なる属性値のみを表示]</b> アイコンで示されるように新しい <b>IP ネットワーク・マスク</b> 値で更新されたためです(ツリー構造の下にある表示枠の <b>[名前]</b> カラムと <b>[値]</b> カラムを参照)。</p>  <table border="1" data-bbox="592 1293 849 1362"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDomain</td> </tr> <tr> <td>IP Network Mask</td> <td>255.255.252.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="863 1293 1135 1362"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDomain</td> </tr> <tr> <td>IP Network Mask</td> <td>255.255.252.0</td> </tr> </tbody> </table>	名前	値	RoutingDomain	DefaultDomain	IP Network Mask	255.255.252.0	名前	値	RoutingDomain	DefaultDomain	IP Network Mask	255.255.252.0
名前	値												
RoutingDomain	DefaultDomain												
IP Network Mask	255.255.252.0												
名前	値												
RoutingDomain	DefaultDomain												
IP Network Mask	255.255.252.0												
	<p><b>[検索]</b> フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。</p>												

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
< [プロパティ] 表示枠 >	<p>選択した CI の属性を表示します。</p> <p>[プロパティ] 表示枠には次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>名前</b> : CI タイプ・マネージャで <b>[比較可能]</b> とマークされていて、選択した CI の属性名を表示します。520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」</li> <li>▶ <b>値</b> : 現在選択している CI の属性値を表示します。</li> </ul>
<左右表示枠>	[ビュー] または [CMDDB] のどちらを選択したかに応じて、選択したビューまたは CMDDB に表示される比較された CI とその子 CI のツリーを表示します。
比較	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDDB</b> : CMDDB 全体に表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]</b> : 特定のビューにのみ表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。</li> </ul>
比較 CI	比較する 2 つの CI を選択できます。 <b>...</b> をクリックすると、[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。上のボックスで選択した CI は左表示枠に表示され、下のボックスで選択した CI は右表示枠に表示されます。
検索	[検索] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。
相互ビュー	比較する CI が同じビュー内に両方とも存在している場合、ビューの名前がこのフィールドに表示されます。両方とも存在していない場合、このフィールドには <b>[相互ビューがありません]</b> と表示されます。

## 🔗 スナップショット比較レポート

このレポートを使用すると、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショットを比較できます。これにより、スナップショットを取った時刻におけるビューのステータスを比較して、ビューの相違を視覚化できます。

スナップショット比較レポート1\* x

レポートのパラメータ

スナップショットを持つビュー NetworkTopology

利用可能なスナップショット

	時間	詳細	所有者	サイズ	メモ
<input checked="" type="checkbox"/>	現在	現在		0	
<input checked="" type="checkbox"/>	2009...			13	
<input type="checkbox"/>	2009...			13	

生成





凡例: ✖ 削除された項目 ✨ 新規項目 🔄 更新された項目 Ⓞ 更新された項目を含む





NetworkTopology Sat Jun 27 15:24:36 GMT...

172.16.7.0	172.16.7.0
192.168.111.0	192.168.111.0
192.168.196.0	192.168.196.0


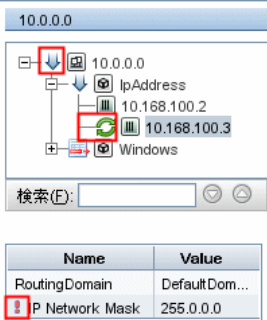


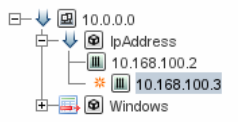
利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [スナップショット比較レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[スナップショット比較レポート] を選択する。</li> <li>▶ [スナップショット比較レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [スナップショット比較レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul> <p>注：IT ユニバースでスナップショットを取って比較することもできます（詳細については、276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。</p>
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 現在のスナップショットと以前のスナップショット、または過去に取得した 2 つのスナップショットを比較できます。</li> <li>▶ 定期的に特定ビューのスナップショットを取って保存するスケジュールを定義できます。詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 396 ページの「スナップショットの比較」</li> <li>▶ 394 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」</li> <li>▶ 460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」</li> </ul>


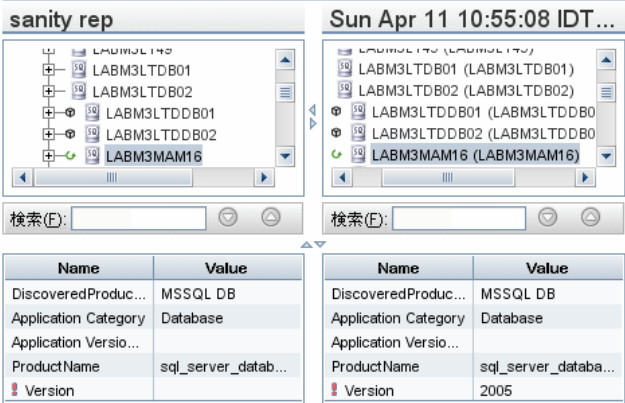
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	選択した CI の階層ツリー構造全体を展開します。
	選択した CI の階層ツリー構造を折りたたみます。
	「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
	「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。

UI 要素	説明
	<p><b>設定ファイルの相違を表示</b> : 2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには、<b>xml</b>, <b>txt</b>, または <b>ini</b> 拡張子が使用されています。</p> <p>2つの表示枠で <b>CIT Configuration File</b> の CI を選択し、<b>[相違を表示]</b> ボタンをクリックします。ウィンドウが開いて、構成ファイルの相違が（青でマークされて）表示されます。</p>
	<p><b>ツリー内の異なる CI のみを表示</b> &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; に、一致していない CI を含むツリー構造部分のみが表示されます。</p>
	<p><b>異なる属性値のみを表示</b> : &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; で、選択した CI のすべての属性値が表示されている状態と、変更された属性値のみが表示されている状態が切り替わります。</p>
	<p>一方の表示枠で CI を選択すると、他方の表示枠で対応する CI を自動的に選択できます。</p> <p>標準設定の状態では、<b>[選択を同期化]</b> ボタンが選択されています。このボタンの選択を解除すると、2つの各ツリーで異なる CI を選択できます。これで、2つの異なる CI を比較して、異なるプロパティを確認できます。</p>



UI 要素	説明						
	<p><b>更新された項目を含む</b>：CI 属性値が変更されたことを示します。たとえば、次の図では <b>10.0.0.0</b> CI の横に <b>「更新された項目を含む」</b> アイコンが表示されています。これは <b>10.0.0.0</b> の子である CI <b>10.168.100.3</b> アイコンの属性が変更されたためです。</p>  <table border="1" data-bbox="621 633 878 711"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDom...</td> </tr> <tr> <td>IP Network Mask</td> <td>255.0.0.0</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Value	RoutingDomain	DefaultDom...	IP Network Mask	255.0.0.0
Name	Value						
RoutingDomain	DefaultDom...						
IP Network Mask	255.0.0.0						
	<p><b>削除された項目</b>：CI がビューから削除されたことを示します。</p>						
	<p><b>新規項目</b>：CI がビューに追加されたことを示します。</p> 						


UI 要素	説明
	<p><b>更新された項目</b> : CI の属性値が変更されたことを示します。</p> <p>たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に <b>[更新された項目]</b> アイコンが表示されています。これは、CI LABM3MAM16 が <b>[異なる属性値のみを表示]</b> アイコンで示されるように新しいバージョン値で更新されたためです (ツリー構造の下にある表示枠の <b>[名前]</b> カラムと <b>[値]</b> カラムを参照)。</p> 
<p>&lt;左右表示枠&gt;</p>	<p>該当のスナップショットのビューにあるすべての CI の階層ツリー構造が表示されます。左側の表示枠には、2 つのスナップショットのうち必ず新しいほうが表示されます。</p>
<p>&lt; [プロパティ] 表示枠 &gt;</p>	<p>選択した CI の属性を表示します。</p> <p>[プロパティ] 表示枠には次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>名前</b> : CI のラベルに定義されている選択した CI の名前が表示されます。</li> <li>▶ <b>値</b> : 現在選択している CI の属性値を表示します。</li> </ul>
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
<b>利用可能なスナップショット</b>	<p>[<b>スナップショットを持つビュー</b>] フィールドで選択したビューの現在のステータスと以前に保存したスナップショットが表示されます。比較する 2 つのスナップショットを選択します。</p> <p><b>注：</b> [Show Report Parameters] ボタンが押されている場合にのみ表示されます。</p>
<b>スナップショットを持つビュー</b>	<p>比較するスナップショットのビューの名前を表示します。スナップショットを取ったビューだけが表示されます。</p> <p><b>注：</b> [Show Report Parameters] ボタンが押されている場合にのみ表示されます。</p>

## 🔗 データベース・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、データベース・タイプとバージョンのブレイクダウンが表示されます。システムにデプロイされているすべてのデータベース、または特定の場所にデプロイされているデータベースを表示できます。

Country or Province:  States:  Cities:

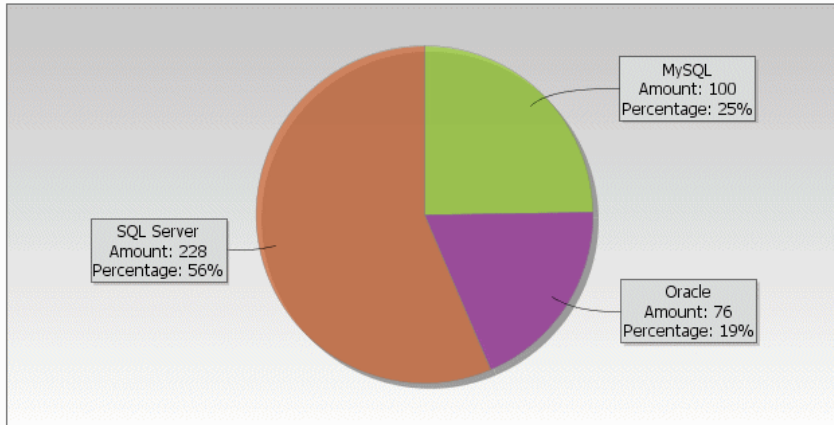
 Generate

Databases Breakdown

### Databases Breakdown

Break down by Count

[Click on the chart sections to drill down](#)



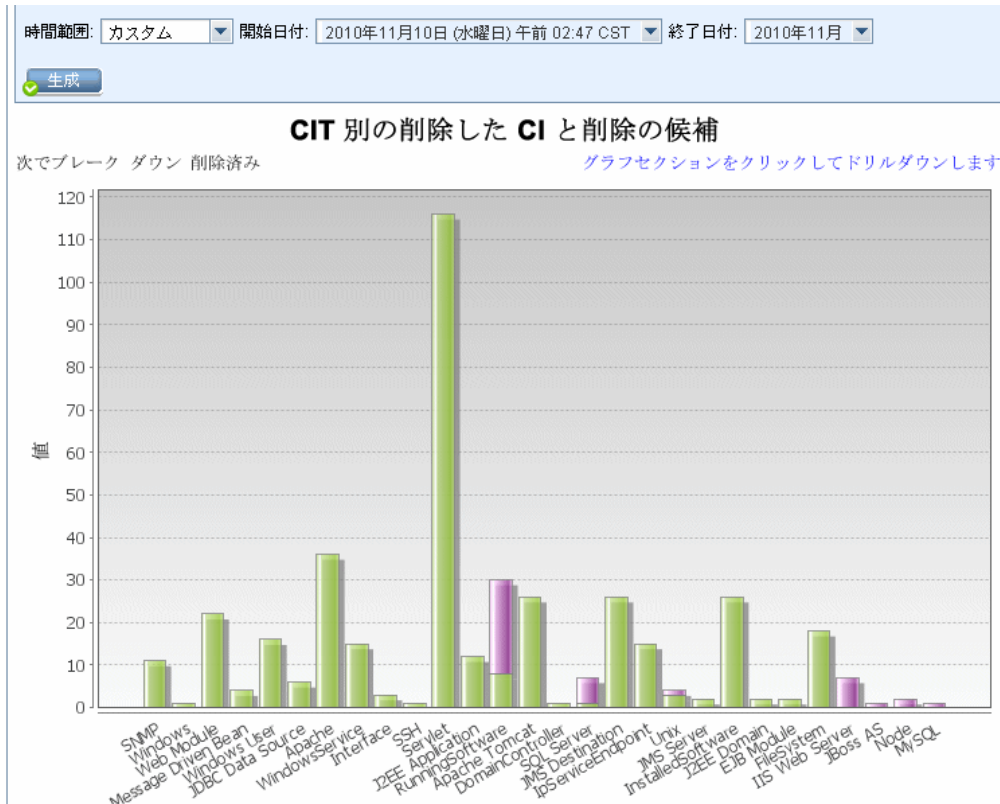
<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[データベース ブレイクダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p>＜棒グラフ / 円グラフ＞</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるデータベースを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックするとバージョンごとに並べ替えられたデータベースが表示され、再度クリックするとドリルダウンしてテーブル形式でバージョン情報が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、データベース名、各データベースで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>円グラフの下にある凡例には、各 CI の名前とその下のレベルにバージョンが表示されます。</p>
<p>＜ツールバー＞</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<p>市町村</p>	<p>データベース・ブレイクダウン・データを表示する市町村を選択するか、[すべて]を選択してすべての市町村のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注：</b>これは、City 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
<p>国または地域</p>	<p>データベース・ブレイクダウン・データを表示する国または地域を選択するか、[すべて]を選択してすべての国または地域のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注：</b>これは、[国または地域] 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
<p>状態</p>	<p>データベース・ブレイクダウン・データを表示する状態を選択するか、[すべて]を選択してすべての状態のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注：</b>これは、State 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>

## 削除候補レポート

このレポートには、定義した期間内に削除された CIT と関係、および削除される予定の CIT と関係が表示されます。



利用方法	<p>[マネージャ] [モデリング] [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [削除候補レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[削除候補レポート] を選択する。</li> <li>▶ [削除候補レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [削除候補レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
関連タスク	394 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<棒グラフ>	<p>棒グラフのカラムの各セグメントは、CI または関係の CIT を示します。</p> <p>棒をクリックすると、ドリルダウンして削除された CIT と関係、および削除される予定の CIT と関係が表形式で表示されます。</p> <p>各棒の関連する色の上にマウスを置くと、削除された CI と関係の数または削除される予定の CI と関係の数、および棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>凡例には、削除された CI と関係を示す色、削除される予定の CI と関係を示す色が表示されます。各 CI または関係の CIT は下に表示されます。</p>
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。

UI 要素	説明
時間範囲	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## 依存関係レポート

このレポートでは、選択したビューのサーバ同士、または CMDB のサーバと選択したビューのサーバを接続するすべてのタイプの**依存関係**のリストを生成できます。

このレポートには次の関係が含まれます。

- ▶ データベースとクライアント間に存在する関係
- ▶ クライアントとサーバ間に存在する関係
- ▶ MQ 接続の結果として作成される関係



ビュー: Weblogic\_To...  次に基づく情報を検索  CMDB  ビュー

Node	Relationship	Counter	Clients
DR3	Talk	2	[DR3, DR3]
ilo-labm3amrddb06.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrddb06.devlab.ad, ilo-labm3amrddb06.devlab.ad]
VMAMRND91	Talk	2	[VMAMRND91, VMAMRND91]
LABM3AM202	Talk	2	[LABM3AM202, LABM3AM202]
LABM2AM31	Talk	2	[LABM2AM31, LABM2AM31]
ilo-illabesx23.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabesx23.devlab.ad, ilo-illabesx23.devlab.ad]
ilo-labm3erp01.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3erp01.devlab.ad, ilo-labm3erp01.devlab.ad]
VMFTRND27	Talk	2	[VMFTRND27, VMFTRND27]
ilo-labm3ccm29.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3ccm29.devlab.ad, ilo-labm3ccm29.devlab.ad]
ilogb8920rfc6.devlab.ad	Talk	2	[ilogb8920rfc6.devlab.ad, ilogb8920rfc6.devlab.ad]
ilo-illabbac011.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabbac011.devlab.ad, ilo-illabbac011.devlab.ad]
ilo-labm3amrnd57.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrnd57.devlab.ad, ilo-labm3amrnd57.devlab.ad]
ilo-labm3am235.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am235.devlab.ad, ilo-labm3am235.devlab.ad]

<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [依存関係レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[依存関係レポート] を選択する。</li> <li>▶ [依存関係レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [依存関係レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>重要情報</b>	<p>エンリッチメント・マネージャで新しい TQL クエリを作成するには、<b>Dependency</b> 関係を使ってノード間の接続を記述します。新しい<b>依存関係</b>が使用されるたびに、依存関係レポートに表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

## 第9章・レポート

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
次に基づく情報を検索	次のいずれかを選択します。 ▶ <b>CMDB</b> : 選択したビューのサーバに依存している CMDB のサーバがすべて表示されます。 ▶ <b>[ビュー]</b> : 選択したビューのサーバ間の依存関係がすべて表示されます。
ビュー	必要なビューを選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI 要素	説明
クライアント	サーバにリンクされているクライアントのリストです。
カウンタ	サーバが接続されているクライアントの数です。
ノード	選択したビューのサーバです。
関係	トポロジ・マップにおける関係の表示ラベルです。

## ディスカバリ・エラー・レポート

このレポートでは、不正な資格情報など、実行時に データ・フロー管理 で発生する特定の問題を検出できます。

利用方法	[モデリング] > [レポート] > [カスタム レポート] > [全般] > [ディスカバリ エラー レポート]
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示するカラムを選択するには、[カラムの選択] ボタンをクリックします。</li> <li>▶ カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして [カラムを削除] を選択します。</li> <li>▶ 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして [空のカラムを削除] を選択します。</li> <li>▶ カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。</li> </ul>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[ディスカバリステータス] 表示枠」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「エラー・メッセージの概要」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
ディスカバリ・モジュール	エラーを表示するモジュールを選択します。すべてのモジュールまたは特定のモジュールを選択できます。
生成	クリックするとエラーのリストを生成できます。

UI 要素	説明
重大度	表示するエラーを選択します。エラーの定義については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「エラーの重大度レベル」を参照してください。
時間範囲	エラーを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。 <b>注:</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI 要素	説明
CI タイプ	トリガ CI の CIT です。
エラー・メッセージ	詳細なエラー・メッセージ。
エラー サマリ	エラーの要約。
ジョブ	エラーがレポートされているジョブ。
プローブ	エラーをレポートした Data Flow Probe。
関連 IP	トリガ CI に関連することが認識されている IP。
関連ノード	トリガ CI に関連するノード。
重大度	エラーの重大度のレベル (警告, エラー, 致命的エラー)。
エラー報告時間	エラーがレポートされている時刻。
トリガ CI	エラーがレポートされたトリガ CI。

## 🔍 汎用ブレイクダウン・レポート

このレポートには、次の情報による CI タイプのブレイクダウンが表示されます。

- ▶ CIT ツリーの選択した CIT でグループ化される CIT
- ▶ CIT 属性

CI タイプの詳細については、499 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。

フィルタ:  場所  サブネット

国または地域:

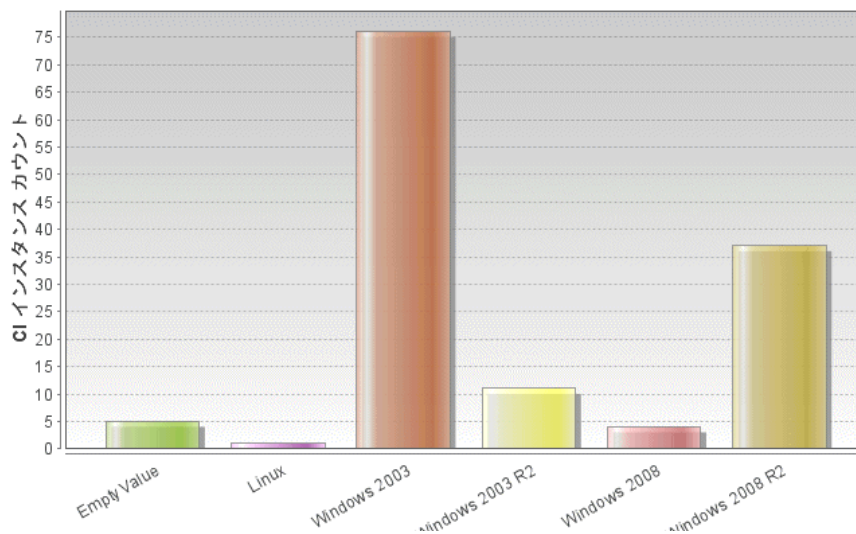
状態:

市町村:

### ノード ブレイクダウン

次でブレイクダウンCI インスタンス カウント

[グラフセクションをクリックしてドリルダウンします](#)



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[汎用ブレイクダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p>&lt;棒グラフ / 円グラフ&gt;</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、CIT または CIT 属性を示します。これは、ブレイクダウンしたレベルによって異なります。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします（定義されている場合）。最大 3 つの異なるレベルがあるレポートを生成できます。情報をテーブル形式で表示することもできます。</p> <p>関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと、CIT または CIT 属性で検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CIT または CIT 属性がツールチップに表示されます。</p>
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<p>次でブレイクダウン</p>	<p>最初のレベルに必要なブレイクダウンを選択します。</p>
<p>続いて次で並べ替え</p>	<p>(任意指定) 2 番目および 3 番目のレベルに必要なブレイクダウンを選択します。</p>

## ゴールド・マスタ・レポート

このレポートは、1つ以上の CI とゴールド・マスタとして指定されている別の CI を比較し、比較 CI のどの設定がゴールド・マスタ CI と異なるのかを示します。

このレポートは、ゴールドマスタ CI の属性値を同じ CIT の比較 CI の属性値と比較します。

---

**注:** ゴールド・マスタ・レポートでは、値が異なる場合にのみ CI 属性の比較結果が表示されます。

---

セクションが空の場合は、ゴールド・マスタ CI とその CIT の比較 CI のすべての属性値が同一であることを意味します。このような場合は、サブグラフの次のレイヤの属性が比較され、その後も同様に繰り返されます。

## 第9章・レポート

あるレイヤの比較 CI に異なる属性が見つかる時、ゴールド・マスタ・レポートはサブグラフ内のほかのレイヤを比較して相違点を見つける処理を中止します。

マスタ CI:  ...

比較 CI:  ... 除外クラス:  ...

類似アイテムを含める

Display Label	Attribute Name	Value in Goldmaster CI	Value in Compare
scdam036			
Windows	CI Instances Count	1	
labm3qcrnddb...	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none
labm3qcrnddb...	Windows Physical Memory Size	2094960	none
labm3qcrnddb...	SwapMemorySize	4095	none
labm3qcrnddb...	DomainName	devlab.ad	none
labm3qcrnddb...	MemorySize	2048	none
labm3qcrnddb...	DiscoveredVendor	HP	none
scdam075			
Windows	CI Instances Count	2	
labm3qcrnddb...	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none
labm3qcrnddb...	Windows Physical Memory Size	2094960	none
labm3qcrnddb...	SwapMemorySize	4095	4092
labm3qcrnddb...	DomainName	devlab.ad	none
labm3qcrnddb...	MemorySize	2048	4097
labm3qcrnddb...	DiscoveredVendor	HP	none

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[ゴールド マスタ レポート] を選択する。</li> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>比較できるのは、CIT マネージャで<b>比較可能</b>な修飾子を割り当てられた属性だけです。詳細については、499 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>396 ページの「スナップショットの比較」</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ショートカット・メニュー>	詳細については、262 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
属性名	CI 属性の名前です。
比較 CI	属性値をゴールド・マスタ CI と比較する CI を選択できます。[CI の選択] が開きます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。
表示ラベル	比較 CI の表示名です。
除外クラス	レポートから除外する CI タイプを選択します。
類似アイテムを含める	ゴールド・マスタ CI の設定と同じ設定の比較 CI を含む場合、このチェック・ボックスを選択します。
マスタ CI	ゴールド・マスタ CI として使用する CI を選択できます。[CI の選択] が開きます。詳細については、155 ページの「CI の選択」を参照してください。
比較 CI の値	比較 CI の属性の値です。
ゴールド・マスタ CI の値	ゴールド・マスタ CI の属性の値です。

## 🔗 影響分析レポート

このレポートには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストが表示されます。詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [影響分析レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[影響分析レポート] を選択する。</li> <li>▶ [影響分析レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [影響分析レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 473 ページの「影響分析マネージャ」</li> <li>▶ 274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
ルール・バンドル	影響の分析ルールで使用するルール・グループを選択できます。
重大度	トリガ CI をシミュレートする重大度レベルを設定します。
トリガされた CI	システムに加える変化を表す CI を選択します。[CI の選択] が開きます。

### [影響を受けるアプリケーション] タブ

このタブには、トリガ CI の重大度の変更による影響を受けた特定のビジネス・アプリケーションに属するすべての CI が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。
トリガの重大度	[ <b>重大度</b> ] ボックスで選択された重大度です。

### [CIT 別のグループ化] タブ

このタブには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のトリガ CI に関連するすべての CI が CI タイプごとに並べ替えられた状態で表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。
トリガの重大度	[ <b>重大度</b> ] ボックスで選択された重大度です。

### [トリガ CI] タブ



このタブには、システムに加える変化を表す CI がすべて表示されます。このタブの CI は、[**トリガ CI**] ボックスで選択した CI です。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。








## [ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスには、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」で実行するようスケジュールされたレポート / スナップショットのリストが表示されます。

利用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行するようスケジュールされたレポートのリストを表示するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[レポート] ページで、[スケジュールされたレポート ジョブを表示]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジ レポート] 表示枠で、必要なビューを選択して [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スケジュールされたスナップショット ジョブを表示] を選択します。</li> </ul>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 393 ページの「トポロジ・レポートの表示」</li> <li>▶ 394 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<b>新規のスケジュールされたレポートを挿入:</b> [定期レポート] ダイアログ・ボックスを使用して新しいジョブを定義します。
	<b>ジョブを編集:</b> [定期レポート] ダイアログ・ボックスを使用して、選択したジョブを編集します。
	<b>コピーを作成:</b> 選択したジョブのコピーを作成できます。選択したジョブの詳細を使用する [定期レポート] ダイアログ・ボックスで新しいジョブを開きます。

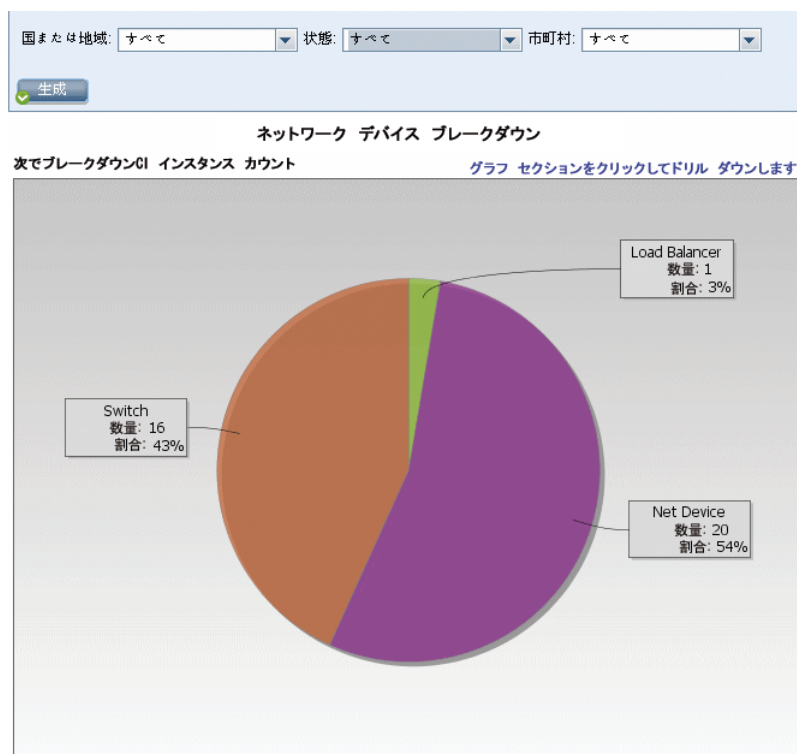
UI 要素	説明
	<b>ジョブを削除</b> ：選択したジョブをスケジュールされたジョブのリストから削除します。
	<b>直ちにジョブを実行</b> ：選択したジョブを実行します。
	<b>ジョブの中断</b> ：選択したジョブを中断します。ジョブのステータスが <b>[保留]</b> の場合にのみ有効になります。
	<b>ジョブの再開</b> ：選択したジョブを再開します。 <b>注</b> ： <b>[ジョブの再開]</b> ボタンは、ステータスが <b>[中断]</b> のジョブの場合にのみ有効になります。
	スケジュールされたジョブのリストを更新します。
	現在のフィルタをクリアします。
	<b>Change visible columns</b> ：表示するカラムを選択できます。
<b>現在のステータス</b>	スケジュールされた各ジョブの現在のステータスです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>実行中</b>：このジョブは現在実行中です。</li> <li>▶ <b>保留</b>：このジョブはスケジュールの要件が満たされるのを待機しています。</li> <li>▶ <b>完了</b>：このジョブは実行が完了しています。</li> <li>▶ <b>一時停止</b>：このジョブは中断しています。</li> </ul> <b>メモ</b> ：ステータスが <b>[完了]</b> になっているジョブの実行を再開する場合、 <b>[直ちにジョブを実行]</b> をクリックするか、 <b>[次の実行時間]</b> を現在時刻に変更します。未来の時刻に変更すると、ステータスが <b>[保留]</b> に変わります。
<b>説明</b>	[定期レポート] ダイアログ・ボックスで定義された、スケジュールされたジョブの説明です。

UI 要素	説明
<b>実行ステータス</b>	ジョブの現在の実行ステータス： <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>成功</b>：このジョブは正常に完了しました（ アイコンで示される）。</li> <li>▶ <b>失敗</b>：このジョブは実行に失敗しました（ アイコンで示される）。 アイコンにポインタを合わせると、次の情報が表示されます。               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーの詳細</li> <li>▶ 関連する HP Universal CMDB 内部例外</li> </ul> </li> <li>▶ <b>なし</b>：このジョブはまだ実行されていません。</li> </ul>
<b>最終実行時間</b>	レポートが最後に実行された時間です。
<b>名前</b>	[定期レポート] ダイアログ・ボックスで定義された、スケジュールされたジョブの名前です。
<b>次の実行時間</b>	このレポートが次に実行される時間です。
<b>タイムゾーン</b>	このジョブの実行がスケジュール設定されている時間帯です。

## 🔗 ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、ネットワーク・デバイスのブレイクダウンが表示されます。次の条件を満たすネットワーク・デバイスのみがレポートに表示されます。

- ▶ ネットワーク・デバイスの CIT は修飾子 **NETWORK\_DEVICES** を割り当てられています。詳細については、90 ページの「[修飾子] タブ」を参照してください。
- ▶ ネットワーク・デバイスは、**Host is complete = True** という属性条件で定義されています。詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<p>&lt;棒グラフ / 円グラフ&gt;</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるネットワーク・デバイスを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、ドリルダウンしてネットワーク・デバイスごとの CI インスタンス数が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、ネットワーク・デバイス名、各ネットワーク・デバイスで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>セグメント / 棒をクリックすると、メーカーで並べ替えられた特定のネットワーク・デバイスが表示されます。セグメント / 棒を再度クリックすると、そのメーカーの当該ネットワーク・デバイスの CI インスタンスに関する詳細がテーブル形式で表示されます。</p> <p>凡例の各色は異なるネットワーク・デバイスを示します。</p>
<p>&lt;ツールバー&gt;</p>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>



UI 要素	説明
市町村	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する市町村を選択するか、[すべて]を選択してすべての市町村のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、<b>City</b> 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
国または地域	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する国または地域を選択するか、[すべて]を選択してすべての国または地域のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、[<b>国または地域</b>] 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
状態	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する状態を選択するか、[すべて]を選択してすべての状態のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは、<b>State</b> 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>

## 🔍 ノード OS ブレークダウン・レポート

このレポートには、オペレーティング・システムのブレークダウンが表示されます。デプロイされたすべてのオペレーティング・システムを表示したり、特定の場所にあるか、一定のサブネットで稼動しているオペレーティング・システムのデータを表示できます。

Filter:  By Location  By Subnet

Country or Province:

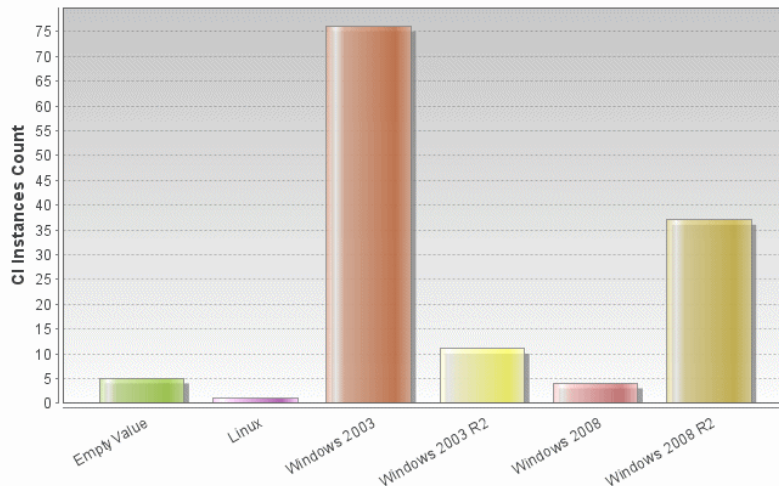
States:

Cities:

### Nodes Breakdown

Break down by CI Instances Count

[Click on the chart sections to drill down](#)



#### 利用方法

[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。  
[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。

- ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
- ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[ノード O/S ブレークダウン レポート] を選択する。
- ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] をダブルクリックする。
- ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。

関連タスク	394 ページの「カスタム・レポートの生成」
-------	------------------------

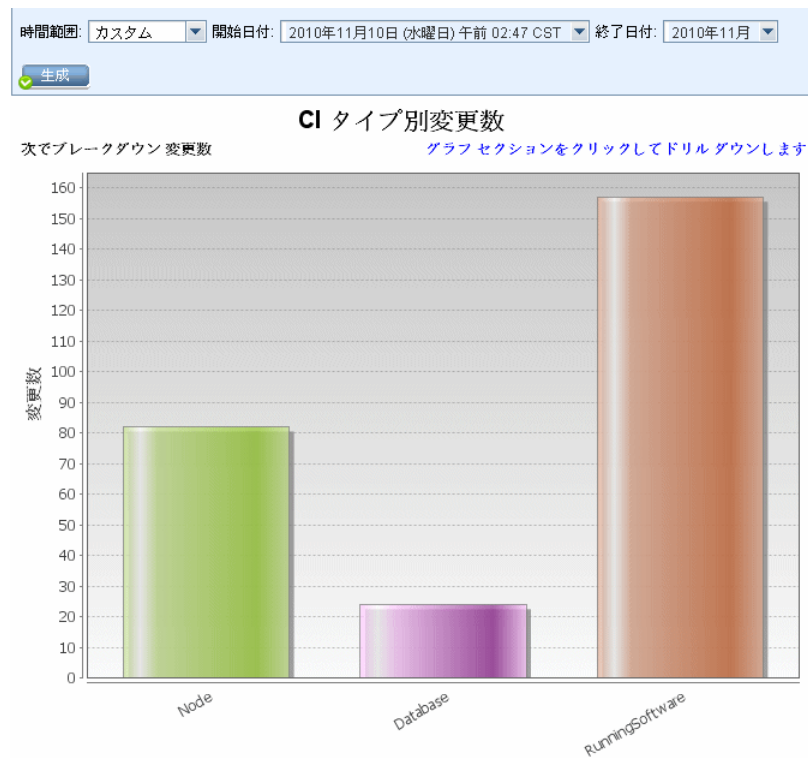
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<棒グラフ / 円グラフ>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるオペレーティング・システムを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、ドリルダウンしてオペレーティング・システムごとの CI インスタンス数がテーブル形式で表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、オペレーティング・システム名、各オペレーティング・システムで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p>
<ツールバー>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
市町村	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する市町村を選択するか、[すべて] を選択してすべての市町村のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注：</b>これは、City 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
国または地域	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する国または地域を選択するか、[すべて] を選択してすべての国または地域のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注：</b>これは、[国または地域] 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>
フィルタ	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>場所：</b>必要な場所を選択します。</li> <li>▶ <b>サブネット：</b>必要なサブネットを入力します。ワイルドカード文字にアスタリスク (*) を使用して複数のサブネットを含めることができます。たとえば、11* などです。</li> </ul>

UI 要素	説明
状態	<p>オペレーティング・システム・ブレイクダウン・データを表示する状態を選択するか, [すべて] を選択してすべての状態のブレイクダウンを表示します。</p> <p><b>注:</b> これは, <b>State</b> 属性にデータが含まれている CI のみに関連します。</p>

## 🔗 変更数レポート

このレポートには、定義した期間内に CIT で検出された変更（追加、削除、更新）の件数が表示されます。



### 利用方法

- [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。
- ▶ [変更数] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
  - ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[変更数] を選択する。
  - ▶ [変更数] をダブルクリックする。
  - ▶ [変更数] を選択し、右表示枠にドラッグする。

<b>関連タスク</b>	394 ページの「カスタム・レポートの生成」
--------------	------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

<b>UI 要素</b>	<b>説明</b>
<b>&lt;棒グラフ / 円グラフ&gt;</b>	<p>最初のレベルで、円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、変更が検出された CI または関係の CIT を示します。凡例には、各 CIT を表す色が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の関連する色の上にマウスを置くと、該当の CIT で発生した変更の数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、2 番目のレベルにドリルダウンして各 CIT と CIT の子に発生した変更タイプが表示されます。各セグメント / 棒の色は、アプリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。</p> <p>必要な色をクリックすると、ドリルダウンして該当の変更タイプの CI または関係の数がテーブル形式で表示されます。2 回目のドリルダウンを行うと、説明した変更を表すインスタンスが表示されます。</p> <p>変更タイプ <b>[追加済み]</b> または <b>[更新済み]</b> は CMDB から取得されます。変更タイプ <b>[削除済み]</b> は履歴データベースから取得されます。</p>
<b>&lt;ツールバー&gt;</b>	<p>詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<b>開始日付</b>	レポートの開始日時を設定します。
<b>終了日付</b>	レポートの終了日時を設定します。


UI 要素	説明
時間範囲	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## [レポート] ページ

このページでは、ビューのデータや事前定義されている多数のカスタム・レポート・タイプに基づいてトポロジ・レポートを作成できます。

利用方法	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート]
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 393 ページの「トポロジ・レポートの表示」</li> <li>▶ 394 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> <li>▶ 395 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 396 ページの「スナップショットの比較」</li> </ul>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 469 ページの「ツールバー・オプション」</li> <li>▶ 392 ページの「カスタム・レポートの概要」</li> <li>▶ 392 ページの「トポロジ・レポートの概要」</li> </ul>





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p><b>スケジュールされたレポート ジョブを表示：</b> [ジョブ リスト] ダイアログ・ボックスが開き、実行するようスケジュールされたレポートが表示されます。詳細については、444 ページの「[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>




UI 要素	説明
<左側の表示枠>	<p>含まれている表示枠は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>トポロジ レポート</b>：モデリング・スタジオを使用して作成されたビューおよびテンプレートのレポートが表示されます。詳細については、465 ページの「トポロジ・レポート」を参照してください。</li> <li>▶ <b>カスタム レポート</b>：あらかじめ設定されたさまざまなタイプのレポートがグラフ形式またはテーブル形式で表示されます。詳細については、399 ページの「[[レポート] のユーザ・インタフェース」を参照してください。</li> </ul>
<右表示枠>	選択したレポートが表示されます。


## 左側の表示枠








ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p><b>[新規レポートの作成]</b>：作成するレポートのタイプを選択できます。</p> <p>[トポロジ レポート] 表示枠で、[パターン ビュー]，[パースペクティブ]，または [テンプレート] を選択して直接モデリング・スタジオに移動し、リソースの選択したタイプを作成します。</p> <p>[カスタム レポート] 表示枠で、カスタム・レポートのリストからレポートを選択します。</p>
	<p><b>レポートを開く</b>：[レポート] 表示枠の既存のレポートが生成されます。</p>
	<p><b>ビュー定義の表示</b>：選択したビュー定義がモデリング・スタジオで表示されます。詳細については、283 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。</p>
	<p><b>レポートの削除</b>：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠では、選択したレポートが削除されます。</li> <li>▶ [トポロジ レポート] 表示枠では、アーカイブ・レポートが削除されます。</li> </ul>






UI 要素	説明
	<p><b>スケジュールされたレポート:</b> [定期スケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、ジョブの次の情報を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポート生成のスケジュール</li> <li>▶ 1つ以上のレポート送信形式およびレポート受信者の指定</li> <li>▶ ジョブの繰り返しの指定</li> </ul> <p>[定期スケジュール] ダイアログ・ボックスの詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、レポートを生成する前または保存したレポートを開くときにのみ使用できます。</p>
	<p><b>メールを送信:</b> [メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを含む電子メールを送信できます。各種形式の詳細については、470 ページの「レポートのエクスポート。」を参照してください。</p> <p>添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの形式を1つ以上選択します。</p> <p><b>注:</b> 必須フィールドにはアスタリスクが付いています。</p>
	<p><b>ダイレクトリンクの生成:</b> 選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>レポートのエクスポート。</b></p> <p>レポートのプレビューおよびエクスポートの形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CSV</b> : レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。             <p><b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。</p> </li> <li>▶ <b>PDF</b> : レポートのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。             <p><b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</p> </li> <li>▶ <b>XLS</b> : レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。             <p><b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開く。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。</li> </ul> </li> </ul>



UI 要素	説明
	<p><b>スナップショット</b>：次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクティブなレポートのスナップショットを保存する。詳細については、276 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ 以前に保存したスナップショットを、アクティブなレポートまたは別のスナップショットと比較する。詳細については、422 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</li> <li>▶ スケジュールされたスナップショットを保存する。詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ 現在スケジュールされているスナップショット・ジョブや詳細情報を表示する (444 ページの「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」を参照)。</li> </ul> <p><b>注</b>：このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。</p>
	<p><b>更新</b>：レポート・ツリーが更新されます。</p>
	<p><b>すべてを展開</b>：ツリー構造が展開されます。</p>
	<p><b>すべてを折りたたむ</b>：ツリー構造が折りたたまれます。</p>
	<p><b>空のフォルダを非表示</b>：すべてのフォルダが表示されている状態とレポートを含むフォルダのみが表示されている状態が切り替わります。</p>
	<p><b>フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索</b>：[検索] フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。</p>
	<p><b>フレーズのすべての発生をハイライト表示</b>：[検索] フィールドに入力した文字列に一致する、CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。</p>
<p><b>検索</b></p>	<p>[検索] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。</p>

## [定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートを実行するスケジュールを定義し、指定した受信者に電子メールで送信できます。また、特定のビューのスナップショットを取るようスケジュールを定義することもできます。444 ページの「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」では、実行するようスケジュールされたレポート/スナップショットのリストを表示できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポートの実行をスケジュールするには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジレポート] 表示枠または [カスタム レポート] 表示枠で、レポートを選択して [定期レポート]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジレポート] 表示枠で、必要なビューを選択して [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スナップショットをスケジュールする] を選択します。または、IT ユニバース・マネージャで、[CI の選択] の [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スナップショットをスケジュールする] を選択します。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 395 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 396 ページの「スナップショットの比較」</li> </ul>


含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
	クリックすると、[cron 式] ボックスで入力した cron 式が検証されます。
	([日] を選択すると表示されます)。カレンダーの選択した日付をクリアします。
<p><b>アクション</b></p>	<p><b>注：</b> レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>メール：</b> [送信] ボックスのメール受信者にレポートが送信されます。</li> <li>▶ <b>アーカイブ：</b> レポート結果がデータベースにアーカイブされます。</li> </ul>

UI 要素	説明
<b>Cron 式</b>	ジョブをスケジュールする cron 式を入力します。cron 式で 使用されるフィールドとその使用例については、398 ページ の「Cron 式」を参照してください。
<b>説明</b>	スケジュールされたジョブの説明です。
<b>終了</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>しない</b>：終了日を指定しません。レポートを 1 回だけ実行 するように定義している場合は関係ありません。</li><li>▶ <b>次まで</b>：アクションの実行を停止する日時を選択します。 cron 式を使用する場合にのみ関連します。</li></ul>

UI 要素	説明
<p><b>形式</b></p>	<p><b>注:</b> レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>レポートを送信する形式を選択します。[メール] アクション・オプションを選択すると使用できます。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel:</b> レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF:</b> レポートのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。  <b>注:</b> PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</li> <li>▶ <b>CSV:</b> レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。  <b>注:</b> CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。  <b>Windows</b> では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域オプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。<b>Linux</b> では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。</li> <li>▶ <b>XML:</b> レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> <li>▶ <b>ダイレクトリンク:</b> レポート・データを含む電子メールがダイレクト・リンクとして送信されます。</li> </ul>
<p><b>ロケール</b></p>	<p>レポートの言語を選択します。</p>
<p><b>名前</b></p>	<p>スケジュール設定されたジョブの名前です。</p>

UI 要素	説明
繰り返し	<p>次のいずれかのアクションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>1 回</b> : ジョブを 1 回だけアクティブ化します。</li> <li>▶ <b>間隔</b> : 固定の間隔でジョブを実行します。分, 時間, 日, 週の間隔を選択できます。</li> <li>▶ <b>日付</b> : 毎月選択した日にジョブを実行します。</li> <li>▶ <b>週ごと</b> : ジョブを毎週実行します。アクションを実行する曜日を 1 つまたは複数選択します。</li> <li>▶ <b>月ごと</b> : ジョブを毎月実行します。ジョブを実行する月を 1 つまたは複数選択します。</li> <li>▶ <b>年ごと</b> : ジョブを毎年実行します。</li> <li>▶ <b>Cron</b> : cron 式を使ってジョブのスケジュールを設定します。cron 式で使用されるフィールドとその使用例については, 398 ページの「Cron 式」を参照してください。</li> </ul>
繰り返し間隔	<p>( [間隔] または [年ごと] を選択する場合のみ表示されます)。連続する実行の間隔の値を選択します。</p> <p>たとえば, [年ごと] と [2] を選択すると, ジョブは隔年で実行されます。</p>
繰り返し	<p>( [日], [週ごと], [月ごと] を選択する場合にのみ表示されます)。ジョブを実行する日付を 1 つまたは複数選択します。</p> <p>たとえば, [月ごと] を選択し, [1 月] と [7 月] を選択すると, ジョブは 1 月と 7 月の指定された日時に実行されます。</p>
レポート	<p>実行するトポロジ・レポートまたはカスタム・レポートを選択できます。[レポートの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>

UI 要素	説明
<p><b>送信先</b></p>	<p><b>注:</b> レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>スケジュールされたレポートをメールで自動的に受信できる受信者を定義します。[<b>アドレス帳を開く</b>]  ボタンをクリックして [メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスを開き、メール受信者を選択します。</p> <p>[メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスの [<b>追加</b>], [<b>編集</b>], [<b>削除</b>] ボタンを使用して、メール・リストを変更できます。</p> <p><b>注:</b> [メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスに表示される受信者は、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF) の「[受信者マネージャ] ページ」で定義された電子メール受信者で更新されます。</p>
<p><b>Server Time</b></p>	<p>クライアントのタイムゾーンに基づいた正確なサーバの時刻です。</p>
<p><b>開始</b></p>	<p>ジョブの実行を開始する日時を選択します。</p>
<p><b>タイムゾーン</b></p>	<p>必要なタイムゾーンを設定します。</p>



## トポロジ・レポート

このレポートには、ビューのトポロジがレポート形式で表示されます。

<b>利用方法</b>	[モデリング] > [レポート] を選択します。[トポロジ レポート] 表示枠で、ツリーから必要なレポートを選択します。
<b>重要情報</b>	UCMDB のすべてのビューはレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオのビューの [レポート] タブでレポートの設定を定義します。 テンプレートは [レポート] でも開くことができます。テンプレートのパラメータを編集し、インスタンスをビューとして保存できます。
<b>関連タスク</b>	393 ページの「トポロジ・レポートの表示」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>&lt;棒グラフ / 円グラフ&gt;</b>	円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、選択したレベルのビューの CI を示します。 スライス / 棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします（存在する場合）。情報をテーブル形式で表示することもできます。 関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと、CIT で検出されるインスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CIT または CIT 属性がツールチップに表示されます。
<b>&lt;ツールバー&gt;</b>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<b>リセット</b>	テンプレートのパラメータを元の値に戻します。 <b>注:</b> テンプレートにのみ関連します。
<b>ビューに名前を付けて保存</b>	クリックすると、選択したパラメータ値を含むテンプレート・ベース・ビューとしてインスタンスが保存されます。 <b>注:</b> テンプレートにのみ関連します。

## 変更レポートを表示

このレポートには、CI または関係への変更が選択したビューで表示されます。このレポートは、該当の CI に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CI の変更で、それらの変更が問題の原因であると判断できることもあります。同様に、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。

時間範囲: 直近の1日 ▼ 開始日付: 2009年11月29日 (日曜日) 午後 03:06 PST ▼ 終了日付: 2009年11月30日 (月曜日) 午後 03:06 PST ▼

ビュー: NetworkTopology ▼ ... 次に基づく情報を検索  CMDB  ビュー

生成

CI 変更 | 関係の変更

Display Label	Class Name	Attribute Name	New Va
16.59.70.0\abm1#21	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003
16.59.70.0\abm1#21	Windows	DiscoveredOsVersion	5.2.3790
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host Operating System Installation type	Server Enterprise
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host Operating System Release	3790
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Windows Service Pack	2.0
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host is Desktop	False
16.59.60.0\vbmt016	Windows	MemorySize	2,048
16.59.60.0\vbmt016	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003 R2

### 利用方法

[モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。

- ▶ [変更レポートを表示] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
- ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[変更レポートを表示] を選択する。
- ▶ [変更レポートを表示] をダブルクリックする。
- ▶ [変更レポートを表示] を選択し、右表示枠にドラッグする。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>プロパティが [<b>変更をモニタ</b>] とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については、513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>[変更レポートを表示] の表示内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 該当のビューにのみ存在する CI の変更。</li> <li>▶ 選択した CI と [<b>変更レポートのリンク名</b>] インフラストラクチャ設定で指定した関係に関連するすべての子 CI で行われた変更。この設定の標準設定値は <b>impact_link</b> 関係です。</li> </ul> <p>生成したレポートに表示される CI を変更するには、[<b>マネージャ</b>] &gt; [<b>管理</b>] &gt; [<b>インフラストラクチャ設定</b>] の順にアクセスして、次の設定を編集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [<b>変更レポートのリンク名</b>] を選択して、選択した計算済み関係にリンクしている CI を取得します。CI タイプ・マネージャで選択した関係の [詳細] ページで ([<b>表示名</b>] ボックスではなく) [<b>名前</b>] ボックスに表示されているとおり、設定値を関係の名前に変更します。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ [<b>変更レポートのリンク修飾子</b>] を選択して、修飾子で定義されている CI を取得します。設定値を該当する修飾子の名前に変更します。修飾子の詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ CI に追加または削除された <b>Composition</b> 関係のある CI。</li> <li>▶ 関係が <b>TRACK_LINK_CHANGES</b> 修飾子で定義され、CI に追加または削除された CI。修飾子の詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>394 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<ツールバー>	詳細については、469 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>「開始日付」</b> および <b>「終了日付」</b> ボックスに自動的に表示されます。 <b>注：</b> <b>「カスタム」</b> を選択すれば、 <b>「開始日付」</b> および <b>「終了日付」</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。
ビュー	変更を確認するビューを選択します。 <b>「CI の選択」</b> ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、147 ページの「CI の選択を使った作業」を参照してください。

### **「CI 変更」 タブ**








「CI 変更」 タブの詳細については、413 ページの「「CI 変更」 タブ」を参照してください。






### **「関係の変更」 タブ**













「関係の変更」 タブの詳細については、414 ページの「「関係の変更」 タブ」を参照してください。


## ツールバー・オプション

このセクションでは、[レポート] 表示枠のツールバー・オプションについて説明します。

UI 要素	説明
 レポートのパラメータ	レポートに対して定義されたパラメータを表示します。
	<b>レポートを保存</b> ：選択したレポートを保存します。
	<p><b>スケジュールされたレポート</b>：[定期スケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、ジョブの次の情報を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポート生成のスケジュール</li> <li>▶ 1 つ以上のレポート送信形式およびレポート受信者の指定</li> <li>▶ ジョブの繰り返しの指定</li> </ul> <p>[定期スケジュール] ダイアログ・ボックスの詳細については、460 ページの「[定期レポート] / [スナップショットをスケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：このオプションは、レポートを生成する前または保存したレポートを開くときのみ使用できます。</p>
	<p><b>メールを送信</b>：[メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを含む電子メールを送信できます。各種形式の詳細については、470 ページの「レポートのエクスポート。」を参照してください。</p> <p>添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの形式を 1 つ以上選択します。</p> <p><b>注</b>：必須フィールドにはアスタリスクが付いています。</p>
	<p><b>階層レポート</b>：レポート結果をデータベースに保存できません。レポートがアーカイブされたら、 ボタンがレポート名の横に表示されます。</p> <p><b>注</b>：トポロジ・レポートおよびゴールド・マスタ・レポートでのみ有効になります。</p>
	<b>ダイレクトリンクの生成</b> ：選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。

UI 要素	説明
	<p><b>レポートのエクスポート。</b></p> <p>レポートのプレビューおよびエクスポートの形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CSV</b> : レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。                     <p><b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域オプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。</p> </li> <li>▶ <b>PDF</b> : レポートのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。                     <p><b>注</b> : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な値に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。</p> </li> <li>▶ <b>XLS</b> : レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。                     <p><b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開く。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。</li> </ul> </li> </ul>
 棒グラフ	<p><b>棒グラフ</b> : 生成されたレポートが棒グラフとして表示されます。</p>
 円グラフ	<p><b>円グラフ</b> : 生成されたレポートが円グラフとして表示されます。</p>
 表	<p><b>テーブル</b> : 生成されたレポートがテーブル形式で表示されます。</p>
	<p><b>短いラベルを表示</b> : グラフのラベルの情報の最大化 / 最小化が状態が切り替わります。</p> <p><b>注</b> : このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>凡例を表示:</b> グラフの凡例の表示 / 非表示が切り替わります。</p> <p><b>注:</b> このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>
	<p><b>スライス グラフ:</b> 円グラフのセグメントが切り離されている状態と切り離されていない状態が切り替わります。</p> <p><b>注:</b> このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>
	<p><b>すべてを展開:</b> ツリー構造が展開されます。</p>
	<p><b>すべてを折りたたむ:</b> ツリー構造が折りたたまれます。</p>
	<p><b>CMDB から削除:</b> 選択した CI が CMDB から削除されます。</p>
	<p>選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p><b>更新:</b> レポート・ツリーが更新されます。</p>
	<p><b>カラムの選択:</b> レポートに表示するカラムを選択します。詳細については、594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p><b>カラム コンテンツの並べ替え:</b> 選択したカラム・コンテンツの並べ替え順を設定できます。</p>
	<p><b>検索:</b> [検索] ユーティリティの表示 / 非表示が切り替わります。</p>
	<p><b>フレーズの次回発生を検索 / フレーズの前回発生を検索:</b> [検索] フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。</p>
	<p><b>フレーズのすべての発生をハイライト表示:</b> [検索] フィールドに入力した文字列に一致する、CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>レポートを生成</b>：選択したレポートを生成できます。</p> <p><b>注</b>：このボタンは、レポート・パラメータを定義するまでは無効になっています。</p>
<p>&lt;現在位置表示リスト&gt;</p>	<p>現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。</p> <p><b>注</b>：現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。</p>
<p>&lt;生成されたレポート&gt;</p>	<p>生成されたアクティブなレポートが表示されます。</p>
<p>検索</p>	<p>[<b>検索</b>] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。</p>



# 10

---

## 影響分析マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ 影響分析マネージャの概要 (474 ページ)

### タスク

- ▶ 影響ルールの定義 - ワークフロー (476 ページ)

### 参照先

- ▶ 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース (480 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### 影響分析マネージャの概要

影響分析マネージャでは、IT インフラストラクチャにおけるコンポーネント間の相互依存関係を定義して、インフラストラクチャの変更（新しいソフトウェアのインストールやアップグレードなど）がシステムにどのように影響するかをシミュレートできます。

TQL クエリに基づいて影響ルールを作成すると、問題の真の原因とそのビジネス・インパクトを究明できます。定義する各影響ルールは、個別の影響分析 TQL クエリに関連付けられます。TQL クエリの詳細については、19 ページの「トポロジクエリ言語」を参照してください。

影響ルールを定義して、複数の影響分析クエリ・ノード間の因果関係を指定します。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。因果関係が確立されると、影響分析マネージャによって、根本原因クエリ・ノードで行われる変更の影響を究明できます。

次に、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行し、変更がシステムに与える影響をシミュレートして、変更の根本原因を検出できます（詳細については、274 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。これで、アクション、更新、新規デプロイメント、またはサービス配信障害の関与の可能性を適宜に評価して処理できます。

影響を受ける CI での変更シミュレーションによって、CI のマップ・ステータスが増える可能性があります。これは CI のシンボルにステータス・アイコンを追加することで明らかになります。トポロジ・マップには、トリガ CI のステータスに加えて、その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。それぞれの色は異なるステータスを示します。

ステータス・アイコンとそれらを示す色の詳細については、280 ページの「[影響を表示] 表示枠」を参照してください。

また、次の情報を表示するレポートを作成できます。

- ▶ システムで変更の影響を受ける CI。
- ▶ トリガ CI (システムに加える変更を示す CI)。
- ▶ 特定のビジネス・サービスに属する CI。

---

---

## タスク

---

---

### 影響ルールの定義 – ワークフロー

このセクションでは、「CPU 動作の変化が、接続されているノードに影響を与える」という影響ルールを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 476 ページの「影響分析 TQL クエリの作成」
- ▶ 477 ページの「影響ルールの定義」

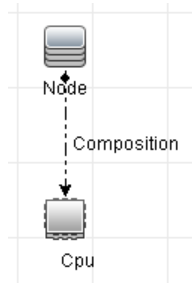
#### 1 影響分析 TQL クエリの作成

影響分析 TQL クエリを作成するには、影響分析 TQL を作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

[マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択して、影響分析マネージャを開きます。影響分析 TQL クエリの作成方法の詳細については、493 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

**影響分析 TQL クエリの例：**

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを **Composition** 関係でリンクします。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注：**影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

**2 影響ルールの定義**

影響ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガ・クエリ・ノードとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、**[影響を受けるものを定義]** を選択して、**[影響を受けるクエリ ノード]** ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。次に、**[追加]** ボタンをクリックして、**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については、491 ページの「**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注：**影響ルール定義の **[change]** 状態オプションは影響分析には関係しくくなりました。サポートされる状態は **[operation]** のみです。

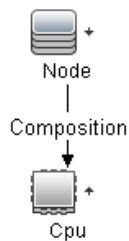
---

**影響ルール例 :**

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [条件] 領域で、システムの変更シミュレーションがトリガされる条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で、影響を受けるクエリ・ノードに対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU 動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が 100% に設定されているため、ノードの重大度は CPU の重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

結果の TQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



**注：**影響分析の結果を取得するには、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行する必要があります。詳細については、230 ページの「影響分析結果の取得 - シナリオ」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---

### 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 481 ページの「[詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 482 ページの「[影響分析マネージャ] ページ」
- ▶ 490 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 491 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 493 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」



## [詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスで作成した新しい影響ルールが表示されます。

<b>利用方法</b>	影響分析マネージャの [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスで [次へ] をクリックします。
<b>関連タスク</b>	476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>説明</b>	新しい影響ルールの詳細です。
<b>状態</b>	[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [状態] リストで選択したカテゴリです。

## [影響分析マネージャ] ページ

このページでは、影響ルールを定義できます。



<b>利用方法</b>	ナビゲーション・メニューで [影響分析マネージャ] を選択するか, [マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択します。
<b>重要情報</b>	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に従う必要があります。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。
<b>関連タスク</b>	476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」
<b>関連情報</b>	474 ページの「影響分析マネージャの概要」








### [影響ルール] 表示枠

この領域には、定義済みフォルダおよび影響ルールの階層ツリー構造が表示されます。各影響ルールは TQL クエリと関連しています。

<b>重要情報</b>	<p>独自の影響ルールを作成することも、HP Universal CMDB のインストールで提供される標準のルールを使用することもできます。</p> <p>標準設定影響ルールには定義済みフォルダが提供されるため、これらのフォルダを変更するか、組織の要件に従ってフォルダを追加できます。</p> <p>影響ルールまたはフォルダをドラッグ・アンド・ドロップして、あるフォルダから別のフォルダに移動できます。</p>
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	新しいフォルダを作成します。
	影響ルールを作成します。[新規影響ルール] ウィザードが開きます。

UI 要素	説明
	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	(新規影響ルールを作成した場合、または既存のルールを変更した場合にのみ使用可能です) 影響ルールを CMDB に保存します。
	[影響ルールのプロパティ] ウィザードを開きます。ルールの説明を変更できます。
	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
	フォルダを表します。
	影響ルールを表します。
< 【影響ルール】 ツリー >	既存の影響ルールがツリー形式で表示されます。 <b>注:</b> ツリーには、影響分析ルールのみが表示されます。影響分析タイプの TQL クエリ (モデリング・スタジオで作成) は表示されません。

フォルダまたは影響ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI 要素	説明
<b>削除</b>	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
<b>XML へエクスポート</b>	標準の [名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスが表示され、影響ルールを XML スクリプトとして保存できます。このオプションは、関連する TQL クエリも再配置されるという条件で、ワークステーション間で影響ルールを移動するのに使用できます。
<b>XML からインポート</b>	保存された影響ルールを含む XML ファイルを影響分析マネージャにインポートします。
<b>新規作成</b>	影響ルールを作成します。[新規影響ルール] ウィザードが開きます。




UI 要素	説明
新規フォルダ	新しいフォルダを作成します。
プレビュー	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
プロパティ	[影響ルールのプロパティ] ウィザードを開きます。ルールの説明を変更できます。
フォルダの名前の変更	フォルダ名を変更します。
保存	(新規影響ルールを作成した場合、または既存のルールを変更した場合にのみ使用可能です) 影響ルールを CMDB に保存します。
名前を付けて保存	[影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードを表示し、既存のクエリをベースにして新しい影響ルールを作成できます。

### 編集表示枠

この領域には選択した影響ルールが表示されます。影響ルールは TQL クエリで定義したクエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [影響ルール] 表示枠でフォルダを選択すると、[編集] 表示枠は空の状態です。</li> <li>▶ [影響ルール] 表示枠で影響ルールを選択すると、[編集] 表示枠には選択したルールが表示されます。このルールは TQL クエリで定義した TQL クエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。</li> </ul>
関連タスク	30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
関連情報	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に従う必要があります。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。






UI 要素	説明
	トリガ・クエリ・ノードを示します。トリガ・クエリ・ノードのアイコンの右にあります。
	影響を受けるクエリ・ノードを示します。影響を受けるクエリ・ノードのアイコンの右にあります。
	影響を受けるクエリ・ノードとトリガ・クエリ・ノードの両方であるクエリ・ノードを示します。
<メイン・メニュー>	詳細については、191 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。
<クエリ・ノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。
<ショートカット・メニュー・オプション>	詳細については、38 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、195 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ツールチップ>	クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、そのノードまたは関係のツールチップが表示されます。このツールチップには次の情報が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要素名</b> : クエリ・ノードの名前です。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b> : CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、499 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>選択したクエリ・ノードと関係の定義</b> : 属性条件です。詳細については 83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの名前</b> : これは、カーソルが置かれているクエリ・ノードがトリガ・クエリ・ノードである場合にのみ関係します。</li> </ul>

## CI タイプ・セレクト

この領域には、CMDB に含まれる CI タイプの階層ツリー構造が表示されます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>CI タイプ・セレクトは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、トリガ TQL エディタに含まれています。</p> <p>TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>各 CIT の右側に、CMDB 内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>[CI タイプをマップに追加] をクリックすると、選択した CI タイプが [編集] 表示枠に移動します。</p>
	<p>[更新] をクリックすると、CI タイプ・ツリーが更新されます。</p>
	<p>[検索] をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。</p>
	<p>[すべてを展開] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。</p>
	<p>[すべてを折りたたむ] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。</p>
<p>&lt;検索ウィンドウ&gt;</p>	<p>検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。</p>

### ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、CI タイプを右クリックしたときに以下の要素を選択できます。



メニュー項目	説明
CI タイプをマップに追加	選択すると、選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インスタンスを表示	[CIT インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	[詳細] 表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ * が表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
<b>属性</b>	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。
<b>カーディナリティ</b>	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 :3 である場合、TQL クエリは 1～3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。
<b>データ ソース</b>	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。 <b>注：</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
<b>詳細</b>	次の情報が表示されます。 ▶ <b>CI タイプ：</b> 選択したクエリ・ノード / 関係の CIT です。 ▶ <b>可視：</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード / 関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。 ▶ <b>サブタイプを含める：</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。
<b>編集</b>	[編集] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。



UI 要素	説明
<b>エンリッチメント ルール</b>	<p>選択したクエリ・ノード / 関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて <b>[編集]</b> をクリックして <b>[クエリ ノード / 関係の定義]</b> ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、568 ページの「<b>[クエリ ノード定義]</b>」<b>[関係の定義]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>影響を受けるクエリ ノード</b>	<p>選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、<b>[編集]</b> をクリックして <b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、490 ページの「<b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>修飾子</b>	<p>クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、90 ページの「<b>[修飾子]</b> タブ」を参照してください。</p>
<b>選択された ID</b>	<p>TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、93 ページの「<b>[ID]</b> タブ」を参照してください。</p>

## [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義できます。

<b>利用方法</b>	トリガとして機能するクエリ・ノードまたは関係を右クリックして、 <b>[影響を受けるものを定義]</b> を選択します。 <b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックスが開いて、TQL クエリのクエリ・ノードが表示されます。
<b>重要情報</b>	TQL クエリを作成する前に、クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードとなるクエリ・ノードと、変更の影響を受けるクエリ・ノードを事前に知っておく必要があります。定義はここで行います。
<b>関連タスク</b>	476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>[影響を受けるクエリ ノード] 表示枠</b>	影響分析クエリ・ノードのリストを影響ルールに含めます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。

## [影響ルール定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件の設定、トリガ条件の範囲の定義、影響の重大度の定義ができます。

<b>利用方法</b>	影響分析マネージャで、[詳細] ダイアログ・ボックスの [ <b>追加</b> ] をクリックします。
<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [条件] 領域で、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。この条件が満たされると、システムの変更シミュレーションがトリガされます。 たとえば、クエリ・ノードの動作状態が標準でないことを示す影響分析条件を定義できます。クエリ・ノード・インスタンスの動作状態が変化して標準でなくなると、条件が満たされ、システムの変更シミュレーションがトリガされます。</li> <li>▶ [対象範囲] 領域では、どのくらいのインスタンスのトリガ・クエリ・ノードがシステムの変更をトリガする条件を満たすか定義します。 トリガ条件は、トリガ・クエリ・ノードの 1 つのインスタンス、一定割合のトリガ・インスタンス、またはすべてのインスタンスに適用できます。 たとえば、システムのノードが少なくとも 10% ダウンしたときに予測される影響を定義できます。</li> <li>▶ ダイアログ・ボックス下部で、影響分析の影響の重要度を定義します。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
<b>すべて</b>	すべてのインスタンスが条件を満たす必要があります。
<b>任意</b>	1 つ以上のインスタンスが条件を満たす必要があります。
<b>説明</b>	定義する影響ルールの詳細です。

UI 要素	説明
固定された重大度	発生するすべてのシステム変更に対して一定の重要度を定義しておき、リストから必要な重要度を選択します。
関数	<p>[関数] ([対象範囲] 領域で [すべて] および [範囲] オプションを選択したときに表示) を選択し、範囲に含まれているすべてのトリガ・クエリ・ノード・インスタンスの重要度の関数として、システム変更の重要度を定義します。リストから、[平均] または [最大] を選択します。</p> <p>たとえば、[平均] を選択すると、システム変更の重要度はすべてのトリガ・インスタンスの平均重要度になります。</p>
演算子	必要な演算子を選択します。属性条件を定義するのに使える演算子のリストについては、43 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
範囲	一定割合のインスタンスがすべて、条件を満たす必要があります。たとえば、50% ~ 100% の範囲を入力した場合、50% 以上のインスタンスが条件を満たすと、変更がトリガされます。
重大度はトリガの重大度との相対値 (%)	<p>[重大度はトリガの重大度との相対値 (%)] ([対象範囲] 領域で [任意] オプションを選択すると表示) を選択して、トリガ・イベントの重要度に (パーセンテージとして) 関連する各システム変更の重要度を定義します。</p> <p>与えられたボックスにパーセンテージを入力します。</p>
状態	必要な状態を選択します。リストに表示される状態は、状態マネージャで定義した状態です。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の (PDF) の「スケジューラ」を参照してください。
値の比較	必要な属性を選択します。

## [新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード

このウィザードでは、影響ルールを作成、変更できます。

<b>利用方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールを作成するには、[影響ルール] 表示枠のどこかを右クリックして [新規作成] をクリックするか、[新規作成]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ 既存の影響ルールを変更するには、[影響ルール] 表示枠で影響ルールを右クリックして、[プロパティ] を選択します。</li> <li>▶ 既存のクエリに基づいて新しい影響ルールを作成するには、[影響ルール] 表示枠で影響ルールを右クリックして、[名前を付けて保存] を選択します。</li> </ul>
<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールを作成した後で、TQL クエリに大きな変更を加えると、システムによってそのルールが削除されます。これらの変更は、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードの削除や、<b>最小</b>および<b>最大</b>関係定義の変更などです。詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。</li> <li>▶ TQL クエリにクエリ・ノードを追加するなどの小さな変更では、ルールは削除されません。</li> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>

 **【影響ルールの一般属性】 ページ**

このウィザード・ページでは、影響ルールの一意の名前と詳細を入力できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、493 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ようこそ] ページを表示しないようにできます。詳細については、100 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p><b>ルールの詳細</b></p>	<p>影響ルールの詳細を入力します (任意指定)。</p>
<p><b>ルール名</b></p>	<p>影響ルールの一意の名前を入力します。</p> <p>ルール名には、¥/: "&lt;&gt; % ?" の文字を含むことができません。</p> <p><b>注:</b> 影響ルール名が空の状態であるか、別の影響ルールで使用している名前が含まれているか、無効な文字が使用されている場合は、[次へ] および [完了] ボタンが使用不可になります。</p>

## [影響ルール ベース クエリ] ページ

このウィザード・ページでは、影響クエリの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義できます。既存のクエリを使用するか、新しいクエリを作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、493 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; <b>[影響ルール ベース クエリ] ページ</b> &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>
<b>関連情報</b>	207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>新しいクエリの影響ルールに基づく</b>	新しい TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。クエリ結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。
<b>既存のクエリの影響ルールに基づく</b>	既存の TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。必要な影響分析 TQL クエリをドロップダウン・リストから選択します。
<b>ベース クエリ詳細</b>	TQL クエリの説明を入力します (任意指定)。

UI 要素	説明
ベース クエリ名	影響分析 TQL クエリの一意の名前を入力します。 [新しいクエリの影響ルールに基づく] オプションを選択した場合、ルールの基礎とする影響分析 TQL クエリを選択します。
ベース クエリの優先度	影響分析タイプの TQL クエリはすべて自動的に非アクティブに設定されるため、ここで選択する必要はありません。
現在の定義に基づいて新規クエリを保存	選択すると、影響ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。 <b>注:</b> このフィールドは、[影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードにのみ表示されます。

### [影響ルール グループ] ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールを実行できる場所を定義できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、493 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは、このページで [次へ] をクリックすると [ウィザードの完了] ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの完了] ページを表示しないようにできます。詳細については、100 ページの「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
-------------	--



ウィザード・マップ	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; <b>[影響ルール グループ] ページ</b></p>
関連情報	207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
UCMDB	IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行できるようにします。詳細については、208 ページの「IT ユニバース・マネージャの概要」を参照してください。



# 11

---

## CI タイプ・マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ CI タイプの概要 (500 ページ)
- ▶ CI タイプの属性 (501 ページ)
- ▶ CI タイプの関係 (502 ページ)
- ▶ 廃止 CI タイプ (502 ページ)
- ▶ システム・タイプ・マネージャ (503 ページ)

### タスク

- ▶ CI タイプの作成 (505 ページ)
- ▶ 関係タイプの作成 (507 ページ)
- ▶ 計算された関係タイプの作成 (508 ページ)
- ▶ リストおよび列挙定義の作成 (509 ページ)
- ▶ 列挙定義の作成 - ワークフロー (510 ページ)

### 参照先

- ▶ CI タイプと関係の詳細を表示 (512 ページ)
- ▶ CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース (512 ページ)

---

**HP Software-as-a-Service のカスタマに対する注:** CI タイプ・マネージャのデータは表示できますが、編集できません。

---

---

---

## 概念

---

---

### CI タイプの概要

構成アイテム (CI) によって、IT インフラストラクチャのハードウェア、ソフトウェア、サービス、ビジネス・プロセス、またはコンポーネントを表すことができます。同様のプロパティを持つ CI は、1 つの CI タイプ (CIT) にグループ化されます。それぞれの CIT には、CI と関連プロパティを作成するテンプレートがあります。

すべての CI は CI タイプに属する必要があります。CIT の主なカテゴリは次のとおりです。

- ▶ **Business Element** : プロセスや組織グループなど、ビジネスの論理要素に対応する CIT。
- ▶ **IT Process Record** : IT インフラストラクチャで発生する変更に対応する CIT。
- ▶ **Monitor** : ビジネス環境から収集された入力測定値を処理する CIT。
- ▶ **Location** : デバイス、企業組織、または職務をサポートする人の場所に対応する CIT。
- ▶ **Party** : 人または組織などのアクティブなエンティティに対応する CIT。
- ▶ **CI Collection** : CI の論理的な集合。
- ▶ **Infrastructure Element** : ビジネス環境に導入された物理要素 (ハードウェアとソフトウェア) に対応する CIT。

[CI タイプ] 表示枠には、CIT が前述のカテゴリの下にツリー構造で整列されます。[CI タイプ] 表示枠でツリーを展開すると、CI タイプ・モデルをブラウズできます。左の表示枠で CIT を選択すると、ほかの CIT との潜在的な有効関係とともに、トポロジ・マップに表示されます。

また、ビジネス・ニーズに合わせて、新しい CIT を定義することもできます。新しい CIT の定義の詳細については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。

## CI タイプの属性

すべての CI タイプには、名前、説明、および標準設定値などを定義する属性があります。CI タイプ・ツリーでほかの CIT の下にグループ化された CIT は、上位の CIT から属性を継承します。

新しい CI タイプを定義するときは、まず既存の CIT のリストから基本構成アイテム・タイプを選択します。新しい CIT は既存の CIT の属性を継承します。その後、新しい CIT の属性を設定できます。既存の CIT の属性を編集するには、[CI タイプ] 表示枠でツリーから CIT を選択し、トポロジ・マップの [属性] タブを選択します。CIT 属性の詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

1 つ以上の CIT の属性をキー属性として指定できます。キー属性は CIT の識別子として使用される属性です。CIT のインスタンスを定義する場合、CIT のキー属性が当該タイプに属する CI の必須フィールドとなります。特定の CIT に必要なだけのキー属性を割り当てることができます。新規 CIT の定義時にキー属性を割り当てない場合は、ウィザードの [修飾子] ページで次の修飾子のいずれかを選択する必要があります。

- ▶ **ABSTRACT\_CLASS** : CIT は作成されているが **abstract** のままです。つまり、CIT のインスタンスは作成できません。
- ▶ **RANDOM\_GENERATED\_ID\_CLASS** : CIT のインスタンスは作成できますが、その ID はキー属性を基にしていません (ランダムに生成されます)。

少なくとも 1 つのキー属性が存在する限り、既存の CIT のキー属性を削除できます。既存の CIT の修飾子が上のいずれでもない場合、その CIT のキー属性はいずれも削除できません。

HP Universal CMDB では、CMDB ベース・アプリケーションのエンティティ名は次の表記規則に従います。

- ▶ **CIT 属性の値** : すべてのプリミティブ型がサポートされています (long, double, float, string など)。
- ▶ **CIT 属性の値 (string 型)** : すべての特殊文字がサポートされています。最大長は 4,000 文字です。

- ▶ **CIT 名および属性名** : a ~ z, A ~ Z, およびアンダースコア ( \_ ) が許可されています。文字長は 200 文字に制限されています。CIT 名は英語でなければなりません。0 ~ 9 も許可されていますが、CIT 名の先頭文字にすることはできません。
- ▶ **CIT 属性の長さ** : 1 つの CIT 内にあるすべての属性値の全長は、Microsoft SQL Server の制限のために 8K バイトを超えられません。

## CI タイプの関係

関係は、2 つの CI 間のリンクを定義します。関係は IT 環境におけるエンティティ間の依存関係と接続を表します。[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・ボックスで関係または計算された関係を選択すると、トポロジ・マップに、選択した関係でリンクされている CIT の有効なインスタンスがすべて表示されます。計算された関係の詳細については、107 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。

CIT に定義したのと同じ属性が関係にも定義されます。キー属性も関係に割り当てることができですが、必須ではありません。新しい関係タイプの定義の詳細については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。

## 廃止 CI タイプ

今後のバージョンの製品で削除される予定の CIT および関係は、廃止 CIT として認識されます。このような CIT は、ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。廃止 CIT にポインタを合わせると、代替の CIT など、その CIT に関する情報を含むツールチップが表示されます。

---

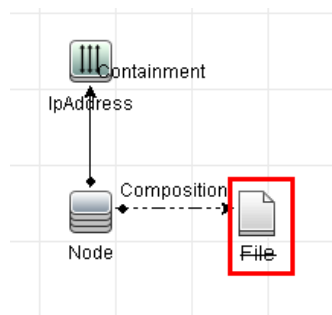
**注** : 取り消し線は、トポロジ・マップで 14 ポイント以上のフォント・サイズが選択されている場合のみ表示されます。

---

モデリング・スタジオの CIT ツリーには廃止 CIT が表示されますが、新規 TQL クエリやビューの作成では使用しないことをお勧めします。廃止 CIT の代わりに、代替の CIT としてツールチップに表示されている CIT を使用してください。廃止 CIT は、用意済みのクエリおよびビューには表示されません。

削除予定の CIT 属性は、廃止属性です。また、これらの属性は、ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。

次の図は、廃止 CIT を含む TQL クエリを表しています。



## システム・タイプ・マネージャ

システム・タイプ・マネージャでは、属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成できます。システム・タイプ・マネージャの詳細については、540 ページの「[システムタイプマネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

次の属性タイプを作成できます。

- ▶ **リスト**：値の定義済みリスト（**Location** など）を作成できます。
- ▶ **列挙**：値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。列挙は状態による重要度値リストとして使用するよう設計されています。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』（PDF）の「スケジューラ」を参照してください。

重要度リストは次の目的に利用します。

- ▶ IT ユニバース・マネージャで影響分析の結果を取得する。詳細については、207 ページの「IT ユニバース・マネージャ」を参照してください。

- ▶ 影響ルールを作成する。詳細については、473 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。

リストおよび列挙の値は次の目的に利用できます。

- ▶ CIT の属性を編集する。詳細については、505 ページの「CI タイプの作成」を参照してください。
- ▶ TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義する。詳細については、83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



---

---

## タスク

---

---

### CI タイプの作成

このタスクでは、[構成アイテム タイプを作成] ウィザードを使って CIT を作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 505 ページの「前提条件」
- ▶ 505 ページの「CI タイプの定義」
- ▶ 505 ページの「CI タイプの属性の設定」
- ▶ 506 ページの「CI タイプへの修飾子の割り当て」
- ▶ 506 ページの「CI タイプへのアイコンの割り当て」
- ▶ 506 ページの「CI タイプ・メニューのカスタマイズ」
- ▶ 506 ページの「CI タイプの標準設定ラベルの定義」
- ▶ 506 ページの「照合ルールの定義」

#### 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、**CI タイプ** 表示枠のリスト・ボックスから [CI タイプ] を選択します。次に、**[新規作成]** を選択して [構成アイテム タイプを作成] ウィザードを起動します。

#### 2 CI タイプの定義

新しい CI タイプの名前、説明、およびベースの構成アイテム・タイプを入力します。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

#### 3 CI タイプの属性の設定

新しい CI タイプの属性を編集し、そのキー属性を定義します。詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

**注:** リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、509 ページの「リストおよび列挙定義の作成」を参照してください。

---

#### 4 CI タイプへの修飾子の割り当て

新しい CI タイプの定義に修飾子を割り当てます。詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

#### 5 CI タイプへのアイコンの割り当て

新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。詳細については、529 ページの「[アイコン] ページ」を参照してください。

#### 6 CI タイプ・メニューのカスタマイズ

新しい CI タイプのショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、530 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。

#### 7 CI タイプの標準設定ラベルの定義

CI タイプ・ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、534 ページの「[標準設定ラベル] ページ」を参照してください。

#### 8 照合ルールの定義

必要な場合は、新規 CI タイプの照合ルールを定義します。詳細については、536 ページの「[一致ルール] ページ」を参照してください。

---

**注:** このステップは、HP Universal CMDB 構成マネージャを実行するカスタマにのみ関連します。

---

## 関係タイプの作成

`create_relationship_type` このタスクでは、[関係を作成] ウィザードを使って関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 507 ページの「前提条件」
- ▶ 507 ページの「関係の定義」
- ▶ 507 ページの「関係の属性の設定」
- ▶ 508 ページの「関係への修飾子の割り当て」
- ▶ 508 ページの「関係メニューのカスタマイズ」
- ▶ 508 ページの「関係の標準設定ラベルの定義」

### 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから **関係** を選択します。次に、[**新規作成**] を選択して、[関係を作成] ウィザードを起動します。

### 2 関係の定義

新しい関係の名前、説明、およびベースの CI タイプを入力します。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

### 3 関係の属性の設定

新しい関係の属性を編集し、そのキー属性を定義します。詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

---

**注:** リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、509 ページの「リストおよび列挙定義の作成」を参照してください。

---

#### 4 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

#### 5 関係メニューのカスタマイズ

新しい関係のショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、530 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。

#### 6 関係の標準設定ラベルの定義

関係ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、534 ページの「[標準設定ラベル] ページ」を参照してください。

### 計算された関係タイプの作成

このタスクでは、[計算済み関係の作成] ウィザードを使って計算された関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 508 ページの「前提条件」
- ▶ 508 ページの「計算された関係の定義」
- ▶ 509 ページの「関係への修飾子の割り当て」
- ▶ 509 ページの「必須のトリプレットの追加」

#### 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから **計算された関係** を選択します。次に、[新規作成] を選択して、[計算済み関係の作成] ウィザードを起動します。

#### 2 計算された関係の定義

新しい計算された関係の名前、説明、およびベースの CI タイプを入力します。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

### 3 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

### 4 必須のトリプレットの追加

必要なトリプレットを追加します。詳細については、527 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。

## リストおよび列挙定義の作成

本項では、リストおよび列挙定義を作成するタスクについて説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 509 ページの「リスト定義の作成」
- ▶ 509 ページの「列挙定義の作成」

### 1 リスト定義の作成

定義済み値の **リスト** 定義を作成できます。たとえば、**Location** というリスト定義に以下の値が含まれていることがあります。

- ▶ New York
- ▶ Boston
- ▶ Baltimore

詳細については、537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 2 列挙定義の作成

**列挙** 定義を作成し、リストの各値に色を割り当てることができます。詳細については、537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。列挙定義の例については、510 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」を参照してください。

## 列挙定義の作成 – ワークフロー


次の手順で、列挙定義を作成する方法について説明します。

---

**注：**必要な結果を取得するには、このタスクの各手順に従う必要があります。

---

**列挙定義を作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] を選択します。
- 2 メイン・メニューで [CI タイプ] > [システム タイプ マネージャ] を選択すると、[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3  [追加] ボタンをクリックして、[リスト定義の作成] ダイアログ・ボックスを開きます。

---

**注：**あるいは、[マネージャ] > [管理] > [状態マネージャ] を選択して、[新規列挙] ボタンをクリックすると、[列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

---

- 4 **列挙** を選択します。
- 5 **名前** ボックスで、必要な名前を入力します。
- 6 **表示名** ボックスで、必要な表示名を入力します（任意指定）。  
この例では、次の重要度リストを作成する方法について説明します。

キー	値	重要度
0	緑	標準
1	オレンジ	重大
2	赤	致命的

- 7** [追加] ボタンをクリックして、新しい行を作成します。
- 8** [値] ボックスに **Normal** と入力し、[キー] ボックスに **0** と入力します。また、[色] セクションで [緑] を選択します。
- 9** [追加] ボタンをクリックして、別の行を作成します。
- 10** [値] ボックスに **Major** と入力し、[キー] ボックスに **1** と入力します。また、[色] セクションで [オレンジ] を選択します。
- 11** [追加] ボタンをクリックして、別の行を作成します。
- 12** [値] ボックスに **Critical** と入力し、[キー] ボックスに **2** と入力します。また、[色] セクションで [赤] を選択します。

次の図は、変更後の [列挙定義] セクションを示しています。

名前:

表示名:

リスト  列挙

列挙定義

標準

重大

致命的

値:

キー:

色

緑

薄緑

黄

オレンジ

赤

グレー

- 13** [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

---

---

## 参照先

---

---

### CI タイプと関係の詳細を表示

CI タイプ・マネージャの左表示枠に、利用可能な CI タイプの一覧をツリー形式で表示できます。516 ページの「CI タイプ マネージャ」で説明しているように、個別の CI タイプをインクリメンタル検索することができます。特定の CI タイプの詳細を確認するには、ツリーでそのタイプを選択し、トポロジ・マップで対応するアイコンの上にポインタを置いたままにします。CI タイプの説明が記載されたツールチップが表示されます。

関係については、左表示枠で **関係** を選択し、関係の最初の文字でインクリメンタル検索をします。必要な関係を選択し、トポロジ・マップでそのアイコンの上にポインタを置いたままにすると、関係の詳細が記載されたツールチップが表示されます。

CI タイプと関係の詳細については、HP Software BTO Data Model Reference ファイルを参照してください。

### CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース


本項の内容

- ▶ 513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」
- ▶ 516 ページの「関係の追加 / 削除ダイアログ・ボックス」
- ▶ 516 ページの「CI タイプ マネージャ」
- ▶ 520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」
- ▶ 537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 540 ページの「[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス」



## 属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい属性を定義して CIT に追加したり、CIT の既存の属性を編集できます。

<b>利用方法</b>	CI タイプ・マネージャで [属性] タブを選択して [追加] ボタン  をクリックするか、あるいは属性を選択して [編集] ボタンをクリックするか、属性をダブルクリックします。
<b>重要情報</b>	[編集] モードでは、変更できないフィールドは使用不可になります。

### [詳細] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>属性名</b>	新しい属性に一意的な名前を入力します。この名前には、" ¥ / [ ] :   < > + = ; , ? * の符号を除くすべての文字を含めることができます。 <b>注</b> : 属性名では大文字 / 小文字を区別しません。
<b>属性タイプ</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>プリミティブ</b> : 次のフィールド・タイプのいずれかを選択します。boolean, bytes, date, double, float, integer, integer_list, long, string, string_list, xml。</li> <li>▶ <b>列挙 / リスト</b> : システム・タイプ・マネージャで定義した列挙およびリストの一覧が含まれます。詳細については、503 ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> </ul> <p>このオプションによって、定義済みの値で属性を定義できます。たとえば、場所属性は次の値が含まれた [location] リストで定義できます。Singapore, Paris, New York。</p>
<b>標準設定値</b>	属性の標準設定値を入力するか選択します。[標準設定値] フィールドのオプションは、選択した属性タイプによって異なります。 <b>注</b> : integer_list または string_list の <b>プリミティブ</b> 属性タイプを選択すると、複数の値を入力できます。

UI 要素	説明
説明	新しい属性の詳細を入力します。 <b>注:</b> このフィールドは任意指定です。
表示名	HP Universal CMDB で識別するために、新しい属性の名前を入力します。 <b>注:</b> このフィールドは任意指定です。
対象範囲	新しい属性の対象範囲（属性が属するクラス・モデル）を選択します。
値のサイズ	新しい属性の最大物理サイズの値を入力します（bytes および string の場合にのみ使用可能）。

### [詳細設定] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
アセット データ	アセット・レポートに属性値を表示する場合に選択します。
変更をモニタ	CI タイプ・マネージャで「変更をモニタ」とマークされている値の属性を定義する場合に選択します。このような属性の値の変更は、CMDB の履歴データベースに保存されます。 <b>注:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ [変更をモニタ] は、整数型のリストまたは文字列型のリスト・タイプの属性には適用されません。</li> </ul>
比較可能	この属性は、複合 CI の比較に使用する場合に選択します。
編集可能	属性の将来的な編集を有効にする場合に選択します。 <b>編集可能</b> （または値を持つもの）としてマークされた属性だけが、IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されます。

UI 要素	説明
<b>DFM による自動短縮を有効化</b>	選択すると、STRING タイプの属性がサイズ制限を超えた場合、ディスカバリにより値が短縮されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「Data Flow Probe でのデータ検証」を参照してください。
<b>インデックス</b>	属性取得パフォーマンスを高める場合に選択します。このオプションは、検索条件で頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。たとえば、IP address は、通常、ノードのインデックス属性です。
<b>小文字</b>	このオプションを選択すると、属性値が小文字で表示されます。
<b>パスワード</b>	このオプションを選択すると、属性値がアスタリスク（非表示値）で表示されます。
<b>必須</b>	値が CIT を作成するのに必要であり、属性を必須のものとして定義する場合に選択します。
<b>静的</b>	属性を静的属性として定義する場合に選択します。
<b>一意</b>	このオプションを選択すると、CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要になります。
<b>大文字</b>	このオプションを選択すると、属性値が大文字で表示されます。
<b>更新値ポリシーを使用</b>	このオプションを選択すると、ALLOW_VOLATILITY 修飾子が追加されます。この修飾子の詳細については、26 ページの「ALLOW_VOLATILITY 修飾子」を参照してください。
<b>可視</b>	IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに属性を表示する場合に選択します。

## 関係の追加 / 削除ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIT 間で（物理または論理接続を定義する）標準設定関係または新しい関係の追加または削除を行います。

<b>利用方法</b>	CI タイプ・マネージャで、1 つまたは 2 つの CIT を右クリックして、 <b>[関係の追加 / 削除]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	2 つの CIT 間の関係を追加するときは、CTRL キーを押したまま CIT 名をクリックして、リンクする 2 つの CIT を選択します。いずれかの CIT を右クリックし、 <b>[関係の追加 / 削除]</b> を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。








UI 要素	説明
<クエリ node1 からクエリ node2 >	第 1 クエリ・ノードから第 2 クエリ・ノードの方向に追加する関係を選択します。
<クエリ node2 からクエリ node1 >	第 2 クエリ・ノードから第 1 クエリ・ノードの方向に追加する関係を選択します。
関係名	可能性のある関係のリスト。

## CI タイプ マネージャ

このページでは、CI タイプ・モデルの情報を表示できます。この情報には、システムで定義されたすべての構成アイテム・タイプ（CIT）および CIT 間の接続を定義する関係に関する定義が含まれています。それぞれの CIT には独自の属性に加えて、親 CIT から継承した属性もあります。

<b>利用方法</b>	ナビゲーション・メニューから <b>[CI タイプ マネージャ]</b> を選択するか、 <b>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [CI タイプ マネージャ]</b> を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<b>新規作成</b> ボタンをクリックして、[構成アイテム タイプを作成] ウィザードを開くと、新しい CI タイプを定義できます。詳細については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。
	<b>削除</b> をクリックすると、選択した CI タイプまたは関係が削除されます
	クリックすると、ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	<b>保存</b> ボタンをクリックすると、CI タイプに加えられた変更内容が保存されます。
	外部ファイルから CIT をインポートできます。
	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。このオプションは、サーバ間で移動するのに使います。
	CIT を PDF としてエクスポートできます。
<b>&lt; CI タイプ / 関係ボックス &gt;</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプ</b> : CIT モデルの CI タイプが表示されます。</li> <li>▶ <b>関係</b> : CIT モデルの関係が表示されます。</li> <li>▶ <b>計算された関係</b> : CIT モデルの計算された関係が表示されます。</li> </ul>

UI 要素	説明
<p>&lt;編集表示枠&gt;</p>	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプの依存関係</b> : CIT とその関係を含めて、CI タイプ・モデルをトポロジ・マップに表示します。選択した CI タイプまたは関係の名前が、表示枠の最上部にある境界線に表示されます。CIT をポイントすると、ツールチップに CIT の表示名とその説明が表示されます。</li> <li>▶ <b>詳細</b> : 左の表示枠で選択した CI タイプに関する基本情報を編集できます。詳細については、521 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>属性</b> : 選択した CIT の属性を編集できます。詳細については、522 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>修飾子</b> : 修飾子は選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、526 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>トリプレット</b> : 計算された関係を作成できます。詳細については、527 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。このタブは計算された関係にのみ表示されます。</li> <li>▶ <b>アイコン</b> : アイコンは選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、529 ページの「[アイコン] ページ」を参照してください。このタブは、関係に対しては表示されません。</li> <li>▶ <b>アタッチ・メニュー</b> : メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URL を開くなど) を追加して、CI のショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右クリックすると表示されます。詳細については、530 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>標準設定ラベル</b> : CIT ラベルに表示される属性を定義できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。詳細については、534 ページの「[標準設定ラベル] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>照合ルール</b> : HP Universal CMDB 構成マネージャを使用するための照合ルールを定義できます。詳細については、構成マネージャのドキュメントを参照してください。このタブは関係には表示されず、UCMDB が構成マネージャとともに実行されている場合にのみ表示されます。</li> </ul>

UI 要素	説明
<メイン・メニュー>	詳細については、191 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、195 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
[CI タイプ] 表示枠	CIT 間の継承関係が含まれる、CMDB で各 CIT のインスタンスの数を表示する CI タイプ・モデルの階層ツリー構造です。CI タイプ・モデルに含まれているすべての CIT は、CIT または関係に分類されます。トポロジ・マップで選択した CIT の関係および隣接項目をドリル・ダウンして表示できます。インクリメンタル検索で CIT または関係のリストを検索するには、必要な選択に達するまで、CIT または関係の先頭文字を繰り返し入力します。また、フルネームを入力しても、CIT または関係を検索できます。


### ショートカット・メニュー

CI タイプ・マネージャには、[CI タイプ] 表示枠または依存関係マップで CI タイプを右クリックすると利用できる、次のオプションが含まれています。

UI 要素	説明
関係の追加 / 削除	[関係の追加 / 削除] ダイアログ・ボックスを開いて、CIT に関係を追加したり削除したりできます。詳細については、516 ページの「関係の追加 / 削除ダイアログ・ボックス」を参照してください。
選択した項目の削除	選択した CI タイプを削除します。このオプションは、子もインスタンスもない CI タイプにのみ利用できます。
XML へエクスポート	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。このオプションは、サーバ間で移動するのに使います。
新規作成	[構成アイテムタイプを作成] ウィザードを開いて、新しい CI タイプを定義できます。詳細については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。
CIT インスタンスを表示	[全インスタンスを表示] ダイアログ・ボックスが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード

create\_cit\_wizard このウィザードでは、新しい構成アイテム・タイプまたは関係を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>CIT タイプ・マネージャのトポロジ・マップまたは [CI タイプ] 表示枠で CI タイプまたは関係をクリックして、<b>[新規作成]</b> を選択するか、[CI タイプ] 表示枠で <b>[新規作成]</b> ボタン  をクリックします。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定ラベル] ページ &gt; [一致ルール] ページ</p>

[構成アイテム タイプを作成] ウィザードには、次のページが含まれています。

- ▶ 521 ページの「[詳細] ページ」
- ▶ 522 ページの「[属性] ページ」
- ▶ 526 ページの「[修飾子] ページ」
- ▶ 527 ページの「[トリプレット] ページ」
- ▶ 529 ページの「[アイコン] ページ」
- ▶ 530 ページの「[アタッチメニュー] ページ」
- ▶ 534 ページの「[標準設定ラベル] ページ」
- ▶ 536 ページの「[一致ルール] ページ」



 **[詳細] ページ**

このウィザード・ページでは、定義する新しい CI タイプに関する基本情報を入力できます。

<b>重要情報</b>	[構成アイテム タイプを作成] ウィザードの一般情報については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。
<b>ウィザード・マップ</b>	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチ メニュー] ページ > [標準設定ラベル] ページ > [一致ルール] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>ベースの CI タイプ</b>	作成する CIT のベース CIT を選択します。新しい CIT はベース CIT の属性を継承します。 <b>注:</b> このフィールドは [構成アイテム タイプを作成] ウィザードにのみ表示されます。CI タイプ・マネージャの [詳細] タブで既存の CIT を編集する場合は関係ありません。
<b>Created By</b>	新しい CIT を作成したユーザです。 <b>注:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>説明</b>	新しい CIT の説明です。 <b>注:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>表示名</b>	CIT が HP Universal CMDB インタフェースに表示される時の名前です。 <b>注:</b> このフィールドは任意指定です。








UI 要素	説明
ID	CIT を識別するキー属性または調整ルールを表示します。 <b>注:</b> このフィールドは、CI タイプ・マネージャの [詳細] タブで既存の CIT を編集するときのみ表示されます。[構成アイテム タイプを作成] ウィザードには関係ありません。
名前	新しい CIT の一意の名前です。名前は英語である必要があります。この名前には、"¥/[ ]: <>+=; ,?*" の符号を除くすべての文字を含めることができます。 <b>注:</b> [名前] フィールドでは大文字 / 小文字を区別しますが、2 つの異なる CIT に大文字 / 小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。
対象範囲	新しい CIT の対象範囲を選択します (所属するクラス・モデル)。

### [属性] ページ



このウィザード・ページでは、CI タイプの属性を編集できます。

ウィザード・マップ	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定ラベル] ページ > [一致ルール] ページ
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>[追加] ボタン属性をキー属性として定義するには、属性名の横にある [<b>キー</b>] カラムをクリックします。セルにキー・アイコンが表示されます。キー属性は、該当の CI タイプの CI に定義する必要がある属性です。</p> <p>キー属性の定義を削除するには、 [<b>キー</b>] カラムをもう一度クリックします。キー・アイコンが消えます。</p> <p>キー属性の詳細については、501 ページの「CI タイプの属性」を参照してください。</p>
	<p>静的属性を指示します。静的属性は該当のタイプのすべての CI に同じ値を設定します。その値が変更されると、該当のタイプの CI がすべて影響を受け、新しい値が自動的に表示されます。静的属性はキー属性として定義できません。</p> <p><b>注:</b> CIT マネージャからは、属性を静的属性として定義できません。定義するには、関連パッケージを配置します。静的属性は内部でのみ使用されます。</p>
	<p><b>追加</b> ボタンをクリックして、新しい属性を定義します。詳細については、513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>行を選択して、<b>編集</b> ボタンをクリックすると、[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、513 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> CIT の親の属性を変更すると、テキストが明るい青になります。CIT 自体の属性を変更した場合、テキストは濃い青のままです。</p>
	<p><b>削除</b> ボタンをクリックすると、選択した属性が削除されます。このオプションは、新たに定義した属性に対してのみ使用できます。</p>
	<p>既存の属性を編集した後で、<b>リセット</b> ボタンをクリックすると、属性の設定がリセットされます。</p>
	<p><b>カラムの選択</b> をクリックして、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスに表示するカラムを選択します。詳細については、594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
<属性>	新しい CIT と関連する属性をすべて表示します。黒で表示される属性は、新しい CIT が基本 CIT から継承した属性です。濃い青で表示される属性は、新しい CIT とその子孫専用の属性です。明るい青で表示される属性は、新しい CIT で変更された継承属性です。
アセット データ	属性値がアセット・レポートに表示されるかどうかを示します。詳細については、404 ページの「アセット・レポート」を参照してください。 <b>注：</b> この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
BDM スコープ	属性が BDM クラス・モデルに含まれるかどうかを示します。
変更をモニタ	CI タイプ・マネージャで「変更をモニタ」とマークされている値の属性を定義する場合に選択します。このような属性の値の変更は、CMDB の履歴データベースに保存されます。 <b>注：</b> この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
比較可能	この属性が、複合 CI の比較に使用されるかどうかを示します。詳細については、417 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。このような属性の値の変更は、CMDB の履歴データベースに保存されます。 <b>注：</b> この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
標準設定値	属性の標準設定値です。この値が表示されるのは、新しい CIT を定義したのに、属性の実行時の値がない場合です。
説明	属性の詳細です。






UI 要素	説明
表示名	HP Universal CMDB インタフェースに表示される属性名です。
編集可能	属性を編集できるかどうかを示します。 <b>編集可能</b> (または値を持つもの) としてマークされた属性だけが、IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されます。
DFM による自動短縮を有効化	STRING タイプの属性に対して自動短縮機能が有効になっているかどうかを示します。
索引	属性がインデックス属性として定義されているかどうかを示します。インデックス属性として定義されていると、属性取得パフォーマンスが高まります。 このオプションは、検索条件で頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。たとえば、IP address は、通常、ノードのインデックス属性です。
キー	このカラムにキー・アイコン  が表示されている場合、属性はキー属性として定義されています。 このカラムに静的属性アイコン  が表示されている場合、属性をキー属性として定義することはできません。
小文字	属性値を小文字のままにするかどうかを示します。
名前	属性の実際の名前 (表示名とは異なる名前) です。名前は英語である必要があります。
必須	属性が、値が CIT の作成に必要な必須属性として定義されているかどうかを示します。
静的	属性が静的属性として定義されているかどうかを示します。
タイプ	属性のタイプです。
一意	属性が、CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要な、一意の属性として定義されているかどうかを示します。
大文字	属性値を大文字のままにするかどうかを示します。
可視	属性が IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されるかどうかを示します。

## [修飾子] ページ

このウィザード・ページでは、修飾子を CIT タイプの定義に割り当てることができます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>修飾子によって、CIT に追加属性を定義できます。<b>修飾子</b>リストで、[追加] ボタンを使って必要な修飾子を選択し、選択したものを<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストに移動します。複数の選択を行う場合は、CTRL キーを押したままにします。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; <b>[修飾子] ページ</b> &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定ラベル] ページ &gt; [一致ルール] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>このボタンをクリックすると、すべての修飾子が<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストに移動します。</p>
	<p>修飾子を選択して、このボタンをクリックすると、修飾子が<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストに追加されます。複数の修飾子を選択するには、CTRL キーを押したままにします。</p>
	<p>CIT 定義から修飾子を削除するには、<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストから修飾子を選択して、このボタンをクリックします。</p>
	<p>このボタンをクリックすると、<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストからすべての修飾子が削除されます。</p>
	<p>新しいカスタム修飾子を定義するには、テキスト・ボックス修飾子名を入力して、[挿入] をクリックします。修飾子が<b>構成アイテム タイプ修飾子</b>リストに表示されます。</p>

UI 要素	説明
<構成アイテムタイプ修飾子>	新しい CIT の属性を定義する修飾子のリストです。たとえば、修飾子を使って、CIT を抽象 CIT として定義できます。つまり、この CIT からはインスタンスを作成できません。
<修飾子>	利用可能な修飾子オプションのリストについては、90 ページの「[修飾子] タブ」を参照してください。

### [トリプレット] ページ

このウィザード・ページでは、計算された関係を作成できます。[トリプレット] ページの各行は、トポロジ・マップでソース CI からターゲット CI に至るパスで許容される手順の 1 つを示します。






---

**注：**ウィザードのこの手順は、計算された関係にのみ関連があります。

---

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このページは、[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・ボックスで <b>[計算された関係]</b> を選択した場合に表示されます。</li> <li>▶ 計算された関係の詳細については、107 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。</li> <li>▶ [構成アイテムタイプを作成] ウィザードの一般情報については、520 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザード」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定ラベル] ページ &gt; [一致ルール] ページ</p>
<b>関連情報</b>	107 ページの「計算された関係の使用」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	計算された関係でソース CI からターゲット CI に至るトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義する場合にクリックします。[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、71 ページの「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	行を選択して <b>編集</b> ボタンをクリックし、トリプレットを編集します。[トリプレットの編集] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、71 ページの「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	<b>削除</b> ボタンをクリックすると、選択したトリプレットが削除されます。
<b>関係</b>	2 つのクエリ・ノードを接続するのに必要な関係です。
<b>関係の方向</b>	関係のソースおよびターゲットです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  方向は、ソースからターゲットです。</li> <li>▶  方向は、ターゲットからソースです。</li> </ul>
<b>ソース</b>	必須のソース・クエリ・ノードです。
<b>ターゲット</b>	必須のターゲット・クエリ・ノードです。





## [アイコン] ページ

このウィザード・ページでは、新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。

**注：**ウィザードのこの手順は、関係には関連がありません。

<b>重要情報</b>	それぞれの CIT は標準設定アイコンで表示されます。ただし、一定の条件が当てはまる場合は、同じ CIT に異なるアイコンを添付できます。たとえば、属性値の 1 つが変わると、同じ CIT に別のアイコンを結び付けることができます。
<b>ウィザード・マップ</b>	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > <b>[アイコン] ページ</b> > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定ラベル] ページ > [一致ルール] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックすると、行が追加されます。 <b>注：</b> [構成アイテムタイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する] を選択した場合にのみ使用できます。
	クリックすると、行が削除されます。 <b>注：</b> [構成アイテムタイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する] を選択した場合にのみ使用できます。
<b>属性</b>	CIT に割り当てるアイコンを決める属性を選択します。





UI 要素	説明
構成アイテム・タイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する	各属性値にアイコンを割り当てることができます。たとえば、City 属性に 2 つの値を定義できます。City=London の場合は、あるアイコンが表示されます。City=Beijing の場合は、別のアイコンが表示されます。 <b>注：</b> 既存のビューに表示される CIT のアイコンを変更しても、そのビューでは CIT のアイコンが更新されません。
構成アイテム・タイプ・メイン・アイコン	CIT が属するグループを選択します。
アイコン	[値] カラムに入力した値と関連付けるアイコンを選択します。
値	選択した属性に対応する値を入力します。入力する各値ごとに新しい行を追加できます。

### [アタッチメニュー] ページ

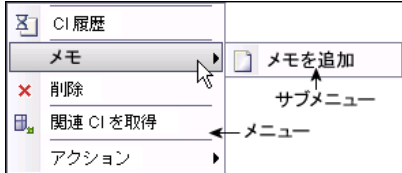
このウィザード・ページでは、メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URL を開くなど) を追加して、CI のショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右クリックすると表示されます。

重要情報	CIT にメソッドが明確に定義されていない場合、その CIT はメソッドが定義されている親 CIT または最も近い祖先からすべてのメニューを継承します。 メニューを作成したり変更すると、編集する特定の CIT にのみ変化が起こります。
ウィザード・マップ	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定ラベル] ページ > [一致ルール] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	ツリーからメニュー項目を選択して、このボタンをクリックします。選択した項目の下に、新しいエントリが表示されます。
	クリックすると、メニュー項目が削除されます。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで上に移動します。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで下に移動します。
<ツリー>	標準設定メニュー項目が含まれている階層ツリー。 <b>注意：</b> 標準設定メニュー項目の定義を編集するのはお勧めしません。
コマンド	World Wide Web 上の特定の位置に接続するには、URL を選択し、正確なインターネット アドレス（たとえば、 <a href="http://www.hp.com/go/software">http://www.hp.com/go/software</a> ）を入力します（URL コマンド・タイプ・オプションを選択した場合にのみ使用できます）。 <b>注：</b> [コマンド] フィールドで変数を使用する場合は、 <b>command name %1</b> という形式を使って、パラメータで説明しているように CIT 属性を定義します。リストでの順番に従って、%1 がパラメータ値に置換されます。たとえば、%1 はリストの最初のパラメータに置換され、%2 はリストの 2 番目のパラメータに置換されるというようになります。
説明	メソッドの詳細を入力します。これは内部でのみ使用され、メニューには表示されません。
既存メソッド	IT ユニバース CIT およびすべての祖先から継承した定義済みメソッドのリストからコマンドを選ぶ場合に選択します。
アイコン	ショートカット・メニューでメニュー・オプションの横に表示されるアイコンを選択します。 <b>注：</b> このフィールドは任意指定です。
メニュー項目名	新しいメニュー項目がメニューに表示されるときの名前を入力します。

UI 要素	説明
メソッド	<p>メニューにコマンドを追加できます。</p> <p><b>注:</b> メソッドを作成し、既存のメソッドを上書きしないようにするには、新しいメニュー項目を作成し、そこに新しいメソッドを配置することをお勧めします。</p>
メソッド名	<p>コマンドの名前を入力します。</p>
新規メソッド	<p>メニュー項目にアクション (ping など) を追加する場合に選択します。</p>
パラメータ	<p>コマンドまたは URL に属性を追加するには、<b>パラメータの追加</b> ボタンをクリックして、リストから属性を選択します。</p> <p>既存のエントリを削除するには、そのエントリを選択して、<b>パラメータの削除</b> ボタンをクリックします。</p> <p><b>注:</b> 内部プロセスを選択していないと、パラメータは関連しません。</p>
ユーザの確認を求める	<p>項目が表示される前に、ユーザがメニュー項目へのアクセスを確認するチェック・ボックスを選択します。</p>
セパレータ	<p>2 つのメニュー項目間にセパレータを配置するには、次のとおりにします。</p> <p>[OK] をクリックすると、選択したメニュー オプションの下にセパレータが配置されます。</p>
ショートカット	<p>任意のキーの組み合わせを押して、メニュー項目のショートカット (CTRL+H など) を作成します。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは任意指定です。</p>





UI 要素	説明
サブメニュー	<p>選択したメニュー オプションの下にサブメニューを作成する 場合に選択します。</p> 
タイプ	<p>次のコマンド・タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>URL</b> : 指定した URL の Web ページを開きます。コマンドで URL ボックスに開かれる Web ページの URL を入力します。</li> <li>▶ <b>内部プロセス</b> : 内部の HP Universal CMDB アクションをトリガします。アクションのドロップダウン・リストからアクションを選択します。</li> <li>▶ <b>実行</b> : 実行可能アクションをトリガします。[実行可能] ボックスに実行可能コマンドを入力します。</li> </ul> <p><b>注</b> : [実行可能] ボックスに、実行可能ファイルの名前のみを入力します (たとえば, <code>notepad.exe</code>)。実行可能ファイルのパスは入力しないでください。パスがあるとプログラムを実行できません。</p>




## [標準設定ラベル] ページ

このウィザード・ページでは、CIT タイプ・ラベルに表示される属性を編集できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。これは、[構成アイテム タイプを作成] ウィザードの最終手順です。

<b>重要情報</b>	<p>ラベルは、[CI タイプ属性] 表示枠で属性を選択して [形式] 表示枠に追加し、[形式] 表示枠の演算子を使用してそれらをつなげて作成します。</p> <p>ラベルは新しい CI タイプの CI の下にタイトルとして表示されます。ラベルの定義は、さまざまな属性値を含めるようにカスタマイズできます。たとえば、<b>node CIT</b> の機能ラベルは<b>ホスト名とネットワーク</b>で構成され、表示されるラベルは <b>server1 10.0.65.0</b> のようになります。</p> <p>ラベルは正規表現を使って作成することもできます。</p>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; <b>[標準設定ラベル]</b> ページ &gt; [一致ルール] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	クリックすると、選択した属性が[形式]表示枠に追加されます。
	書式設定されたテキストに丸括弧を追加します（ほかの機能と併用します）。
	書式設定されたテキストの 2 つの属性間に <b>AND</b> 演算子を置きます。たとえば、 <b>network_netaddr&amp;network_domain</b> では、クエリ・ノードのネットワーク・アドレスとドメインが表示されます。
	書式設定されたテキストの 2 つの属性間に <b>OR</b> 演算子を置きます。

UI 要素	説明
	<p>ラベルの定義に（正規表現構文を使用して）正規表現を追加します。エントリの構造は (<b>v1</b>, <b>v2</b>, <b>v3</b>) のようになります。<b>v1</b> は選択した属性、<b>v2</b> は正規表現自体（値がグループに分割されます）、<b>v3</b> は選択したグループの番号を示します。</p> <p>たとえば、選択した属性が名、スペース、および姓で構成される名前の場合、正規表現は (<b>name</b>, (<b>¥S*</b>)(<b>¥s*</b>)(<b>¥S*</b>), <b>3</b>) となります。つまり、姓は標準設定ラベルの名前属性に使用できます。</p> <p>正規表現構文の使い方の例については、599 ページの「正規表現の例」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると、[形式] 表示枠の最後の変更が取り消されます。</p>
	<p>クリックすると、[形式] 表示枠がクリアされます。</p>
<p><b>CI タイプ属性</b></p>	<p>CIT ラベルに含める属性の利用可能なオプションを表示します。</p>
<p><b>CI タイプラベル定義形式</b></p>	<p>CIT ラベルに表示するために選択した属性を表示します。</p> <p>たとえば、ノードにホスト名とオペレーティング・システムのラベルを付けるには、<b>host_hostname</b> および <b>host_os</b> 属性を選択します。CIT ラベルは <b>host1 UNIX</b> のようになります。</p> <p>条件は <b>AND</b> と <b>OR</b> の組み合わせを使って定義できます。</p> <p><b>注：</b> [形式] 表示枠から属性を削除するには、その属性を強調表示して、DELETE キーを押します。</p>

## [一致ルール] ページ

このウィザード・ページでは、HP Universal CMDB 構成マネージャを使用するために、comparable 属性の照合ルールを定義できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>このページは、構成マネージャがインストールされている場合にのみ関連があります。照合ルールの詳細については、構成マネージャのドキュメントを参照してください。</p> <p><b>注：</b> [一致ルール] ページを手動でアクティブ化するには、インフラストラクチャ設定マネージャで <b>[設定マネージャ一致ルールを有効化]</b> を <b>true</b> に設定します。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定ラベル] ページ &gt; <b>[一致ルール] ページ</b></p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>選択した <b>comparable</b> 属性を [一致ルール] 表示枠に移動するときにクリックします。複数の属性を選択するには、CTRL キーを押したままにします。</p>
	<p>[一致ルール] 表示枠から属性を削除するときにクリックします。</p>
	<p>すべての属性を [一致ルール] 表示枠に移動するときにクリックします。</p>
	<p>このボタンをクリックすると、[一致ルール] 表示枠からすべての属性が削除されます。</p>
	<p>上下ボタンを使用して照合ルールの順序を設定します。</p>
<p><b>comparable 属性</b></p>	<p>選択した CI タイプで <b>comparable</b> 修飾子が付いているすべての属性のリスト。</p>
<p><b>照合ルール</b></p>	<p>構成マネージャの照合ルールを決定するために選択した属性。</p>



## [リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいリストまたは列挙を定義できます。作成したリストまたは列挙の定義は、[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスに表示され、必要に応じて編集できます（詳細については、540 ページの「[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。

<b>利用方法</b>	[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスで <b>追加</b> ボタンをクリックします。
<b>重要情報</b>	状態マネージャからも [列挙定義の作成] および [列挙定義の更新] ダイアログ・ボックスにアクセスできます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF)の「スケジューラ」を参照してください。
<b>関連タスク</b>	509 ページの「リストおよび列挙定義の作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素	説明
<b>表示名</b>	システム・タイプ定義のリストに表示する名前を入力します。このフィールドを空のままにすると、[名前] フィールドのエントリが使用されます。
<b>列挙</b>	値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。詳細については、539 ページの「[列挙定義] 領域」を参照してください。
<b>リスト</b>	値の定義済みリストを作成できます。詳細については、538 ページの「[リスト定義] 領域」を参照してください。
<b>名前</b>	属性に一意の名前を入力します。

## [リスト定義] 領域

この領域では、値の定義済みリストを作成できます。

<b>利用方法</b>	リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで <b>リスト</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	たとえば、 <b>場所</b> 属性は、次の値が含まれた <b>Location</b> リストで定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ New York</li> <li>▶ Boston</li> <li>▶ Baltimore</li> </ul>

含まれている要素は次のとおりです（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素	説明
	リストの定義を追加します。行内をダブルクリックして、表示されたカレンダーから日付を選択するか（ <b>Date</b> タイプを選択した場合）、必要な値を入力します。
	リストの定義を削除します。
<b>タイプ</b>	次のフィールド・タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Date</li> <li>▶ Double</li> <li>▶ Integer</li> <li>▶ Long</li> <li>▶ 文字列</li> </ul>

## [列挙定義] 領域

この領域では、すべての値に色を割り当てる機能などを使って、値の定義済みリストからリストを作成できます（[リスト定義] と同様）。

<b>利用方法</b>	[リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで <b>列挙</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	列挙は状態による重要度値リストとして使用するよう設計されています。キー値を必要とするリストには列挙を使用できます。
<b>関連情報</b>	510 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	列挙定義を追加します。
	列挙定義を削除します。
<b>色</b>	重要度を示す色を選択します。 <b>注:</b> 灰色は、管理者タイプの列挙を作成する場合にのみ有効です。




UI 要素	説明
キー	<p>カテゴリの重要度リストを記述する数字を入力して、列挙を作成します。</p> <p>次のルールに従って、キー値を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ キー値のリストは、必ずゼロ (0) から始める必要があります (ゼロは標準状態を示します)。そうしないと、状態マネージャにリストが表示されません (詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF)の「スケジューラ」を参照してください)。</li> <li>▶ リストは必ず連続してナンバリングする必要があります。</li> </ul> <p>列挙定義の例については、510 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」を参照してください。</p>
値	<p>文字列または数字の値 (Red や my value など) を入力します。値は IT ユニバース・マネージャで CI のツールチップに表示されます。</p>

## [システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで定義した属性タイプを表示できます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] > [システム タイプ マネージャ] を選択します。
関連タスク	509 ページの「リストおよび列挙定義の作成」
関連情報	510 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成します。次の属性タイプの定義を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ リスト定義</li> <li>▶ 列挙定義</li> </ul> <p>これらの属性タイプについては、537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>既存の定義を編集できます。詳細については、537 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>既存の定義を削除します。削除するシステム・タイプ定義を選択して、<b>削除</b>ボタンをクリックします。</p>
<p>&lt;システム・タイプ定義&gt;</p>	<p>システム・タイプ・マネージャで作成した列挙およびリスト定義の一覧です。</p>



# 12

---

## エンリッチメント・マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ エンリッチメント・マネージャ - 概要 (544 ページ)

### タスク

- ▶ エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ (547 ページ)
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加 (552 ページ)

### 参照先

- ▶ エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース (554 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### エンリッチメント・マネージャ - 概要

エンリッチメント・ルールは、次に示すいくつかの目的で使用できます。

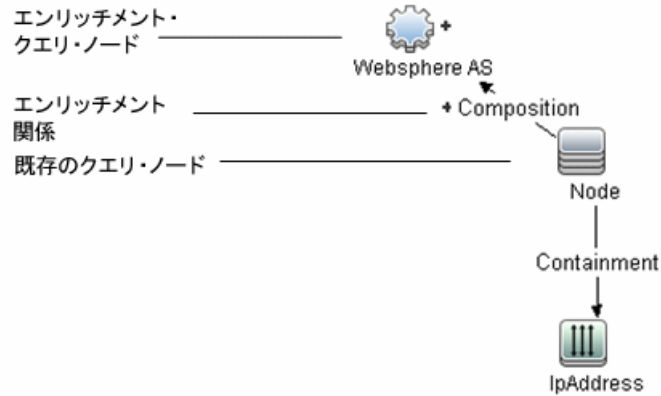
- ▶ 新しい CI および関係を CMDB に追加
- ▶ CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- ▶ CMDB 内の特定の CI インスタンスの属性値を更新

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は、検出プロセスによって自動的に検出できない実際の関係と CI を表す概念上のものであるという点で、ほかのクエリ・ノードと関係と異なります。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は TQL クエリの一部として作成されます。TQL のほかの TQL クエリ・ノードは通常のもので、つまりすでに CMDB 内に存在している TQL クエリ・ノードです。TQL クエリの詳細については、19 ページの「トポロジクエリ言語」を参照してください。



次の例では、**Node** タイプの通常のクエリ・ノードが **Composition** エンリッチメント関係で **Websphere AS** エンリッチメント・クエリ・ノードにリンクされています。

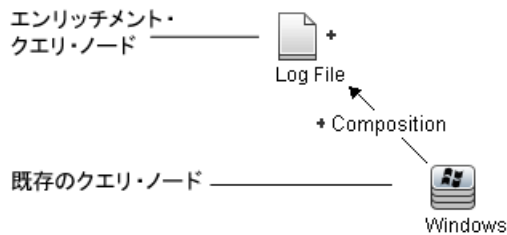


TQL クエリ・コンテキスト内にエンリッチメント・クエリ・ノードを配置することで、クエリはノードの属性からデータを取得し、それを使用して CMDB に新しい情報を挿入します。

エンリッチメント・ルールを作成すると、次の結果になる可能性があります。

- ▶ **CMDB が拡張される**：現在 CMDB に含まれていないエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が追加されます。

次のエンリッチメント・ルールの例では、通常の **Windows** クエリ・ノード (すでに CMDB に存在) が **Composition** エンリッチメント関係で **Log File** エンリッチメント・クエリ・ノードに接続されています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての **Windows CI** インスタンスについて、新しい **Log File CI** インスタンスが作成され、**Composition** 関係で **Windows CI** にリンクされることを示しています。

- ▶ **CMDB から特定の CI インスタンスが削除される**：例については、547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」を参照してください。
- ▶ **CI 属性の値が更新される**：エンリッチメント・ルールを使用して、すでに CMDB に存在する CI の属性を更新します。

次のエンリッチメント・ルールの例は、通常の **Windows** クエリ・ノード (すでに CMDB に存在) がエンリッチメント・ルールで更新されたことを示しています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての **Windows CI** がエンリッチメント・ルールで定義された属性値で更新されることを示しています。

---

---

## タスク

---

---

### エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ

このタスクでは、次のエンリッチメント・ルールを作成する方法について説明します。

**IP Address CI** は同一の 2 つの **Node CI** に接続されます。1 つの **Node CI** は **IP Address** で識別され、もう 1 つは最下層 **MAC アドレス** で識別されます。このようなインスタンスすべてについて、**IP Address** で識別される **Node CI** を **CMDB** から削除します。

---

**注：**必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 548 ページの「エンリッチメント TQL クエリの作成」
- ▶ 550 ページの「最下層 MAC アドレスで識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- ▶ 550 ページの「IP Address で識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- ▶ 551 ページの「エンリッチメント・ルールの定義」

## 1 エンリッチメント TQL クエリの作成

エンリッチメント TQL クエリを作成するには、エンリッチメント・ルールを定義し、次にクエリを定義する通常の TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

---

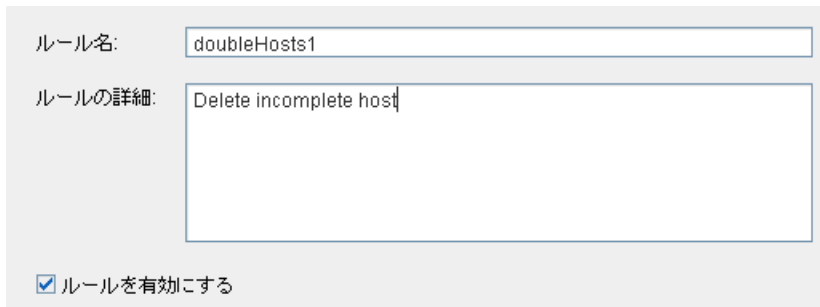
**注:** エンリッチメント・クエリ・ノードと関係の追加は、少なくとも 1 つの通常のクエリ・ノードがクエリに追加された後に行うことができます。

---

[マネージャ] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] を選択します。エンリッチメント TQL クエリの作成方法の詳細については、563 ページの「[新規エンリッチメント ルール]、[エンリッチメント ルールのプロパティ]、[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

### エンリッチメント TQL クエリの例

doubleHosts1 という新しいエンリッチメント TQL クエリ (**Network** フォルダの下) がエンリッチメント・マネージャに作成されます。

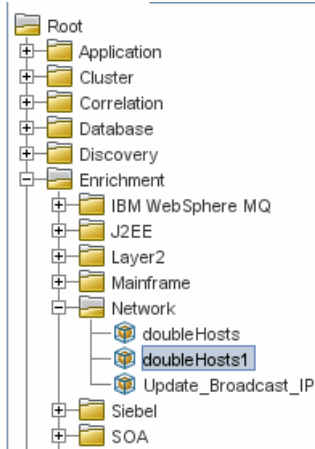


The screenshot shows a configuration window for an enrichment rule. It has two main input fields: 'ルール名:' (Rule Name) containing 'doubleHosts1' and 'ルールの詳細:' (Rule Details) containing 'Delete incomplete host'. At the bottom, there is a checkbox labeled 'ルールを有効にする' (Enable rule) which is checked.

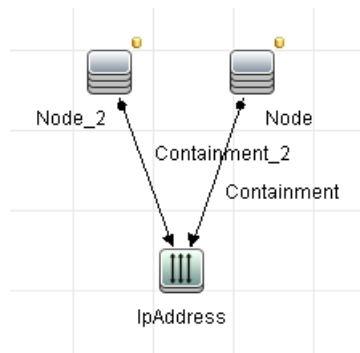
ルール名:	doubleHosts1
ルールの詳細:	Delete incomplete host

ルールを有効にする

**doubleHosts1** エンリッチメント・ルールは、[エンリッチメント ルール] 表示枠に表示されます。



このエンリッチメント TQL クエリでは、**IP Address** クエリ・ノードが **Containment** 関係で 2 つの **Node** タイプのノードにリンクされています。TQL 結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

## 2 最下層 MAC アドレスで識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ] ページの上部で **クエリ**・モードを選択します。編集表示枠で、必要な **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし、[クエリ ノードのプロパティ] を選択して [クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。次に [属性] タブで属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。

### 最下層 MAC アドレスでノードを識別する属性条件定義の例

[属性] タブで、この属性条件定義が最下層 MAC アドレスによって該当のノードを識別します。

- ▶ **属性名** —Node is Complete
- ▶ **演算子** — 等価
- ▶ **値** —True

## 3 IP Address で識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ] ページの上部で **クエリ**・モードを選択します。編集表示枠で、必要な **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし、[クエリ ノードのプロパティ] を選択して [クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。次に [属性] タブで 2 つの属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。

### IP Address でノードを識別できるようにするための属性条件の例

これは、IP Address によってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために [属性] タブに定義する必要がある 1 つ目の属性条件です。

**属性名** —Node is Complete

**演算子** — 等価

**値** —False

これは、IP Address によってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために [属性] タブに定義する必要がある 2 つ目の属性条件です。

**属性名** —Node is Complete

**演算子** —null

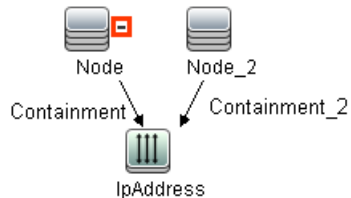
**値** — 値は変更できません

#### 4 エンリッチメント・ルールの定義

IP Address で識別される **Node** タイプのクエリ・ノードのすべてのインスタンスを削除するエンリッチメント・ルールを定義します。ツールバーから [**エンリッチメント モード**] を選択します。[エンリッチメント ルール] 表示枠で **doubleHosts1** エンリッチメント・ルールを選択します。IP Address で識別される **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし、[**関係 / クエリ ノードを削除**] を選択します。

#### 削除済みインジケータを含む Node タイプのクエリ・ノードの例

**Node** タイプのクエリ・ノードには、同一の属性とカーディナリティ設定を持つすべてのノード・インスタンスが CMDB から削除されることを示す削除済みインジケータが付きました。エンリッチメント・クエリは次のようになります。

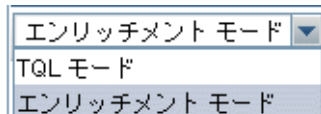


## 🔑 エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加

このセクションでは、エンリッチメント・マネージャでエンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加する方法について説明します。

**エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順で行います。**

- 1 [エンリッチメントルール] 表示枠のツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加するエンリッチメント・ルールを選択するか、または新しく作成します。詳細については、563 ページの「[新規エンリッチメントルール], [エンリッチメントルールのプロパティ], [エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。
- 2 ページ上部の [Query/Enrichment] ドロップダウンで、[エンリッチメントモード] を選択します。



- 3 CI タイプ・セレクタに表示されるツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードとして機能させるクエリ・ノードをクリックし編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。追加したエンリッチメント・クエリ・ノードには、[追加済み] インジケータが表示されます。




---

**注:** ルールには複数のエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。

---

- 4 エンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL ノード (1 つまたは複数) にリンクして、操作に必要な内容を持ったエンリッチメント・クエリ・ノードを提供します。

次に示すエンリッチメント・ルールを検証してください。

- ▶ ルールでは、新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL クエリ・ノードの少なくとも 1 つにリンクする必要があります。
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードは、エンリッチメント関係を持つ相手とのみリンクできます。



- ▶ 新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを（CIT 定義に従って）別のクエリ・ノードに含める必要がある場合は、**Composition** 関係を使って、このエンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL クエリ・ノードに接続する必要があります。
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードを非表示の TQL クエリ・ノードにリンクすることはできません。

**5** 2つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次の手順で行います。

- ▶ CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要なクエリ・ノードを選択し、右クリックして **関係の追加** を選択します。

または



- ▶ **関係を作成** アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。

追加したエンリッチメント関係には、[追加済み] インジケータが表示されます。

[関係の追加] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、61 ページの「[関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

**6** [OK] をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

---



---

## 参照先

---



---

### エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 554 ページの「[エンリッチメント マネージャ] ページ」
- ▶ 563 ページの「[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」
- ▶ 568 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 570 ページの「[クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックス」

### [エンリッチメント マネージャ] ページ

このページでは、エンリッチメント・ルールを定義できます。これらのルールは特定の TQL クエリに基づいており、次のような目的で使用できます。

- ▶ 新しい CI および関係を CMDB に追加
- ▶ CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- ▶ CMDB 内の特定の CI インスタンスの属性値を更新









<b>利用方法</b>	ナビゲーション・メニューから <b>[エンリッチメント マネージャ]</b> を選択するか、 <b>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [エンリッチメント マネージャ]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	エンリッチメント・マネージャでは 2 つのモードを使用できます。ツールバーの <b>エンリッチメント・モード / クエリ・モード</b> のリストを常にチェックして、現在選択しているモードを確認してください。
<b>関連タスク</b>	547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」


## [エンリッチメント ルール] 表示枠

定義済みのフォルダおよびエンリッチメント・ルールの階層ツリー構造を表示します。各エンリッチメント・ルールは TQL クエリに関連付けられています。

<b>重要情報</b>	<p>独自のエンリッチメント・ルールを作成することもできますし、HP Universal CMDB のインストールで提供されている用意済みのエンリッチメント・ルール (ファクトリ・ルール) を利用することもできます。</p> <p>標準のフォルダは用意済みのクエリ専用です。これらのフォルダを変更したり、組織の要件に応じて別のフォルダを追加したりできます。</p> <p>エンリッチメント・ルールまたはフォルダをドラッグ・アンド・ドロップして、あるフォルダから別のフォルダに移動できます。</p>
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	新しいフォルダを作成します。
	エンリッチメント・ルールを作成します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィザードが開きます。
	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	(エンリッチメント・ルールが作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効) エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
	[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィザードが開きます。エンリッチメント・ルールの説明やアクティブ化の状態を変更できます。
	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
	フォルダを表します。

UI 要素	説明
	エンリッチメント・ルールを表示します。
< [エンリッチメント ルール] ツリー >	既存のエンリッチメント・ルールがツリー形式で表示されます。 <b>注:</b> ツリーには、エンリッチメント・ルールのみが表示されます。ツリーには、エンリッチメント・タイプの TQL クエリ（モデリング・スタジオで作成）は表示されません。

フォルダまたはエンリッチメント・ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI 要素	説明
<b>削除</b>	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
<b>XML へエクスポート</b>	標準の保存ダイアログ・ボックスを表示され、エンリッチメント・ルールを XML スクリプトとして保存できます。このオプションは、関連する TQL クエリも再配置されるという条件で、ワークステーション間でエンリッチメント・ルールを移動するのに使用できます。
<b>XML からインポート</b>	保存されたエンリッチメント・ルールを含む XML ファイルをエンリッチメント・マネージャにインポートします。
<b>新規作成</b>	エンリッチメント・ルールを作成します。[新規エンリッチメントルール] ウィザードが開きます。
<b>新規フォルダ</b>	新しいフォルダを作成します。
<b>プレビュー</b>	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
<b>プロパティ</b>	[エンリッチメントルールのプロパティ] ウィザードが開きます。ルールの説明やアクティブ化の状態を変更できます。
<b>フォルダの名前の変更</b>	フォルダの名前を変更します。




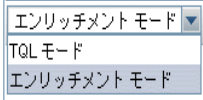
UI 要素	説明
保存	(エンリッチメント・ルールが新規に作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効) エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
名前を付けて保存	[エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザードを表示します。このウィザードで、クエリの新しい名前や説明を定義できます。このオプションは、既存のエンリッチメント・ルールに基づく新しいエンリッチメント・ルールの作成に使用できます。

## 編集表示枠

エンリッチメント・クエリ・ノードおよび関係を作成、定義します。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [エンリッチメントルール]表示枠でフォルダを選択すると、編集表示枠は空の状態です。</li> <li>▶ [エンリッチメントルール]表示枠内のエンリッチメント・ルールを選択した場合、編集表示枠には、TQL クエリで定義された TQL クエリ・ノードと TQL ノード間の関係で構成された選択したルール、および作成してルールに追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が表示されます。</li> <li>▶ エンリッチメント・マネージャでは、<b>エンリッチメント・モード</b>と<b>クエリ・モード</b>の2つのモードを使用できます。作業しているモードによって、ショートカット・メニューに表示されるオプションが異なります。詳細については、後述の編集表示枠を参照してください。</li> <li>▶ エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算できます。また、エンリッチメント・ルールから作成されたインスタンスを CMDB から削除できます。詳細については、195 ページの「追加数」と 200 ページの「エンリッチメント結果を削除する」を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」
関連情報	TQL クエリの作成方法の詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係を示します。
	CMDB から削除されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
	更新されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
 <p><b>クエリ モードとエンリッチメント モード</b></p>	<p>エンリッチメント・マネージャでは、<b>エンリッチメント・モード</b>と<b>クエリ・モード</b>の 2 つのモードを使用できます。</p> <p>次の作業ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>クエリ・モード</b>では、通常の（エンリッチメントではない）関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。</li> <li>▶ <b>エンリッチメント・モード</b>では、エンリッチメントの関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。</li> </ul>
<ショートカット・メニュー>のオプション	詳細については、38 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。
<メイン・メニュー>	詳細については、191 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。
<クエリ・ノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。






UI 要素	説明
< ツールバー >	詳細については、195 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ツールチップ >	<p>クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、そのノードまたは関係のツールチップが表示されます。</p> <p>このツールチップには次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要素名</b>：クエリ・ノードの名前です。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>：CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、499 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>選択したクエリ・ノードと関係の定義</b>：属性条件です。詳細については 83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>

## CI タイプ・セレクトタ

この領域には、CMDB に含まれる CI タイプの階層ツリー構造が表示されます。

<b>重要情報</b>	<p>CI タイプ・セレクトタは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、トリガ TQL エディタに含まれています。</p> <p>TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、30 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：各 CIT の右側に、CMDB 内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	[CI タイプをマップに追加] をクリックすると、選択した CI タイプが [編集] 表示枠に移動します。
	[更新] をクリックすると、CI タイプ・ツリーが更新されます。
	[検索] をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。
	[すべてを展開] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。
	[すべてを折りたたむ] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。
< 検索ウィンドウ >	検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。

### ショートカット・メニュー・オプション


CI タイプ・セレクトアでは、CI タイプを右クリックしたときに以下の要素を選択できます。

メニュー項目	説明
CI タイプをマップに追加	選択すると、選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インスタンスを表示	[CIT インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、75 ページの「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。





## 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

<b>重要情報</b>	[詳細] 表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ  が表示されます。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 476 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 28 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 304 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 305 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 307 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
<b>属性</b>	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、85 ページの「[属性] タブ」を参照してください。
<b>カーディナリティ</b>	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 : 3 である場合、TQL クエリは 1 ~ 3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、87 ページの「[カーディナリティ] タブ」を参照してください。

UI 要素	説明
データ ソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。 <b>注:</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。 ▶ <b>CI タイプ:</b> 選択したクエリ・ノード / 関係の CIT です。 ▶ <b>可視:</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード / 関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。 ▶ <b>サブタイプを含める:</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。
編集	[編集] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。
エンリッチメントルール	選択したクエリ・ノード / 関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて [編集] をクリックして [クエリ ノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、568 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。
影響を受けるクエリノード	選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、[編集] をクリックして [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、490 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、90 ページの「[修飾子] タブ」を参照してください。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、93 ページの「[ID] タブ」を参照してください。

## [新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールを作成または変更できます。

<b>利用方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新規エンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠のどこかを右クリックして <b>[新規作成]</b> をクリックするか、<b>[新規作成]</b> * ボタンをクリックします。</li> <li>▶ 既存のエンリッチメント・ルールを変更するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、<b>[プロパティ]</b> を選択します。</li> <li>▶ 既存のクエリに基づいて新しいエンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、<b>[名前を付けて保存]</b> を選択します。</li> </ul>
<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新規エンリッチメント・ルールを作成する場合、ルールに必要な TQL クエリの変更はアプリケーションが許可しないことに留意してください。これらの変更は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ どの関係にも接続しなくなるクエリ・ノードが発生するような、エンリッチメント TQL クエリからエンリッチメント・クエリ・ノードに接続されているクエリ・ノードまたは関係を削除する操作。</li> <li>▶ エンリッチメント・ルールで使用しているクエリ・ノードまたは関係のカーディナリティ定義を 0（不要）に変更することはできません。関係カーディナリティの詳細については、83 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> </li> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	▶ 547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードは次のページで構成されています。</p> <p>[一般属性のルール] ページ &gt; [ルール ベース クエリ] ページ</p>
<b>関連情報</b>	19 ページの「トポロジクエリ言語」

 **[一般属性のルール] ページ**

このウィザード・ページでは、エンリッチメント・ルールの一意の名前と説明を入力できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、563 ページの「[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。詳細については、100 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[一般属性のルール]ページ &gt; [ルール ベース クエリ]ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>19 ページの「トポロジ クエリ言語」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
ルールの詳細	ルールの詳細を入力します（任意指定）。
ルールを有効にする	<p>このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります（任意指定）。</p> <p><b>標準設定:</b> 選択されていない</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 有効なエンリッチメント・ルールが無効化された場合（[ルールを有効にする] チェック・ボックスをクリア）、CMDB で発生したルールに関連するすべての変更がシステムから削除されます。エンリッチメント・ルールを無効化すると、[エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールの横に赤い [X] が表示されます。</li> <li>▶ ルールを再度有効にするには、[エンリッチメント ルール] 表示枠でルールを右クリックして、[プロパティ] を選択します。[一般属性] ページで [ルールを有効にする] を選択します。</li> </ul>
ルール名	<p>エンリッチメント・ルールの一意の名前を入力します。</p> <p>ルール名には、¥/: "&lt;&gt; %" の文字を含むことができません。</p> <p><b>注:</b> ルール名が空の状態であるか、別のエンリッチメント・ルールで使用している名前が含まれているか、無効な文字を使用している場合、[次へ] および [完了] ボタンは使用できません。</p>

## [ルール ベース クエリ] ページ

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールのベースとなる TQL クエリのプロパティを定義できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、101 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、563 ページの「[新規エンリッチメントルール], [エンリッチメントルールのプロパティ], [エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは、このページで <b>[次へ]</b> をクリックすると <b>[ウィザードの完了]</b> ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、<b>[ウィザードの完了]</b> ページを表示しないようにできます。詳細については、100 ページの「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規エンリッチメントルール], [エンリッチメントルールのプロパティ], [エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[一般属性のルール]ページ &gt; <b>[ルール ベース クエリ]</b>ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>19 ページの「トポロジクエリ言語」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p><b>新しいクエリのエンリッチメントに基づく</b></p>	<p>新しい TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。TQL 結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。</p>
<p><b>既存のクエリのエンリッチメントに基づく</b></p>	<p>既存の TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。必要なエンリッチメント TQL クエリをドロップダウン・リストから選択します。</p>
<p><b>ベース クエリ詳細</b></p>	<p>TQL クエリの説明を入力します (任意指定)。</p>

UI 要素	説明
ベース クエリ名	エンリッチメント TQL クエリの一意の名前を入力します。 [既存の TQL のエンリッチメント ルールに基づく] オプションを選択した場合、ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択します。
ベース クエリの優先度	新しい TQL クエリの優先度（低，中，高，至急）を選択します。この設定により，システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。
現在の定義に基づいて新規クエリを保存	選択すると，エンリッチメント・ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。 <b>注：</b> このフィールドは，[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードにのみ表示されます。

## [クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス

選択したクエリ・ノード / 関係の属性を表示します。キー属性と選択したクエリ・ノードの必須属性は太字で表示されます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>エンリッチメント モード ([エンリッチメント マネージャ] ページの上部で [クエリ / エンリッチメント] ドロップダウンから [エンリッチメント] を選択) の場合、クエリ・ノードまたは関係を右クリックし、[関係を更新] または [クエリノードを更新] を選択します。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>エンリッチメント・ルールを使用して、CMDB 内の CI 属性の値を更新するか、現在値が設定されていない属性にデータを追加します。たとえば、このオプションを使用して、すべての CI インスタンスに同時にメモを追加できます。</p> <p>キー属性とエンリッチメント・クエリ・ノードの必須属性の値を入力する必要があります。これらの値の定義に使用する方法で、作成されるインスタンス数が決まります。</p> <p>動的な値を入力すると、膨大な数のインスタンスを作成できます。たとえば、CIT <b>Node</b> の <b>host_key</b> または CIT <b>IpAddress</b> の IP Address 属性に動的な値を入力します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</p>




## 【属性】領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
名前	属性名です。
タイプ	選択した属性のフィールドのタイプです。
値	次のいずれかで値が定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 【属性の設定】領域の【値】ボックス。</li> <li>▶ 【属性の設定】領域の複数の【属性別】ボックスの値の組み合わせ。</li> <li>▶ [クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスの【タイプ】カラムで【単純】を選択した場合、【値】カラム。</li> <li>▶ [クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスの【タイプ】カラムで【属性別】を選択した場合、【値】カラムと【値】カラムの右側のカラムの値の組み合わせ。</li> </ul>

## 【属性の設定】領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) [クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスが開きます。  単純または複雑な表現を使用して、 <b>string</b> タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義します。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。
詳細	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) [クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスで定義された属性値を表示します。







UI 要素	説明
属性別	<p>TQL クエリのほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 左側のボックスで必要なクエリ・ノードを選択します。</li> <li>▶ 右側のボックスでクエリ・ノードの必須属性を選択します。</li> </ul> <p>属性定義は [属性] 領域の [値] カラムに表示されます。</p>
正規表現グループ	<p>(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) 正規表現構文を使用して正規表現を追加した場合にのみグループ番号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧 ( ) のセットでグループとみなされます。</p>
正規表現	<p>(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) 正規表現構文を使用して正規表現を追加します。正規表現パターンを入力します。</p>
値 ([属性の設定] 領域)	<p>定数値を定義します。[値] ボックスに必要な値を入力するか、[値] リストから値を選択します。</p> <p>注: 値の定義は [属性] 領域の [値] カラムに表示されます。</p>


## [クエリ ノード定義 – 詳細な属性] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、単純または複雑な表現を使用して、**String** タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義できます。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。

利用方法	[クエリ ノード定義] ダイアログ・ボックスの <b>string</b> タイプの属性を選択します。[詳細] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。
関連タスク	547 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	単純または複雑な表現を使用して属性値を定義します。[タイプ] カラムに新しいエントリを作成します。新しいエントリをクリックし、[単純] または [属性別] を選択します。詳細については、後述の [タイプ] カラムの説明を参照してください。
	属性値を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
<b>詳細な値</b>	([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) ボックス内のエントリをクリックし、必須属性を選択します。
<b>連結</b>	このダイアログ・ボックスに一覧表示されているすべての属性値を使用します。
<b>正規表現グループ</b>	([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) [正規表現グループ] カラム内をクリックし、  ボタンをクリックし、開いた [正規表現グループ] ダイアログ・ボックスの [値] にグループ番号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧 ( ) のセットでグループとみなされます。
<b>正規表現</b>	([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) [正規表現グループ] カラム内をクリックし、  ボタンをクリックし、開いた [正規表現グループ] ダイアログ・ボックスの [値] にグループ番号を入力します。

UI 要素	説明
<p><b>タイプ</b></p>	<p>[<b>タイプ</b>] カラム内のエントリをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>単純</b> : 単純表現を使用して定数値を定義します。</li> <li>▶ <b>属性別</b> : TQL のほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。</li> </ul> <p><b>標準設定</b> : 単純</p>
<p><b>値を持つ最初の属性を使用</b></p>	<p>このダイアログ・ボックスに一覧表示されている空ではない最初の属性値を使用します。</p>
<p><b>値</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [<b>タイプ</b>] カラムで [<b>単純</b>] を選択した場合、[<b>値</b>] カラム内をクリックして  ボタンをクリックし、[<b>単純</b>] ダイアログ・ボックスの [<b>値</b>] に必要な値を入力します。</li> <li>▶ [<b>タイプ</b>] カラムで [<b>属性別</b>] を選択した場合、[<b>値</b>] カラム内をクリックし、リストから必要な値を選択します。</li> </ul>

# 第 III 部

---

## HP Universal CMDB データ・モデル



# 13

---

## UCMDB データ・モデルの概要

本章の内容

概念

- ▶ BTO データ・モデル (BDM) の概要 (576 ページ)

参照先

- ▶ データ・モデルのドキュメント (577 ページ)
- ▶ アップグレードに関するドキュメント (578 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### BTO データ ・ モデル (BDM) の概要

BTO データ ・ モデル (BDM) では、IT ユニバース ・ モデルのビジネス機能、サービス、プロセス、アクティビティを管理できます。

BDM のドキュメントは次のフォルダにあります。

C : \hp\UCMDB\UCMDBServer\deploy\ucmdb-docs\docs\eng\pdfs



---

---

## 参照先

---

---

### データ・モデルのドキュメント

#### **BDM –Conceptual Data Model**

概念モデルでは、BTO データ・モデル (BDM) の上位レベルの図を構造レイヤで編成して表します。このドキュメントでは、モデル化される概念とモデルの範囲について説明します。この概念データ・モデルは、モデル化されたドメインの意味論を理解する出発点となります。

---

**注:** これはモデルの抽象的な表現であるため、このドキュメントにはすべてのエンティティや関係は含まれていません。

---

#### **BDM –Data Model UMLs**

このドキュメントでは、データ・モデルを視覚的な訴求力のある UML 図のセットで表します。モデル全体の大きくて複雑な 1 つの UML 図ではなく、ビューの特定部分を使用した小さい図で表します。UML 図の目的は、モデル・エンティティとその相互関係を図で表現することです。

---

**注:** UML 図を理解しやすくするために、一部の関係およびエンティティが除外されている場合があります。

---

#### **BDM –Data Model HTML**

このドキュメントでは、すべての BDM クラスの情報が HTML 形式で記載されています。

## BDM –Business Model and Best Practices

このドキュメントでは、UCMDB データ・モデルのビジネス部分、いくつかのベスト・プラクティス、およびビジネスをモデル化する方法のガイドラインについて説明します。

## CMS Data Model 9.03 Documentation

このドキュメントでは、すべての BDM クラスおよび CMS クラスのサブセットについて説明します。このドキュメントには、次の情報が含まれています。

- ▶ クラスの説明
- ▶ 属性の情報
- ▶ オブジェクトの範囲設定 (BDM/CMS)
- ▶ 修飾子の情報
- ▶ 階層の情報

---

**注:** このドキュメントは、UCMDB ユーザ・インタフェースから自動的に生成できます。

---

## アップグレードに関するドキュメント

### UCMDB Class Mapping Upgrade

このマッピング・ドキュメントでは、バージョン 8.0x と 9.03 のクラス・マッピングの概要について説明します。これには、階層の変更なども含まれています。

### UCMDB Upgrade Documentation

このドキュメントでは、8.0x クラス・モデルと 9.03 データ・モデルの相違点について詳細に説明します。このドキュメントには、次の情報が含まれています。

- ▶ クラスおよび属性のマッピング
- ▶ 新しいクラスおよび属性

- ▶ 修飾子の変更
- ▶ 廃止予定に関する情報
- ▶ 削除されたクラス
- ▶ キー属性の変更
- ▶ 階層の変更



# 14

---

## UCMDB データ・モデルの UML ツールへのエクスポート

本章の内容

### 概念

- ▶ UML ツールへのエクスポート - 概要 (582 ページ)

### タスク

- ▶ クラス・モデルのエクスポート (583 ページ)
- ▶ クラス・モデルの選択部分の XML を変換 (584 ページ)

### 参照先

- ▶ UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエクスポート (586 ページ)
- ▶ ツール・プラグイン入力 (589 ページ)

---

**注:** 現在, Altova UModel バージョン 2008 と 2009 がサポートされています。

---

---

---

## 概念

---

---

### UML ツールへのエクスポート - 概要

UML ツールへのエクスポートでは、UCMDB クラス・モデルの選択したセクションを UML ツールと互換性のある形式にエクスポートし、モデルを UML 図として表示できます。

ツールへの入力項目は、UCMDB 9.0 の JMX サービス、**UCMDB : service=Class Model Services/exportClassModelToXml()** によって取得される UCMDB クラス・モデル XML ファイルです。

---

**注：**JMX コンソールにアクセスするには、ブラウザで **http://<サーバ名>:8080/jmx-console** を入力します。<サーバ名> は、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。

---

---

---

## タスク

---

---

### クラス ・ モデルのエクスポート

このタスクでは、[クラス モデルの UML ツールへのエクスポート] ウィザードの使用方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 583 ページの「前提条件」
- ▶ 583 ページの「UML ツールの実行」
- ▶ 583 ページの「エクスポートしたファイルの Altova での表示」

#### 1 前提条件

次の zip ファイルを任意の場所に解凍してツールをセットアップします。

<Volume>:\hp\UCMDB\UCMDBServer\tools\ExportClassModel.zip

#### 2 UML ツールの実行

[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードを使用して、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択します。

[UML へのエクスポート] ウィザードを使用した作業の詳細については、586 ページの「[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード」を参照してください。

#### 3 エクスポートしたファイルの Altova での表示

- a Altova では、[ファイル] > [XMI ファイルからインポート] を選択します。
- b XMI ファイルを選択します。[モデル ツリー] 表示枠にクラス ・ モデル ・ エントリが表示されます。
- c エントリを右クリックして [新規ダイアグラムに表示] > [内容] を選択します。[OK] をクリックします。

## クラス・モデルの選択部分の XML を変換

このタスクでは、クラス・モデルの選択部分の XML を UML ツール形式に変換するカスタム・プラグインの使用方法について説明します。

Java クラスまたは XSLT テキスト・ファイルのプラグインを使用できます。Java クラスを使用する場合は、**ITransformToUML(ExportToUML.jar)** インタフェースを実装する必要があります。**transformToUML()** メソッドは XML 文字列をパラメータとして受け取り、出力ファイルに書き込まれるバイト配列を返します。

カスタム・プラグイン入力の詳細については、589 ページの「ツール・プラグイン入力」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 584 ページの「Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化」
- ▶ 585 ページの「XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化」

### Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化

表示名と完全修飾クラス名を、次のように ExportToUML ディレクトリの **config.xml** ファイルに追加します。

```
<ConverterToUML>
  <Name>< 表示名 ></Name>
  <Class>< 完全修飾クラス名 ></Class>
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、583 ページの「クラス・モデルのエクスポート」を参照してください。



## XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化

この場合には、指定したファイルの XSLT がクラス・モデル XML に適用され、出力ファイルに書き込まれます。

表示名と XSLT ファイルのフル・パスを、次のように ExportToUML ディレクトリの **config.xml** ファイルに追加します。

```
<ConverterToUML>  
  <Name>< 表示名 ></Name>  
  <XsltFile><XSLT ファイルのフルパス ></XsltFile>  
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、583 ページの「クラス・モデルのエクスポート」を参照してください。

---



---

## 参照先

---



---

### UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエクスポート

本項の内容

- ▶ 586 ページの「[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード」

### [クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード

このウィザードでは、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択できます。

<b>利用方法</b>	ツールを解凍した場所を参照します。ExportClassModel ディレクトリで <b>ExportClassModel.jar</b> を右クリックします。[アプリケーションから開く] > [Java 2 プラットフォーム SE バイナリ] を選択します。
<b>重要情報</b>	標準設定では、ツールにより ExportClassModel ディレクトリの <b>ClassModel.xml</b> ファイルが開かれます。[ファイル] > [クラス モデル ファイルを開く] メニューでほかのファイルを開くことができます。
<b>関連タスク</b>	583 ページの「クラス・モデルのエクスポート」
<b>ウィザード・マップ</b>	[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには、次のページが含まれています。  [クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード > 有効なリンクの選択 > 選択した項目のエクスポート
<b>関連情報</b>	589 ページの「ツール・プラグイン入力」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
ファイル	XML ファイルのリストを表示します。クラス・モデルを含むファイルを開きます。
<b>[属性の選択] 表示枠</b>	<p>UML ツールに表示する属性を選択します。</p> <p>選択した CIT の属性はこの表示枠に表示されます。属性の色は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 親 CIT から継承する属性は黒です。</li> <li>▶ この CIT に固有の属性は濃い青です。</li> </ul>
<b>[CI タイプの選択] 表示枠</b>	<p>ここに表示される CIT は、ClassModel.xml ファイルから取得されます。</p> <p>UML ツールにエクスポートする CIT とそのサブ・ノードを選択します。</p> <p>サブインデックスをすべて選択またはすべてクリアするには、ボタンを使用します。</p>

### 有効なリンクの選択

このウィザード・ページでは、2 つの CIT 間で使用できるリンクを選択できます。

<b>重要情報</b>	ウィザードに関する一般情報は、586 ページの「[クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード」で入手できます。
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[クラスモデルの UML へのエクスポート]ウィザードには、以下のページが含まれています。</p> <p>[クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード &gt; 有効なリンクの選択 &gt; 選択した項目のエクスポート</p>

ユーザ ・ インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	このボタンをクリックすると、CIT のリストからフィルタが削除されます。
<b>適用フィルタ</b>	有効なリンクのリストをフィルタ処理できます。CIT のリストをフィルタ処理し、CIT または関係ごとにリストを並べ替えることができます。

### 選択した項目のエクスポート

このウィザード ・ ページでは、選択した CIT とその属性を UML ツールにエクスポートできます。

<b>重要情報</b>	ウィザードに関する一般情報は、586 ページの「[クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード」で入手できます。
<b>ウィザード ・ マップ</b>	[クラス ・ モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには、以下のページが含まれています。 [クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード > 有効なリンクの選択 > <b>選択した項目のエクスポート</b>

ユーザ ・ インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<b>エクスポート</b>	クリックして、UCMDB CIT とその属性を追加する XMI 形式の UML ファイルを参照します。 CIT のペアの有効なリンクがない場合は、「 <b>有効なリンクなし</b> 」メッセージが [有効なリンクの選択] ページに表示されます。

## ツール・プラグイン入力

プラグインへの入力は、次の形式の XML 文字列（選択したクラス / 属性 / 有効なリンク）です。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<Class-Model>
  <Class class-name="hostresource" display-name="Host Resource"
visibility="public">
    <Attribute name="isvirtual" display-name="Is Virtual" visibility="public"/>
    <Attribute name="city" display-name="City" visibility="public"/>
  </Class>
  <Class class-name="host_node" display-name="Computer" visibility="public">
    <Derived-From class-name="host"/>
  </Class>
  <Class class-name="vax" display-name="VAX" visibility="public">
    <Attribute name="root_actualdeletionperiod" display-name="Actual Deletion
Period" visibility="public"/>
    <Attribute name="data_allow_auto_discovery" display-name="Allow CI Update"
visibility="public"/>
    <Derived-From class-name="host_node"/>
  </Class>
  <Class class-name="host" display-name="Host" visibility="public">
    <Attribute name="host_iscomplete" display-name="Host Is Complete"
visibility="public"/>
    <Attribute name="host_isroute" display-name="Host Is Route" visibility="public"/>
    <Attribute name="host_hostname" display-name="Host Name" visibility="public"/>
    <Attribute name="host_os" display-name="Host Operating System"
visibility="public"/>
  </Class>
  <Class class-name="unix" display-name="Unix" visibility="public">
    <Derived-From class-name="host_node"/>
  </Class>
  <Valid-Link ID="host_member_host" display-name="Member" visibility="public">
    <End1 class-name="host"/>
    <End2 class-name="host"/>
  </Valid-Link>
  <Valid-Link ID="host_container_f_hostresource" display-name="Container link"
visibility="public">
    <End1 class-name="host"/>
    <End2 class-name="hostresource"/>
  </Valid-Link>
</Class-Model>
```



# 第 IV 部

---

参照情報





# 15

---

## テーブルを使用した作業

本章の内容

参照先

- ▶ カラムのユーザ・インタフェース (594 ページ)

---



---

## 参照先

---



---


### カラムのユーザ・インタフェース

本項の内容




- ▶ 594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 596 ページの「[カラム コンテンツの 並べ替え] ダイアログ・ボックス」




### [カラムの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示する情報を選択できます。カラムを非表示にするか、非表示状態のカラムを表示するように選択できます。

<b>説明</b>	[ <b>カラムの選択</b> ]  ボタンをクリックします。このボタンはレポート内の各テーブルの上に表示されます。
<b>重要情報</b>	[ <b>可視カラム</b> ] 表示枠のリストに表示されるカラムの順序により、テーブルに表示されるカラムの順序が決定されます。テーブルのカラムの順序を変更するには、上下の矢印ボタンを使用するか、カラムを新しい場所にドラッグすることによって、カラムを該当する位置に移動します。


含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
	カラムを表示します。選択したカラムを [ <b>利用可能なカラム</b> ] 表示枠から [ <b>可視カラム</b> ] 表示枠に移動します。
	選択したカラムを非表示にします。選択したカラムを [ <b>可視カラム</b> ] 表示枠から [ <b>利用可能なカラム</b> ] 表示枠に移動します。
	すべての非表示カラムを表示します。すべてのカラムを [ <b>利用可能なカラム</b> ] 表示枠から [ <b>可視カラム</b> ] 表示枠に移動します。




UI 要素	説明
	すべてのカラムを非表示にします。すべてのカラムを [可視カラム] 表示枠から [利用可能なカラム] 表示枠に移動します。
	選択したカラムを, [可視カラム] 表示枠のリストで上に移動します。
	選択したカラムを, [可視カラム] 表示枠のリストで下に移動します。
<b>利用可能なカラム</b>	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されません。
<b>可視カラム</b>	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されます。




## [カラム コンテンツの 並べ替え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テーブルに表示されるエントリの並べ替え順序を設定、変更できます。

<p><b>説明</b></p>	<p> [カラム コンテンツの 並べ替え] ボタンをクリックします。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p><b>1 つのカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順で行います。</b>          カラム名を [利用可能なカラム] から [並べ替えられたカラム] リストに移動します。名前を選択し、該当するボタンをクリックして昇順（上向きの三角形）または降順（下向きの三角形）のいずれかで並べ替えるかを決めます。</p> <p><b>2 つ以上のカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順で行います。</b>          カラム名（複数）を [利用可能なカラム] から [並べ替えられたカラム] リストに移動します。各カラムについて、昇順または降順のいずれかで並べ替えるかを決めます。</p> <p><b>カラムの並べ替え順序を変更するには、次の手順で行います。</b>          [並べ替えられたカラム] リストでエントリを選択し、上向きまたは下向き矢印を選択して順序を変更します（リスト内の上部にあるエントリがまず並べ替えられ、その後、下部にあるエントリが並べ替えられます）。テーブルのカラムのヘッダーに数が表示されます。</p> <p><b>注:</b> 並べ替えることができるのは、表示されているカラムのみです。テーブル内に表示するカラムとその表示順序を定義する方法の詳細については、594 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
	<p>選択したカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。この手順は、選択したカラムをダブルクリックすることでも行えます。</p>
	<p>選択したカラムを [並べ替えられたカラム] 表示枠から [利用可能なカラム] 表示枠に移動します。</p>
	<p>すべてのカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。</p>

UI 要素	説明
	<p>すべてのカラムを [並べ替えられたカラム] 表示枠から [利用可能なカラム] 表示枠に移動します。</p>
	<p>リスト内で選択したカラムを上または下に移動して、すでに決められている並べ替え順序内での優先順位を上げ下げできます。</p>
	<p>カラムの内容を昇順または降順に並べ替えることができます。</p> <p>[並べ替えられたカラム] 表示枠でカラム名を選択し、昇順または降順ボタンをクリックします。</p>
<p><b>利用可能なカラム</b></p>	<p>内容が並べ替えられていないカラムです。</p> <p><b>注:</b> 複数のカラムを選択できます。</p>
<p><b>並べ替えられたカラム</b></p>	<p>内容が昇順または降順で並べ替えられたカラムです。</p>



# 16

---

## 正規表現の例

本章の内容

参照先

- ▶ 正規表現の例 (600 ページ)

---



---

## 参照先

---



---

### 正規表現の例

- ▶ IP Address (aa.yy.zz.mm) を定義する正規表現は、次のように入力します。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
aa でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.]*[.]*.)*	1
yy でラベルを作成する	(.*)((.[.])((.[.]*[.]*.)*	2
zz でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.])((.[.]*.)*	2
mm でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.]*[.])((.[.]*.)*	2

- ▶ 次のように正規表現を入力して、選択された属性の最初または最後の文字でラベルを作成できます。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
最初の文字でラベルを作成する	(.)(.*)	1
最後の文字でラベルを作成する	(.*)(.)	2
最初の 2 文字でラベルを作成する	(..)(.*)	1
最後の 2 文字でラベルを作成する	(.*)(..)	2



---

# 索引

## A

ALLOW VOLATILITY 修飾子 26

## C

### CI

[データフロー管理] ジョブからの  
削除 262  
[データフロー管理] ジョブへの  
追加 262  
エイジング・メカニズムを使った自動  
削除 215

作成 224  
プロパティ 214  
関連 CI の作成 213  
既存の関連付け 218  
削除 214, 263  
新規ビューの作成 212  
比較 395  
非関連 CI の作成 213

### CI タイプ

アイコンの割り当て 480  
概要 474  
関係 476  
計算された関係の割り当て 483  
作成 479  
修飾子の割り当て 480, 482, 483  
属性 475  
属性の設定 479, 481  
定義 479, 481, 482  
標準設定ラベルの定義 480, 482

CI タイプ・マネージャ 473, 490

### CI の選択

ビューの表示 149  
検索モード 159  
制限事項とトラブルシュー  
ティング 166

設定 151

利用できないビュー 166

CI の変更履歴

表示 413, 414

CI 比較レポート 417

CI 変更レポート 411

[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・  
ボックス 78

[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス 242

[CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス 338

[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス 153

CI タイプ

説明を表示 486

メニューのカスタマイズ 480, 482

[CI タイプの選択] ページ

[ダイレクトリンクの生成] ウィ  
ザード 123

[パターンベースモデル] ウィ  
ザード 353

CI タイプ・マネージャ 495, 496, 500, 501

[アイコン] タブ 503

[アタッチメニュー] タブ 504

ショートカット・メニュー 493

[標準設定ラベル] タブ 508

CI の選択 155

概要 148

検索ツールの使用 149

参照モード 155

[CI のプロパティ] ダイアログ・ボックス 246

[CI のプロパティを表示] ページ

[ダイレクトリンクの生成] ウィ  
ザード 131

[CI 隣接の表示] ページ

[ダイレクトリンクの生成] ウィ  
ザード 129

[CI を公開] ダイアログ・ボックス 369

CMDB 使用率レポート 415

## 索引

[CMDB から関連 CI を取得] ダイアログ・  
ボックス 273  
Cron 式 398

## H

HP ソフトウェアの Web サイト 16  
HP ソフトウェアのサポート Web サイト 15

## I

IT ユニバース  
ビュー 209, 211  
IT ユニバース マネージャ  
トポロジマップ 258  
概要 208  
IT ユニバース・モデル  
作成 208  
IT ユニバース  
大きなビュー 171  
関係 216  
IT ユニバース マネージャ  
[CI のプロパティ] ダイアログ・  
ボックス 246  
[IT ユニバース マネージャ] ページ 257

## R

Readme 13

## S

[Select Location] ページ  
[テンプレート ベース ビュー] ウィ  
ザード 380

## T

TQL  
環状クエリ 102  
クエリ, 可視の TQL ノード 69  
クエリ, 可視の関係 57, 60  
ショートカット・メニュー・  
オプション 38  
パターン・ログ 46  
パターン統計情報ログ 48  
ログ 45

環状クエリ 102  
監査簡略ログ / 監査詳細ログ 48  
自己関係 54, 60, 62, 66, 101, 325  
増分スプリッタ・ログ 50  
増分詳細ログ 51  
増分統計ログ 49

TQL クエリ  
作成 21  
定義 28  
TQL クエリ・エディタ 382  
TQL ノード  
可視, TQL クエリで 69

## U

UCMDB アプレット・タグ  
概要 139  
UML ツール  
エクスポート 583  
UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエ  
クスポート 586

## あ

アセット・レポート 404  
アプリケーション・ブレイクダウン・レ  
ポート 401  
アプレットの埋め込み  
ダイレクト・リンクの使用 137

## い

[依存関係] ダイアログ・ボックス 389  
依存関係レポート 432  
[一般属性のルール] ページ  
[新規エンリッチメントルール] ウィ  
ザード 564  
[インスタンス グリッドの表示] ページ 125  
[ダイレクト リンクの生成] ウィ  
ザード 125  
「インスタンス・ビュー」, 「パースペクティ  
ブ・ベース・ビュー」を参照 286

## え

影響分析マネージャ

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス 535

影響分析結果  
取得 230

影響分析マネージャ  
[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス 534  
概要 518  
[詳細] ダイアログ・ボックス 525

影響分析マネージャのユーザ・インタフェース 524

[影響分析マネージャ] ページ 526

[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス 274

[影響マップを表示] ページ  
[ダイレクトリンクの生成] ウィザード 126

影響モデリング  
計算された関係タイプ 109

影響ルール  
作成 520  
相関 TQL の検証 103

[影響ルール グループ] ページ  
[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 540

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス  
影響分析マネージャ 535

[影響ルールの一般属性] ページ  
[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 538

[影響ルール ベース クエリ] ページ  
[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 539

[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス  
影響分析マネージャ 534

[影響を表示] 表示枠 280

エイジング・メカニズム  
CI 用 215

[円形] タブ  
[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 177

エンリッチメント・マネージャ

[ノード定義 / 関係の定義] ダイアログ・ボックス 568

エンリッチメント・ノードと関係  
TQL クエリに追加 552

[エンリッチメント マネージャ] ページ 554

エンリッチメント・マネージャ  
概要 544

エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース 554

エンリッチメント・ルール  
検証 552  
定義 547

## お

オンライン・ドキュメント 12

オンライン・ブック 13

オンライン・ヘルプ 13

オンライン・リソース 15

## か

[階層構造] タブ  
[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 180

[階層ルール] ダイアログ・ボックス 331

可視の関係 57, 60

可視のノード 69

カスタム・レポート  
生成 394

[カスタム レポート] 表示枠 469

カスタム・レポート 392

[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス 375, 596

[カラムの選択] ダイアログ・ボックス 594

カラムのユーザ・インタフェース 594

関係  
階層 217  
可視 57  
可視, TQL クエリで 60  
作成 216, 224, 481  
削除 220  
説明を表示 486  
について 216

[関係条件の結合] ダイアログ・ボックス 80

[関係タイプ] ページ

## 索引

- [ 関連クエリ ノードを追加 ] ウィザード 66
- [ 関係タイプを変更 ] ダイアログ・ボックス 324
- [ 関係のタイプを選択 ] ダイアログ・ボックス 95
- [ 関係の追加 / 削除 ] ダイアログ・ボックス 490
- [ 関係の追加 / 編集 ] ダイアログ・ボックス 61
- [ 関係を挿入 ] ダイアログ・ボックス 252
- [ 関係 ] ページ 253
- 監視 299
- [ 監視の更新 ] ダイアログ・ボックス 388
- [ 完了 ] ページ
  - [ ダイレクト リンクの生成 ] ウィザード 136
- [ 関連 CI の条件 ] ダイアログ・ボックス 326
- 関連 CI の表示 225
- [ 関連クエリ ノードのインスタンス ] ページ
  - [ 関連クエリ ノードを追加 ] ウィザード 70
- [ 関連クエリ ノードのタイプ ] ページ
  - [ 関連クエリ ノードを追加 ] ウィザード 64
- [ 関連クエリ ノードのプロパティ ] ページ
  - [ 関連クエリ ノードを追加 ] ウィザード 67
- [ 関連クエリ ノードを追加 ] ウィザード 63

## き

- [ 機能の追加 ] ダイアログ・ボックスモデリング・スタジオ 322

## く

- [ クエリ / テンプレート / パースペクティブ名の依存関係 ] ダイアログ・ボックス 389
- [ クエリ エディタ ] ページ
  - [ ダイレクト リンクの生成 ] ウィザード 128
- [ クエリ ノード / 関係のプロパティ ] ダイアログ・ボックス 83
- [ クエリ ノード タイプの再設定 ] ダイアログ・ボックス 69

- クエリ・ノードと関係
  - TQL クエリに追加 30
- [ クエリ ノードのグループ化 ] ダイアログ・ボックス 367
- [ クエリの選択 ] ページ
  - [ パターン ベース モデル ] ウィザード 353
- [ クエリ / ビュー定義プロパティ ] ダイアログ・ボックス 368
- [ クエリを保存 ] ダイアログ・ボックス 372
- [ クラス モデルの UML ツールへのエクスポート ] 581, 582
  - プラグイン入力 589
- [ クラス モデルの UML へのエクスポート ] ウィザード 586
- クラス・モデル
  - 概要 575
  - 選択部分の変換 584
- クラス・モデル・ツールへのエクスポート 583
- グループ化
  - ネストされたグループ 289

## け

- 計算された関係
  - 概要 108
  - 作成 482
- [ 計算された関係を追加 ] ダイアログ・ボックス 52
- 結合関係 24
  - 定義 34
- 結合関係の追加ダイアログ・ボックス 58
- [ 検索基準の保存 ] ダイアログ・ボックス 165
- 検索ツール
  - 使用 149
- [ 検索の整理 ] ダイアログ・ボックス 164
- 検証制限
  - TQL クエリ 101

## こ

- 公開 CI 299
  - [ 公開パスの作成 ] ダイアログ・ボックス 328
  - [ 公開パスの編集 ] ダイアログ・ボックス 328
  - [ 公開パスの保存 ] ダイアログ・ボックス 328

[公開パスを開く] ダイアログ・ボックス 351  
 [構成アイテム タイプを作成] ウィザード  
   [修飾子] ページ 495, 500  
   [アイコン] ページ 503  
   [アタッチ メニュー] ページ 504  
   [属性] ページ 496  
   [標準設定ラベル] ページ 508  
 ゴールド・マスタ・レポート 439  
 [コマンドの選択] ページ  
   [ダイレクト リンクの生成] ウィ  
   ザード 118  
 根本原因 518

## さ

[サイクル定義] ダイアログ・ボックス 330  
 削除候補レポート 430  
 [サブグラフ 条件の定義] ダイアログ・  
   ボックス 96  
 [サブグラフの定義] ダイアログ・  
   ボックス 98  
 サブグラフの定義 26  
   定義 36  
 [サマリ] ページ  
   [テンプレート ベース ビュー] ウィ  
   ザード 381  
 参照モード  
   ビューの表示 149

## し

[時間枠を変更] ダイアログ・ボックス 241  
 [システム タイプ マネージャ] ダイアログ・  
   ボックス 514  
 システム・タイプ・マネージャ 477  
 [実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・  
   ボックス 165  
 ショートカット・メニュー・オプション  
   TQL 38  
 [ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス 444  
 [新規 CI] ダイアログ・ボックス 268  
 [新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ /  
   影響ルールとして名前を付けて保存]  
   ウィザード 537  
 [新規エンリッチメント ルール] ウィザード  
   [ルール ベース クエリ] ページ 566

[新規エンリッチメント ルール], [エンリッ  
   チメント ルールのプロパティ], [エン  
   リッチメント ルールに名前を付けて保  
   存] ウィザード 563  
 [新規監視] ダイアログ・ボックス 350  
 新機能 13  
 [新規パターン ビュー]/[新規テンプレート]/  
   [新規パースペクティブ] ダイアログ・  
   ボックス 349  
 [新規ビューの作成] ダイアログ・  
   ボックス 329  
 [新規モデル] ダイアログ・ボックス 349

## す

スナップショット  
   ビューの取得 238  
   比較 396  
 スナップショットの比較 396  
 [スナップショットを保存する] ダイアログ・  
   ボックス 276  
 スナップショット比較レポート 422  
 [すべてのスタイル] タブ  
   [レイアウト プロパティ] ダイアログ・  
   ボックス 175

## せ

正規表現  
   標準設定ラベルに追加 509  
   例 599  
 生成  
   カスタム・レポート 394  
 [選択した項目に対する操作の選択] ダイアロ  
   グ・ボックス 326  
 選択した項目のエクスポート 588  
 [選択済みの CI を含むビューを表示] ダイア  
   ログ・ボックス 386  
 [選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・  
   ボックス 348

## そ

属性演算子の定義 43  
 属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・  
   ボックス 487

た

- [対称] タブ
  - [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 187
- [ダイレクト リンク パラメータ] ページの
  - [ダイレクト リンクの生成] ウィザード 133
- [ダイレクト リンクの生成] ウィザード
  - ダイレクト リンク パラメータ 129
  - ダイレクト リンク パラメータ・ページの 132
- ダイレクト リンク パラメータ 127, 129, 125, 126
- [ダイレクト リンク パラメータ] 135
- ダイレクト リンク パラメータ 123, 128, 130
- ダイレクト リンク パラメータ - 131
- [ダイレクト リンク パラメータ] ページの 134
- ダイレクト リンク パラメータページの 132
- ダイレクト リンク パラメータ・ページの
  - [ダイレクト リンクの生成] ウィザード 132
- ダイレクト リンク パラメータ - [CI の選択] ページ 122
- ダイレクト・リンクの生成
  - ダイアログ・ボックス 116
  - 概要 112
- ダイレクト・リンクの生成 - 概要
  - ウィザード 117
  - シナリオ 114
- ダイレクト・リンクの操作フロー 141
- ダイレクト・リンク埋め込みアプレット
  - 概要 138

ち

- [直交] タブ
  - [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 185

つ

- 追加
  - エンリッチメント・ノードと関係を TQL クエリに 552

クエリ・ノードと関係を TQL クエリに 30

て

- 定義
  - サブグラフの定義 36
  - マップ印刷設定 193
- [定期レポート] ダイアログ・ボックス レポート 460
- [ディスカバリ ステータス] タブ
  - [モデリング] 278
- ディスカバリ・エラー・レポート 435
- [データ フロー管理] ジョブ
  - CI からの削除 262
- [データ ソースの設定] ダイアログ・ボックス 374
- [データ フロー管理] ジョブ
  - CI への追加 262
- データベース・ブレイクダウン・レポート 428
- データ・モデル
  - 概要 575
- テンプレート
  - 作成 305
- [テンプレート ベース ビュー] ウィザード
  - [パラメータ値をインポート] ページ 378
- [テンプレートの選択] ページ
  - [テンプレート ベース ビュー] ウィザード 377
- [テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス 382
- [テンプレート ベース ビュー] ウィザード 376
  - [テンプレートの選択] ページ 377
- テンプレート・ベース・ビュー
  - 作成 293
  - 1 つのビューの作成 310
  - 複数のビューの作成 312
- [テンプレート ベース ビュー] ウィザード
  - [Select Location] ページ 380
  - [サマリ] ページ 381
  - [パラメータ] ページ 379

と

ドキュメントの更新 16  
ドキュメント, オンライン 12  
トポロジ マップ 169, 258  
    ツールバー・オプション 195  
    ファイルに保存 172  
    メインメニュー 191  
    印刷と保存 238  
    印刷前プレビュー 193  
    概要 169  
トポロジ・クエリ言語 (TQL)  
    概要 20  
トポロジ・マップの内容  
    印刷 192  
[トポロジ レポート] 表示枠 469  
トポロジ・クエリ言語 (TQL) のユーザ・インタフェース 51  
トポロジ・マップのサイドバー 203  
トポロジ・マップのプレビュー  
    印刷前 193  
トポロジ・マップの使用 169  
トポロジ・レポート 465  
    概要 392  
トポロジ・レポートの表示 393  
トラブルシューティングとナレッジ ベース 15  
トラブルシューティングと制限事項  
    CI の選択 166  
トリガ・ノード 518  
[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス 71

## な

ナレッジ ベース 15

## ね

ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・レポート 447

## の

ノード OS ブレイクダウン・レポート 450  
[ノード定義 / 関係の定義] ダイアログ・ボックス  
    エンリッチメント・マネージャ 568  
[ノード要素タイプの変更] ダイアログ・ボックス 324

## は

パースペクティブ  
    作成 307  
    定義済み 292  
パースペクティブ・ベース・ビュー  
    作成 296  
    子 CI の包含と除外 299  
パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ 361  
[パターン ベース モデル] ウィザード 352  
    [CI タイプの選択] ページ 353  
    [クエリの選択] ページ 353  
パターン・ビュー  
    作成 304  
パターン・ビュー・エディタ 355  
パターン・ベース・モデル  
    作成 317  
[パラメータ値をインポート] ページ  
    [テンプレート ベース ビュー] ウィザード 378  
[パラメータ] ページ  
    [テンプレート ベース ビュー] ウィザード 379  
汎用ブレイクダウン・レポート 437

## ひ

比較 CI 395  
ビジネス CI モデル 294  
    作成 315  
ビジネス・ビュー  
    作成 287  
[非表示 CI] ダイアログ・ボックス 331  
ビュー  
    大きな 171  
    関係 216  
    CI のコレクションに基づいた 320  
    IT ユニバース 209  
    ツリー構造 211  
    ファクトリ 292  
    モデルに基づいた 319  
    ライフサイクル 210  
    関連 CI の作成 213  
    再検出 227  
    新規 CI の作成 212  
    定義済み 291

## 索引

非関連 CI の作成 213

表示 149

利用できないビュー 166

[ビュー エディタ] ページ 133

[ビュー トポロジを表示]

[ダイレクト リンクの生成] ウィ

ザード 132

[ビューを表示] ページ 134

[ビューを保存] ダイアログ・ボックス 373

[ビューを保存] ページ

[テンプレート ベース ビュー] ウィ

ザード 381

ビュー・ベース・ディスカバリ 227

ビュー形式 286

## ふ

ファイルに保存

トポロジ マップ 172

フォルダ

定義済み 291

複合関係 24

定義 31

[複合関係の追加] ダイアログ・ボックス 54

## へ

変更数レポート 453

変更されたビューのレポート 409

変更済みアプリケーション・レポート 406

変更レポートを表示 466

## ま

マップ印刷設定

定義 193

## も

[モードで開始] ページ

[ダイレクト リンクの生成] ウィ

ザード 135

[モデリング]

[ディスカバリ ステータス] タブ 278

モデリング・スタジオ

[機能の追加] ダイアログ・

ボックス 322

[モデリング スタジオ] ページ 346

モデリング・スタジオ

概要 285

モデリング・スタジオの左表示枠 332

モデル エディタ 339

[モデル エディタ] ページ

[ダイレクト リンクの生成] ウィ

ザード 127

## ゆ

有効なリンクの選択 587

[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・

ボックス 100

## よ

[要素インスタンス] ダイアログ・

ボックス 75

## り

リスト定義

作成 483

[リスト定義の更新] ダイアログ・

ボックス 511

[リスト定義] 領域 512

[リスト定義の作成] ダイアログ・

ボックス 511

[リスト定義] 領域 512

リスト定義 515

作成 483

## る

[ルーティング] タブ

[レイアウト プロパティ] ダイアログ・

ボックス 189

[ルール ベース クエリ] ページ

[新規エンリッチメントルール] ウィ

ザード 566

## れ

[レイアウト設定] ダイアログ・ボックス 82

[レイアウト プロパティ] ダイアログ・

ボックス 174



- 列挙定義 515
  - 作成 483
    - ワークフロー 484
- [列挙定義の作成] ダイアログ・ボックス
  - [列挙定義] 領域 513
- レポート
  - [定期レポート] ダイアログ・ボックス 460
  - ディスカバリ・エラー 435
  - アプリケーション・ブレイクダウン 401
  - カスタム 392
  - 設定の定義 314
- [レポート ビューア] ページ
  - [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 130
- [レポート・ビューア - 保存済みレポート] ページ
  - [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 130
- [レポート] ページ 455
- レポート設定の定義 314

